令 和 7 年

# 波佐見町議会定例会会議録

第1回

開 会：令和　7年　2月28日

閉 会：令和　7年　3月21日

波 佐 見 町 議 会

# 令和７年第１回（３月）波佐見町議会定例会　会期日程

| 日　次 | 月　日 | 曜 | 区　分 | 内　　容 |
|---|---|---|---|---|
| 第１日 | ２月 28 日 | 金 | **本会議** | 開会　諸報告　会議録署名議員の指名会期の決定<br>委員会報告　町長の施政方針及び提案要旨の説明<br>議案審議（委員会付託、質疑・討論・採決） |
| | | | 委員会 | 予算特別委員会 |
| 第２日 | ３月　１日 | 土 | 休　会 | |
| 第３日 | ３月　２日 | 日 | 休　会 | |
| 第４日 | ３月　３日 | 月 | **本会議** | 一般質問 |
| 第５日 | ３月　４日 | 火 | **本会議** | 一般質問 |
| 第６日 | ３月　５日 | 水 | 休　会 | ※議事整理 |
| 第７日 | ３月　６日 | 木 | 委員会 | 予算特別委員会（第一分科会） |
| 第８日 | ３月　７日 | 金 | 委員会 | 予算特別委員会（第二分科会） |
| 第９日 | ３月　８日 | 土 | 休　会 | |
| 第 10 日 | ３月　９日 | 日 | 休　会 | |
| 第 11 日 | ３月 10 日 | 月 | 委員会 | 予算特別委員会（第一分科会） |
| 第 12 日 | ３月 11 日 | 火 | 委員会 | 予算特別委員会（第二分科会）<br>予算特別委員会（執行部出席なし） |
| 第 13 日 | ３月 12 日 | 水 | 休　会 | ※議事整理 |
| 第 14 日 | ３月 13 日 | 木 | 休　会 | ※議事整理 |
| 第 15 日 | ３月 14 日 | 金 | 休　会 | ※議事整理 |
| 第 16 日 | ３月 15 日 | 土 | 休　会 | |
| 第 17 日 | ３月 16 日 | 日 | 休　会 | |
| 第 18 日 | ３月 17 日 | 月 | 休　会 | ※議事整理 |
| 第 19 日 | ３月 18 日 | 火 | 休　会 | ※議事整理 |
| 第 20 日 | ３月 19 日 | 水 | 委員会 | 予算特別委員会（全体会） |
| 第 21 日 | ３月 20 日 | 木 | 休　会 | 春分の日 |
| 第 22 日 | ３月 21 日 | 金 | **本会議** | 各委員長報告（質疑・討論・採決）<br>提案要旨の説明<br>議案審議（質疑・討論・採決） |

# 令和７年第１回（３月）波佐見町議会定例会　目次

## 第１日目（２月 28 日）（金曜日）


○開会・開議 ..... 2
○諸報告　諸般の報告 ..... 2
○会議日程
日程第１　会議録署名議員の指名 ..... 2
日程第２　会期の決定 ..... 2
日程第３　町長の施政方針及び提案要旨の説明 ..... 2
議案審議（質疑・討論・採決）
日程第４　議案第 21 号 ..... 14
日程第５　議案第 22 号 ..... 23
日程第６　議案第 23 号 ..... 24
日程第７　議案第 24 号 ..... 25
日程第８　議案第 25 号 ..... 26
日程第９　議案第 26 号 ..... 27
日程第 10　議案第 27 号..... 28
日程第 11～17　議案第 14 号～20 号（予算特別委員会へ付託） ..... 29
○散　会 ..... 49


## 第４日目（３月３日）（月曜日）


○開　議 ..... 51
○会議日程
日程第１　町政に対する一般質問 ..... 51
岡村 達馬 議員 ..... 51
前田 博司 議員 ..... 63
田添 有喜 議員 ..... 77
横山 聖代 議員 ..... 92
福田 勝也 議員 ..... 107
城後 光 議員 ..... 122
○散　会 ..... 138


## 第５日目（３月４日）（火曜日）


○開　議 ..... 140
○会議日程

日程第１　町政に対する一般質問 ..... 140
澤田 昭則 議員 ..... 140
脇坂 正孝 議員 ..... 155
三石 孝 議員 ..... 169
北村 清美 議員 ..... 184
岡村 真由美 議員 ..... 198
○散会 ..... 213

## 第 22 日目（３月 21 日）（金曜日）

○開　議 ..... 215
○諸報告　諸般の報告 ..... 215
○会議日程
日程第１　提案要旨の説明 ..... 215
議案審議（質疑・討論・採決）
日程第２　発委第１号 ..... 215
日程第３　発委第２号 ..... 217
日程第４　発委第３号 ..... 218
日程第５～11　議案第 14～20 号（予算特別委員会委員長報告） ..... 219
日程第 12　議案第 36 号..... 226
日程第 13　議案第 28 号..... 228
日程第 14　議案第 29 号..... 231
日程第 15　議案第 30 号..... 234
日程第 16　議案第 31 号..... 236
日程第 17　議案第 32 号..... 238
日程第 18　議案第 33 号..... 239
日程第 19　議案第 34 号..... 240
日程第 20　議案第 35 号..... 241
日程第 21　議案第 37 号..... 243
日程第 22　報告第１号..... 248
閉会中の継続調査
日程第 23　閉会中の継続調査申出について..... 249
（文教厚生委員長、産業建設委員長、議会運営委員長）
○閉会のあいさつ ..... 249
○閉　会 ..... 251

# 第１日目（２月 28 日）（金曜日）

## 諸 報 告

諸般の報告

（１）例月現金出納検査結果の報告（11、12、１月分）

（２）定期監査報告

（３）委員会報告

## 議事日程

第 １　会議録署名議員の指名

第 ２　会期の決定

第 ３　町長の施政方針及び提案要旨の説明

第 ４　議案第 21 号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第７号）

第 ５　議案第 22 号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）

第 ６　議案第 23 号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）

第 ７　議案第 24 号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第３号）

第 ８　議案第 25 号　令和６年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第４号）

第 ９　議案第 26 号　令和６年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第４号）

第 10　議案第 27 号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計補正予算（第１号）

第 11　議案第 14 号　令和７年度波佐見町一般会計予算

第 12　議案第 15 号　令和７年度波佐見町国民健康保険事業特別会計予算

第 13　議案第 16 号　令和７年度波佐見町後期高齢者医療特別会計予算

第 14　議案第 17 号　令和７年度波佐見町介護保険事業特別会計予算

第 15　議案第 18 号　令和７年度波佐見町上水道事業会計予算

第 16　議案第 19 号　令和７年度波佐見町下水道事業会計予算

第 17　議案第 20 号　令和７年度波佐見町工業用水道事業会計予算

（以上７件　予算特別委員会付託）

# 第１日目（２月 28 日）（金曜日）

１．出席議員

| | | | |
|---|---|---|---|
| １ 番 | 前 田　博 司 | ２ 番 | 脇 坂　正 孝 |
| ３ 番 | 澤 田　昭 則 | ４ 番 | 横 山　聖 代 |
| ５ 番 | 岡 村　真由美 | ６ 番 | 岡 村　達 馬 |
| ７ 番 | 三 石　孝 | ８ 番 | 城 後　光 |
| ９ 番 | 福 田　勝 也 | 10 番 | 田 添　有 喜 |
| 11 番 | 北 村　清 美 | 12 番 | 尾 上　和 孝 |

２．欠席議員

な　し

３．議会事務局職員出席者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 議会事務局長 | 林 田　孝 行 | 書記 | 一 瀬　若 菜 |

４．説明のために出席した者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 町長 | 前 川　芳 徳 | 副町長 | 村 山　弘 司 |
| 総務課長 | 福 田　博 治 | 企画情報課長 | 澤 田　健 一 |
| 商工観光課長 | 太 田　誠 也 | 庁舎建設推進室長 | 大 橋　秀 一 |
| 税務財政課長 | 古 賀　真 悟 | 住民福祉課長 | 井 関　昌 男 |
| 農林課長兼農業委員会事務局長 | 伊 藤　幸 治 | 農林課長参事 | 太 田　克 宏 |
| 建設課長 | 本 山　征一郎 | 水道課長 | 中 村　和 彦 |
| 長寿支援課長 | 松 添　博 | 子ども・健康保険課長 | 石 橋　万里子 |
| 会計管理者兼会計課長 | 串 島　佳 織 | 教育長 | 森 田　法 幸 |
| 教育次長兼給食センター所長 | 朝 長　哲 也 | 総務課課長補佐 | 坂 本　昌 俊 |
| 税務財政課課長補佐 | 鶴 田　秀 幸 | | |

午前 10 時　開会・開議

**○議長（尾上和孝君）**

皆さん御起立ください。おはようございます。

ただいまから令和７年第１回波佐見町議会定例会を開会します。

これから本日の会議を開きます。本日の議事日程はあらかじめお手元に配付のとおりです。

**諸報告　諸般の報告**

**○議長（尾上和孝君）**

これから諸般の報告を行います。例月現金出納検査結果の報告、定期監査報告、及び委員会報告については、その写しを配付しておりますので、御了承願います。

これから議事に入ります。

**日程第１　会議録署名議員の指名**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第１．会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、会議規則第136条の規定により、９番　福田勝也議員、10番　田添有喜議員を指名します。

**日程第２　会期の決定**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第２．会期の決定の件を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、本日から３月21日までの22日間としたいと思います。御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

異議なしと認めます。したがって会期は本日から３月21日までの22日間と決定しました。

**日程第３　町長の施政方針及び提案要旨の説明**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第３．町長の施政方針及び提案要旨の説明を求めます。

前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

皆様おはようございます。本日ここに令和７年第１回波佐見町議会定例会を招集しましたところ、議員の皆様には御健勝にて御出席を賜り厚く御礼を申し上げます。

説明に入ります前に、これまで鋭意整備を進めてまいりましたこども家庭センターについては去る２月21日に開所式を行い、センターの名称である「よりそっと」の命名者や、町内の園児など多数の皆様の参加で式典に花を添えていただき、盛大なオープニングを迎えることができました。

このこども家庭センター「よりそっと」は、本町の子育て支援の拠点として、妊産期から乳児

期、幼児期、学童児と幅広い子供たちとその保護者並びに関係者の支援を目的に整備したものです。

施設東側には子供たちの食育を推進する調理室や、幼児向けの遊び場を整備し、多くの皆様が利用できるよう、サービスの向上に努めるとともに、本町が進める子育て世代に対する施策充実の大きな原動力になるよう、地域の協力を得ながら運営してまいります。

併せて庁舎周辺整備工事ですが、残る町道鹿山飛瀬線改良工事も順調に進んでおります。この改良工事については、鹿山神社境内地の提供について、氏子、崇敬者皆様の御理解を賜り、改めて感謝を申し上げるところです。引き続き郵便局側の拡幅工事について、関係者皆様の御理解をいただきながら事業計画を進め、新庁舎整備の総まとめを行いたいと考えています。

次に川棚内海バス路線の廃止に伴う自治体自家用有償バス運行についてですが、さきの議会臨時会で条例制定並びに補正予算に計上した諸事業について、関係機関と調整のうえ、４月１日の運行開始に向け鋭意手続を進めているところです。また定期券の発行については、３月に入ってからを予定しており、関係生徒については学校を通じて、その購入方法について周知を行う予定としております。

まだまだ乗り越えるハードルは多く、かつ高いのが現実ですが、担当である商工観光課を中心に関係各課一丸となって手続を進めておりますので、議員各位にも御理解のうえ、引き続き御支援いただきますよう重ねてお願いをいたします。

さて２月25日には、落語家の林家たい平師匠を波佐見町ふるさと大使に委嘱し、快くお引受け頂いたところで、今後波佐見町を全国にＰＲしていただけるものと期待するとともに、師匠の御活躍を祈念するところです。

そして早いもので明日から３月となりますが、３月14日は中学校の卒業式、３月18日は各小学校の卒業式が予定されており、卒業する児童生徒が次のステージに向けて羽ばたき、新たな出会いの４月に向けて準備を進める時期でもあります。また、さきの議会臨時会で御説明しました国の物価高騰対策に係る非課税世帯支援給付金事業及びプレミアム商品券事業は、具体的な事務手続に着手したところで、今後具体的な日程が定まりましたら改めて周知を行う予定です。

さて、国外ではアメリカのトランプ新大統領による前政権からの大幅な政策転換が行われており、新たな関税措置など世界的な影響が懸念されるところです。一方、国内の動向に目を転じると、我々地方公共団体に大きな影響がある国の令和７年度予算が通常国会で審議が進んでおり、少数与党による厳しい国会運営の中、その動向に注視しているところです。

このように政治の不安定さが増している状況が私たちの生活にどのような影響を与えるか懸念しており、加えて燃料費をはじめとする物価高騰により私たちの生活は依然として厳しいものがありますので、国の施策を活用しながら、町民皆様の生活安定、町内の経済活動の活性化を進めてまいりたいと考えているところです。

それでは開会に当たり町政運営についての所信を述べ、令和７年度当初予算の概要を御説明いたします。

私はこれまで期待に答える、選ばれる波佐見町を目標に据え、継承・変革・進化を掲げ、施策

を実行してまいりました。令和６年度においては学校給食の完全無償化、保育料の第２子無償化、窯業人材確保、創業支援、観光施設の整備、教育環境の充実など多くの事業を、議会の御理解をいただきながら進めてきたところですが、自治体を取り巻く環境は想定を超えるスピードで進んでおり、その対応についても迅速かつ効果的な施策が求められていることは言うまでもありません。

特に人口減少社会による人手不足、担い手不足の対応は、官民を問わず大きな課題であり、産業の振興、自治体ＤＸの推進、子育て施策の充実、移住定住の促進、社会資本の整備、施設の維持管理、ふるさと納税制度の対応に加え、自治会組織への支援をはじめとする地域コミュニティーの醸成など地方自治体が抱える課題は複雑多様化しております。

持続可能な自治体運営と町民皆様の福祉の向上、町の活性化を図りつつ自治体間の競争を勝ち抜き、波佐見に住みたい、これからも住みたい、住んでよかったと思っていただける施策が重要になってきます。

加えて、自治体ＤＸの基盤となる役場の窓口改革を行い、町民皆様へのサービス向上を図りつつ職員の資質向上及び働き方改革を進め、職員一丸となって町政発展に邁進したいと考えています。このためにも限りある財源の中、選択と集中、効率化と効果的を基本に据え、事務事業の再構築を今後も進めていく必要があり、未来を見据え、まちづくりの根幹である人と次世代を担う子育て世代に寄り添う施策を具体化する必要があります。

それでは、総合計画の基本計画に掲げた「創る　つなげる　超えていく」を基本理念に、「暮らしと絆を大切にするまち」をまちづくりの将来像に据えて、取り組む令和７年度の主要な施策の概要を御説明します。

１．居心地のよい安心を生むまちづくり。

（１）防災防犯について。

近年の自然災害は大規模化、局地化が顕著になっており、加えて、能登半島における地震と大雨で顕在化した災害の複合化にも備える必要があります。このような災害に対応するため、令和６年度に構築した災害情報一斉配信システム、３Ｄ都市モデルによる危険箇所等の可視化を活用し、自治会と連携しながら防災意識の醸成を図ります。また現在整備を進めている避難所の空調機設置事業と併せ、防災体制の強化を引き続き進めてまいります。

地域防災の要となる消防団の強化については、消防水利の整備をはじめ、令和７年度においても消防団運営費補助金を拡充しつつ処遇改善を行い、団員の確保を図ります。

防犯については、警察をはじめとする関係機関との連携を引き続き行い、児童生徒の見守りをはじめとする地域防犯組織の意識醸成に努めます。

一方で、高度情報化社会におけるインターネットの普及や、成年年齢引下げによる契約のトラブル。さらにはＳＮＳをきっかけとした詐欺被害が増加しています。このような消費者を取り巻く環境が大きく変化する中、相談内容も悪質、複雑化しています。様々な問題に対して消費生活相談体制の充実強化を図り、専門相談員による啓発活動、相談支援による問題解決に取り組むとともに、見守り体制の充実、中学生に向けた授業支援の開催を行いながら被害の未然防止を図り

ます。

（２）道路交通について。

生活の基盤である道路網の整備は町内全域をつなぐ生活に欠かせない身近な施設であり、快適な生活を送る上で必要不可欠なものであります。町道については継続路線のほか地元からの要望を確認し、臨機応変な対応に努め適切な整備を図ってまいります。

県道については町内の状況を踏まえ、県との連携を図り積極的に要望を行ってまいります。また老朽化する橋梁の整備については、従来の事後保全型から予防保全型の修繕を意識し、長寿命化を図ってまいります。これからの道路整備は、より維持管理が主眼となってまいります。住民皆様の御協力もいただきながら、誰もが安心して利用できる適切な維持管理に努めてまいります。

地域公共交通では令和７年３月末に廃止されますバス路線の川棚内海線廃止代替交通として、波佐見町と川棚町共同による自家用有償運送 川棚波佐見線を今年４月１日から運行できるよう、現在委託事業者をはじめ関係各社と準備を行っております。高校生の通学など利用者の移動の確保をこれからも維持してまいりたいと考えております。

また現在、本町の将来における公共交通の在り方を示す地域公共交通計画の策定を進めております。計画では本町の公共交通の現状及び町民のニーズの把握を行い、既存の公共交通を含めた本町の新たな交通体系の在り方を検討しています。基幹となる路線バス、タクシー、予約制乗り合い交通の３層による交通システムの連携維持に努めるとともに、利便性の向上や交通事業者の支援を行ってまいります。

（３）土地利用について。

西ノ原土地区画整理事業は、本町の財政事情等を鑑みながら事業を進めてきたところです。長期にわたる計画となっていることから、地元の御理解のもと生活環境、防災に対する課題解決に向け、地区の皆様の協力を得ながら早期完了に向け、協議調整を図り事業を進めているところです。

都市公園については町の歴史に彩られた公園と、自然と学びが融合した公園があります。それぞれの公園が持つ異なる特徴を損なうことなく積極的に生かし、町民の憩いの場としての活用と観光資源としての活用を並行して進めるため、適切な施設の維持管理及び更新を行ってまいります。

（４）住環境について。

公営住宅については、波佐見町公営住宅長寿命化計画を基本とし、周辺の環境や将来的な利用を見込む適正管理戸数を踏まえ、今後の方向性を定めていくとともに適切な維持管理に努めてまいります。

上水道事業は次世代につなぐ波佐見の水道を基本理念に、一部の水道事業者で検出され問題になっている有機フッ素化合物を含めた水質検査の徹底を図り、安心しておいしく飲める水の供給に努めます。また、水道事業計画戦略の見直しを行い、健全な経営を維持する水道水の向上に努めます。下水道事業は宅地の生活環境改善及び公共用水域の水質保全を目的に、計画区域内の整備を進めながら早期接続を促し普及に努めます。

また令和７年度に終期を迎える下水道事業経営戦略の改訂を行い、衛生的で快適な生活環境づくりを推進します。

（５）自然環境について。

本町は豊かな自然に恵まれております。その美しい自然環境を守り次の世代へ受け継いでいくためには、町民一人一人が環境への意識を高め、自然と調和した快適な生活環境の保全に努める必要があります。これまでも各自治会や河川愛護団体などの活動により、生活環境の維持向上が進められてきました。しかし高齢化に伴い、これらの活動を担う方々が減少している状況がございます。

そこで新年度には新たに草刈り機等を導入することで、活動の負担を軽減し、地域の環境美化活動に取り組めるよう支援してまいります。また公共用水域の水質保全と公衆衛生の向上のために、下水道事業実施区域外を対象に合併浄化槽設置に対して国が示す基準以上に町独自で額のかさ上げを行い、引き続き合併浄化槽の普及に努めます。

（６）移住・定住について。

本町の人口は緩やかに減少しているものの、昨年は社会増の事象も見られ、定住施策の効果が表れ始めている中、若年層の転出超過や少子高齢化による人口減少は続いていることから、地域や産業の活力低下に歯止めをかけるため、引き続きＵＩＪターンの促進や関係人口の拡大、転入・転居者に対する定住支援施策の充実を図り、選ばれる魅力あるまちづくりを目指してまいります。

併せて、波佐見町での新たなチャレンジを応援する創業チャレンジ支援事業補助金も引き続き実施し、波佐見町で新規または移住しての創業を促します。

また少子化の中、町の活性化、賑わいの創出のためにも引き続き波佐見高校の支援を実施し、将来の関係人口、移住定住の拡大にもつなげていきます。近年増加する空き家の所在や状態の把握に努め、所有者を特定したうえアンケート調査を実施します。そして、これらを基礎資料として、令和８年度を起点とする５か年計画の波佐見町空き家等対策計画を策定し、空き家の有効活用などの施策につなげてまいります。

２．産業・交流を軸とした人が輝くまちづくり。

（１）商工業について。

これまで業界と行政が一体となり行ってきた波佐見焼のブランド化への取組が実を結び、波佐見焼が数多くのメディア等で取上げられるとともに、ふるさと応援寄附金の返戻金においても波佐見焼が数多く出品されるなど、波佐見焼の知名度は格段に向上しています。

一方で燃料費や原材料費等価格の高騰により事業所は大きな影響を受けるとともに、これまでブランド化や知名度向上に大きく寄与した「テーブルウェア・フェスティバル」の規模縮小、さらには波佐見焼の後継者や窯業人材不足など、本町の窯業を取り巻く環境は厳しい状況下にあります。

このような中、窯業振興については長崎県や業界団体と協力して行う「オープンハサミ」において、町内の事業所でインターンシップを行うことで後継者や窯業人材の確保につながっており、今後さらにこの取組が広がるように住宅費補助や労働環境改善に向けた支援等を行ってまいり

ます。

また、廃石膏型のリサイクルについて、廃石膏型の一時保管から最終処分場でのリサイクルの流れは窯業界の御協力により既に確立しておりますが、各事業者が廃石膏型の排出者責任を認識し、さらに多くの事業者がこの取組に参画するよう、業界団体と連携を図るとともに石膏肥料や建築材等の活用について推進を行ってまいります。

地域経済の活性化のためには、地域を支える中小企業、小規模企業の振興が不可欠で、その対策の一層の推進を図る必要があり、燃料費等高騰対策や事業継続支援金による経営支援などを国や県と連携して実施してきました。今後も現状把握に努め、商工会をはじめ関係団体とも連携しながら引き続き商工業者の皆様の経営基盤の安定に寄与してまいります。

（２）農林業について。

農業を取り巻く環境は農業者の高齢化や担い手不足、不安定な世界情勢や円安の影響による生産資材等の高騰など、農業生産活動を維持していく上でも大変厳しい状況となっています。

また農業においては１人当たりの負担が増してきており、維持管理に係る草刈りなどの営農意欲の低下を招き、ひいては担い手への農地貸借にも影響を及ぼしております。このことから農業の省力化に向けて、町単独事業として、小規模農林業事業や新設する農林業経営支援事業による機械導入補助等の幅広い支援や、スマート農業を含めての労力軽減、オペレーターの確保に向けての免許取得補助などの後継者の育成にも努め、農業経営の安定に向けて支援を行います。

農業用施設管理については施設の老朽化の進行とあわせ、近年、地震や豪雨による災害リスクが高まっている中で、農業生産活動の基盤となる農業用水路・ため池等の適切な管理が行えるよう指導や支援を行ってまいります。

特にため池事業については長寿命化対策や、防災減災対策を図るため、県営事業である農村地域防災減災事業を活用し、町内防災重点ため池の改修を計画的に推進するとともに、耕作状況により不用となったため池の廃止や統合を実施し、施設の機能回復、被害の未然防止に取り組みます。

また林業については、森林環境譲与税を財源とした森林経営管理事業により、管理がされていない人工林の保育間伐を施業し整備を行うことにしており、令和７年度は作業の効率化と作業員の安全面の配慮から、高性能林業機械の導入にあたり、森林組合へ購入補助を行う予定としております。

（３）観光について。

本町を訪れる観光客数は、目標としていた100万人を平成29年に達成し、その後コロナ禍の影響により大幅に減少しましたが、令和５年度には103万人まで回復しています。窯業・農業を中心とする生業や、人、生活、文化などあらゆる素材を資源と捉えて、人と人が関わることを主眼に、令和３年度に策定した波佐見町観光振興計画に沿って事業を推進します。

引き続き、体験型観光事業造成や運用を開始した鬼木小民家宿泊施設や、鴻ノ巣キャンプ場などを有効活用して本町への誘客に努めます。また、年々増加するインバウンド観光需要を取り込めるよう、外国人向けの体験観光ツアーの造成や、外国人向けの観光情報発信など基盤整備を行

ってまいります。

一般社団法人波佐見町観光協会と連携した事業では、収益性や消費額のアップなどを図るため、滞在型観光に力を入れて、数から質を重視した施策に努め、観光面での地域ブランド確立を目指します。

３．ぬくもりがある福祉のまちづくり。

（１）地域福祉について。

地域のつながりが希薄化している中で、誰もが住みなれた地域で安全・安心に暮らせる社会を目指すため、社会福祉協議会や民生委員・児童委員さらには関係機関と連携を強化し、適切な相談や支援体制の強化を図り、身近な地域における見守りや助け合いなどの相互扶助意識の高揚に努め、地域福祉の推進を図ってまいります。

（２）高齢者福祉について。

本町における65歳以上の人口の割合、いわゆる高齢化率は年々上昇し、令和６年12月末現在で33.7％と全体の３分の１を超え、ますます高齢化が進行しています。このような中、波佐見町高齢者福祉計画及び第９期介護保険事業計画に基づき、各団体と協力しながら元気高齢者の活躍の場の創出、独り暮らしや認知症高齢者等の見守り体制整備、移動が困難な高齢者の支援などを実施してまいります。

介護保険制度におきましては、介護需要の急増と介護人材の不足という困難な課題がございますが、中・長期的視点に立ち、介護予防事業の充実による健康寿命の延伸や、地域全体で支え合う体制整備への支援を実施し、地域包括ケアシステムのさらなる進化を進めてまいります。

また近年、複合的な課題を抱える高齢者が増加しており、地域包括支援センターにおける丁寧な相談体制を今後も継続し、高齢者がいつまでも住み慣れた地域で、健康で自分らしい暮らしを続けることができるよう関係機関と連携しながら地域共生社会の実現を目指してまいります。

（３）障がい者福祉について。

障がい者、障がい児と家族の方々が住みなれた地域で安心し、生きがいを持って生活できる地域社会づくりの実現を目指し、日常生活支援や就労支援等の生涯を通じた切れ目のない支援を行うとともに、第７期障がい福祉計画及び第３期障がい児福祉計画に基づき障がい者、障がい児が自立した生活を送ることができるように、東彼地区障がい者支援センターエールや関係機関等との連携によるきめ細やかな相談支援体制の充実を目指してまいります。

（４）出産・子育てについて。

国の子育て支援策が具体化している中、本町では小中学生の給食費無償化や第２子の保育料無償化を実施し、子育て世代世帯を応援してまいりました。また、先日の「こども家庭センター・よりそっと」の開所式では、波佐見町こどもまんなか応援サポーターを宣言いたしました。

こども家庭庁が提唱する「こどもまんなか宣言」は、子供たちのために何が最もよいかを常に考え、子供たちが健やかで幸せに成長できる社会を実現するものです。この趣旨に賛同し、「こども家庭センター・よりそっと」を中心に、子育て応援の町として、「はぐくむ・ささえる・みまもる」を合い言葉に子育て応援に取り組んでまいります。

令和６年度モデル事業として実施したみんな食堂での課題を踏まえ、令和７年度は本格的に実施する事業者の立ち上げを支援してまいります。

なお、児童の年齢によっては保育所の待機が発生している状況を踏まえ、保育士確保対策を継続してまいります。さらに令和７年度は、新小学１年生の児童数が例年に比べ多くなるため、放課後児童クラブの待機児童が発生することが見込まれますので、その対策も講じてまいります。

（５）保健・医療について。

町民の皆さん一人一人が自分の健康は自分で守るという意識が基本です。生活習慣の見直しを通じて、病気の予防、早期発見や重症化予防に取り組んでまいります。

昨年、医師会からの助言を受けて、帯状疱疹ワクチンの助成事業を始めましたが、帯状疱疹は80歳までに３人に１人が発症すると推定されています。

今年度も町独自の取組として、発症予防、重症化予防に効果的とされるワクチンの助成を継続して実施します。

公約である小児科誘致については、近隣市町でも少子化が深刻化しておりさらに厳しい状況にありますが、あらゆる可能性を探りながら実現に向けて補助制度の創設に取り組んでまいります。

（６）社会保障について。

国民健康保険事業や後期高齢者医療制度については、全世代型の社会保障制度として改革が進められており、マイナ保険証への移行も進んでいます。さらに負担の在り方などが議論されており、国の動向を注視しながら公平かつ公正な運営に努めてまいります。増大する医療費に対しては、疾病予防や重症化予防が重要ですが、健康診断の受診率は目標の60％まで達しておりません。

受診の必要性の周知を図るとともに、医療機関や健診機関とともに連携を図り、受診率の向上に努めてまいります。

４．生きる力と郷土愛を育むまちづくり。

（１）学校教育について。

子供たちに確かな学力をつけるため、標準学力調査の年２回実施とあわせ、その学力調査と連動したＡＩドリルの導入など、子供たちの学力を伸ばす施策とともに、学力向上支援員や特別支援教育支援員、スクール・サポート・スタッフなど、人的支援体制の充実を図り、先生方がきめ細やかに子供たちに向き合える時間を増やせるような環境づくりを進めてまいります。

また各学校でそれぞれに取り組んでいますふるさとキャリア教育さらには中学生議会、絆の日、夏休み体験講座などを通じて、ふるさと波佐見の魅力やすばらしさを発見、自覚するような取組を進め、ふるさと波佐見をもっとよりよくするという参画意識の醸成を図る教育にも力を注いでまいります。

一方、学校施設の適切な管理については、長寿命化計画に基づいた改修工事やバリアフリーに対応した改修工事も計画的に行いながら、教育環境の充実・維持に努めてまいります。

（２）生涯学習について。

生涯学習は年齢にかかわらず、全ての人が人生を通じて学び続けることを目指すものです。特に大人世代には生涯現役で充実した人生、豊かな人生、生きがいのある人生を送ってもらうため

各種講座やいきいき大学などの充実を図ってまいります。

また波佐見町や地域の歴史文化を再確認、再発見しながら、自分たちが住む地域に、より関心を持っていただくような取組や、活動を充実させたいと考えております。

（３）歴史・文化・スポーツについて。

今年は長崎県で開催されます国民文化祭「ながさきピース文化祭2025」の開催の年でもあり、波佐見町講堂の音響特性を生かした音楽イベントやシンポジウム、さらには皿山人形浄瑠璃参加の全国人形芝居フェスティバルなど、本町の文化特性を生かした本町らしいイベントで、波佐見町を文化の面でもアピールしてまいりたいと考えております。

また、陶郷中尾と鬼木棚田の文化的景観保全活用計画の国への本申請を行います。申請認定後は、中尾・鬼木両地区の文化的景観を生かした地域づくりを進めて、新たな波佐見町の魅力発信につなげていきます。

スポーツ面については、スポーツのまち波佐見町としての取組も継続して推進してまいります。中学校部活動の地域移行については、子供たちが安心してスポーツに取り組めるように、関係者の意見を取り入れながら、より現場に合った波佐見町モデルの充実に向けて推進を図ってまいります。

（４）青少年健全育成について。

波佐見町の未来を担う青少年の健全育成は、本町の持続可能な発展にとって欠かせない基盤であります。次の時代を担う子供たちが豊かな心を持ち、たくましく成長できるようしっかりサポートする必要があります。

毎月取り組んでおりますあいさつ運動について、今年も地域ぐるみで子供たちを見守り、育てることを基本に取り組んでまいります。さらに学校支援、サポートの場をさらに広げ、地域の子供は地域で育てる取組を今後とも推進し、地域一体となった子育て環境の充実を図ってまいります。

（５）人権・男女共同参画について。

誰もが安心して暮らせる多様な人々が尊重され、ともに生きる社会の実現が求められる中、人権問題に対する正しい理解と認識を深めるため、広報活動や命の大切さや思いやりの心を育む教育活動を行ってまいります。

次世代を担う子供たちに対してもしっかりとした人権教育を行うことが重要です。お互いの価値観を理解し、助け合うことの大切さを学ぶ活動を展開してまいります。

また、令和５年に策定の第３次波佐見町男女共同参画計画に基づき、引き続き男女がともに活躍できる社会の実現を目指してまいります。

（６）国内外交流について。

グローバルな時代において、子供たちにも外国の文化や考え方に触れる機会をつくり、世界を意識するような教育は一層必要となります。授業ではもとより、各種講演会などを通して、これらの学びを深めてまいります。また天正遣欧少年使節ゆかりの地事業において、中学生を対象とした海外派遣を令和元年以来６年ぶりに実施をします。

新型コロナウイルス感染症の影響により、停滞していました国内外との交流も、状況が落ちついてきていることから、徐々に再開し、交流活動の活性化を図ってまいります。

５．協働による地域のつながりを生かすまちづくり

（１）住民参画・コミュニティーについて。

本町の行政と地域との連携の原動力は、毎月の「自治会長定例会」をはじめとする関係団体との情報共有が大きく、ひいては本町のまちづくりの源泉になっているということは言うまでもありません。

今後とも自治会等の自主性を自主性と伝統を尊重しながら、地域の皆様に寄り添い、耳を傾け、可能な限り地域活性化を支援してまいります。

一方で全国的には自治会の役員の負担軽減や、行事の在り方など様々な論議がありますので、自治会の皆様が将来を見据え検討ができるよう引き続き研究を行います。

また、昨年の町政報告会等で多くの御意見・御要望を頂いた草刈り対策についても、機械化の推進など具体的施策につなげてまいります。引き続き双方向のコミュニケーションを図るとともに、コミュニティー活動や地域づくり活動、リーダーの育成に支援を行い住民意識の高揚を図ります。

（２）情報基盤について。

国は2025年度（令和７年度）に地方自治体の情報化システムの標準化・共通化を行う方針を掲げていることから本町においても基幹系のシステム移行を進めます。基幹系システムは、行政の根幹をなすシステムであるため、住民サービスに影響がないように令和７年度は標準化・共通化対応に注力してまいります。

一方で2040年問題でも提起されております人口減少社会、少子高齢化など多様化・複雑化する行政需要に対応するためには、自治体ＤＸ（自治体トランスフォーメーション）は避けては通れません。

10年、20年先の自治体運営を見据えて、引き続き外部人材の登用などを行い町民皆様の利便性の向上や、業務の効率化のため自治体ＤＸを進めてまいります。

この他、町民皆様がデジタル社会の恩恵を受けられるように、町民向けデジタル研修を昨年度に引き続き実施してまいります。

（３）行財政について。

行財政改革は自治体にとって普遍的、継続的に取り組む課題であり、本町を取り巻く環境は時事刻々と変化しており、行政に期待される課題解決は複雑多様化しています。町民皆様が安心して暮らせるよう、組織の活性化並びに職員の資質向上を図ります。

また令和６年度に策定した第８次行政改革実施計画は、従来の取り組みに加え、窓口改革をはじめとする新たな行政課題にも対応した計画でありますので、実施初年度である令和７年度において着実な実施を進めてまいります。

今後、複雑多様化する行政需要に対応するためには、財政の健全化を基盤とした効率的かつ効果的な行財政運営が求められます。そのためには、最少の経費で最大の効果を上げることを基本

に、公金も自分のお金と思って使う意識を常に持って予算の執行に努めます。

近年多額の寄附を頂いております、ふるさと納税などの自主財源の確保を引き続き図るとともに、歳出については事業の選択と集中を図ることにより、計画的で安定的な行財政運営に努めてまいります。

また新庁舎周辺整備事業については、用地提供並びに関係者の皆様の温かい御協力、御支援により、大部分の工事が滞りなく完了し、残すは町道鹿山飛瀬線の郵便局側の拡幅を残すのみとなっています。ここに改めて関係者、施工業者の全ての方に感謝を申し上げるところです。

既に新庁舎の業務も１年を経過し、まちづくりの拠点として機能しているところですが、町内を見渡すと昭和の高度成長期に整備した公共施設が維持補修の時期を迎えています。このためさきに御承認頂いたとおり、施設整備室を設け、主に建築系の一定規模以上の改修工事の技術的な設計管理を分掌することで体制を整え、施設所管課の負担軽減と業務効率化を図りたいと考えています。

以上が令和７年度の主な施策の概要であります。

次に、今回提出しています議案について御説明します。まず、議案第14号から第20号までの令和７年度各会計の当初予算については、先ほど申し上げた主要施策に基づき、現下の社会情勢や国・県の動向とこれまでの推移を踏まえて編成しています。一般会計の予算額は104億円としており、令和６年度と比較して８億8,000万円の増額となっています。

これは、ふるさと納税の減額見込みや基金繰入金等の減がありますが、給与改定による人件費の増、自治体自家用有償バス運行委託に伴う物件費の増、障害者総合支援事業費や認定こども園施設型給付費をはじめとする扶助費の増、学校給食センター長寿命化改修工事をはじめとする普通建設事業費の増が主な要因となっています。

なお、ふるさと納税額は昨今の寄附の動向を勘案して、前年度比１億円減の17億円とする一方、ふるさとづくり応援基金からの繰入金は9,00万増の８億500万円としています。

次に国民健康保険事業特別会計の予算額は、16億6,200万円で前年度と比較して3,500万円の増額となっています。

後期高齢者医療特別会計の予算額は２億3,500万円で、前年度と比較して1,200万円の増額となっています。

介護保険事業特別会計の予算額は14億7,000万円で、前年度と比較して１億100万円の増額となっています。

上水道事業会計の収益的支出及び資本的支出の総額は４億6,237万円となっています。

下水道事業会計の収益的資本支出及び資本的支出の総額は、５億4,786万円となっています。

工業用水道事業会計の収益的支出及び資本的支出の総額は2,181万円となっています。

次に、各会計補正予算についてですが、議案第21号　令和６年度一般会計補正予算（第７号）は、歳入歳出の総額に8,800万円を減額し、補正後の予算総額を105億3,000万円とするものです。令和６年度の実績及び決算を見込んだ補正となっています。歳入については、地方交付税、使用料及び手数料、寄附金の増額がありますが、一方で県支出金、基金繰入金、町債等の減額を行っ

ています。

また歳出は事業実績や変更に伴う減額を行っている一方、基金積立金やふるさと納税管理費の増額を行っています。併せて債務負担行為についても追加を行っています。

議案第22号から第27号までの令和６年度各会計補正予算案でありますが、国民健康保険事業特別会計は700万円の増額。後期高齢者医療特別会計は100万円の増額。介護保険事業特別会計は2,380万円の増額。上水道事業会計は35万円の増額。下水道事業会計は98万円の減額。工業用水道事業会計は、収益的収入支出と資本的収入支出の組替えとした補正をそれぞれ行っています。

次に予算以外の議案について御説明をいたします。議案第28号　一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例は、人事院勧告に準じ、扶養手当、通勤手当、新給料表への切替えなど所要の改正を行うものです。

議案第29号　職員の育児休業等に関する条例及び職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例は、育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の一部改正に伴い、育児又は介護を行う職員の早出遅出勤務の新設や、深夜勤務及び時間外勤務の制限など法の趣旨に沿った所要の改正を行うものです。

議案第30号　情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るためのデジタル社会形成基本法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例は、当該法律の施行に係り行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の一部が改正されたことに伴い、関係条例の規定の整理を行うものです。

議案第31号　波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例は、国民健康保険法施行令の一部を改正する政令が、施行されることに伴い保険料賦課限度額の引上げなど所要の改正を行うものです。

議案第32号　波佐見町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例は、国の連携施設の確保の特例に関する政令の一部改正に伴い、当該基準を定める条例の一部を省令等で定める国基準の改正同様に改正するものです。

議案第33号　波佐見町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例は、議案第32号の当該法律の一部改正に伴い、食事の提供の特例に関する規定を改正するものです。

議案第34号　波佐見町企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例は、人事院勧告に準じ、扶養手当に係る所要の改正を行うものです。

議案第35号　波佐見町ものづくり奨学金条例の一部を改正する条例は、奨学金の返還金の減額を受ける奨学生の住所要件について改正するものです。

本日提出した議案は以上のとおりです。詳細につきましては審議の折に御説明をいたしますので、何とぞ慎重に御審議のうえ適正なる御決定を賜りますようお願いを申し上げます。

**○議長（尾上和孝君）**

しばらく休憩します。11時５分から再開します。

午前10時52分　休憩

午前11時５分　再開

**○議長（尾上和孝君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。

**日程第４　議案第 21 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第４．議案第21号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第７号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

議案第21号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第７号）について説明いたします。歳入歳出予算の補正ですが、歳入歳出それぞれ8,800万円を減額し、総額を105億3,000万円とします。債務負担行為の追加は第２表によります。地方債の変更及び廃止は第３表によります。今回の補正は各種事務事業の実績を見込んでの補正に合わせ、その財源調整を行っています。なお、国民健康保険事業特別会計、介護保険事業への介護保険事業特別会計への繰出金の増加、ふるさとづくり応援寄附金の増加に伴う管理費の増額などありますが、全体としては減額補正となっています。

続いて６ページ～７ページの第２表債務負担行為の補正になります。今回２件を追加計上いたしております。

８ページをお願いします。第３表　地方債の補正ですが、10件の事業について費用の変更が生じたことから、限度額についても変更を行っています。また、事業が発生しなかった２件については廃止します。

続いて歳入に移ります。額が大きいものを中心に説明しますので、あらかじめ御了承ください。11ページをお願いします。10款，１項，１目．地方交付税は、国からの追加交付決定により8,796万6,000円増額しています。

14ページをお願いします。13款，１項，７目．総務使用料は町営バス使用料として150万円追加計上しています。

15ページをお願いします。15ページから20ページまでの14款，国庫支出金から15款．県支出金については、各課が実施する事業に対し、所定の率や定額で交付される金額を実績見込みにより増減しております。

それではこの中で補正する主なものについて説明します。初めに15ページ。14款，１項，１目．民生費国庫負担金は、障害者福祉サービスなどの利用実績に基づいた減額となっています。

16ページをお願いします。14款，２項，１目．総務費国庫補助金は、特定生活支援給付事業及び定額減税補足給付事業の実績に基づいた減額となっています。同じページの３目．衛生費国庫補助金は、新型コロナワクチン接種の実績に基づいた減額となっています。

18ページをお願いします。15款，１項，１目．民生費県負担金の３節．児童福祉費負担金は、

障害者福祉サービスなどの利用実績に基づいた減額となっています。次の５節．保険基盤安定負担金は、保険料の軽減世帯の増加に伴い、その軽減額を補填する国の負担分を増額しております。

19ページをお願いします。15款，２項，２目．民生費県補助金と、４目．農林水産事業費補助金は、それぞれの事業実績に基づいた減額となっています。

22ページをお願いします。17款，１項，２目．ふるさとづくり応援寄附金については、今年度の寄附額を18億5,000万円ほどと見込み、5,000万円を増額しております。

24ページをお願いします。18款，２項，基金繰入金ですが、１目．財政調整基金繰入金については、一般財源不足する分について予算計上していましたが、歳入において一般財源としての確保ができた1,930万円について、今回減額するものです。なお２目．ふるさとづくり応援基金繰入金と６目．教育施設整備基金繰入金は、財源調整を行ったことに伴い、2,580万円と290万円をそれぞれ減額しております。

25ページをお願いします。20款，４項，３目．雑入の主な減額はコミュニティー助成事業の不採択によるものとなっています。

26ページをお願いします。21款，町債ですが、12ページの第４表でも説明したとおり、起債の対象となる事業費やその財源に連動し、それぞれ増減しています。以上が歳入の主なものになります。

次に、歳出について説明します。はじめに税務財政課分を説明し、引き続き各担当課長から主な事業について説明があります。

29ページをお願いします。２款，１項，10目．減債基金費の積立金2,200万円の増額は、普通交付税の再算定の内容に臨時財政対策債を償還するための基金に積み立てることとされているため増額をしております。

30ページをお願いします。２款，１項，15目．ふるさと納税管理費です。歳入において寄附の増加を見込んでいることから、それに伴って5,000万円を増額しています。

その内訳は７節．報償費。11節．役務費、12節．委託料、13節．使用料及び賃借料が経費でそれらを差し引いた2,883万9,000円を24節．積立金として計上しています。なお今年度の積立て予算の総額は９億2,200万円になります。

32ページをお願いします。２款，１項，20目．定額減税補足給付費は、事業の実績に基づいて245万4,000円を減額しています。

以上で税務財政課の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　井関住民福祉課長。

**○住民福祉課長（井関昌男君）**

住民福祉課所管に関して御説明をいたします。37ページをお願いいたします。３款，１項，１目．社会福祉総務費の18節．負担金、補助及び交付金で、生活困窮者自立促進支援事業補助金で348万9,000円を減額しております。これは社会福祉協議会が実施する事業に対しての補助金でございまして、当初予算では県の補助金がなくなるということで、町の補助金で新たに計上しておりましたが、その後、県の補助金が復活したということで、今回不用額として減額をいたしてお

ります。

３目．障害者福祉費で609万7,000円を減額しております。主なものは18節．負担金、補助及び交付金の東彼地区保健福祉組合負担金で、110万9,000円を実績見込みにより減額をしております。

次ページをお願いします。同じく19節．扶助費で障害者の方に対する福祉医療費300万円、補装具給付費200万円を実績見込みにより減額をいたしております。

３款，１項，６目．生活支援給付費で、175万6,000円を減額しております。主なものは、18節．負担金、補助及び交付金の特定生活支援給付費金でありますが、これは非課税世帯及びこども加算の給付金であります。実績に伴い165万を減額しております。

39ページをお願いします。３款，２項，２目．児童措置費で600万円を減額しております。主なものは次ページをお願いします。19節．扶助費の障害児通所給付費500万円。障害児相談支援給付費100万円を実績見込みにより減額をいたしております。

以上で、住民福祉課所管の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

子ども・健康保険課所管分について説明いたします。37ページをお願いします。

３款，１項，１目．社会福祉総務費27節．繰出金を656万8,000円増額しています。低所得世帯に対する保険料軽減分は国県町の公費で負担することで、国保財政の基盤安定を図ることとなっており、今年度の軽減状況を見込み、繰出金を算定したもので不足分を増額するものです。

38ページ。３款，１項，５目．後期高齢者医療費18節．療養給付費負担金を、2,697万6,000円減額しています。後期高齢者医療費の12分の１は町が負担することとされており、令和５年度分の負担額が確定したことにより減額するものです。

39ページ。３款，２項，１目．児童福祉総務費は、総額で812万9,000円を減額しています。主な要因としては、18節．負担金、補助及び交付金になりますが、いずれも支給見込みに基づくものです。３款，２項，２目．児童措置費は、支給見込みから12節の委託料と19節の扶助費を組替えています。

41ページ。４款，１項，２目．予防費。3,089万4,000円減額していますが、子宮頸がんワクチンのキャッチアップ接種の期間延長に伴い、年度内接種者が増える見込みがあることから、12節の予防接種委託料を増額し、19節新型コロナワクチン接種は、実績を見込み減額をするものです。

以上で、子ども・健康保険課所管の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

長寿支援課所管分について御説明いたします。37ページにお戻りください。３款，１項，２目．老人福祉費19節．扶助費について。養護老人ホーム入所措置費を実績見込みにより325万円減額しています。27節．繰出金、介護保険事業特別会計繰出金については、現時点における介護保険事業特別会計の実績見込みにより、469万7,000円増額しています。

以上で、長寿支援課所管の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

予算書の31ページをお願いいたします。農林課農政班関係の主要な分について説明いたします。２款，１項，17目．地域づくり事業費になりますが、委託料132万6,000円の減額についてですが、当初地域おこし協力隊を４月から雇用する予定をしておりましたが、９月からの採用となったために132万6,000円の減額を行います。

次に44ページをお願いいたします。６款，１項，３目．農業振興費18節．負担金、補助及び交付金について、267万2,000円の減額となっておりますが、説明欄に記載されております鳥獣被害対策費補助金のワイヤーメッシュ柵の実績によるもので、入札による減によるものとなっております。

次に45ページをお願いいたします。６款，１項，11目．担い手対策費18節．負担金、補助及び交付金について、442万円の減額となっておりますが、この分は新規就農者に機械等の支援等の補助をしておりましたが申請等がなく、減額となっております。

以上で、農林課農政班関係の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　太田参事。

**○農林課参事（太田克宏君）**

引き続き、農林課農地林務班関係の主なものについて御説明いたします。

１ページ戻っていただいて44ページをお願いします。６款，１項，５目．土地改良費18節．負担金、補助及び交付金ですが、181万8,000円を減額しております。主なものとして県営事業で行われている防災重点農業用ため池緊急整備事費業負担金176万1,000円の減額で、本年度事業の精算見込みのため減額を行っております。

次に６目．水田農業対策費18節．負担金、補助及び交付金ですが、115万円を減額しております。主なものとして農地集積協力事業費補助金100万円の減額ですが、予定していた地域において、地域内での本年度の取りまとめが難しくなったことから減額するものです。

以上で、農林課関係の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

商工観光課関係予算について御説明いたします。31ページをお開きください。２款，１項，18目．地方創生推進費12節．委託料でございます。観光誘致「町への招待状企画」業務委託料の211万3,000円を減額しております。今回事業実施にあたり、招待状やポスター等を昨年のデザインを活用し、招待状を同封した「Ｌｉｋｅ」の発送件数が昨年よりも減少したために、実績に応じ減額するものでございます。

47ページをお開きください。７款，１項，３目．観光費18節．負担金、補助及び交付金でございます。観光協会運営事業費補助金を100万円減額しております。この補助金は当初予算により、観光協会に所属する地域おこし協力隊の管理事務費を観光協会に補助することを目的として、観光費に予算計上しておりましたが、２款，１項，13目．地域づくり事業費の12節．委託料、地域

おこし協力隊事務委託料から支出することとしたため今回減額するものです。

以上で、商工観光課所管分についての説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　本山建設課長。

**○建設課長（本山征一郎君）**

それでは次に、建設課所管分の主なものについて御説明いたします。49ページをお願いいたします。

８款，土木費２項，１目．道路橋梁総務費12節．委託料についてでございますが、事業における筆界未定等の案件について整理ができたことから、その後の手続に係る登記費用について100万円を追加するものでございます。

次に２目．道路橋梁維持費14節．工事費について道路メンテナンス事業が採択とならなかったことにより、橋梁修繕の財源が確保できなかったことから、それにかかる費用全額を減額するものでございます。

以上で、建設課所管の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

それでは、教育委員会関係の説明を行います。57ページをお願いいたします。10款，４項，４目．総合文化会館の管理費の12節．委託料でございます。芸術文化公演開催委託料を120万円減額させていただいております。こちらにつきましては、先日行いました林家たい平さんの講演料の不用額となってまいります。

同じく14節．工事請負費270万円を減額させていただいております。こちらにつきましては、文化会館の裏手にあります大道具室の入り口の開閉がなかなか思うようにいかなかったので、取り替えを予定しておりましたが、現場でもう一回業者さんと話をして、補修で済みましたので、その部分の不用額を減額させていただきたいと思っております。

以上で、議案第21号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第７号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（尾上和孝君）**

これより質疑を行いますが、質疑に当たっては会議規則第53条の規定により、全て簡明に行い議案外の内容及び自己の意見を述べることがないようお願いします。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

８番　城後議員。

**○８番（城後光君）**

予算書の28ページをお願いします。２款，総務費１項，総務管理費１目．一般管理費の17節．備品購入費で、内閣府派遣備品購入費が20万円上げられています。人事に関わる部分かと思いますので、具体的な部分まで構いませんが、職員さんを内閣府に派遣するということでよろしいのでしょうか、お願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

債務負担行為とも関係しますので御説明させていただきます。今回令和７年度から２年間、内閣府地方創生推進事務局のほうに職員を１名派遣することで計画をしております。

既に職員の応募を経て１名の人選を行っておりますが、人事の兼ね合いもございますので、まだ公表いたしておりません。

今回そういった関係で、先方、東京都の国の予定でございますが、そこの必要な備品を計上させていただいております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　６番　岡村達馬議員。

**○６番（岡村達馬君）**

45ページ。６款，１項，11目．のいわゆる新規農業者支援の補助金等についてなんですが。これ先ほど申請者がなかったという説明を受けました。

町長の施政方針の11ページにも、今後の後継者等の対策は非常に厳しい状況にあるという先ほど報告を受けましたが、例えば申請者なしの場合の行政としての呼びかけとか、働きかけ等はどうなさっているのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

この分につきましてはですね、現在新規就農者として３名ですね、最近就農された方の分も含めて計上しておりました。で、そのうち現在行われている方、これから新たになられる方、双方ともいない。申請がなかった状況で執行残というかたちになっております。

新規就農者の呼びかけについては県の就農支援センターと、農協の就農支援センターから情報等があっており、今のところ１件就農したいという申出があっているんですが、まだ今年度の実施には至らないという形ですね。次年度以降そういう新規就農者出てくるようにしてますので。いろいろな情報網を張りめぐらして、就農者の確保については対応してるとこでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　９番　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

ページ数は31ページです。総務費の総務管理費、18目の地方創生推進費の18節．負担金、補助及び交付金のところで、創業チャレンジ支援事業費補助金マイナス402万4,000円。これ実績に伴う減額かと思うのですが、当初予算600万円計上されておりましたが、その600万円の計算の基礎と実績、６年度の実績についてお伺いします。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

31ページ。２款，１項，18目．18節．創業チャレンジ支援事業費補助金についてはですね、令和６年度は前期３件、後期３件の、１件当たり100万円を上限とする補助制度を執行いたしました。

そのうち前期に１件の採択、後期が２件の採択となりまして、合計の３件の合計が197万6,000円となっております。あくまで上限100万円の事業でありまして、申請額が100万円届かなかった

事業もあったということで、３件合計が200万円弱というような状況となっております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　３番　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

41ページ。４款，１項，１目．保健衛生総務費のところで18節．負担金、補助及び交付金のところで、東彼杵郡医師会地域小児科対策事業負担金とありますが、３万3,000円。この事業は以前からあった事業か、それともこの事業の目的と概要が分かれば教えていただきたいです。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

こちらの内容につきましては新しい事業になります。昨年末に郡の医師会のほうから提案がございまして、郡の医師会の皆さんで勉強会をしたいと。

小児科が不足する中で、自分たちでできることを考えていきたいということで。今ですね実際小児科でないと小児が診れないというところでもなくて、ある程度救急休暇の対応とか、そういった知識を身につけるといいますか知識を増やすことで、町のお医者さんも小児科を見ていけるような体制をとりたいということでございまして、３町に話を持ちかけていただきました。

それで３町で分担して、掛かる経費について、負担金を出すということですね。今年度は１回計画をされておりまして、来年度も引き続き予定をされているものになります。

**○議長（尾上和孝君）**　２番　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

39ページの３款，２項，２目．12節．委託料でございますが、1,000万円。私立保育所施設型給付委託費として計上してありますが、この内容とそれから今から1,000万円委託、これ年度内に執行できるものかどうか、そこら辺をお尋ねします。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

こちらに関しては概要でもちょっと説明はいたしましたが、39ページの12節．委託料とですね、19節．扶助費の組替えということになっております。

保育所で預かっていただいてるその委託料ということなので、その実績を見込んでの組替えでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　６番　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

31ページ。２款，１項，18目．12節の観光誘致の業務委託料なんですが、これは「町への招待状企画」がポシャったものか、一つの残額として捉えていいのでしょうか、というのは、これ200万円も減額されておりますが、非常に観光誘致、大切な事業ですが、もったいないというように思うんですが、いかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

31ページ。２款，１項，18目．12節．委託料の観光誘致町「町への招待状企画」業務委託料についての御質問ですが、これはスチームシップさんに委託をしている事業でございまして、このふるさと納税の情報誌であります「Ｌｉｋｅ」こちらのほうに、この案内状を同封したような形で発行しているというふうなことでございます。

今回、先ほど概要の説明でもお話ししましたとおり、今回の減額につきましては昨年利用したデザイン等もそのままで、今回もちょっと形式を変えずにデザイン等も活用させていただいたというふうなことがまず１点と、あとそれから「Ｌｉｋｅ」そのものの、ちょっと発行部数が減少したというふうなことでですね、その実績に応じて、今回減額をしてるというふうなことでございます。

ですので、当初の発行予定からするとちょっと下がったものですから、それに合わせて、減額をしてるというふうな内容でございます。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　５番　岡村真由美議員。

**○５番（岡村真由美君）**

歳入の14ページ。13款，１項，７目．１節．新たに町営バス使用料150万円。自治体有償バス使用料として、計上されていますが、この150万円というのは、どこから、いつ頃、収入として認めるということなんでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

13款，１項，７目．総務使用料の自治体有償バス使用料で150万円の増額というふうなことで上げさせていただいております。これにつきましては、来月から各県立高校向けに定期券の販売を行います。

ですので、定期券の販売でこれまで当然川棚内海線を利用された定期券利用された生徒さんもいらっしゃいますし、新たに新入生として通学をされる方、こういった方々も対象にですね、定期券の販売会を行いますので、それに対しての使用料ということで予算を計上させていただいております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　２番　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

41ページ。４款，１項，２目．19節．新型コロナワクチン接種費でございますが、3,571万1,000円の減ということになっております。

確かにコロナは、最近はもう収束しているかと思いますが、この接種予定者。まずですね予定人員、それから実際の接種された数、これをお願いします。

そしてまた、減となった要因。これについて分析されておれば、お願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

まずですね、予算の想定としましては、3,500人を見込んでおりました。それは、これまで無償で受けていらっしゃったというところもあるんですが、引き続き受けられるものかもしれないと

いうことで想定はしたのですが、３月まで受けられることになっておりまして、今のところの見込みとしてはですね、200人ぐらいが受けられるだろうという想定をしております。

で、減少した理由としましては、大きくはコロナのワクチンに対する考え方とかですね、そういったものもあるかと思うんですが。大きくはやはり無償で受入れられたものが、自己負担が発生するというところですね。あとそこまで強く推奨される機会も少なくなったとかですね。そういったこともあるのではないかというふうに思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　５番　岡村真由美議員。

**○５番（岡村真由美君）**

31ページをお開きください。２款，１項，17目．12節．委託料。地域おこし協力隊事業委託料132万6,000円の減となっております。この説明は４月から採用予定の地域おこし協力隊の採用が９月からになったため、４～８月の５か月間の委託料が減額になっているということなんですが、この４月採用予定が９月になってしまった理由等、理由をお聞かせ頂ければと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

御質問についてですが、もともと昨年度の事業で面接まで行っておりました。当初は４月から採用するように予定していたのですが、実際面接で今採用してる方と話をしたらですねどうしても９月からしか都合があってくれないという話で、協力隊側の都合で９月からの採用というかたちに至りました。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　５番　岡村真由美議員。

**○５番（岡村真由美君）**

そうですか。宿がなかなか決まらなくて、来たくても来れない事情があったというように私は個人的に聞いたのですけど、向こう側の個人的な理由だったのですかね。あと来てからもかなり宿に関してはかなり苦労して、数か月つらい思いをしたみたいなんですが。その地域おこし隊。今回は特殊だったのですが、住宅をあっせんようなことというのはどのくらいなさったのかなというのをちょっと聞きたいのですけど。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

もちろんですね、遠くから来られる方なので住居探しには苦労されるという想定で、私たちも猟友会とかでほかの農業者にもお声かけをして、いろいろ探しておりました。

ただですね猟犬を連れてきているということですね、なかなかこう飼育関係の許可が出なかった部分もあってちょっと苦労したんですが。支援のほうはちょっと十分してきたんですけどなかなかこう、ペットというかその部分でうまくいかなかった部分は実際ございます。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第21号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第７号）を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。したがって議案第21号は原案のとおり可決されました。

**日程第５　議案第 22 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第５．議案第22号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

議案第22号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）について説明いたします。歳入歳出予算に700万円を追加し、予算の総額を17億4,300万円とするものです。

２ページをお願いします。歳入については交付決定など実績を見込んだ補正ですが、６款，２項，他会計繰入金656万8,000円増額しています。

歳出については３ページをお願いします。主なものとしては２款，４項，出産育児費を100万1,000円増額していますが、３月までの出産予定を見込んだ補正となります。

４款，１項，保健事業費を総額で175万1,000円減額しています。特定健診の受診率向上対策費を計上していますが、２年連続や、60％の受診率の目標を達成する自治会が当初予算を下回ったため不用額を減額しています。

４款，２項，特定健康診査等事業費は総額で299万3,000円減額しています。主な要因としましては、特定健診の委託料の減額です。

８款，１項，予備費は歳入歳出の予算の調整として、1,132万3,000円計上しています。

以上で、令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第22号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。したがって議案第22号は原案のとおり可決されました。

**日程第６　議案第 23 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第６．議案第23号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

議案第23号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）について説明いたします。歳入歳出予算にそれぞれ100万円を追加し、予算の総額を２億2,500万円とするものです。

２ページをお願いします。歳入の主なものとして、収入の見込みにより１款，１項，後期高齢者医療保険料120万8,000円の増額です。

３ページをお願いします。２款，１項，後期高齢者医療広域連合納付金は、収入の増額に応じて165万円を増額しています。

以上で、令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第23号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。したがって、議案第23号は原案のとおり可決されました。

**日程第７　議案第 24 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第７．議案第24号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第３号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

議案第24号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第３号）について御説明申し上げます。

歳入歳出予算の補正でございますが、歳入歳出それぞれ2,380万円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ14億3,800万円とするものでございます。今回の補正は３月までの決算を見込み、予算の調整を行ったものになります。

２ページをお願いいたします。歳入になります。４款，国庫支出金について962万1,000円増。５款，支払基金交付金について490万9,000円増。６款，県支出金457万3,000円増。８款，繰入金。一般会計からの繰入金になりますが、469万7,000円増額しています。これら増額の主な要因は、歳出側２款，保険給付費の増により所定の負担割合により増額をしております。

３ページをお願いいたします。歳出になります。２款，保険給付費を事業実績の見込みから3,620万円増額しています。主なものは１款，介護サービス等諸費について。訪問看護、訪問入浴、訪問介護などについて、サービス利用者の増により居宅介護給付費を3,950万円の増、地域密着型介護サービス給付費及び施設介護サービス給付費については、実績見込みからそれぞれ200万円を減額しています。３款，地域支援事業費についても事業時実績の見込みから159万4,000円増額しています。なお予備費は今回計上した歳入から歳出を差し引いた不足分を調整しております。

以上で、令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第３号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第24号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第３号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって、議案第24号は原案のとおり可決されました。

しばらく休憩します。１時より再開します。

**午前11時55分　休憩**

**午後１時00分　再開**

**○議長（尾上和孝君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。

**日程第８　議案第 25 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第８．議案第25号　令和６年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第４号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

中村水道課長。

**○水道課長（中村和彦君）**

それでは議案第25号　令和６年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第４号）について説明します。今回の補正は、収益的収入及び支出の補正、議会の議決を得なければ流用することができない経費の補正になります。

補正予算書１ページをお願いします。収益的収入及び支出の補正になります。収入の補正は行いません。支出は水道事業費用を35万2,000円追加し、補正後の額を２億7,950万6,000円とするものです。第１項営業費用を追加するものですが、施設電気使用量の実績見込みにより、原水及び浄水費で30万円増額を行うのが主な要因です。

次に、議会の議決を得なければ流用することができない経費の補正は、職員給与費で５万2,000円を追加し、4,464万1,000円とするものです。

以上で、議案第25号　令和６年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第４号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第25号　令和６年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第４号）を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって、議案第25号は原案のとおり可決されました。

**日程第９　議案第 26 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第９．議案第26号　令和６年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第４号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

中村水道課長。

**○水道課長（中村和彦君）**

それでは、議案第26号　令和６年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第４号）について説明します。今回の補正は、収益的収入及び支出の補正、議会の議決を得なければ流用することができない経費の補正になります。

補正予算書１ページをお願いします。収益的収入及び支出の補正になります。収入の補正は行いません。支出は下水道事業費用を98万円減額し、補正後の額を３億7,534万2,000円とするものです。第１項．営業費用は、実績見込みにより管渠費で71万円。総がかり費で27万円の減額を行うものです。

次に、議会の議決を得なければ流用することができない経費の補正は職員給与費で２万円を追加し、3,623万4,000円とするものです。

以上で、議案第26号　令和６年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第４号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第26号　令和６年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第４号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。したがって、議案第26号は原案のとおり可決されました。

日程第 10　議案第 27 号

**○議長（尾上和孝君）**

日程第10．議案第27号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計補正予算（第１号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

中村水道課長。

**○水道課長（中村和彦君）**

それでは、議案第27号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計補正予算（第１号）について説明いたします。

今回の補正は、収益的収入及び支出の補正。資本的収入及び支出の補正になります。補正予算書１ページをお願いします。収益的収入及び支出の補正になります。収入は工業用水道事業収益を28万円増額し、補正後の額を1,333万7,000円とします。

第２項．営業外収益の他会計補助金の増額になります。他会計補助金は一般会計補助金になります。支出は工業用水道事業費用を28万円増額し、補正後の額を1,329万4,000円とします。

第１項．営業費用の増額になりますが、施設電気使用量の実績見込みにより原水及び浄水費で８万円の増額、及び固定資産除却費の計上により、資産減耗費において20万円の増額を行うものです。

次に資本的収入及び支出の補正になります。収入は28万円減額し、補正後の額を1,032万円とし、支出は28万円を減額し、補正後の額を1,025万2,000円とするものです。

収入は第２項．出資金として受け入れる、一般会計からの補助金を28万円減額するものです。支出は第１項．建設改良費を28万円減額するもので、固定資産購入費の不用額になります。

以上で、議案第27号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計補正予算（第１号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第27号　令和６年度波佐見町工業用水道事業会計補正予算（第１号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって、議案第27号は原案のとおり可決されました。

**日程第 11～17　議案第 14 号～20 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第11. 議案第14号　令和７年度波佐見町一般会計予算から、日程第17. 議案第20号　令和７年度波佐見町工業用水道事業会計予算までの７件を一括議題とします。

まず、議案第14号　令和７年度波佐見町一般会計予算から順次、内容説明を求めます。

古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

議案第14号　令和７年度波佐見町一般会計予算について説明します。令和７年度波佐見町の一般会計予算は次に定めるところによります。

まず歳入歳出予算の総額は104億円となり、前年度当初の95億2,000万円と比較して８億8,000万円、9.2%の増となっております。歳入歳出予算の款項の区分の金額については第１表歳入歳出予算によります。債務負担行為については第２表によります。地方債については第３表によります。一時借入金の借入れの最高額については５億円としています。歳入歳出の流用については、同一款内で各項間の流用ができるのは、給料、職員手当等及び共済費とします。

次の２ページ～６ページについては、９ページ以降の歳入歳出の事項別明細においてその内容を説明するため省略します。

７ページをお願いします。第２表債務負担行為では債務負担が令和８年度以降に及ぶものについての１件を計上しており、期間及び限度額はそれぞれ記載のとおりです。

８ページをお願いします。第３表地方債は各事業の財源とするために、ため池整備事業440万円から公共施設災害復旧事業40万円までの17事業に係る建設事業債などについて、７億8,800万円を計上しています。起債の方法、利率、償還の方法については記載のとおりです。

続いて歳入歳出の説明に移りますが、歳出については各担当課で説明しますので、ページが前後する場合がありますので御了承願います。また、事業費が大きいものや新規事業を中心に説明しますので、あわせて御承知ください。

それでは歳入から説明します。11ページをお願いします。１款，１項，１目．個人町民税は、給与所得の増加とその他の所得についても大きな変動がない状況から、滞納繰越分を含め、全体で580万円増の４億9,850万円としました。次に２目．法人町民税は、コロナ禍以前に戻りつつあることから、均等割を480万円、法人税割を940万円増額し、滞納繰越分を含め全体で、1,420万円増の6,276万5,000円としました。

12ページをお願いします。１款，２項，１目．固定資産税は、分譲地等の開発により宅地化が進んでいることを踏まえ、土地については30万円増の１億7,290万円。家屋については1,200万円増の３億3,710万円。また償却資産については企業の設備投資もあり、950万円増の１億2,250万円とし、滞納繰越分を含め全体で、2,081万6,000円増の６億3,446万4,000円としました。

13ページをお願いします。１款，３項，１目．軽自動車税の種別割の課税台数は横ばいと見込んでいますが、新規検査年月から13年を経過する前までの車両更新による税額の増や、13年を超

える経年従価税台数の増を見込み、滞納繰越分を含め全体で111万1,000円増6,305万3,000円としました。

14ページをお願いします。１款，４項，１目．町たばこ税は課税本数をほぼ横ばいと見込み、昨年と同額の8,420万円としました。

15ページをお願いします。１款，５項，１目．入湯税は日帰り入湯客の増加を見込み、25万円増の216万円としました。

16ページをお願いします。２款，地方譲与税から、25ページの９款，地方特例交付金までは、それぞれ令和６年度の基準財政収入額を参考に、国が示した地方財政計画による推計伸び率などを考慮し、それぞれ計上しました。

26ページをお願いします。10款，１項，１目．地方交付税は１億2,000万円増の23億円としました。普通交付税については、給与改定や物価高への対応などの増加要因と臨時財政対策債振替額の皆減を考慮し、１億2,000万円増の22億円としています。また、特別交付税については、これまでの実績や地域づくり事業等の交付税対象事業を考慮して、前年同額の１億円としています。

29ページをお願いします。12款，２項，負担金は合計で332万円減の3,920万3,000円としています。１目．総務費負担金には、町営バスを共同運行する川棚町の負担金961万2,000円を計上しました。なお土木費負担金については、工事完了により廃目となっています。

30ページをお願いします。13款，１項，使用料には、新たに町営バス使用料900万円を計上し、総額を9,708万9,000円としました。

32ページをお願いします。13款，２項，手数料は、戸籍住民登録などの諸証明などの手数料を合計で169万8,000円減額し、547万8,000円としました。

33ページをお願いします。14款，２項，国庫負担金のうち、１目．民生費国庫負担金は、障害福祉サービスの需要の拡大、保育給付費に係る公定価格の見直し、児童手当の対象の拡大などから、２億3,588万6,000円増の10億7,523万1,000円としました。これに伴い39ページの15款，１項，１目．民生費県負担金についても同様に増額となっております。

35ページをお願いします。このページから37ページまでの14款，２項，国庫補助金は、合計で5,342万4,000円増の２億8,582万円としました。この要因としては、町営住宅改修に係る公営住宅等ストック総合改善事業費、小中学校のバリアフリー化を図るための学校施設環境改善交付金、小中学校で使用しているタブレットを更新するための公立学校情報機器整備事業費などの追加増額によるものとなっています。

少し飛びまして、41ページをお願いします。このページから43ページまでの15款，２項，県補助金は、合計で１億98万1,000円増の３億5,990万5,000円としました。この要因としては、脱炭素社会の推進に係る重点対策加速化事業費や、農業用ため池の廃止事業に伴う農村地域防災減災事業費、インバウンド事業推進を図るためのみんなで輝く観光まちづくり推進事業費。令和６年度に発生した農地等災害復旧事業費などの追加増額によるものとなっています。

44ページをお願いします。15款，３項，委託金は合計で1,509万6,000円増の4,618万9,000円としました。主な要因は、令和７年度中に予定されている参議院議員選挙、長崎県知事選挙の委託

金増加によるものです。

46ページをお願いします。16款，１項，財産運用収入は合計で846万6,000円増の1,468万4,000円としました。主な要因は、基金の運用による利子及び配当金の増加によるものとなっています。

48ページをお願いします。17款，１項，寄附金は合計で１億147万8,000円減の、17億2,090万8,000円としました。主な要因は、ふるさとづくり応援寄附金を近年の減少を勘案し、減額したことによるものとなっています。

49ページをお願いします。18款，２項，基金繰入金については、それぞれの事業に充当する必要額を計上しています。１目．財政調整基金繰入金は当初予算を編成するにあたり、その財源に一部不足が生じることから、１億6,400万円を計上しました。２目．まちづくり基金繰入金は、地域振興や環境美化推進の事業へ充当するため、2,520万円を計上しました。３目．ふるさとづくり応援基金繰入金は、これまでの積立額の状況を踏まえ、各種事業へ充当するために、８億500万円を計上しました。５目．教育施設整備基金繰入金は、総合文化会館や各学校の改修工事などへ充当するため、5,480万円を計上しました。

55ページをお願いします。20款，４項，３目．雑入については、自治体情報システムの標準化共通化に伴うデジタル基盤改革支援事業補助金の増加や、放課後緊急事業、保護者負担金の追加などにより、7,482万6,000円増の１億3,796万7,000円としました。

58ページをお願いします。21款，１項，町債については、各事業が起債対象となるかの見極めを行い、交付税措置があるものを優先し、事業費に対して示された充当率により計上することとしており、全体で３億2,100万円増の７億8,800万円としました。起債額増加の主なものとしては、区画整理事業や防災行政無線、再整備事業それから中学校屋内運動場空調機整備事業、体育センター及び給食センターの長寿命化事業、小学校のＬＥＤ化事業などの費用の増加、新規計上によるものとなっています。

次に、歳出について説明します。最初に税務財政課分を説明し、引き続き各担当課長から新規事業や主な事業等について説明があります。なお委託料や工事請負費、備品購入費等について、今後の入札や随意契約の関係から説明欄の金額を記載していない箇所がありますので、御了承ください。

少し飛びまして、74ページをお願いします。２款，１項，11目．ふるさと納税管理費については、歳入に計上しているふるさとづくり応援寄附金、17億円に対する返礼品や事務経費及び基金積立金を計上しています。

79ページをお願いします。２款，２項，２目．賦課徴収費12節．委託料に3,695万1,000円を計上しております。まず土地家屋台帳履歴管理システム構築業務は、法務局から送られてくる情報をペーパーレス化し、電子データとして管理するシステムを構築するためのものです。次の標準宅地鑑定評価業務につきましては、３年ごとに行う固定資産税評価替えの準備となる業務となっています。一番下のシステム改修業務は、標準化に伴う家屋評価システムの改修となっております。

大きく飛びますが187ページをお願いします。12款，１項，公債費は過去の投資的事業に充当

した起債元金や、財源補填のために発行した臨時財政対策債の元金に借入金利子を含めた総額として、５億6,874万7,000円としました。

以上で、税務財政課分の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○９番（福田勝也君）**

それでは総務課所管の主要事業及び増額事業について御説明します。70ページのほうにお戻りください。

２款，１項，７目．交通安全対策費14節．交通安全施設工事は650万円を計上しており、自治会等地元要望に基づき、令和７年度はガードレール60メートル、カーブミラー12基、ガードパイプ20メートル、区画線13か所を予定しております。

次大きく飛びまして144ページをお願いします。９款，１項，２目．非常備消防費。18節．負担金補助金及び交付金の下から３行目消防分団運営費交付金は、消防団運営に関する交付金でございますが、今回400万円を計上しております。この運営費補助金については、団員報酬が直接支払いになったことに伴い、分団運営が厳しくなっていることを考慮し、昨年度から109万円増額としております。

次に３目．消防施設費14節．工事請負費。防火水槽工事でございますが、村木郷東峠の開渠の防火水槽が老朽化に伴い漏水していることから、今回、暗渠を公式にて改修することで工事費を計上しております。なお、金額については先ほど説明があったとおり、入札案件でございますので、掲載を差し控えております。

146ページをお願いします。５目．災害対策費14節．工事費。防災行政無線再整備工事は令和５年度から３か年度計画で行っておりますが、工事の最終年度となります。今回の工事は、公民館局の改修及び防災システム機器の更改を予定しております。その下、公民館局蓄電池交換工事はコミュニティー無線、いわゆる戸別受信機への再送信を行う機器を、公民館に設置をしておりますが、その蓄電池バッテリーの定期交換となります。あわせて入札案件でございますので、契約の金額は差し控えさせていただいてます。

その下17節．備品購入費。自主防災資材購入費は、今回６地区の防災資材は助成を受けて購入するものでございます。以上で、総務課所管の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

続きまして企画情報課所管の主な事業について御説明いたします。

69ページをお願いいたします。２款，１項，６目．企画費のうち、18節．地域振興事業費補助金については、自治会の施設等改修に伴う補助金でありまして、各自治会からの要望により前年度より650万円増の1,150万円を計上しております。同じく18節１つ下の波佐見高校支援事業費補助金については、前年度より100万円減の2,200万円を計上しています。

次に72ページをお願いいたします。９目．電算管理費12節．委託料については、主に標準化、共通化に伴う各種改修分を計上し、また第５次ＬＧＷＡＮ関連事業については、ネットワーク接

続先の機器更新に伴う対応が必要となるもので、所要額を計上しているものです。これを同じく13節．上から５行目のガバメントクラウド使用料は、同じく標準化共通化システムをガバメントクラウド上に構築するわけでございますが、そのクラウドの使用料として、2,408万1,000円を計上しております。

次に73ページをお願いいたします。10目．地域情報化管理費のうち、12節．上から２番目、地域住民向けデジタル研修業務委託料については、令和６年度に補正対応いたしましたが、地域住民や事業者を対象としたデジタル講座が好評でありましたので、引き続き実施するために、所要額を計上しているものでございます。

次に同じく上から７行目。図書館システム用ファイアウォール等新規構築業務委託料については、セキュリティー対策上、役場のシステムと一緒になっておりましたが、そこを切離して利便性を向上させるためにネットワークを整備するものでございます。

次に76ページをお願いいたします。12目．定住促進事業費のうち、14節．お試し住宅改修工事については、コロナ禍で高い需要がある現在２棟を運用しておりますが、お試し住宅を気持ちよく快適に、安全に利用していただき町のイメージアップを図るために、浴室の改修など内装を整備するものでございます。その下の18節．定住奨励金については、昨年と同程度の1,755万円を計上しております。高い事業効果と移住実績が見込まれるため、引き続き実施をしてまいります。

次に、同じページの17目．地域づくり事業については、地域おこし協力隊事業であり、これは商工観光課、農林課、合計６名分の予算を計上しているものであります。

次に78ページをお願いいたします。18目．地方創生推進費については、18節に上から４つ目から、４つの事業をそれぞれ計上しておりまして、結婚新生活、移住支援、事業の創業などのための事業であり移住促進、新たなスタートアップ等について支援をしてまいります。

次に少し飛びまして87ページをお願いいたします。２款，５項，２目．指定統計費についてですが、令和７年度は５年に１回の国勢調査が実施される年となっております。10月１日を基準日とする国勢調査について、所要額をそれぞれ計上しているものでございます。

そして大きく飛びまして、131ページをお願いいたします。８款，１項，１目．土木総務費の12節．委託料におきまして、空き家調査業務委託料を計上しております。これは令和３年度に改正しました波佐見町空家等対策計画が、令和７年度で終期を迎えるために、令和８年度を起点とする５か年の計画策定に向けて現状調査を行うものでございます。

以上で、企画情報課分の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　井関住民福祉課長。

**○住民福祉課長（井関昌男君）**

続きまして住民福祉課所管について御説明をいたします。

82ページをお願いいたします。２款，３項，１目．戸籍住民基本台帳費でございますが、次のページをお願いいたします。12節．委託料。システム改修委託料334万7,000円を計上しておりますが、これは新規事業でございまして、戸籍法の改正により戸籍への振り仮名表記のためのシステム改修及び振り仮名照会のための、通称作成の委託料でございます。

89ページをお願いいたします。３款，１項，１目．社会福祉総務費です。次のページをお願いいたします。18節．負担金、補助及び交付金になりますが、前年比35万5,000円増の3,142万1,000円を計上しております。これは各福祉団体等の運営費に対する補助が主なものになります。３行目の社会福祉協議会運営費補助金につきましては、社協職員の３人分の人件費に当たる分でございます。

91ページをお願いいたします。３款，１項，３目．障害者福祉費でございますが、また次のページをお願いいたします。18節．負担金、補助及び交付金は、前年比4,797万円を減の1,765万7,000円を計上しております。主な要因は東彼地区保健福祉組合負担金の地域生活支援事業で、前年比4,858万3,000円減の1,452万円を計上しておりますが、主な要因は東彼地区保健福祉組合が運営する東彼地区障がい者支援センターエールが令和６年度に建て替え工事が終了したことによる減でございます。ちなみにエールでございますが、今週の２月26日にですね、無事落成式が行われましたのであわせてお知らせしておきます。

次のページをお願いいたします。同じく19節．扶助費は、前年比4,878万8,000円増の６億16万6,000円を計上しております。いずれも過去の実績及び令和６年度の見込みから積算し計上をいたしております。次に99ページをお願いいたします。

３款，２項，２目．児童措置費でございますが、住民福祉課関係は19節．扶助費の上から６行目以降になりますが、障害児通所給付費は前年度比4,424万2,000円増の１億2,999万2,000円を計上しております。障害児相談支援給付費は、前年比128万9,000円増の658万9,000円を計上しております。これは放課後等デイサービス等の利用者及び利用日数や相談件数の増によるものでございます。

106ページをお願いいたします。４款，１項，５目．環境衛生費で、前年比2,486万2,000円増の8,738万3,000円を計上しております。主な要因は、会計年度任用職員であります環境美化作業員のを６名から８名に、２名増の人件費等の増でございます。これは農林課の作業員２名を加えて、環境衛生班で一括管理をいたしまして、波佐見町を全体的に捉えて環境美化作業の活動を推進していく取組でございます、ということで考えております。

12節．委託料の１行目の環境美化推進事業委託料につきましては、550万円を計上しておりますが、これは各自治会で組織しております環境衛生振興会連合会に対しまして、各地区の河川等の除草清掃作業をお願いするものでございます。３行目の除草処理動物管理業務委託料でございますが、これは今まで作業員が作業しにくい箇所をヤギさんに雑草を食べていただき、環境美化を進めていきたいと思っております。

次ページをお願いいたします。17節．備品購入費の草刈り機購入費でございますが、これは高性能の草刈り機導入の予定をいたしておりまして、環境美化作業員を中心に使用をいたして、業務の効率化を図りたいと考えております。また各自治会並びに河川公園の愛護団体に対しての貸出しをすることでそれぞれの負担軽減につなげていきたいというように考えております。

18節．負担金、補助及び交付金の７行目の重点対策加速化事業費補助金で800万円を計上しております。これは新規事業で県の補助金でございますが、これは太陽光パネル設置等に対しての

補助金でございます。

109ページをお願いいたします。４款，２項，１目．18節．し尿処理費に係る東彼地区保健福祉組合分担金で、前年比365万5,000円増の4,366万円を計上しております。主な要因は工事費増による増額になります。次に、２目のじん芥処理費でございますが、ごみ処理に係る東彼地区福祉組合分担金で前年比64万3,000円増の１億7,018万7,000円を計上しております。

次に、136ページをお願いいたします。８款，３項，２目．河川公園管理費で、18節．報償費、維持管理費奨励金でございますが、前年比52万9,000円増の212万7,000円を計上しております。これは河川公園の維持管理をしていただいている愛護団体に対しての奨励金でございます。最後に14節．工事請負費でございますが、桜づつみ河川公園の路線改修工事でございまして、これにつきましては年次計画を行っております。令和７年度につきましては、志折側を675メートル予定をいたしております。

以上で、住民福祉課所管の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

子ども・健康保険課所管分について説明いたします。

96ページにお戻りください。３款，２項，１目．児童福祉総務費は、前年度比196万円を増額し２億5,471万5,000円を計上しています。前年度と比較すると約3,500万円の減額の要因もありますが、主な増額の要因としましては、97ページ。単価の改定による放課後児童健全育成事業委託料は、1,011万7,000円の増額。緊急的な措置として、放課後待機児童対策緊急事業として人件費や送迎委託料などに1,470万円増加。新規事業として、98ページ７行目、母子家庭等対策総合支援事業費補助金120万円を計上しています。この補助金に関しましては、こども食堂等を設立する団体に対して、開設運営費用を補助するものです。１団体分を計上しています。

99ページ２目．児童措置費については、前年度に比べ大幅に増額し13億5,389万8,000円を計上しています。主な増額の要因としましては、公定価格の改定による認定こども園、保育所への給付費として、委託料や扶助費の増額が１億4,535万2,000円。令和６年度制度改正による児童手当の増額１億1,264万円の増額となっております。

102ページ４款，１項，２目．予防費は621万2,000円減額し、5,529万3,000円計上していますが、103ページ令和６年度10月から開始した帯状疱疹ワクチン接種委託料を200万円計上しています。３目．母子衛生費は201万4,000円増額し、3,264万3,000円計上しています。増額の要因としましては、104ページ12節．委託料、産婦健康診査が新たに公費負担となったこと、また出産応援給付金の支給情報の自治体間連携を行うためのシステム改修費を計上したことによります。

以上で、子ども・健康保険課所管の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

90ページをお願いいたします。長寿支援課所管分について説明いたします。３款，１項，２目．老人福祉費ですが、全体で1,120万5,000円増の３億1,729万3,000円を計上しております。

91ページをお願いいたします。増額となった主なものについては、18節．負担金、補助及び交付金について、東彼地区保健福祉組合負担金、老人ホーム施設費について684万2,000円増の1,076万円となっています。これは養護老人ホームひさご荘の入所者減及び人事院勧告に伴う給与費増の影響によるものとなっております。

また27節．介護保険事業特別会計繰出金について、888万1,000円増の１億9,915万9,000円計上しております。介護保険事業に係る事務費のほか、介護給付費や総合事業の実施において国が定める繰り出し基準に基づき繰り出すこととなっております。介護保険事業特別会計の２款，給付費、３款，地域支援事業費の増加が見込まれていることが挙げられます。

以上で長寿支援課所管の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

それでは次に、農林課農政班所管の主なものについて説明いたします。76ページをお願いします。２款，１項，13目．地域づくり事業費になりますが、12節に地域おこし協力隊の委託料として358万6,000円を計上しております。これにつきましては、令和６年度より有害鳥獣対策を担う目的で活動していただいている地域おこし隊の継続的な委託となります。

続きまして、113ページをお願いします。６款，１項，３目．農業振興費になりますが12節の委託料に有害鳥獣捕獲対策委託料としてイノシシ900頭、アナグマ・アライグマ100頭を捕獲頭数と見込み1,100万円を計上しております。

次に114ページをお願いします。18節．負担金、補助金及び交付金には説明の中段部分になりますが、長崎県山村構造改善加速化事業補助金として899万円を計上して、農事組合法人３団体にトラクターなどの農業機械を導入するように予定しております。１段下になりますが鳥獣被害対策補助金として449万円を計上し、有害鳥獣対策のワイヤーメッシュ柵4.5キロメートル分の購入費について補助を行います。

次に２段下になりますが、農業経営拡大支援事業補助金を300万円で、町単独費で計上しております。この分については新規事業になりまして幅広い耕作者を対象として、農業機械の導入、スマート農業の推進、資格導入などの支援を行うように考えております。

次に115ページをお願いします。４目．畜産業費、18節．負担金、補助及び交付金の説明の４段目になりますが、家畜診療所運営補助金として200万円。次の段の肉用牛肥育経営安定対策事業補助金については、１頭当たり4,000円の400頭で160万円を計上しております。

次に117ページをお願いします。６目．水田農業対策費になりますが、18節，負担金、補助及び交付金に、波佐見町農業再生協議会への事務費補助となる経営所得安定等推進事業費補助金138万円を。次に、減農薬等の環境に配慮した農業に取り組む集落法人などに支援する環境保全型農業直接支払い交付金235万円。そしてその下の段になりますが、新規就農者への支援として、農業次世代人材育成投資事業として120万円。また下段の経営開始資金として150万円を計上しております。

次に119ページをお願いします。９目．中山間地域直接支払い交付金事業、上段分になります

が、18節．負担金、補助及び交付金に中山間地域等直接支払い交付金として1,97万５万1,000円を計上し、この事業に取り組まれる13地区を支援いたします。

次は119ページをお願いします。11目．担い手対策費になりますが、18節．負担金、補助及び交付金に新規就農者支援事業補助金として、農業機械資材の導入等200万円を計上しております。

以上で、農林課農政班所管の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　太田農林課参。

**○農林課参事（太田克宏君）**

引き続き農林課、農地林務班関係の主なものについて御説明いたします。

ページが少し戻りまして、115ページをお願いします。６款，１項，５目．土地改良費、12節．委託料ですが、防災重点ため池の廃止工事に伴う測量設計業務費２地区分として計上しております。

次に116ページお願いします。14節．工事請負費ですが、こちらも防災重点ため池の廃止工事に伴う工事費を計上しております。下段の18節．負担金、補助及び交付金ですが。説明の２段目、防災重点農業ため池の整備事業費負担金につきましては、現在県営事業として５地区の調査設計が進められており、その事業の負担金となります。

下から６段目。維持管理適正化事業拠出金は、岳辺田地区の揚水機上ポンプ工事、鶴ノ川地区の可動堰等４地区の工事を行うために積み立てる費用を計上しております。

下から４段目、５段目は県営事業で整備された、駄野地区圃場整備事業に係るもので、農業経営高度化促進事業費補助金につきましては、地区内における農地の集積、集約に対する補助金となります。競争力強化農地整備事業費につきましては、暗渠排水管の洗浄機購入に係る補助を行うものです。下から２段目の小規模農林事業補助金につきましては、近年の申請実績により600万円を計上しております。

次に119ページをお願いします。10目．多面的機能支払い交付金事業になります。18節．負担金、補助及び交付金に多面的機能支払い交付金として、軽微な補修や草刈りなどを支援する農地維持共同活動費分として2,075万8,000円、農業用施設の改修などを支援する資源向上長寿命化分として1,874万2,000円を計上し、この事業に取り組む14地区を支援してまいります。

次に120ページをお願いします。６款，２項，１目．林業振興費12節．委託料につきましては、森林環境譲与税を活用した事業で、保育間伐に係る森林所有者意向調査業務委託料と、令和７年度に保育間伐を予定している永尾郷の間伐作業事務委託料を計上しております。

下段の18節．負担金、補助及び交付金ですが。下から３段目の高性能林業機械導入事業補助金200万円につきましては、森林組合において、新たに購入を予定されているもので、現在の作業機械が耐用年数を大きく経過しており、作業効率の向上と作業員の安全性の確保を図るため、補助金を計上しているものです。

ページが飛びまして184ページをお願いします。11款，１項，農林業施設災害復旧事業費は、当年発生災害における平時の顔出し予算として計上を行っております。なお１目．農地農業用施設災害復旧事業費14節．工事請負費につきましては、令和３年発生の災害の事業残に対応するた

め、現年災とあわせて計上しているものです。

以上で、農林課関係の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**

会議の途中ですが、しばらく休憩します。14時10分から、再開します。

**午後１時59分　休憩**

**午後２時10分　再開**

**○議長（尾上和孝君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。

太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

それでは、商工観光課所管分の主なものについて御説明いたします。

71ページを御覧ください。２款，１項，８目．諸費でございます。12節．委託料。総額4,600万円を計上しております。町営バス運行業務委託料は４月１日から運行を開始する「かわたな・はさみタウンバス」の運行業務を委託するものです。

地域公共交通利便増進実施計画策定支援業務委託料は、今年度作成いたしております波佐見町地域公共交通計画に基づき、バス路線である佐世保嬉野線の再編や、予約制乗り合い交通の利便性の向上を図るための取組について国の支援を受けるために必要な計画の策定を予定しており、その策定業務の支援を委託するものです。

18節，負担金、補助及び交付金でございます。バス路線維持費補助金でございます。３月末をもって廃止される川棚内海線の最終的な国県の補助金を含め、路線運行経費の精算が来年１月頃に確定することに伴い、西肥自動車への欠損額に対する補助金として869万4,000円を計上しております。

次に旅客運送運転主確保対策事業費補助金（二種・大型運転免許取得）と、その下の旅客運送運転手確保対策事業費補助金（住宅補助）でございます。本町の地域公共交通を維持していくために、交通事業者の運転主確保が課題となっていることから、事業者に所属している、または採用される運転手の免許取得及び住宅費の補助について、支援をするために免許取得費を150万円。住宅費補助を240万円の予算を計上しております。

76ページをお開きください。２款，１項，13目．地域づくり事業費でございます。18節．負担金、補助及び交付金として2,466万6,000円を計上しております。これは令和６年度において採用した観光協会所属の３名の協力隊に合わせ、令和７年度に新たに工業組合において、焼き物のかんな職人の後継者確保のために、１名の採用を目指すこととされております。協力隊の管理に関する経費について観光協会及び工業組合に補助するものです。

大きく飛びまして124ページをお開きください。７款，１項，２目．商工費でございます。18節．負担金、補助及び交付金下から８段目。がんばる中小企業応援補助金として、600万円を計上しております。この事業は町内の中小企業を対象としまして、業務改善やデジタル化、ＳＤＧｓ、そしてオープンファクトリーなどの取組に対して支援をするものです。30万円を上限としま

して、20社分を予算計上としております。

次に、生地生産環境改善対策事業費補助金として、300万円を計上しております。この事業は生地組合に対し組合員の事務所において、ＬＥＤ電球への取り替えやパワースーツの導入調査研究費などの費用について支援をすることとし予算を計上しております。

続いて下から４段目。陶磁器工業協同組合デジタル化推進事業費補助金として400万円を計上しております。この補助事業は工業組合が実施している共同販売事業について、デジタル化するために必要なソフトウェアやハード機器の導入に対して支援を行うものです。

126ページをお開きください。７款，１項，３目．観光費でございます。12節．委託料、漫画「青の花 器の森」を活用した周遊観光事業委託料について予算計上をしております。令和６年度から本町、中尾郷を舞台とした小玉ユキ先生の漫画を活用して周遊マップやスタンプラリーイベントの造成などを行っており、令和７年度も引き続き実施することとしております。また「青の花 器の森」だけではなく漫画を活用し、従来の焼き物ファン以外の新たな層のファン獲得を目指すために取組を実施いたします。

続いてインバウンド推進業務委託料を計上しております。本町の観光においてインバウンド需要を獲得するために、インバウンド受入れのためのコンテンツ開発及び環境整備やインバウンド向けの波佐見町のＰＲなどを行うこととしております。

14節．工事費でございます。鬼木古民家宿泊施設外構工事として、300万円を計上しております。これは地元自治会から公民館の外構の転落防止柵、そして街灯の設置について要望があったため今回予算を計上しております。

127ページをお開きください。18節．負担金、補助及び交付金でございます。観光ホームページ制作事業費補助金として、200万円を計上しております。

今回、観光協会のホームページをリニューアルすることに対しまして、予算を計上させていただいております。　以上で、商工観光課所管分についての説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　本山建設課長。

**○建設課長（本山征一郎君）**

それでは次に、建設課所管分の主なものについて御説明いたします。

133ページを御覧ください。８款，土木費２項，１目．道路橋梁総務費。測量機器の更新に係る費用について、13節及び17節に関連する費用を計上しております。また、道路台帳補正業務については、前年度の工事実績に基づき実施するため、前年度と比較して増加をしております。

次に、同じく133ページから134ページにかけてですが、２項，２目．道路橋梁維持費については、12節及び14節に橋梁の点検や工事に係る事業費を計上しておりまして、令和７年度においては点検箇所を20橋、補修工事に係る設計業務２橋、修繕工事を２橋を予定しております。なお、道路の維持補修に係る工事については５路線を予定しているところです。

次に、同じく134ページから135ページにかけまして、２項，３目．道路橋梁改良費については、まず12節，測量設計業務委託料に１路線を予定しております。

次に14節，町道改良及び舗装工事については、改良工事を12路線、舗装工事を７路線予定して

おります。

次に21節，補償補填及び賠償金は、これは全て支障電柱移設に伴う予算ということで計上させてもらっております。

次に136ページをお願いいたします。３項，１目，河川総務費14節．工事請負費については、緊急自然災害防止対策事業として改修工事を１河川、河川及び水路改修工事として浚渫工場を２河川予定しております。またハザードマップについて、令和８年度までに整備が義務づけられたため、その費用を今回計上しているところでございます。

次に137ページをお願いいたします。４項，１目．都市計画総務費は、国からの様々な支援措置を受けるに当たり必要な業務として、12節．委託料に立地適正化計画策定業務ほか１業務。そして18節．負担金、補助及び交付金の上から２番目のところに都市計画基礎調査事業負担金。これなどの関連経費を計上しているところでございます。また同じく18節にあります21世紀まちづくり支援事業補助金につきましては、要望があった２か所を予定しているところです。

次に138ページをお願いいたします。３目．土地区画整理事業費は、前年並みを確保し、事業の早期完了に向けた事業の見直しのほか、波佐見中央線に係る整備や、補償に係る予算の計上を行っております。

次に141ページをお願いいたします。５項，１目．住宅管理費については、例年とほぼ同様の予算計上になっております。次に142ページの２目．住宅建設については、折敷瀬団地の長寿命化計画に基づく、設備の改修工事及び監理業務費用を計上しているところでございます。

以上で、建設課関連の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　中村水道課長。

**○水道課長（中村和彦君）**

水道課所管分について説明いたします。

ページを戻っていただきまして、107ページをお願いします。４款，１項，５目．環境衛生費18節．負担金、補助及び交付金の下から３項目目の浄化槽設置整備事業費補助金になります。2,701万円を計上しております。前年度と同額になります。

次に110ページをお願いします。４款，３項，１目．上水道管理費は、前年度比で27万8,000円減の95万8,000円を計上しております。上水道事業会計への繰出基準自動手当負担金になります。

続きまして130ページをお願いします。７款，２項，１目．工業用水道費は前年度比で、169万1,000円減の1,280万9,000円を計上しています。工業用水道事業会計の補助金になりますが、工業用水道の供給は１社のみで料金収入も限られておりますので、事業運営の不足分を計上しています。

次に140ページをお願いします。８款，４項，４目．下水道費は、前年度比で2,055万3,000円増の２億4,828万円を計上しています。18節．負担金、補助及び交付金は、２億4,457万5,000円で1,689万9,000円の増額になります。下水道事業会計負担金は1,045万5,000円で雨水処理に係る負担金です。雨水処理関係は一般財源で負担すべきものであるため、下水道事業会計への負担金になります。

下水道事業会計補助金は２億3,412万円で、下水道事業の運営に要する補助金になります。

水道課所管の説明は以上になります。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

それでは教育委員会関係を御説明します。

ページは149ページをお願いします。10款，１項，２目．事務局費の中のですね12節．委託料の関係で、下から２つ目。学校施設等長寿命化計画改訂業務委託料でございます。こちらにつきましては、令和２年に長寿命化計画をいたしておりますが、中央小学校を除く学校施設がもう42年、45年、49年と建設からたっております。次に行いますそういった建て替え工事と、今後行います改修工事。そこらあたりの見極めを、もう一度この長寿命化計画を策定しながら行いたいということで来年度予算に計上いたしております。

続きまして、その下。社会科副読本策定業務委託料でございますが、こちらにつきましては小学校３年生以上に配布をしておりますが、５年に１度改定を行っております。来年度がですね５年、策定年度ということで計上させていただいております。

次ページ150ページをお願いいたします。10款，１項，２目．事務局費の17節，備品購入費でございます。情報端末購入費ということで計上いたしておりますが、こちらにつきましては１回目のタブレットがもう５年たちます。次のセカンドGIGAということで、タブレットの更新事業でございます。こちらにつきましては1,340台。長崎県の共同調達ということで予定をいたしております。

続きまして153ページをお願いします。10款，２項，１目．東小学校管理費の14節．工事関係でございますが、７年度は東小学校関係、音楽室の床カーペット工事、高架水槽改修工事、バリアフリートイレ、階段昇降機それとあと教室のＬＥＤ工事を予定いたしております。

続きまして156ページをお願いいたします。10款，２項，４目．中央小学校管理費の14節．でございます。こちら中央小学校の来年度工事につきましては、教室のＬＥＤ工事、階段昇降機、キュービクル関係のケーブルの更新事業を予定をいたしております。

続きまして159ページをお願いします。10款，２項，７目．南小学校管理費の14節でございます。南小学校関係はバリアフリートイレ、教室のＬＥＤ、音楽室床カーペット工事、それとあとパソコン教室のエアコンの入替えを予定いたしております。

続きまして163ページをお願いします。10款，３項，１目．中学校管理費でございます。14節でございます。中学校関係につきましては来年度、体育館の空調をですねまず中学校のほうから導入を計画をいたしております。それとバリアフリートイレ。それとあと多目的室のエアコン入替えを計画いたしております。

続きまして167ページをお願いします。10款，４項，１目．社会教育総務費の中の18節．負担金、補助金及び交付金のちょうど中段ほど。国民文化祭実行委員会補助金ということで699万7,000円を計上させていただいております。来年度は国民文化祭の年でございまして、この国民文化祭実行委員会というのを立ち上げましてそちらのほうにですね、補助金を交付いたします。

そちらの実行委員会に県からも直接、振り込みがありますので、その実行委員会のほうで４事業を執行していくという段取りになっております。

続きまして171ページをお願いします。10款，４項，３目．国指定史跡管理費でございます。12節でございます。測量設計業務委託料。こちらにつきましては、中尾上登窯のですね進入路の工事を予定いたしておりまして、進入路の設計業務を予定をいたしております。その下の14節．工事請負費でございますが、畑ノ原窯跡のトイレ関係の工事を予定をいたしております。

続きまして174ページをお願いします。10款，４項，４目．14節．総合文化会館費、総合文化会館関係でございますが、屋外機械置場鉄骨架台改修工事ということで途中計画をいたしております。こちらにつきましては大ホール裏手にあります空調機械、電気等のキュービクルを載せている架台がございますが、そちらがかなり鉄骨がさびております。そのさびのほうの改修工事を行いまして、予定をいたしております。

続きまして176ページをお願いいたします。10款，４項，６目．講堂管理費の14節．工事請負費でございますが、講堂関係のですね工事を行いたいと思っております。こちらにつきましては国民文化祭に向けてですね、周辺の駐車場等の工事を予定いたしたいと思っております。

続きまして178ページをお願いいたします。10款，５項，２目．保健体育施設費でございます。14節．工事請負費でございますが、こちらにつきましては鴻ノ巣公園のキュービクルの更新工事を計画いたしております。

続きまして179ページをお願いいたします。10款，５項，３目．体育センター管理費でございます。工事請負費14節でございます。こちらにつきましては、体育センターの外壁の改修工事の予定をいたしております。

続きましてその下、10款，５項，４目．保健体育振興費でございますがこちらにつきましては来年度、町民運動会を予定しておりますので、４目を新たに設けさせていただいております。

続きまして183ページをお願いいたします。10款，６項，１目．給食センターの管理費でございます。14節．工事請負費でございますが、長寿命化計画と調理室の照明ＬＥＤ工事の予定をいたしております。長寿命化計画につきましては、屋根の防水と外壁の塗装工事を行いたいというふうに計画をいたしております。それと18節．負担金、補助金交付金でございます。学校給食支援事業費補助金でございます。6,280万円。昨年度より280万円増額して計上いたしております。こちらにつきまして食材の高騰等がございますので増額して予算要求をさせていただいております。

以上で、議案第14号　令和７年度波佐見町一般会計予算の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

議案第15号　令和７年度波佐見町国民健康保険事業特別会計当初予算について概要を説明いたします。歳入歳出の予算の総額を16億6,200万円。一時借入金の最高額を5,000万円と定めるものです。

２ページをお願いします。歳入は１款，１項，国民健康保険料は前年度比6,670万円減の２億7,820万円を計上しています。３款，１項，国庫補助金は777万8,000円を計上していますが、令和８年度の制度改正に対応するため、令和７年度中に電算システムを改修する必要があることから、歳出の総務費に計上した改修費について国の補助を受けるものです。４款，１項，県負担金は、前年度比1,787万1,000円増の12億4,313万3,000円を計上しています。６款，２項，他会計繰入金は、前年度比448万5,000円増の9,706万円を計上しています。７款，１項，繰越金は、令和６年度繰越額の見込みにより前年度比1,349万1,000円増の3,383万円を計上しています。

次に、歳出について説明いたします。３ページをお願いします。１款，総務費は国保事業に係る事務費経費や、賦課徴収費、医療費適正化特別対策事業費など、前年度比827万8,000円増の2,335万1,000円を計上しています。２款，保険給付費の合計は、前年度比1,299万8,000円増額し、12億397万8,000円計上しています。３款，国民健康保険事業費納付金は、前年度比1,068万6,000円増額し、３億8,559万7,000円計上しています。納付金については医療費実績が、県平均を上回ることとなったため、県で算定された額が昨年よりも増えています。４款，保健事業費は、短期総合健診助成金や特定健診事業費などで、125万1,000円増の4,266万4,000円を計上しています。５款，基金積立金は、基金の運用方法を見直した結果、生じる利子を再度基金に積み立てるものです。８款，予備費は、歳入歳出の予算の調整として前年度比123万2,000円を増額し、353万6,000円計上しています。

国民健康保険事業に関しましては、特徴としまして２つございます。

１つ目としましては、団塊の世代が後期高齢者医療保険へ移行し、また社会保険適用の拡大から国民健康保険の被保険者数が減少しており、歳入の１款，国民健康保険料の減額に影響しています。２つ目としましては、被保険者数の減少はあるものの医療費は増えている。つまり１人当たりの医療費が増加していることが特徴として挙げられます。

歳入の４款，県負担金や、歳出の２款，保険給付費、３款，納付金の増額につながっています。

以上で令和７年度波佐見町国民健康保険事業特別会計当初予算の説明を終わります。

続いて、議案第16号　令和７年度波佐見町後期高齢者医療特別会計当初予算について概要を説明いたします。歳入歳出予算の総額を２億3,500万円と定めるものです。

２ページをお願いします。歳入の主なものとして、１款，１項，後期高齢者医療保険料１億4,728万円を計上しています。前年度比547万5,000円の増額です。３款，１項，国庫補助金330万円を計上しています。国保と同様に、システム改修にかかる費用について国の補助を受けるものです。４款，１項，一般会計繰入金は、事務費分と保険基盤安定運転安定分は7,417万7,000円で、前年度比292万9,000円の増額です。６款，諸収入は、健康健診委託に係る広域連合からの収入などで、919万2,000円計上しています。

続いて歳出です。３ページをお願いします。１款，総務費は事務費など1,305万3,000円計上しています。システム改修などが主な増額要因で、326万円の増額となっております。２款，後期高齢者医療広域連合納付金は、前年度比879万9,000円増の２億2,097万6,000円を計上しています。

後期高齢者医療保険制度につきましては、昨年度と大きな変更はありませんが、全世代型の社

会保障制度の構築により令和８年度から子ども子育て支援金を拠出することが決定されており、今後、保険料の引上げが予定されております。

国の動きを注視しながら、関連する制度改正など住民の皆様への周知を進めてまいりたいと思っております。

以上で、令和７年度波佐見町後期高齢者医療特別会計当初予算の概要の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

議案第17号　令和７年度波佐見町介護保険事業特別会計予算について説明します。歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ14億7,000万円とします。債務負担行為については、第２表　債務負担行為によります。一時借入金は最高額を2,000万円として定めます。

５ページをお願いいたします。歳入について御説明いたします。１款，保険料第１号被保険者保険料は、前年度ほぼ同額の２億9,278万6,000円を計上しています。４款，国庫支出金については2,909万円増の３億6,589万2,000円、５款，支払い基金交付金については2,123万8,000円増の３億6,646万円、６款，県支出金については1,348万円2,000円増の１億9,988万6,000円、８款，繰入金については3,488万円増の２億3,404万円を計上しております。前年度実績を見込み、介護給付費や地域支援事業の実績見込みの増額に合わせ、それぞれ定められた負担割合に応じて計上しております。

６ページをお願いします。歳出について御説明いたします。１款，総務費として、介護保険の事務に係る経費を前年度比322万6,000円増の1,444万9,000円を計上しております。増額の理由といたしましては、主に要介護認定申請者の増に伴い、訪問調査を指定受託法人へ委託することとしており、190万円を増額しております。

２款，保険給付費は前年度実績をもとに計上しており、前年度比7,700万円増の13億円を計上しております。主な増額の理由といたしましては、高齢化の進行による要介護者の認定増に伴い、居宅介護サービス給付費や居宅介護サービス計画給付費の増加を見込んでおります。

３款，地域支援事業は、前年度比3,479万円増の１億5,120万円を計上しております。増額の理由といたしましては、主に介護予防ケアマネジメントについて、ＩＣＴの導入及び伴走支援に係る費用、指定介護予防事業費における公用車購入費を計上しております。

以上で、令和７年度波佐見町介護保険事業特別会計予算の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　中村水道課長。

**○水道課長（中村和彦君）**

それでは議案第18号　令和７年度波佐見町上水道事業会計予算について説明します。業務の予定量は給水件数を6,043件、年間給水量を128万3,000立方メートル。１日平均給水量を3,515立方メートルとしています。主要な事業は浄水施設整備事業2,100万円。排水施設整備事業7,900万円を予定します。

２ページをお願いします。第３条収益的収入及び支出の予定額になります。収入は水道事業収益を３億253万円とします。前年度比で702万8,000円の増になります。

支出は水道事業費用を２億8,573万2,000円とします。前年度比で1,137万9,000円の増になります。

次に、資本的収入及び支出の予定額になります。収入は資本的収入を5,300万円としています。前年度と同額になります。支出は資本的支出を１億7,663万4,000円としています。前年度比で、429万3,000円の減になります。資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額１億2,363万4,000円は過年度分損益勘定留保資金で補填するものとしています。

３ページをお願いします。企業債については、配水施設整備事業を目的として限度額を5,000万円とし、起債の方法、利率、償還の方法については、一般会計と同様としております。

次に、予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合を営業費用と営業外費用としています。次に、議会の議決を得なければ流用することができない経費は、職員給与費4,495万7,000円としています。次に、児童手当に要する経費のため、一般会計から補助を受ける金額は95万8,000円としています。前年度比で27万8,000円の減になります。

４ページをお願いします。棚卸資産の購入限度額は500万円としています。予算の主な内容について予算説明資料で説明いたします。25ページをお願いします。収益的収入及び支出になりますが、まず収入ですが１款，１項，１目．給水収益は予定額を２億8,776万円としています。前年度比で726万円の増になります。

26ページをお願いします。２項，２目，他会計補助金は予定額を95万8,000円としています。27ページをお願いします。支出になりますが、１款，１項，１目．原水及び浄水費の予定額を5,923万5,000円としています。前年度比で206万6,000円の増になります。

28ページをお願いします。28ページの動力費を2,479万2,000円とし、前年度比で427万2,000円の増としています。電気料金の高騰によるものです。２目．配水及び給水の予定額は1,687万6,000円としています。前年度比で74万3,000円の増になります。

30ページをお願いします。４目．総がかり費は、予定額を8,114万9,000円としています。前年度比で2,418万9,000円の増になります。人件費に係るもので、463万8,000円の増と31ページになりますが、委託費を2,012万円増の2,645万1,000円としています。

新たにマッピングシステム給水装置登録、水道設備台帳システム構築、及び水道事業経営戦略と策定の業務を行うためでございます。

32ページをお願いします。５目．減価償却費は予定額を１億363万5,000円としています。前年度比で1,279万4,000円の減になります。６目．資産減耗費は予定額を前年度と同額の405万円としています。

33ページをお願いします。２項，１目．支払利息及び企業債取扱い諸費は予定額を1,216万7,000円としております。企業債利息になりますが、前年度比で110万3,000円の減になります。２目．消費税は予定額を755万9,000円としています。前年度比で171万2,000円の減としています。

34ページをお願いします。資本的収入及び支出になります。収入は１款，１項，１目．企業債の予定額を5,000万円としています。前年度と同額になります。建設改良費等の財源に充てる上水道事業企業債になります。２項，１目．工事負担金は予定額を300万円としています。前年度

と同額になります。消火栓等の設置工事負担金になります。

35ページをお願いします。次に支出になります。１款，１項，１目．固定資産購入費は予定額を900万円としています。前年度比で100万円の増になります。２目．建設改良費は予定額を１億円としています。前年度と同額になります。老朽管布設替え７件、機械電気設備１件のほか、町道改修工事に伴う配水管の布設工事及び、水道施設関係を予定しております。２項，１目．企業債償還金は予定額を6,763万4,000円としています。前年度比で529万3,000円の減になります。

以上で議案第18号　令和７年度波佐見町上水道事業会計予算について説明を終わります。

引き続きまして、議案第19号　令和７年度波佐見町下水道事業会計予算について説明いたします。業務の予定量は接続件数を2,620件、年間総配水量を59万立方メートル、１日平均配水量を1,616立方メートルとしています。主要事業は、管渠建設工事4,436万5,000円、処理場建設工事2,624万8,000円を予定しております。

２ページをお願いします。収益的収入及び支出の予定額になります。収入は下水道事業収益を３億2,264万5,000円としています。前年度比で5,015万6,000円の減になります。支出は下水道事業費用を３億2,114万5,000円としています。前年度比で5,009万円の減になります。

次に、資本的収入及び支出の予定額になります。収入は資本的収入を１億5,978万3,000円としています。前年度比で2,855万8,000円の増になります。支出は資本的支出を２億2,671万8,000円としています。前年度比で743万1,000円の増になります。資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額6,693万5,000円は、当年度分損益勘定留保資金で補填するものとしています。

３ページをお願いします。企業債については下水道事業の目的として、限度額を2,290万円とし、起債の方法、利率、償還の方法については一般会計と同様としております。　次に一時借入金の限度額は4,000万円としています。次に予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合を、営業費用と営業外費用としております。次に、議会の議決を得なければ流用することができない経費は、職員給与費3,369万3,000円としております。

４ページをお願いします。下水道事業に助成するため一般会計から補助を受ける金額は、２億3,412万円としております。予算の主な内容について予算説明資料で説明いたします。

大きく飛びまして、25ページをお願いします。収益的収入及び支出になります。

まず収入ですが、１款，１項，１目．下水道使用料は予定額を9,570万2,000円としております。前年度比で130万2,000円の増になります。２目．負担金は予定額を604万2,000円としています。前年度比で17万1,000円の減になります。雨水処理に係る負担金で、雨水処理関係は一般財源で負担すべきものであるため、負担金として繰り入れるものです。

26ページをお願いします。２項，１目．他会計補助金は予定額を１億2,740万7,000円としております。前年度比で2,768万円の減になります。

上水道事業会計補助金、補助金360万7,000円は、水道課長の人件費負担分で一般会計補助金１億2,380万円は下水道事業の運営に対する補助金であります。２目．長期前受金流入は、予定額を9,017万4,000円としています。前年度比で2,384万7,000円の減になります。３目．雑収益は予定額を300万円としています。前年度比で20万円の増になります。これは公営企業適用債になりま

す。

続きまして27ページをお願いします。支出になりますが１款，１項，１目．管渠費の予定額を1,689万7,000円としています。前年度比で355万9,000円の増になります。増加の要因は委託料で、419万7,000円の増になります。委託料は機器の長寿命化のため、定期的なオーバーホールのための整備に係るものでございます。

28ページをお願いします。２目．処理場費の予定額は7,474万9,000円としています。前年度比で1,155万円の減になります。主なものは光熱水費が1,388万5,000円で、248万9,000円の増になりますが、委託料が5,931万4,000円で1,413万4,000円の減によるものでございます。委託料は浄化センターの機械及び電気設備の機器の長寿命化のため、定期的なオーバーホールのための整備に係るものでございます。

29ページをお願いします。３目．総がかり費は予定額を3,673万8,000円としています。前年度比で、428万9,000円の増になります。増加の要因は、31ページをお願いします。委託料で1,074万4,000円としております。470万8,000円の増になります。

令和７年度に終期を迎える経営戦略の改訂業務のため、新たに下水道事業経営戦略策定業務を行うためでございます。

32ページをお願いします。４目．減価償却費は予定額を１億5,460万2,000円としています。前年度比で4,748万円の減になります。汚水処理関係分、雨水処理関係分の固定資産減価償却費になります。

２項，１目．支払い利息及び企業債取扱い諸費は予定額を3,099万2,000円としています。企業債利息になりますが、前年度比で、207万4,000円の減になります。２目．消費税は、予定額を466万円としています。前年度比で66万円の増になります。

33ページをお願いします。資本的収入及び支出になります。収入は１款，１項，１目．企業債は予定額を1,990万円としています。前年度比で1,340万円の減になります。建設改良費等の財源に充てる下水道事業企業債になります。２項，１目．他会計補助金は予定額を１億1,473万3,000円としています。前年度比で4,330万8,000円の増になります。一般会計補助金１億1,032万円と雨水処理負担441万3,000円になります。３項，１目．国庫補助金は予定額を2,500万円としています。前年度と同額でございます。

34ページをお願いします。４項，１目．受益者負担金は予定額を15万円としています。前年度比で135万円の減になります。

35ページをお願いします。次に支出になります。１款，１項，１目．管渠建設改良費は予定額を4,436万5,000円としています。2,257万6,000円の減になります。工事請負費は3,330万9,000円減の2,466万9,000円とし、井石地区の汚水管渠布設工事を予定しております。２目．処理場建設費は2,624万8,000円とします。処理場改修業務の委託料を計上しております。

36ページをお願いします。２項，企業債償還金は予定額を１億5,610万5,000円としています。375万9,000円の増になります。

以上で、議案第19号　令和７年度波佐見町下水道事業会計予算について説明を終わります。

続きまして議案第20号　令和７年度波佐見町工業用水道事業会計予算について説明いたします。業務の予定量は、給水事業所数を１社とし、年間給水量を14万6,000立方メートル、１日平均給水量は400立方メートルとしています。

次に収益的収入及び支出の予定額になります。収入は、工業用水道事業収益を1,246万7,000円とします。59万円の減になります。支出は工業用水道事業費用を1,230万6,000円とします。70万8,000円の減になります。

２ページをお願いします。資本的収入及び支出の予定額になります。収入は資本的収入を949万9,000円としています。110万1,000円の減になります。支出は資本的支出を949万9,000円としています。前年度と比べ、103万3,000円の減になります。減額の要因は、前年度に計上した固定資産購入費117万4,000円の減によるものです。次に他会計からの補助金は、事業運営のため一般会計からこの会計へ繰り入れるもので1,280万9,000円としています。

予算の主な内容について予算説明資料で説明いたします。

13ページをお願いします。収益的収入及び支出になります。まず収入ですが１款，１項，１目．給水収益の予定額を915万4,000円としています。前年と同額でございます。２項，１目．他会計補助金は予定額を331万円としています。59万円の減になります。

14ページをお願いします。支出になりますが、１款，１項，１目．原水及び浄水費の予定額を219万9,000円としています。11万9,000円の増になります。

15ページをお願いします。５目．減価償却費は予定額を625万8,000円としています。68万6,000円の減になります。

16ページをお願いします。２項，１目．支払利息及び企業債取扱い諸費は予定額を290万6,000円としています。企業債利息になりますが、14万1,000円の減になります。２目．消費税は予定額を27万5,000円としています。

17ページをお願いします。資本的収入及び支出になります。収入は１款，１項，１目．負担区分に基づかない出資金は予定額を949万9,000円としています。110万1,000円の減になります。主に企業債の元金償還金に充てるものです。

次に支出になります。１款，１項，１目．建設改良費は現在予定する工事はありませんが、30万円を計上しています。１款，２項，１目．企業債償還金は予定額を919万9,000円としています。14万1,000円の増になります。

以上で、議案第20号　令和７年度波佐見町工業用水道事業会計予算について説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**

説明漏れなどはございませんか。

お諮りします。ただいま議題となっています日程第11．議案第14号　令和７年度波佐見町一般会計予算から日程第17．議案第20号　令和７年度波佐見町工業用水道事業会計予算までの７件については、議長を除く11名の委員で構成する予算特別委員会を設置し、これに付託し、審議したいと思います。御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

異議なしと認めます。したがって議案第14号から議案第20号までの７件につきましては、11名の委員で構成する予算特別委員会を設置し、これに付託することに決定しました。

お諮りします。ただいま設置されました予算特別委員会の委員の選任については、委員会条例第７条第４項の規定により、お手元に配付しました名簿のとおり指名したいと思います。御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

異議なしと認めます。

したがって、予算特別委員会の委員はお手元に配付しました名簿のとおり選任することに決定しました。

しばらく休憩します。ただいま設置しました予算特別委員会を15時20分から委員会室で開催します。委員の皆さんはお集まりください。

本会議の再開時刻は、追ってお知らせいたします。

**午後３時10分　休憩**

**午後４時25分　再開**

**○議長（尾上和孝君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。

お知らせします。予算特別委員会の委員長に北村清美委員が、副委員長に福田勝也委員が決定した旨通知を受けましたので、お知らせします。

また分科会を設置し、第一分科会の委員長に福田勝也委員が、副委員長に横山聖代委員。第二分科会の委員長に城後光委員が、副委員長に岡村達馬委員が決定した旨、通知を受けましたので、併せてお知らせします。

以上で、本日の日程は全部終了しました。本日はこれで散会します。御起立ください。お疲れさまでした。

**午後４時 27 分　散会**

# 第４日目（３月３日）（月曜日）

## 議事日程

日程第１．町政に対する一般質問

**岡村 達馬 議員**

１．本町における農業施策と対応について
２．波佐見町キャンプ場に設置された2つの施設について

**前田 博司 議員**

１．地域公共交通について
２．文化・スポーツ振興について

**田添 有喜 議員**

１．安全・安心な環境づくりについて
２．部活動の地域移行について
３．波佐見町体育センターの管理と運営について

**横山 聖代 議員**

図書館の展望について

**福田 勝也 議員**

１．子育て支援について
２．学校教育について

**城後　光 議員**

１．町職員の就業環境改善について
２．波佐見焼産業の振興について

# 第４日目（３月３日）（月曜日）

１．出席議員

| | | | |
|---|---|---|---|
| １番 | 前田　博司 | ２番 | 脇坂　正孝 |
| ３番 | 澤田　昭則 | ４番 | 横山　聖代 |
| ５番 | 岡村　真由美 | ６番 | 岡村　達馬 |
| ７番 | 三石　孝 | ８番 | 城後　光 |
| ９番 | 福田　勝也 | 10番 | 田添　有喜 |
| 11番 | 北村　清美 | 12番 | 尾上　和孝 |

２．欠席議員

なし

３．議会事務局職員出席者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 議会事務局長 | 林田　孝行 | 書記 | 一瀬　若菜 |

４．説明のために出席した者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 町長 | 前川　芳徳 | 副町長 | 村山　弘司 |
| 総務課長 | 福田　博治 | 企画情報課長 | 澤田　健一 |
| 商工観光課長 | 太田　誠也 | 庁舎建設推進室長 | 大橋　秀一 |
| 税務財政課長 | 古賀　真悟 | 住民福祉課長 | 井関　昌男 |
| 農林課長兼農業委員会事務局長 | 伊藤　幸治 | 農林課長参事 | 太田　克宏 |
| 建設課長 | 本山　征一郎 | 水道課長 | 中村　和彦 |
| 長寿支援課長 | 松添　博 | 子ども・健康保険課長 | 石橋　万里子 |
| 会計管理者兼会計課長 | 串島　佳織 | 教育長 | 森田　法幸 |
| 教育次長兼給食センター所長 | 朝長　哲也 | 総務課課長補佐 | 坂本　昌俊 |

午前９時　開議

**○議長（尾上和孝君）**

皆さん御起立ください。おはようございます。

ただいまから令和７年第１回波佐見町議会定例会第４日の会議を開きます。本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付のとおりです。

日程第１　町政に対する一般質問

**○議長（尾上和孝君）**

日程第１．町政に対する一般質問を行います。順次発言を許します。

６番　岡村達馬議員。

**○６番（岡村達馬君）**

おはようございます。それでは通告書に従い質問を行います。

１．本町における農業施策等対応について。

施政方針や町総合計画に問題と課題、主な取組等が記されておりますが、農業者の高齢化と後継者不足への対策は喫緊の課題として取り組む必要がある。

また、ここ一、二年を見ても資材や燃料などの高騰により農家は苦境に立たされている。

そこで、次のことを問う。

（１）高齢者、後継者不足の問題は、施策や計画などにも影響いたします。支援体制の強化や推進はどうしていくのか。

（２）米、麦や野菜などの収量・品質低下につながる異常気象などに対する栽培管理体制の確立への具体的な対応とはどのようなものなのか。

（３）低農薬など環境に配慮した作付けが必要とされているが、本町がこれまでに実施した指導や施策はどのようなものがあるのか。

（４）資材や燃料などの高騰に対する営農者への支援や支給は考えているのか。

２．波佐見町キャンプ場に設置された２つの施設について。

町民や観光客が自然に親しみながら野外化活動などを通じて、健康等の増進を図ることを目的にキャンプ場が設置され、宿泊施設のドムアップテントとツリーフロアーテントは目玉になっています。

そこで、次のことを問います。

（１）モニターなどを通じて活用状況を把握されたと思うが、使い勝手や利用料金などへの評価はどうだったのか。

（２）モニターなどの期間が短期間となったが、運用開始後の申込みなどの状況はどうなっているのか。

詳細につきましては発言席より行いたいと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

皆さんおはようございます。それでは、６番　岡村達馬議員の御質問についてお答えをいたします。

１．本町における農業施策と対応についてということで、（１）の高齢化、後継者不足の問題は施策や計画などにも影響する。その支援体制の強化や推進はとの御質問ですが、町としての支援体制の強化については、高齢化や後継者不足を念頭に、省力化による持続可能な営農を目指し、国庫補助事業や町単独事業により、維持管理の軽減、向上を目指しております。

具体的には多面的機能支払交付金事業や中山間地域直接支払交付金を活用し、維持管理に係る多様な担い手の拡充や、小規模農林事業により労力の軽減のため、畦畔コンクリートやセンチピードグラス工法の補助など、農地や施設の改修や更新に係る支援を行い、農業経営に係る負担減に努め、継続的に農業が行える環境を整えています。

新規就農者についても県やＪＡをはじめ、関係機関と連携し、支援制度の拡充を行いながら、新規就農者の育成や獲得に向け取り組んでおり、成功事例を発信することで、次の新規就農者の獲得につなげていきたいと考えております。

（２）の米、麦や野菜などの収量・品質低下につながる異常気象などに対する栽培管理体制の確立への具体的な対応はどのようなものか、とのお尋ねですが。営農指導については、県の普及員やＪＡの営農指導員が中心に行っており、米については、高温耐性品種である「にこまる」「なつほのか」などへの転換、麦についても排水対策、カビの防除、刈取り時期などの指導がなされております。野菜についても、栽培管理や病害虫対策等の農薬や防除の指導が行われています。

また地区懇談会、講習会、各部会の場でも、実情に合わせての営農指導が行われており、気象状況や病害虫の発生状況に応じての指導もなされています。

町としては直接営農指導をすることはありませんが、月１回の農業振興会の場で、県、ＪＡ、農業共済を含めた関係者と農作業の現状や栽培管理について協議を行っており、農作物の生育状況や気象病害虫に対する情報について共有するなど、実情に合わせて講習会等で重点的に説明しております。

実際の営農については、圃場や耕作条件等にも違いがあることから、営農指導や講習会を参考に、農家のこれまでの経験、知見を生かしながら、品質や収量の向上を目指し取り組まれているものと考えております。

（３）低農薬など環境に配慮した作付けが必要とされているが、町がこれまで実施した指導や施策はどのようなものがあるのか、とのお尋ねですが。町内では、国の環境保全型農業直接支払交付金を活用することにより、環境に配慮した農業に取り組まれている事例があり、内容についてはフェロモントラップによる虫のフェロモン成分を利用して、大衆害虫を減らす方法で、農薬軽減につながっているほか、鶏糞を利用され完全有機農業に取り組まれているところもございます。

また耕作者と畜産農家の連携による、いわゆる構築連携として耕作者が稲、わら等を家畜等の飼料として提供し、畜産農家からは堆肥を提供してもらい、肥料として活用することにより、環境負荷軽減を図っています。

さらに緑肥として蓮華やクローバーを栽培し、耕作時に漉き込むことで、作土に多くの有機物を供給し、肥料を軽減する方法やマルチ栽培として土壌をビニール被覆でことで、除草作業軽減、除草剤、農薬の散布回数の削減等の省力化が図られ、町内においても一部取り組まれております。このような取組を通して、環境に配慮した環境保全型農業を推進しているところです。

（４）資材の不足や燃料などの高騰に対する営農者への支援や支給は考えているのか、との御質問ですが。世界情勢の変化等により燃料、資材、飼料等の高騰が続いており、これまで国、県と連携し、肥料、燃料、飼料について補助を行ってまいりました。肥料については、価格上昇分の70％を国負担、15％を県負担、15％を町負担として令和４年から５年度まで支援を行いました。

燃料については、重油について、リットル当たり10円の補助を町の単独事業で行っています。

飼料についてはこれまで国県とともにトン当たり200円の、計トン当たり600円の補助を行っており、令和６年度分については国の支援が終了しますが、県・町は同様にトン当たり200円の、計トン当たり400円の支援を行うこととしています。

そのほか県の燃油肥料価格高騰対策事業を活用し、燃油や肥料の軽減に係る燃費効率のよい機械の導入のほか、堆肥の活用や効率的な施肥が行われる機会についても補助事業を活用し導入を支援しています。

また令和５年度においては、町独自の事業として国の交付金を活用し、農業者物価高騰対策支援金や農業用水利動力費高騰対策支援金事業費補助金など、大規模な支援を実施したところです。

今後の支援についても、物価等の動向に注視するとし注視するとともに、国、県の施策状況や近隣町と連携を図りながら協議してまいりたいと考えております。

２．波佐見町キャンプ場に設置された二つの施設についてということで、（１）モニター等を通じて活用状況等を把握されたと思うが、その使い勝手や利用料金などへの評価はどうだったのか、との御質問ですが。鴻ノ巣キャンプ場のキャンピングフォレスト波佐見は令和６年10月にオープンし、ドムアップテントやツリーフロアーテントなど他のキャンプ場にない特徴ある施設を有し、森林における非日常を体験できる施設となっています。

料金はドームアップが定員４名の１棟貸しで、料金は日曜日～木曜日が１万9,000円。金曜土曜祝日前が２万8,000円となっています。

ツリーフロアーテントは定員２名の１棟貸しで、料金は日曜日から木曜日が8,000円。金曜、土曜、祝日前が１万2,000円となっています。

料金には波佐見温泉の入浴券がついており、宿泊前にはバーベキューコンロやテーブル、椅子、タープなどのキャンプ用品の設置などスタッフが行うため、食材や着替えなどを持ち込んで頂くだけで気軽にキャンプを楽しみ頂けるようになっています。

オープンに先立ちまして、モニター宿泊と併せてモニターアンケートも行いました。モニター総数は22組で、うちアンケート回答者が10組となっています。

キャンプ場の満足度については、５点満点中4.8点と評価が高く、料金についてはドムアップテントがおおむね適切という評価、ツリーフロアーは安いという評価でありました。

（２）モニターの期間が短期間となったが、運用開始後の申込みなどの状況はどうか、とのお

尋ねですが。

オープン後から現在までの宿泊状況ですが、ドームアップが６組21名、ツリーフロアーが１組２名で、合計７組23名の利用となっています。

以上で壇上からの答弁を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

新年度の予算審議に入るにあたり、波佐見町の２大産業とされております農業についてまず質問をし、農業政策についての協議を深めていきたいというふうに思います。

昨年９月議会の決算に関わる主な施策の成果の説明書に、農業機構集積支援事業をはじめ各事業及び農業振興費など、その執行率は90％から100％に至り、各農業事業施策、支援等は際立って高いところがあります。

今本当に農業者の高齢は著しく、御存じのように全国的な問題でもあります。特に一次産業に従事する人たちは昭和30年以降、高度成長期からですね、その労働力を都市部あるいは商工業やコンビナート地帯に奪われ衰退の一途をたどってきました。

現在の農業者の平均年齢は、ほぼもう70歳――68.7歳。この中には恐らく80歳を超えている方も、たくさん就労されていると思います。また現在でも、学歴の高度化により、農業を生涯の職業に選択する人は稀と言っていいほど少なくなりました。

農業者の人口はこの23年間で124万人減っております。この数は長崎県全体の赤ちゃんから高齢者までの人口が現在127万人ですので、ほぼ長崎県の人口に匹敵する農業労働者が減ったということになります。

町の第６次総合計画によると、その取組として町内外からの新規農業者の確保や関係機関との情報共有を諮りながらとされておりますが、やはりそれぞれの自治体も同じような状況にあって、極めて特別な対応でなければ人材の確保が難しいと思われます。その今後の人材確保について、どのような対応対策を今までも、またこれからも実施されていくのかをお聞きしたいと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

それでは質問のほうにお答えいたします。農業人材の確保については、現在は県の新規就農センター、農協の担い手推進対策課の研修制度は、町に直接、農林課のほうに尋ねてこられる方がおられます。

近年ではイチゴ農家２件、アスパラ農家が県の新規就農者として活躍されております。県内の事例を見ますと、琴海町でイチゴ農家が飛躍的に伸びており、新規就農者がＳＮＳ等の発信を通じて新たな新規就農者を呼び込んでる状況でございます。

波佐見町においても現在、新規就農者の成功事例をつくり、新たな新規就農者の確保に努めていきたいと考えております。また町外のみの新規就農者にこだわらず、町内からの人材確保を推進できればと考えております。

いわゆるですね農地をお持ちの非農家の方、いわゆる土地持ち非農家についてもですね、いろ

いろな理由で農業ができなくなったとは思いますが、後継者がいない、会社積勤めで農業ができない、波佐見に住んでいない、機械を買ってまで農業ができないなど、いろいろあると思いますが、全部が全部農業はできないではないのかと考えております。

町内の事例になりますが、土地持ちの非農家の方でも農事組合等に加入されてですね、事務的な部分の手伝いや収穫時の作業をされたりもしております。イメージ的にはですね、農事組合法人が農業者や土地持ち非農家等を含んでですね、協力し合う自治会的な組織になればとは思っております。

そのほかにも最近はなかなかこう、耕作をできない方が増えていて、その分を補う形で現在耕作されてる方の１人当たりの耕作面積が増えていってる状況でございますが、草刈りだけは自分でするから、お米をつくってくれとかですね、そういう話も聞いております。

あとはですね会社の定年後に農業規模の拡大や、本格的に農業をされる方もおられます。波佐見町には多くの農事組合法人があり、郷単位での組織が多く、基本でありますが大型の機械等を所有されて組織的な農業が行われており、地域の担い手としての役割を果たされている状況です。

法人のほうも高齢化、人材不足、大型機械のオペレーター育成などが問題となっており、先ほど言いましたように農業のできる環境の方を取り込んで組織的な農業が行えるように行っていきたいと思っております。

町としましては機械等の補助や、免許資格取得に対しても支援を行うようにしており、人材不足については簡単な問題ではないと思っておりますが、確保については町内、町外を問わず、幅広い年代層での確保を考えていますので、町のみでは人材確保は厳しく、家族間や一番理解されている地元の方からの勧誘等も効果があるものと考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

これは現在令和４年度の農水省が発表している数字ですが、いわゆる農業者の平均の農業所得はですね、約103万円、100万円前後なんですね。特に、いわゆる諸作物の稲作については31万円の赤字と。いわゆる１反当たり31万円の赤字が出されております。

さらに見ていただきたいのは、時給として右端の赤文字で示されておりますが、現在時給1,000円という数字が出されておりますが、時給としてほぼ五、六百円という数字が出ております。

さらに新規参入者についてはですね、こうした水稲、麦、施設野菜、果樹作を含めて全体をつくっているんですね。全体的な収入は約226万円です。今どきの農業にしては大変低い労働対価だというように思っております。

波佐見町の指導するいわゆる農業者の平均所得というものが把握されておれば、教えていただきたいと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

以前の定例会の際にも、農業者の平均所得についてはちょっと細かいところまではちょっと分からないというのが状況でございます。ただですね兼業農家が比較的多いところからですね、給

与収入や年金収入等が主体で農業等の経費の減価償却等を考えれば、もうマイナスになる部分が多いかとは考えております。

行政としては機械購入の補助や支援で、その辺を補っていきたいと考えているとこでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

先ほどの表も見ていただきましたが、現在の状況が続けば農業は近い時期に――私今回の調査をするにあたって見てみたのですが、将来のどうかすると破綻するような状況を感じてきました。

以前は父ちゃん母ちゃんじいちゃんの三ちゃん農業と言っておりましたが、現在のいろんな数値を見てみると、ほとんど70歳以上の夫婦２人で農業をやっている方がほとんどです。

この件につきましては今回の恐らく２月の農業センサスあたりの調査で出てくるんだろうかというふうに思いますが、現在のこうした波佐見町の高齢者の農業についてどのようにお考えをお持ちでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

先ほどの答弁と重複する部分もありますが、新規就農者の確保や農業に参画できる人のですね、法人等への取組ですね。また幅広い世代での農業者の確保が必要と考えております。

行政でできる部分、地元でできる部分があると考えております。あとは農業を始めるために当たっての支援ですね。省力化にも力を入れて高齢者でも継続できるような農業とまた、人材確保を並行して進めていく必要があると考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

ぜひ省力化。これはちょっと後で述べますが、そういった問題については積極的に取り組んでいただきたいというふうに思います。

これは昨年10月18日の県内の大方の地点で、30度越えの新聞記事です。以前はこうしたことは、異常気象なり異常気候というふうに呼ばれておりますが、ここ10年近くがいわゆる四季が曖昧になって、いわゆる日本全体が温帯地域から熱帯気候に変わっているような状況を見せております。

特に農業等はいまだに旧暦で予定を立てることも多くありまして、それは冬にはしっかり寒く、夏には高温とともに特有の湿気も必要としますが、こうした気候の変動についての農林課の現在対策なりをお持ちであれば、質問したいと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

先ほど町長のほうでも答弁でお答えしておりますが、農林課が直接営農の指導はちょっと行っておりません。ただ先ほど言ったように米とかの対応――品種への転換等ですね、指導を行っております。

農業を行っている中で様々な病害虫等の問題が発生してきますので、先ほど言ったような月１

回行っている農業振興会の会議で、県、ＪＡ、農業共済を含めた中で作付け状況等も確認をしており、その状況に応じた講習会や活性化大会等でですね。あとほかにも地区の懇談会とか、そういう場でもそういう話を行いますし、あとはいろいろ法人の総会等とか呼ばれたりもするんですが、そういうことでところで農業の問題、今困ってることについては対応しているところでございます。

直近では活性化大会ということで先般開催したのですが、ジャンボタニシや病害虫の問題等の講演を行っております。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

営農指導は直接してないということですが、やはりここまで来るとある程度の営農指導なり、そういった営農状況の把握は行政としても、必要だというふうに思います。

特に先ほど言いましたように、波佐見が陶農として２大産業に、農業を挙げているのであれば、これ自体は今後ある程度方向転換をしてでも、農業のほうに力を入れていただきたいというふうに思っております。

例えばですが、こうした状況を受けて麦とか米などの栽培管理等にどのような変化のある指導が必要なのか。また近年の状況を受けてですね、こういうふうに方向転換したいというようなお考えをお持ちであれば、お答えをいただきたいというふうに思います。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

先ほど議員がおっしゃったように、最近気象条件等がなかなかつかみにくい形での農業が行われております。特に温暖化の問題は深刻で、本当に米が何かうまく育たないという状況が続いております。

昨年についても高温耐性品種のほうがやはり収穫がよかったという実績も出ておりますので、私たちはその都度ですね出てきた問題、病害虫が発生したらそれに対してどういう薬が効くとか、その部分を農家の方々に提供していく。

全く農業見ていないわけじゃないんですが、いろいろ事業の中で農地の見回りをするなど、そういう部分でも作付け状況、生育状況等の把握はできておりますので。おっしゃられたように、私たちがもう少し知識を深めて指導できる分野が増えていければと思いますが、なかなか簡単に急には変わらないと思いますが、その辺は対応できる範囲でやっていきたいと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

さらに、いわゆる安心安全の農作物を消費者に提供するために、本来ですと低農薬、低化学肥料のほうに移行していきたいというふうなお考えを基本計画書では示されておりますが。いわゆる兼業農家が多い町内ではですね、こうしたいわゆる低農薬、低化学肥料を使った農業経営は非常に難しいと思っておりますが、今までの取組の中で実はこういう事例があるんですというところがあれば、教えてほしいと思いますがいかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

先ほどですね、取組については町長の答弁の中で２つほど御紹介をさせていただきますが。近年では物価の高騰により肥料等が高騰しており、町が主体で物価高騰対策として肥料を減らす目的で側条施肥田植機ですね。苗の根本に直接肥料を注入することで、肥料に軽減なる機械なんですが、またマニアスプレッダーという堆肥を散布する機械ですね。そういう部分を補助事業と取り入れてですね、化学肥料を減らすことはできてるのかなって思います。

あとは行政的になかなか農薬の低減とかそういう環境についてはなかなかできない部分があってですね。最終的には農家の方が自分の耕作しやすい環境の中でやられるもんで、その辺はうちでなかなか強制的にこうしなさいということはできないので、こういう制度がありますよということで御紹介したりとかして、その中で農家が判断して取り組まれているというのが現状でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

先般これは愛野展望台からですね、宇城のほうに向かって車を走らせていたところの写真ですが。すばらしい農業の農地の管理がなされておりました。ちょうど左側のブロッコリーの栽培が終わって右側についてはジャガイモの作付をされている、今後生育準備をされているところでした。

いわゆるこの赤土自体は、もともとはここの愛野地区にあったものではなくて、愛野地区の耕地がひどく痩せていたということで、この小長井のほうから、もうそれこそ30年、40年もしくは50年にわたって公的な事業もしくは私的な事業で土を運んできたというふうなお話をいただきました。これは現在の雲仙市に合併した以降も一部でまだ続けられております。

この地区は愛津原地区として、農業競争力基盤整備事業として、農地整備が土地改良区として行われております。雲仙市はもともとジャガイモの生産に積極的で年間およそ７万3,000トン――いわゆる北海道、鹿児島に次いで３番目の出荷量になっております。

県内のジャガイモの生産量の70％がこの雲仙市で生産されておりまして、現在は２期策で栽培が行われております。品質の改良にも積極的で現在、デジマ、アイユタカ、アイマサリは長崎県のジャガイモの銘柄として代表をするものだというふうにお伺いをいたしました。

ちょうど写真を撮っていたときに、ジャガイモの植付けを行われておりましたので、ちょっと時間をいただきましてお話をさせていただきました。いわゆる「もうかる農業になっておりますか」というふうにお聞きしたんですが、やはり大きな耕地を持っているが、いわゆる第１次産業ですので、「自然が相手で地道に毎日一歩ずつ、一つずつ毎年同じことを繰り返しやっております」というふうに言われました。

この耕土についてもどのようにして整備されましたかというふうにお伺いしたのですが、やはり公的にも個人的にも、その耕土については誠心誠意やってきたとこういうように言われました。

行政とやはり農業者が一体になってやらないやらなければ、こういう基盤整備もしくは土壌整

備はできないと。行政は管理後、いわゆる農業者だけに任せるのではなくて、行政でできることは行政でしっかりやる。個人でできることは個人でしっかりやるということが大切だというように言われますが、今後こうした波佐見町において、そうした状況をつくるためにどのような施策が必要だというふうに思われるでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

最近の基盤整備の直近の事例としましては駄野地区ですね。田ノ頭、川内郷にまたがる基盤整備を行っております。その中の取組でブロッコリー、キャベツ、ジャガイモ等が作付けをされております。ブロッコリーとかキャベツとかは機械化されていない部分が多くて収穫等には苦労されているのが実情でございます。そこの先ほど写真を提供頂いたところですね。私の実家の近くなんで昔からよく知っているところなんですが、ちょっと言えば昔土の砂漠というぐらいきれいに草１本もないような形ですね昔からしていたところでございます。

もともとは高台の部分で、なんだか橘湾と諫早に両方面して温暖な地域で、もともとちょっと土壌の形態が違って火山灰を多く含む土質だったと思っております。ちょっと私も調べたのですが、バレイショ自体ですね1600年代にやはり長崎の出島から入ってきたもので、長崎県が多分普及のもとになってると思います。参考にイチゴもたしか長崎のほうに入ってきている状況でございました。

愛野町については、県のバレイショの試験場があります。そこで昔から土質等の試験が行われとって、そういう流れで小長井からの赤土を入れた形でのブランド化とかが今行われている状況でございます。

波佐見町の土壌についてはですね、逆に地形的に山からですね堆積土というので構成されとってですね、江戸時代から大村藩の米蔵って言われるように、歴史的にも米が盛んな地域でございます。

やはりそういう部分をなかなかこう、一気に、畑地に変えるというのは本当に難しいもので、駄野等も試験栽培を含めて実証まで行っているんですが、なかなか土を作るのは時間がかかる。あとはどうしても周りが水田ということでジャガイモ等ですとか湿気を嫌う――麦大豆も一緒ですが。そういう性質を持ってるんでですね。

その中でも暗渠排水とかを入れて、両方できるような形では対応しているんですが、実証を重ねながら今後、県ですね。農協指導をあげながらですね、土壌を含め耕作条件が上向くようにはしていきたいとは考えております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

先ほどの農家と農家等の方としばらく話したときに、いわゆるもうかる農業というふうなことで少し話が弾んだのですが、やはりそれはですね農家にまずやる気の出る基盤をつくっていただくと。そうすると、自分のことに重ねてお話をされましたが「現在はこうした整地がきちんとされておるので、今の農業で非常に充実した人生が送れております」と。またいわゆる農業の省

力化については「すればするほど農業費用がかかる」と。さらに「省力化で懸念しているのはやはり、農業経営者とすれば現地に、いわゆる畑田んぼに足を突っ込んで手で触ってみないと、自然相手なので状況がつかめない」ということでした。省力化に向けては私の取り方が悪かったのかもしれませんが、やはり手間暇かけてという言葉があるということで、今後もやっていきたいというふうに言われましたけど。

いわゆる波佐見町において、もうかる農業の位置づけというものはどのようにお考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

ちょっと難しいお答えになるんですが。具体的な位置づけはないのですが、波佐見はやはり兼業農家が全体的な割合が多いということで。もうかる農業の位置づけについてはですね、施設園芸高収益作物の転換もありますが、現実的に言葉で言えば、もう安定して継続できる農業ではないかと思います。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

先ほどのお話の中で、今困っているのはどういうことがありますかというふうにお尋ねをしました。やはり今、安定しない世界情勢の中で農業資材不足やいわゆる価格の高騰、科学燃料を中心とした異常な値上がりに非常に困惑してるというふうに言われましたが、波佐見町においてこうした問題が恐らく町内でも同じように似通った状況にあると思いますが、今後の支援資金についてはどのようにお考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

今後の支援についてですが、先ほど答弁しましたように肥料燃油飼料等については支援をしてきております。あと肥料や燃料の軽減にかかる農業機械の支援も、まだ継続して今年度、次年度まで含めて行うように予定しております。

あと昨年は大規模に農業物価高騰対策事業等で、町の単独で国の交付金を行いながらやっておりますが、なかなか毎年できる事業でもありませんので、今後の支援については全体的な町の全体的なバランスを図りながら、今後の情勢等を見ながら行っていく等考えておりますので、今のところは具体的な部分というのはちょっとないというのが現実でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

先ほども申しましたが基盤整備は行政でやる、いわゆるその管理は個人でやってほしいというような話でしたが。やはり高齢化が進むといわゆるこれは、補助整備を進んだところのいわゆる耕作放棄地です。やはりこういったところについても行政もある程度状況を把握していただきたいというように思っております。

続きまして、鴻ノ巣公園のキャンプ場についてお尋ねをいたします。いわゆるモニターの結果

については先ほど町長からの答弁でいただきました。開業後、少し不安に感じましたのでこの１か月間ぐらい鴻ノ巣のキャンプ場を見てまいりました。それで、波佐見町のほうの鴻ノ巣公園のいわゆるドムアップテント、ツリーフロアーテント等々同額程度の施設を見てきました。

いわゆる糸島市にある、地球ＭＩＲＡＩ[注]。それから雲仙小浜町にあるＣＯＣＯＨＡＲＥをお尋ねし、それぞれの支配人からお話を聞いてみました。

まず原則、地球ＭＩＲＡＩ（糸島市）、ＣＯＣＯＨＡＲＥ（小浜町）、２名からの宿泊になります。これからはいわゆる条例ではドムアップテント１泊５万円というふうになっておりますが、それを頭に入れて聞いていただければと思います。

これは糸島市の地球ＭＩＲＡＩのグランピングの施設です。2020年３月にオープン。４基のドーム型テントを有し、原則朝夕の食事込みで１人１泊１万3,000円。２年前にオープンしましたが、ネットでの予約では近頃は冬を楽しみたいというインバウンドのお客様からも好評だというふうにお話をされました。

施設内の快適さ、それからトイレなどの清潔は絶対に必要との御意見でした。内部は広々としたテントで二重式の厚めのカバーで防いでもエアコンがよく効き、お客様には好評だというふうに言われました。

翻って鴻ノ巣公園での利用者の客室のキャビンそれからトイレや、湯治楼温泉への誘導の評価評判はいかがだったでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

鴻ノ巣公園のキャンプ場につきまして、モニターで宿泊を行っていただいた結果につきましては、先ほど町長が答弁いたしましたとおり、おおむね好評であったというふうに思っております。トイレそれから湯治楼さんの利用とかそちらのほうについての評価はどうだったのかというふうな御質問ではございますが、トイレも今回開業に合わせまして、麓のトイレについて改装工事を行っております。このトイレに関しましての評価としましては、きれいで使いやすかったというふうな評価を得ております。

今回、お風呂とかシャワールーム等のそういった入浴施設のほうは完備しておりませんので、当然その利用料金の中に波佐見温泉の入浴券のほうを入れて販売するというふうなことになっておりますが、モニターの方にもですね、その旨で波佐見温泉のほうに入浴をしていただいておりますが、その評価につきましても特に距離的なものを感じずに非常によかったというふうな、そういった御意見を頂いているところです。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

先ほどの糸島市の地球ＭＩＲＡＩは、一応シャワーは完備してありますが、インバウンドのお客様がどうしても温泉に入りたいという要望が多かったということで、近場のきららの湯--これ

---

注　糸島ＳＤＧｓ　Ｖｉｌｌａｇｅ　地球ＭＩＲＡＩ

はもう１キロメートルなかったと思います。温泉施設があってですね。それから、もうちょっと足を延ばせば、まむしの湯温泉があるんですが、そういったところについても無料の温泉チケットを差し上げているということでした。

これは小浜町のＣＯＣＯＨＡＲＥという施設ですね。2023年３月にオープン。10基の大型テントを有し、１名食付き１万3,000円。ピーク時は１万6,000円に、連休とかは跳ね上がることもあるということですが最大６名まで。それから原則２人ですので、３名以上になると窮屈さを感じるだろうということで、１人から1,000円料金を差し引いているということでした。ここもやはり先ほどと一緒で、快適さや清潔、これはもう最優先であると言われました。

これが木陰のキャンピングですね、右側は食事をしたりするところです。特出することは各キャビンに小浜温泉が引かれて、いわゆる露天風呂があると。これは非常に好評だというように言われました。雲仙までの近距離にありまして、四季折々の景観が楽しめるということです。

さらに両施設とも、外灯とか施設内をなるべく暗くしないようにということですが、敷地外灯、室内照明を明るくしてお客様に不安を感じさせないという点に気を使っておりますが、こういった点はモニターでは何か出てきましたか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

議員おっしゃられますとおり、施設を選ぶ基準としましてはやはり施設の清潔さというところがやはり大前提になってくるのではないかなというふうなところがございますので、今スタッフもあわせて宿泊前にはしっかり清掃しているようなところでございます。

一方でモニターで宿泊をしていただきました際に、やはり炊事場そしてトイレまでの道がちょうど坂になっておりまして、夜間にそこを上り下りするときにやはりちょっと暗いというふうなそういったお声も頂いておりますので、現在間接照明等も設置をしながら、そこについての対応をしているというふうなところでございます。

ドムアップテントにつきましては、照明についてはですね特に利用者の方から要望等というのは特に上がっていないような状況でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

それから先ほどの２つの施設でもですね、糸島では午後９時まで、それから小浜では午後10時まで、担当者がやはりクロークほうに駐在していてですね、お金をもらいますので、どうしてもそこら辺は宿泊者の緊急事態に備えなければならないと意識を持っているということでしたけど、こういった点についてはどのようにお考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

現在スタッフが９時、10時まで常駐するというふうなことは行っておりません。現在ではまず夕方６時までおりまして、それ以降については電話対応するというふうなことで対応しております。

なかなか９時、10時まで常駐させるというふうなことでサービスの向上につながるところもあろうかと思いますが、やはり体制を整備するというふうなところはなかなか難しいところもございまして、今後その意見とか実際その利用者の方からの要望等も踏まえて、今後体制の整備について必要があれば、そういったところも検討していきたいというように考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

あと佐賀の三瀬高原にある「ザランタン三瀬高原」21年にオープンして、既にもう9,000人以上が宿泊しているといういわゆる人気のグランピングです。

昨年度はグッドデザイン賞もとっておりまして、尋ねてみたかったのですが、10月25日から２月いっぱい冬場は閉めておりますということで見ることができなかったのですが、いわゆる鴻ノ巣公園においても夏場は増えていくかと思いますが、冬場においてのいわゆる施設のクローズということも一考に値するのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

いろんな施設によって運営のやり方についてはいろいろその施設ごとに特色を持たれて、運営されているかと思います。キャンプにつきましては夏需要も当然そうですが、冬場の需要というふうなことも一定数あるというふうに聞き及んでおります。ドムアップテントにつきましてはキャビン内に空調も入れておりますので、冬場の利用というようなことでもお楽しみ頂けるんではないかなというふうに思っております。

今後の利用状況を踏まえながら、利用実態に応じて柔軟に運営の在り方等も検討してまいりたいというふうには考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○６番（岡村達馬君）**

ぜひ安心安全な施設になって、皆さんに喜ばれる施設になってほしいと思います。一般質問を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**

以上で６番　岡村達馬議員の質問を終わります。しばらく休憩します。

10時10分より再開します。

**午前 10 時１分　休憩**

**午前 10 時 10 分　再開**

**○議長（尾上和孝君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は１番　前田博司議員。

**○１番（前田博司君）**

おはようございます。それでは通告に従い、質問を行います。

１．地域公共交通について。

川棚内海線の路線バス廃止の報道を受け、利用者のみならず多くの町民や川棚町の沿線住民も不安を抱いていたが、４月より自治体自家用有償バスとして運行を予定されている。この短期間で途切れることなく運行のめどが立ったことに安堵しております。

そこで、次のことを問います。

（１）自治体自家用有償バスと現在の路線バスの違いは何か。

（２）実際の運行については誰が行うのか。

（３）運行ダイヤの中で一部内海発とならない便があるのはなぜか。

（４）運賃の設定については、現行と同程度とした理由は何か。

（５）今後、長期的に路線維持をするために何が必要と考えるか。

２．文化スポーツ振興について。

（１）昨年12月議会で出された「総合運動公園の建設に係る研究及び総合文化会館の機能充実を求める意見書」についての受け止めはどうか。

（２）中学校部活動の地域移行については、どのような進捗状況か。

（３）劇団等を招いて観劇を実施しているが、プロスポーツ観戦についての補助をする考えはないか。

以上、壇上からの質問を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

１番　前田博司議員の御質問についてお答えをいたします。

まず１．地域公共交通についてということで、川棚内海線の路線バス廃止に伴い、４月より自治体自家用有償バスとして運行を予定されているということで、（１）自治体自家用有償バスと現在の路線バスの違いは何か、とのお尋ねですが。令和７年３月31日で廃止される西肥自動車の川棚内海線廃止代替交通の運行について、これまで検討を進めてまいりましたが、このたび川棚町をはじめ関係各所の御協力と御理解を賜り、４月１日から「かわたな・はさみタウンバス」として運行を開始いたしますことを改めて町民の皆様にお伝えを申し上げます。

運行方法は道路運送法に規定されている自家用有償旅客運送であり、川棚内海線の路線や運賃を引継ぎ定時、定路線で運行を行います。この路線を町民の皆様に末永く御利用頂けるよう、今後安定的な運行や利便性の向上に努めてまいりたいと考えています。

自治体自家用有償バスと現在の路線バスの違いについてのお尋ねですが、自家用有償バスとは、路線撤退などで町内に生じた公共交通のない地域である交通空白地を解消するために、道路運送法第78条第２号の規定に基づき、自治体やＮＰＯ法人等に限り運行が認められる制度です。

運行を行うためには、地域住民または観光旅客等の利便性を確保するために、住民や交通事業者の合意形成を図り、国に登録を行う必要があります。運行方法は、自治体やＮＰＯ等が所有する自家用バス等を用いて運賃を収受することとなります。

一方路線バスは道路運送法第４条において、交通事業者が国に認められた区域や路線で、定刻に運行される不特定多数の乗客を輸送するバスのことで、通勤通学などに使われるなど公共性が

高く、道路運送法の一般乗り合い旅客自動車運送事業に該当するものを言います。

（２）実際の運行については誰が行うのかとのお尋ねですが、４月１日から運行するかわたな・はさみタウンバスの運行については、株式会社新栄に運行を委託することとしています。

（３）運行ダイヤの中で、一部内海発とならない便があるのはなぜかとのお尋ねですが、かわたな・はさみタウンバスについては、１台の車両で川棚波佐見間を平日10往復する運行ダイヤとなっています。西肥自動車の川棚内海線と同様、利用者は学生が多く、朝夕の通学帰宅需要が多いことがこの路線の特徴です。

一部内海発とならない便があるのはなぜかとのお尋ねですが、今回この路線ルートを検討するにあたり、川棚町と佐世保市を結ぶ西肥バス路線である川棚佐世保線も川棚内海線と同様３月31日で廃止されることとなり、川棚町にある川棚特別支援学校へ通学する生徒の通学をどう確保するかという課題がございました。

この課題解決のため、今回運行するかわたな・はさみタウンバスにおいては、川棚特別支援学校まで既存の川棚内海線の路線を延長することといたしております。また運行についてはコスト削減及び運行の効率化のため川棚内海線がバス２台で運行していた路線を、バス１台による往復運行とすることとしています。

運行バスについては、近隣県立高校４校への調査ヒアリングを行った結果、内海を始発とすると、一部高校の始業時間までに到着できないことが判明しました。このことにより波佐見町役場を始発とする便を設ける必要があったということが、朝の一部の便で内海始発とできない理由でございます。

加えて、現行路線の乗降データから利用がない便については、波佐見町役場始発としています。

（４）運賃の設定については現行と同程度とした理由は何かとのお尋ねですが、自家用有償旅客運送での運行を決定する過程では、本町や川棚町で設置する地域公共交通会議などの法定協議会での合意形成が必要でありました。

この法定協議会は、西肥自動車を含めた地域の交通事業者をはじめ、自治会や老人会など各団体、国、警察などに御参画頂いておりますが、この協議会の中で運賃についても合意を図る必要があります。

今回の運賃の決定については、かわたな・はさみタウンバスの路線に西肥自動車が運行する佐世保嬉野線との並行区間があることや、路線が川棚町との２町にまたがること、収益性の確保の観点から川棚内海線の運賃と同様の距離制運賃が適当であるということで、協議会での合意をいただき決定したものであります。

（５）今後長期的に路線移譲するために何が必要と考えるのかとのお尋ねですが、本町は鉄道駅のない町であり、町外への移動を支える公共交通は、西肥自動車が運行する佐世保嬉野線と、４月から運行するかわたな・はさみタウンバスしかございません。このそれぞれの路線は、単に町民の移動を支えるだけでなく、観光客の誘客など本町の地域経済や町の魅力にも大きく影響を与える基幹路線であります。

長期に路線維持するために何が必要かとのお尋ねですが、今後安定した路線運行を維持するた

めにも、運航事業者をはじめ、国、県、近隣自治体との連携がより重要であると考えております。

また、今回の川棚内海線廃止については、バス運転士の不足が理由であることあると聞いておりますので、地域でバス運転士を確保、育成することもあわせて重要であると考えます。

一方で利用者の利便性の向上も必要であることから、かわたな・はさみタウンバスにおいては、４月から始まる実証運行により御意見をいただきながらより多くの皆様に御利用頂ける取組を行っていきたいと考えております。

なお２．文化スポーツ振興については教育委員会から答弁がございます。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

２．文化・スポーツ振興について。

（１）昨年12月議会で出された「総合運動公園の建設にかかる研究及び総合文化会館の機能充実を求める意見書」についての受け止めはどうかということですが、令和５年度には要望書そして昨年12月の定例議会では議決を経た意見書としていただきましたことを重く受け止めております。

我々教育委員会といたしましても、日頃からスポーツをされている方々にとって、このような施設が町内にあれば利用しやすく、活性化につながるものであろうと認識はしております。

ただ、これまでにも答弁しておりますように、その膨大な建設費とその後の維持管理費を考えますと、早急に整備建設できる施設ではないと判断をしております。なお、この案件につきましては町長以下、関係他課との合議の中で進められるものだと捉えております。

（２）中学校部活動の地域移行についてどのような進捗状況かとのお尋ねございますが、スポーツ庁や県教委体育保健課が示すガイドライン等を参考に、令和４年度に波佐見町地域部活動推進検討委員会を立ち上げ、趣旨や今後の動向について説明協議を行いました。

同様に中学校教職員、外部指導者、スポーツ協会やスポーツ少年団等の関係団体にも説明等を行い、９月からまずは休日の地域移行について試験的に行うよう進めておりました。ただ学校教職員や外部指導者等の不安も大きかったことや、新しく担当した職員の提案を受け、方向性や計画を大幅に見直しました。令和６年、７年度を説明、検討、準備期間と位置づけ、令和８年度から休日、平日ともに地域移行を行うようにしました。

昨年８月から保護者中学校教職員、外部指導者、スポーツ協会等の関係者に対し説明会、意見交換会を順次開催し、12月に新しく波佐見町中学生スポーツ文化育成協議会を立ち上げました。規約等を策定・検討する中で、骨格となるものが共有、共通化され、まずはサッカー部と柔道部が６年度内にクラブ化し、他の部も７年度末までに移行するようになっております。

今後も様々な課題等が起きることが予想されますが、その都度加除修正や創意工夫しながら対処し充実した活動になればと考えております。

（３）劇団等を招いての観劇を実施しているが、プロスポーツ観戦に対して補助する考えはないかとのお尋ねでございますが、昨年議員から同様の御提案をいただきましたので、先日３月１日に行われましたピーススタジアム体験ツアーに参加をしております。

県との共同事業として、波佐見中学校サッカー部員らがＪ２の試合観戦とスタジアム見学を行いました。目の前で繰り広げられたプロ同士のレベルの高い真剣勝負と、スタジアムの迫力等に圧倒され、大きな感動を覚えたようです。

今後につきましては令和８年度の町政施行70周年記念事業として取り組み、以降は時期を見て行いたいと考えております。

以上壇上からの答弁を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

１番目からそしたら再質問させていただきます。まずこのタウンバスなんですが、これはバスの事業主体としては波佐見町でよろしかったですかね。川棚町についてはどういう関わり方になっているのかお伺いします。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

バスの運行主体といたしましては、波佐見町川棚町の共同運行というふうなことでさせていただいております。川棚町につきましては――基本的な事務につきましては波佐見町のほうで行ってまいりますが、川棚町とも協議を図った上で、経費の負担でありましたりとか、それ以外の町民の対応でありましたりとか、そういったところについては協力体制を引きながら、実施をしていくというふうなことになります。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

それでは自治体自治体有償バスということで、協議会での協議を経てということがありましたが、これ内容等を変更する場合には、その都度協議会での協議が必要ということになるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

自家用有償旅客運送といいますのは、先ほど町長も答弁いたしましたとおり、国のほう――運輸局になりますが国のほうでこの路線の登録を受けて運行できるというようなことになっております。

その前提となりますのが法定協議会といいまして、本町であれば公共交通会議。川棚町であれば公共交通活性化協議会という２つの町の法定協議会に照らして、申請に基づいて合議を図った上で申請をするというふうな手続になります。

今後、例えば路線の変更等ございましたときには、その都度、両町で開催する法定協議会で合意形成を図って、なおかつ路線の変更手続を行うというような、そういった手続が出てくるかと思います。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

自家用というふうに付いてるので、これはいわゆる今の路線バスでいう、走っているナンバーが緑ではなくて、白のナンバーになるということでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

議員おっしゃるとおり、緑ナンバーから白ナンバーのほうになります。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

それでは運転士については、そもそも西肥バスの運転士不足ということが理由に挙げられてましたが。白ナンバーということであれば、これは中型バスだったので大型免許ですが、大型１種でも運転できるというふうに理解してますけど、いかがですか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

運転手の免許につきましては、制度上大型１種の免許でも運転できるというふうなことになります。今回運行いたします かわたな・はさみタウンバスにつきましては、路線バスの車両は中古車両を活用して運行するというふうなこと。それで料金徴収等も発生いたしますので、当然これまで路線バスを運転した経験のある方でないと、なかなか運行上の安全の確保が難しいのではないかというふうなことを考えております。

ですので、制度上一種の免許をお持ちの方でも運行できるというようにはなっておりますが、実際の運行にあたりましては２種の免許、それから路線バスの運行経験があられる方。こういった方の採用を考えているというふうなところでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

委託先も決まっているようですが、この運転士の確保については委託先でももうめどがついているということでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

現在４名の運転主の確保ができたというふうなことでの報告を受けております。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

（２）のほうですが実際の運行、委託先も決められたそうですが、委託先の決定の方法について教えてください。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

随意契約により決定をいたしております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

そうですね、町内の業者に該当する業者がいたのは大変よかったなと思っております。この委託内容ですが運行そのものは分かりますが、その他について、どこまでが委託内容になるのか教えてください。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

委託内容につきましてはバスの運行、それから車両の整備――点検整備ですね。あとは運転主の人件費、手配等運行管理、こういった業務について委託をすることといたしております。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

これの委託期間ですが、単年度なのか複数年度なのか、いかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

令和７年度につきましては今のところ単年度契約というように考えております。といいますのも、やはり初めて自治体で運行するというふうなことでございますので、まずはそこの中で、どのような事態が発生するか分かりませんが、実績等を踏まえてその実績をもとに令和８年度以降、どのような契約をしていくかというふうなところも検討をしていきたいというふうに考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

それでは（３）のほうですが。内海発のバスが朝のこれ通学時間帯なんですが、１便だけになっております。この説明を先ほど町長からされましたが、結構時間的に湯無田のほうで８時台なので、川棚高校でもこれで始業に間に合うという設定でよろしかったですかね。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

ダイヤの調整につきましては、事前に各両町にあります県立高校の校長先生とも協議を行いまして、このダイヤであれば何とか始業に間に合うというようなことでの御了承は頂いているところです。ただし実際運行してみて、どういう道路事情等いろんな要因について、ちょっと見直しが必要というふうなことであれば、また随時見直し等は今後進めていきたいというふうには考えておりますが、まずはこのダイヤで一度実証運行させていただいて、いろんな生徒の方からも意見、御要望等を受けていきたいなというふうには考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

ぜひともやってみないと分からないとこもあると思います。皆様から頂いた意見の中には、もう様々な利用の仕方があるので。１便ではちょっと心もとないという意見もありました。ですが最初に説明されたように、４月から運行を開始するに当たってはということで、急遽こういうふうに設定されたのものだと理解しておりますので、それとですね、学校には説明されたと、学校

側から保護者には説明していただくというふうな説明が前にもありましたが。数名しか聞いておりませんが、聞いた限りでは学校側からほとんど説明がなかったと。いきなり定期券購入の案内が来たと、いうような言われ方をしております。されたのを聞いてなかったのか、本当にしてなかったのかはよく分かりませんが。そういうところも今後も、きめ細かく説明が行き届くようなことをやっていただきたいと思います。

次に運賃の設定ですが、これも協議会等々、既存の路線バス等々もあります。それで今と同程度とするということですが、例えばこれを変更するに当たっては、これも協議会での協議が必要ということでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

料金の決定につきましては、これも国の登録の際にこちらの料金の決定も法定協議会での合意形成が必要というふうなことになりますので、当然、協議会において合意形成を図る必要があるというふうなことでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

皆さんから聞いた中では、これは今度のバスに限らずですが、西肥バスもそうですけど。実際にバス料金が高いと。高く感じていると。だから乗らないんだという方が結構いらっしゃいます。

せっかく確保したけど乗らないというのであれば、全然やりがいもなくなってきますし、存続も危ぶまれますので、どうにかして乗ることを考えていただかないといけないのですが。例えば料金設定の変更がなかなか難しいのであれば、別の事業で定期券の補助をするとか、そういったというのは――この機を境にしてバスじゃなくて、いやもう車で送ろうと考えているいらっしゃる方もいました。実際に検討してると。

そういうことがあるので、これを波佐見高校への助成もそうですが、そういったことからいうと定期券の補助とか、そういうことも考えられるのではないかなと思うのですがいかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

利用者の方の利便性向上という観点からですね、何らかの対応を検討していかないといけないというふうには考えております。定期券の補助を実際にやってる自治体も事例もございますので、利用者の安定的な利用を図っていくというふうな観点からも、今後いろんな御意見を聞きながら検討を進めていきたいというように考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

ぜひとも、そういうところは検討していただきたいと思います。これは、学生の定期券に限らず、例えば高齢者の通院に関するものであるとか、そういうのも検討に値するのかなと思いますので、そこ辺は考えていただきたいと思います。

それから最後ですけど。今後の維持に関してですが、その中で一つ新しく導入するバスについてはラッピングを施されるということでありましたが、これ車体とか車内とか、広告収入を得るという方法はできるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

いわゆるネーミングライツみたいな、そういった広告収入を事業所等の協力を得てそういったところをできるかというふうな話なんですが。実際今のところ、そういった検討はしておりませんが、ほかの自治体の運行時事例等そういったところも参考にさせていただいて、同様な事例がありましたら、できればそういったところを踏まえて検討を行っていきたいというふうに考えます。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

全体的なネーミングライツ等々もそうですが、いわゆる一般的なバス電車の中刷り広告といった、そういったことも検討されてはいかがかなと思うんですが、どうですか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

あわせてですねそういったラッピング、中刷り広告等ほかの自治体とか、そういったところの事例等もございましたらそういったところも参考にさせていただければと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

これ４月から始まる運行については、以前の説明で急遽でもあったこともありますが、実証実験なのだというようにも伺いましたけど。どの程度をめどにこの運行実証をやって、その結果で今後の課題を対策していくのかということで、どの程度の期間を考えていらっしゃいますか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

実証の期間につきましては、最長でやはり１年ぐらいは様子を見る必要があるかなというふうには考えております。あとは国への補助金の申請等も踏まえながら、その辺の実証の期間につきましては、ある程度想定をした上で行っていきたいというふうに考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

これ公共交通の空白地帯が最初の頭にあるわけですが、今までの西肥バス等の路線バス以外のところですね。これについて路線拡大の可能性はあるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

今この川棚内海線の廃止代替バスとして当然、かわたな・はさみタウンバスの運行区間につきましては、内海もしくは波佐見町役場から川棚特別支援学校までということで区間を設けている

わけではございますが。今後ですね、利便性の向上が図られるというふうなことであれば、このタウンバスにつきましては両町の法定協議会等いろんな関係者の皆様の合意を得た上で、路線の延長等そういったところも検討はできるんじゃないかなというふうには思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

今後はですね、せっかく導入したバスですが、例えばデマンド系の交通であるとか、そういう検討もしていかなければいけないと思っております。で、この地域交通ですね。町にとって、まちづくりの中にあっては、とても重要であると先ほど町長の答弁の中で申しておりました。

町長この地域交通に関して、これに特化した部署創設が必要ではないかと思っております。乗り合いタクシー等々も含めて、事業違いますが高齢者へのタクシー券助成であるとか、いろんな事業ありますが全部ひっくるめてまちづくりの中でとても重要であるというふうに私も思っておりますので、こういう専門的な部署が必要だと思いますがいかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

本当にこの公共交通機関問題については非常に重要な問題と思っております。別にですね、またほかの議員さんからも御質問があろうかと思いますが、確かにその重要性は認めますがそこに特化した課というのは、現在の人員体制が非常に厳しいものがあろうかというように思っております。

といいながらほかの業務を抱えながらやっている今の職員には非常にもう感謝しかないんですが、今ちょうど移行期間だと思うんですね。そういった時期に果たしてその専門性を持たせる――業務の必要性は認めますが。現在そこの特化した課を、担当部署を設けるという考えは今、私は考えてはおりません。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

これからものすごく重要なところになってくるとは認識はしていただいてると思います。で、これですね川棚内海線がこういうふうになりました。半年間でようやくここまでこぎ着けたというのは、ものすごい苦労があったと思います。

で、この間佐世保の公共交通の協議会等々のホームページに載っておりましたが、前回川棚内海線等々の廃止が上がってきたときに、その後また佐世保のほうの協議会では、さらなる廃止、路線変更が上がっておりました。また追加されて、それが上がっておりました。

こういうのを見ていると、いつ残りの路線もそういう対象になるのか、なってくるのか、ってのいうは非常に危惧するところがあると思います。

ですので、そういうのを考えると、私はこれに専門的というかそこに従事する職員がいるのが、いや、いなければならないのかなと思っております。

で、これまで、このタウンバス創設に向けて主に関わった職員は何人ぐらいで行われたんでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

９月の廃止の申入れを受けてからになりますが、おおむね商工観光課で３名が――私を含めて３名で対応しております。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

当然ですね、運行をやるとこれからの業務を想定としてなくなるわけではないので、これまでよりも業務が増えてくるというふうに考えられますので、ぜひとも先ほど言った部署については検討をお願いしたいと思います。

それでは続いて２番のほうですが。さきに出された意見書の中で、総合運動公園については、今は考えられないとおっしゃいましたが。では、総合文化会館の機能充実についてはどのようにお考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

総合文化会館の機能充実につきましては、図書館も含めてよりよいものになっていくように予算化をし、研究・検討を行っている段階です。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

総合文化会館も建設してから結構な年月がたっておりますね。その中で最近目立つのが、施設の維持管理の中で、当然年次的な維持費用は書かれているんですけど、それ以外にも施設設備の更新というので、結構な額がかかっていると思うのですが。ここ近年で――ものによって全然金額が変わってくるので、平均という言い方はちょっとおかしいかもしれませんが、ここ近年でどの程度費用を要しているでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

ここ近年でということでございます。昨年度がかなり金額をかけて屋上の防水工事とかを行って9,000万円ほど工事的にかかっております。ここ５年間、元年から５年までの合計が１億9,000万円ほどかけて工事を行っております。今後も――ある程度のところはできたのですが、来年度予算でまたちょっと高額な工事関係をですね、予定をいたしてるところでございます。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

それでは、この総合文化会館――図書館を除いてかな。大体利用率というのはどのぐらいあるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

利用率につきましては令和５年度の数字でございますが、大ホールにつきましては、これ１日１時間でも使った場合ということで集計をする数字ということでお聞き願えればと思いますが、大ホールについては53%。こちらにつきまして土日のイベント以外にも準備がかかってくるものがございますので、そこそちらも含めて53%。

小ホールについては80%。

研修室１から４までございますが大体70%前後の稼働率となっております。全体平均として70%という数字になっております。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

もっと低いかなと思ったのですけど、意外と使われてるなと思います。これやはりですね総合文化会。文化的な役割を大きく担っている場所であります。機能充実という点においては、少々費用がかさみますが、なくてはならない施設だと思っておりますので、より使いやすいものにしていただいて、もっともっと利用率上げるように。さらにはですね、この中には入ってませんけど、図書館という問題が同僚議員からも数多く出されておりますんで、ここら辺も含めて充実を図っていただきたいと思います。

それでは次に行きます。中学校の部活動の地域移行についてですが、先ほどの答弁の中で、サッカー部と柔道部はこれも地域移行したんだというふうに伺いました。私も関係者からそういうふうなことは聞いております。で、これ地域クラブ移行にする前と後では、教職員と外部の指導者の立ち位置は変わらないものでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

現段階ではサッカー部、柔道部移行しておりますけれど、顧問の教職員と担当外部指導者の方が協力をしながら行われておるところです。

ただこれからは外部指導者に、教職員も一本化されていきますので、そこあたりはそれぞれの部によって協議をなされるものだと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

地域クラブに移行したからといって、教職員が関わらないということではないというふうに理解しました。外部指導者もいればいいのですが、例えばサッカー部とか、もう現在伺っているのは１人だそうです。

本人からも聞きましたけど、「いやあ、とても仕事が忙しくてなかなか行けないんですよ」と。そういう状況でも地域クラブに移行したので、ぜひとも協力してくださいというような話はあったと聞いております。

外部指導者の確保についてはどのようにお考えなのでしょうか、なかなか難しいことだと思うのですが、確保するめどというか、あるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

部活動の地域移行につきましては、この指導者の確保というのは大変大きな問題であろうと思っております。そのために待遇面での処遇面での確保も必要でしょうし、本町でいくならばスポーツ協会、あるいはスポーツ少年団、団体等々のコーチの方々の御協力も仰がなくちゃいけないとだろうと思っております。それぞれの部において知人、友人等とも広めていきながら、その確保については頑張っていただきたいと思っております。

私たちとしても例えば町内にある企業等々にも御挨拶に行きながら、その中で御協力頂いた方いらっしゃらないかということのアクションは起こしております。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

この地域クラブですが、これは、学校単位ではもうなくなる。要は波佐見中学校以外の生徒でも参加できるというふうなことでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

将来的には学校単位ではなくて、地域単位ということのクラブ化になっていくんだろうと思っておりますので、本町以外の子供たちで波佐見にあるクラブに参加する子供がいたときには受入れていきたいと考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

ていうのは、郡内でも多くの競技がもう人員割れで大会に参加できない状況にあると聞いております。

サッカー部もそうですが、盛んに行われている野球についても、東彼杵町も川棚町も、もう人がいないんだと。合同チームで出ないといけないんだというような話も聞いております。

そうなってくると、もう３町それぞれが地域移行しても、将来的にはもうそこ一つなるよねって話にも、なってくるのではないかと思うんですけど、この地域クラブについて、そういう郡内での動きというか統一的な動きというのはあるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

波佐見中学校におきましては、現在のところそれぞれの部がそれなりの人数がおりまして活動ができておりますが、今議員お説のように、郡内でもかなり厳しい状況にある子供たちもたくさんいるようです。

私たちとすればその子たちも受入れながら、活動を保障していきたいと思っておりますので、今のところはそれぞれの３町の教育委員会の担当者同士の協議や、当然郡の中学校の先生方の組織の中での意見交換なども行いながら、それぞれの他の２町の状況と意向も含めまして協議を行っているところではあります。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

すいません、ちょっと聞き忘れたんですが。地域移行の中で先ほど言った波佐見中学校以外の生徒についてお伺いしましたが、現時点では波佐見町のサッカー・柔道に関して、他校から参加している生徒いらっしゃいますか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

現段階では他町からの入部については把握をしておりません。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

最後に３番目の質問ですが、これは先ほどの答弁の中にもありましたように、１年前に同様の質問をさせていただきました。この質問書を提出する段階では、一昨日のことについて伺っておりませんでしたので、１年たって何かやられているかなと思って再び質問させていただいたんですが。

その後に前々日の土曜日に実施されるということをお聞きしまして、私もそこには別のあれで行かせていただきましたけど。当日参加している中学生にも、ちょっとだけ話を聞いたりもしました。ものすごく喜んでました。目を輝かせて。

その競技を見るだけではなくて、いろんなフードコートとかあるところもですね。全てがキャッシュレスで、そういったところへの対応なども各生徒に任せてやっておりました。そういうのを見てね、こういうとこに来てよかったなと思っておりました。今後もでもこういうのを、続けていただきたいと思っております。

で町長にお伺いしますが、昨年までは、このサッカーについて言えば、サンクスマッチデーということで、波佐見町がＰＲする場を設けられておりました。こういう機を利用して、一昨日のような事業ですね。例えば町単独であっても実施してはいかがかと思うんですが、どうでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

先ほどの教育長の答弁ございましたように、非常に子供たちには刺激を与えて有効な事業であったというふうに捉えておりますので、実施するかどうか等は今後検討させていただきたいと思います。

それから立ったついでにですがちょっと一部発言の修正をお願いしたいと思っております。先ほど公共交通の問題について、専門部署を設置する考えはないかということで、私はもう現時点では考えないということを答弁いたしました。確かに現時点で専門部署の設置はちょっと厳しいかという、直ちに設置するということは考えておりませんが、いわゆる災害発生時には技術職を集めて臨時的な組織にするとか、そういった対応をしてまいりたいと思いますし、今後交通公共交通についても突然、突発的にいろんな変更が求められることもあろうかと思います。

そのときには臨時的な対応とか、柔軟な対応を図ってまいりたいというふうに思いますので、

付け加えてですが答弁の修正をお願いしたいというふうに思っております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　前田議員。

**○１番（前田博司君）**

それでは最後の質問のことに関しては、今答弁頂いたことをぜひとも今後検討していただきたいと思います。

さらには、ついでに今、町長からの答弁の修正がありましたが、そうであるならば、なおさらのこと今回のように何とか半年で間に合いましたけど、そういう事態にならないように日頃から研究も必要であるので、私は例えば専門の部署をつくるのではなくて、専門の人員を配置する。専門というのは、それを主に行う人を配置するのも一つの手だと思うのですがいかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

それも一つの考えだと思います。一つの課の中で、どういう職種を分担するかは課長の判断に委ねたいと思いますので、十分な取組ができるようにですね、対応してまいりたいというふうに思っております。

**○議長（尾上和孝君）**

しばらく休憩します。11時15分から再開します。

**午前 11 時６分　休憩**

**午前 11 時 15 分　再開**

**○議長（尾上和孝君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。教育長より答弁の修正がありましたので許可します。

森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

申し訳ありません。先ほど答弁の中で現在、他町から波佐見クラブに入っていないかという部分で。サッカー部に川棚町から１名クラブ入っているところです。申し訳ございませんでした。

**○議長（尾上和孝君）**

一般質問を続けます。

次は 10 番　田添有喜議員。

**○10番（田添有喜君）**

こんにちは。通告に従い一般質問を行います。

１．安全・安心な環境づくりについて。

全国的に少子高齢化がまちづくりの大きな課題となっており、本町でも例外ではありません。そこで、安全で安心できるまちづくりの推進は、本町の発展に大きく影響するものと考えています。中でも、高齢者の外出頻度を増やし、健康づくりに配慮したまちづくりが重要だと思います。

そこで次のことを問います。

（１）運転免許証を返納することにより、高齢者の行動範囲はかなり制限を受けることになります。外出頻度の向上や健康維持・増進を考えたとき、自らの力で行動できる環境づくりが必要

であると思います。高齢者が利用しやすい歩道の整備や植栽（河川敷道路・駐車場等）の維持管理について、今後どのような計画があるのかお尋ねをします。

（２）高齢者の外出支援として、「予約制乗合交通」以外にどのようなことをお考えなのかお尋ねをします。

（３）町内における高齢者の生活行動実態における危険箇所の把握はできているのでしょうか、お尋ねをします。

２．部活動の地域移行について。

学校における働き方改革等を踏まえて、部活動を学校単位から地域単位の取組にしていく方向性を2019年に国が示した。国からは2025年までには、地域の実情に応じて可能な限り早期実現を目指すというガイドラインが公表されました。

そこで、次のことを問います。

（１）昨年９月（二学期）より、土・日の部活動は地域で行うと町は公表いたしました。実施においての成果や課題は何だったでしょうか。

（２）指導者の処遇や保護者への支援について、町はどのように関わっていかれるのでしょうか。

（３）今後、行政と学校の役割をどのように考えておられるのでしょうか。

３．波佐見町体育センターの管理運営について。

体育センターは、町民の福祉の増進を図るとともに、体育及びレクリエーションの普及並びにその振興を図ることを目的として運営をされております。

そこで、次のことを問います。

（１）体育センターの利用状況と利用上の課題にどのようなものがあるのでしょうか。

（２）体育センターの備品等の管理や点検は、どのように行われているのでしょうか。

以上で、壇上からの質問を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

５番　田添有喜議員の御質問についてお答えをいたします。

１．安全・安心な環境づくりについてということで、（１）高齢者が利用しやすい歩道の整備や、植栽の維持管理について今後どのような計画があるのかとのお尋ねですが。高齢者の健康維持増進の取組について外出頻度を増やすことは有効な手段の一つであり、そのためには、自らの力で行動できる環境を整えることが不可欠です。

そこで歩道の整備についてですが、現状において具体的な整備計画はございませんが、整備を行う上で配慮すべきものとして高齢者に限らず、歩道の利用における支障の原因に段差が挙げられます。このことからその解消を努めるべきと考えており、現在道路改良工事において、あわせて整備する歩道においては、これらを配慮し段差がない歩道の設置を行っているところでございます。

これからも、段差が生じないバリアフリーに配慮した整備を実施してまいりたいと思います。

また植栽の維持管理については、これまでも様々な形で話題に上がっておりますが、利用者に支障がないよう足元への配慮を心がけるとともに、歩道の利用者のみならず、車両からの視界確保を図るための伐採を実施するなど、双方の視点に立ち、安全面も配慮した適切な維持管理に努めてまいります。これからも高齢者の外出支援につながるよう、安心安全な環境づくりに努めてまいります。

（２）高齢者の外出支援として「予約制乗合交通」以外にどのようなことを考えているのかとのお尋ねですが、高齢者の外出支援策については、地域社会における高齢者の生活の質を向上させるために非常に重要な取組です。

そのため、まずはいわゆる公共交通、予約制乗合交通を含めたバス、タクシーの３層による交通体系の確立が最重要と考えています。そのうち特にタクシーに関しては、予約制乗合交通にも使える助成券の発行を町として行い、外出が困難な高齢者の経済的負担の軽減を行っているところです。

また地域のボランティアによる送迎サービスについても、高齢者の孤立を防止し地域社会とのつながりを持つ目的からも重要と考えていますので、取組をされるボランティア団体があれば一緒になって取組を進め、地域全体の活性化につなげ、高齢者が安心して外出できる地域づくりに努めてまいります。

（３）町内における高齢者の生活行動実態における危険箇所の把握はできているのかとのお尋ねですが、高齢者の生活行動実態における危険箇所の調査特に行っておりませんが、一般的に高齢者は転倒、転落により骨折や頭部外傷等の大けがにつながりやすく、それが原因で介護が必要な状態になることもあります。たとえ骨折の状態が軽くても若いときに比べると回復に時間がかかります。

さらに転倒による不安や恐怖で何事にも意欲が湧かず、気力がなくなり活動性が低下し、そのことが転倒リスクの増加を招くという悪循環につながっていく場合もありますので、屋内、屋外にかかわらず、転倒、転落の可能性が高まる段差や滑りやすい箇所などが高齢者にとって危険箇所となります。

なお２．部活動の地域移行について、３．波佐見町体育センターの管理と運営については、教育委員会から答弁がございます。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

２．部活動の地域移行について。

（１）昨年９月（二学期）より土・日の部活動は地域で行うと町が公表した。実施においての成果と課題は何か、とのお尋ねございますが、前田議員の御質問にも答弁しましたように、部活動の地域移行につきましては、今年度大幅な変更をいたしております。したがいまして土日の地域移行を試験的に行うことについては実施をしておりません。

（２）指導者の処遇や保護者への支援について、町はどのように関わるのか、とのお尋ねでございますが。指導者の処遇やクラブの運営には予算の裏づけが重要です。立ち上げました波佐見

町中学生スポーツ文化育成協議会規約には、資金として１．国や県、町の交付金または補助金、２．クラブ負担金、３．その他としています。

保護者の負担につきましては、軽減に努めながらも、補助金や企業等からの協賛寄附金等を上手に生み出し、活用していきたいと考えております。

（３）今後、行政と学校の役割をどのように考えていくのか、とのお尋ねございますが、中学生の社会体育活動、社会文化活動が最終的な姿になればと考えております。とはいえそれまでの期間、さらにはそれ以降も教育委員会として必要な支援、関わりを持ち続ける必要があると考えております。

学校につきましては校長やＰＴＡ会長が協議会理事として参加頂いておりますし、子供の健全育成の観点から、必要適切な指導・連携は変わらず図っていく必要があると考えております。

３．波佐見町体育センターの管理と運営について。

（１）体育センターの利用状況と利用上の課題にどのようなものがあるか、とのお尋ねでございますが、体育センターの利用につきましては多くの町民の方に利用していただいております。これからもスポーツを通して健康づくり、仲間づくりに活用してもらいたいと考えております。利用状況につきましては、昼間は中学校の部活動としてバドミントン、バスケット、卓球の利用があっております。

休日、夜間についても様々な団体グループでの利用各種大会等での利用をしていただいております。昨年度の利用件数については、中学校の部活動を除いたところで1,098件、１万9,750人の利用があっております。

利用上の課題といたしましては、体育センターも建設から今年で41年目を迎えますので、外壁等に傷みが見られます。備品についても古い備品なども見受けられるようなので計画的に維持補修、更新を図っていかなければならないと考えております。

また来年度には空調も整備されますので、さらに町民の皆様に使いやすい施設として維持・管理を図ってまいりたいと考えております。

（２）体育センターの備品等の管理や点検はどのように行われているのかとのお尋ねございますが、通常の体育センターの備品の管理点検につきましては、管理を委託しておりますルピナス倶楽部様にお願いをしている状況です。備品については、もし不具合等があれば利用者からもその都度御意見、御要望がありますので、そういった情報が入れば現場で確認を行い、修理または新たに購入するなどの対応を行っております。

以上壇上からの答弁を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

町長は施政方針の高齢者福祉の中で、高齢者の活躍の場の創出を掲げておられます。現在多くの地区でサロンや100歳体操など多くの活動の場がありますが、高齢者の外出機会の支援を行い、高齢者が元気に活動できる環境を整備することが求められていると私は思い、これから質問をさせていただきます。

これは内閣府が調査をしたものです。60歳以上というようになっておりますが、調査項目自体は十分活用できるのかなということで、ちょっと資料を私なりに打ちなおして提示をさせていただいています。

先ほど町長からもお話がありましたが、道路の段差とかそういうものを外出時の障害として一番感じておられるようです。また公共機関、交通機関についても２番目に上がっておりますが、本町については一部ですね、廃止に伴って先ほど同僚議員の質問でも解決策が見いだされているのかなと思っています。

次に外出の手段です。60歳以上ですから免許持ちの方が当然多いので、自動車とかバイク、スクターそういうものでも外出をされているかと思うのですが。一番多いのは徒歩。これは都会もあるのかもしれませんが、免許を返納したというふうに考えると、この徒歩（杖）やシニアカー等で外出をする、と。ちょっと自分でできるところまでは自分で歩いていこうというような、そういうのが全国的にも見られるし、この本町の波佐見でも当てはまるのかなと思っています。

そこで、もう現在もういろんな町としての支援策を講じておられるのですが、私がちょっと御提案したいのは、他の市町ではシニアカーの購入補助を行っているところがあります。結構全国的にはたくさんこの補助制度を生かしておられるようです。

購入費の上下の金額等については各市町によって違うのかなと思いますが、やはり免許証を返納して。私も近くで感じるんですけど、全然外出をされなくなって、どんどん、どんどん人との会話もない。そういう姿を見ると、もっとこう今できるときから、そういう環境づくりをして。

衰えてからではですね、私も70歳になって２年後どうしてるんだろう、５年後どうしてるんだろうというのを考えるようになりましたので。やはり早め、早めにそういう健康づくり、健康維持増進に対する取組というのは必要なのかなと。

質問でも言いました、サロンとか100歳体操とか行ける人はいいのですけど、果たしてそれに参加してる人がどのくらい、割合的にどのくらいおられるのかですね。行かれてない方もかなりおられるのかなと。

そういうことを考えたときに、この電動椅子とかシニアカーの補助が本町ではできないのかなあというように考えたものですから町長に、限られた財源の中ですが、今後の対策として、このようなこともぜひ新しい事業として取り組まれてはどうかなと思いますが、町長いかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

昨年開催しました地区別の町政報告会の中におきましても、このシニアカーの補助あるいは、既に皆さんがお持ちのシニアカー――例えばもうお年を召されて亡くなられた後に、逆に不用物となって余って処分に困っていると。そういったものをどうにかうまく活用できないかというような御提言もいただきました。

そこで、まだまだ私の私案でございますが、一つのそういったシニアカーバンクといいますかね。皆様が不要になったものを社会福祉協議会なり、あるいはどこかで一堂に会して、集めまし

て、それをまた修理して皆様に還元するようなシステムづくりであるとか。

あるいはこのシニアカーの補助ですね。以前石峰議員でしたでしょうかね、こういった補助ができないかというふうなことを数年前にもおっしゃっておられましたので、そういったことも一つの高齢者の外出支援につながるような施策であれば十分に検討はしてまいりたいと思いますし、こういった情報もたくさん行政のほうには流れてきますので、各市町の事例も参考にさせていただきながら検討を進めてまいりたいというふうには思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

もう町長のほうからリサイクル事業というんですかね、リサイクルも含めたような、そういう活用はできないかと。

先ほども言いました。どうしても、しゃべらない、動かない、そういうのが老化に一番大きく影響しているのかなと。やはりそういうものも町として、高齢者率がかなり高くなってきておりますので、前向きな回答をいただきましたのでぜひ実現に向けて取り組んでいただきたいなと思っています。

次に答弁にもありましたが、外出時の障害になっている状況について少し私も町内を見てまいりました。町長も確認をされているのかなと思いますがかなり歩道等が傷んで凹凸があったり、または橋のほうはもう崩れていたりする状況。またはこれは町道のところはちょっと撮れなかったのですけど、県道の場合はこういう少し大きめのブロックでされています。

町道の場合はもっと小さなれんがくらいの大きさですかね。ああいうのはできた時は非常になんて感じなかったのですが。だんだん足元が弱くなってくるとちょっとした段差でも、または押し車で買物に行かれる方も見受けします。またはシニアカーで行かれる方も、お見受けしますが、かなり障害になって。

これについても前向きな答弁をいただきましたけど。ぜひ危険性の高いところからですね、一気にはできないかと思いますので、進めていってきていただきたいと思いますが。現在具体的に町道に関して、歩道とかその整備計画は予定されておりましたら具体的にお話を聞けばと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　本山建設課長。

**○建設課長（本山征一郎君）**

今ですね、歩道の整備の具体的な計画ということでございますが、定期的にきちっとした整備計画は、先ほど答弁にもありましたとおりございませんが、現在の道路の改良工事に合わせてですね、歩道もあわせて整備をしているとこがございます。

そこにつきましてはですね、やはりこの段差というものは非常に私たちも気をつけて対応しているとこでありまして、まず昔の歩道は少しマウントアップ式というか、山ができてまた下ってという感じもあったんですけど、あれではなくて、もう今はフラットにしております。

あと先ほどありましたインターロッキングと言われる、そういったれんがとかそういったものがあるのですが。やはりおっしゃるとおり昔はやはりそういった景観も意識してつくってありま

したので、非常によろしかったんですが。

これがやはり今になりますと、時限爆弾のように効いておりまして、草も生えてきたりとか、あとあるいは植樹からの根起こしで盛り上がったりとかしておりますので。そういったところについては逐次我々も気にもしながら、整備をしております。

あるいは、ここに映っているところは多分ギフトのところの下ったところの写真かなあと思ったんですが、ここも現在県がちょっとずつですが整備をされてます。これについても、我々も県と協議しながら、また要望もしていきたいなと思っておりますので、今後もそういったところは気をつけてまいりたいと思います。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

これが宿郷から濁淵交差点。右側は今、整備をなされてるかと思います。県の事業なので、町として早急に整備をというような働きかけしかできないのかなと思いますが、どうしても食材とかなんかは宿郷に集まっている関係上ですね、この近辺の人はそこを利用して行かれる、または病院等にも行かれる、そういうことは実際にあっているのかなと思っています。逆に片側だけ整備されたからというふうに思われるかもしれませんが、逆に片側を整備したからこそ、反対側の歩道が非常に使いにくいというような、そういうのも見てとれるのかなと思っています。

あと宿郷の交差点も以前にもこう言いましたが今、歩道が整備されています。多分そこも右上の写真ですがきれいになるのかなとは思いますが、やはり今でもシニアカーでそこを通られてる方には、かなり通りづらい障害になっているのかなと思っています。

それから下の八島交差点これも大分こう言いましたが、実際横断歩道等もないので、反対車線までごみ出しのときにはない道路を横断して渡っていかなければいけないとかですね。非常にここの交差点はいまだにどちらが優先かというようなのが分からずに――ナフコ側からが優先なんですけど、はすわ診療所から来たほうが優先と思ってすっと行かれる。まだそういう状況も生まれておりますので、きちんと八島からナフコの道路が完成する前に応急的な何か対応が必要ではないかなと。

そういうのも高齢者だけじゃなくて、子供をはじめ町民を守る対策になるのかなと思いますが、この辺についていかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　本山建設課長。

**○建設課長（本山征一郎君）**

まず写真の県道が写っております。コスモス側とか宿郷の交差点につきましては、まず宿郷の交差点のところは今順次進められてきておりますので、この辺を解消するのではないかなと思ってますが、まだ詳細確認しておりませんので、このあたり何ともちょっと言えるところではございません。

あとコスモス側についても両側歩道の整備となってくると、またいろいろこうありますので、その辺はこちらからも今回こういった写真も提供いただきましたので、県のほうには申し伝えたいと思っております。

一方で八島交差点ですが、こちらについては多分これまでもお話も頂いたとこところでございますが、ここが一往に今のような形に単純になったわけではございませんので、様々な検討の結果こういった形でなっておりますので。

ここにつきましてはおっしゃるところは、意図されるところは分かりますので、ただここが一旦こういったかたちで警察協議も行った上での整備になっておりますから、改めてすぐにどうこうとはございませんが、一応ここについても検討はしてみたいと思っております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

町道も県道も多額の予算を投じないとできませんので、長期的な計画も必要でしょうし、早急的な対応も必要かと思いますが、実態に応じた対応をぜひお願いをし、障害物の処理といいますか、対応をお願いしたいと思います。

次に植栽についても答弁がありましたが、今映しているのは総合文化体育館の裏の駐車場ですね。この間私そこから出ようと思ったら、やはり剪定は年に何回かしかされないので、こういう時期もあるのだろうと思いますが。むしろここは、僕はもう要らないんじゃないかなと。もう小さい子供とかシニアカーとかそういうのが通られている人にはもう見えません。

だからこういうところの、特に言えば総合文化会館の裏手の植栽関係は逆にないほうが見通しもいいし、安全性も確保できるのではないかなと思いますがいかがですか。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

現場を確認させていただきたいと思っております。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

河川敷等については先ほど答弁でも、また今高校前から川内郷のセブンのところですかね。そこの植栽、川沿いのツツジの撤去を行っているということでこの間、お話をお聞きしましたが。

なぜ河川をとこう言われるかもしれませんが、シニアカーとか、押し車とか、こういったときにもう全然見えないのですね。これがあることによってですね。要するに健康づくりで河川、桜づつみの歩道を健康づくりに歩きましょうとか、そういうところが一番安全なのでそういうところで健康づくりをやってほしいと思うんですけど。もし何かあったときにはですね、やはりこの河川のツツジが目隠しになっています。

川棚沿いはですねそれは事業を受けてないからそのままにしているのかもしれませんが、まだ雑草等が生えておりますが、こちらの波佐見の河川敷と比べたら川棚のほうがまだ視界は利くのかなあと思っていますが。そういう意味でもですね、今後さらに河川敷のこのツツジの撤去といいますか、安全策を講じていただきたいんですがいかがですか。

**○議長（尾上和孝君）**　井関住民福祉課長。

**○住民福祉課長（井関昌男君）**

議員おっしゃるとおり現在、昨年からですね町政報告会とか以前の議会の一般質問等でも御意

見があった状況でございまして。先ほど議員がおっしゃられたとおり波佐見高校の万年橋からですね、川内郷のセブン-イレブンの片渕橋まで川側の転落防止がある擬木があるところにつきましてツツジの伐採をしたところでございます。

これにつきましては、実際こう川をウオーキングされている方に非常に評判がよくて、川がよく見えるようになったと、気持ちよく散歩できるようになったと、いう御意見も頂いておりますので、年次計画的に進めてまいりたいと思っております。

第２弾では宿郷の陣川橋から樋渡橋の宿郷側も伐採をいたしたところでございます。こういうかたちで視界、景観がよくなる状況というのは管理もしやすくなりますので、今後も年次計画的に進めてまいりたいというふうに思っております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

ぜひ今後もそういう取組を進めていただいて。高齢者等がよし、あそこを歩いてみようかと。川のせせらぎもこう聞きながらとか、これからは桜もこうね咲いて、非常にいい景観が得られるのではないかなと思いますが。健康増進という、そういう意味からもぜひ毎年多額のお金をかけて管理をされていますので、そういうところを町民の皆様に利用できるように、ぜひ働きかけていただけたらなと思っています。

次にこれは、佐賀県鳥栖市弥生が丘地区の危険箇所マップです。いろんなマップをつくられておりまして、これは交通安全編というようなことで、町でこういうところは危険ですよ、というようなことで周知をされているようです。

私もこれを見てですね――今私たちは何ともこう思わなくて車のハンドルを握ったり、歩いたりしてるのが、だんだんだんだん年をとってくるとだんだん障害となるものが見えてくるのですね。

防災関係のマップはもう、ずっと作られて行かれておりますが、または小中学校等についてもマップをつくっているかなと思いますが。老人といいますかね、高齢者向きっていいますか。そういう人にもこういうマップをつくって、外出される場合はこういう危険性がありますよ、こういうところを注意してくださいと、いうようなそういう情報も提供してはいかがかなと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

このマップを見ると大変よく段差等に気をつけてくださいということで出されておりますが、町内全ての危険箇所、段差等を調査するというのはちょっとなかなか難しいものでございまして。私どもとしましてはですね、そういう滑りやすいところ滑落の危険性がある、転倒の危険性があるところというのを気をつけて通行してくださいというふうな広報周知、啓発ですね。そういうのを高齢者の方々には進めていきたいと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

町全体となると、かなり作戦にもエネルギーが要るのかなと思っています。幸いにして自治会制度もありますので、状況の収集等についてはよその市町よりも非常にその体制はできてるのかなと思っていますが。冒頭に言いました。とにかく、これから高齢化が進む中元気に活動できる町であってほしいなというようなことで質問をさせていただきました。

もう一つ最後防犯カメラの設置というようなことで考えていたのですが、同僚議員が後で、明日ですかね、質問しますので今回私のほうは取下げたいと思います。

次に２番目の部活動地域移行についてです。うれしいのかどうか分かりませんが、てっきり私は昨年の二学期から土日はもう地域でされているのだろうなというふうに思ったものですから、その成果と課題は何だろうかと。それを次に生かされたらどうなのかなということでお尋ねをしましたが、町長の答弁のとおり実施はしてないというようなことでした。

まず最初に聞きたいのはですね、町長の施政方針の中にもありましたが、波佐見町モデルというのはどういうものを想定されているのかお尋ねをしたいと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

これまでのやはり波佐見町の場合は、スポーツのまち波佐見としての活気ある体制づくりができておりますし、中でもスポーツ協会あるいはスポーツ少年団等々のですね、活動、連携等が十分に行われている地域だと思っておりますし。もっと言えば波佐見町全体のコンパクトさといいますかね。そういう動きやすさ等々もあると思いますので、そういう波佐見町らしさを生かした取組ができればなということを願っております。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

私の経験では、部活しかやってないので考えが古いのかもしれませんが、教育的な視点といいますか。その根幹はやはり残していかないといけないし、これまでもたくさんの実績を上げてきてます。

子供たちが安心してスポーツに取り組めるようという、そういう表現も施政方針の中にありましたが。少なくとも子供や保護者が犠牲――という言葉が適するか分かりませんが、負担をかけるとかいうような事態は子供たちには非常に失礼なのかなと。そうならないように、本当にこう楽しく、子供たちが選択肢をたくさん持ってですね、健やかに成長していくことを願うわけですが。

答弁にもありました令和８年には平日も含めて部活動を地域クラブに完全移行を推進しますと。それから６年度、７年度以降は推進期間です。７年１月よりサッカー部と柔道部が地域クラブに移行しましたというようなことなんですけど。

このサッカーと柔道の現在、実際まだ２か月足らずかと思いますが、活用状況について何か把握をされておりましたら、お尋ねをしたいと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

１月からの分で詳細については把握をしておりませんが、これまでのサッカー部、部活動としての練習等々と同じようなことが、もちろんそれは柔道も同じだと思いますが。大きく変更したところはないんだろうと思っております。

以前の答弁にもサッカー部につきましては、小学校のデサフィーゴとの連携性の中で合同練習等々を効果的に行っているのが実情でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

地域クラブの捉え方についてちょっと確認をしたいのですけど。例えば長崎市はもう学校数はたくさん中学校あるんですけど、地域クラブとして移行したところはいろんな中学校の子供たちをもう集めてやっていますよね。人数が少ないからじゃなくて、もうクラブですから。どんどんどんどん選手を集めてやっています。

そういう子供は地域クラブに移行したそのクラブの開催する大会で予選会を勝ち上がったものが中体連等の上位大会に出場できるというようなことなんですけど。どうも答弁とか、前の同僚議員の答弁を聞いておりまして、地域クラブというと捉え方が少し明確でないなというふうにちょっと私は思っているのですが。

私は地域クラブ、波佐見中学校の部活動が地域クラブに移行するというのは、あくまでも波佐見町の中の地域に移行するクラブだと思っているのですよね。それが例えばサッカー部についてはもう川棚町からも来ていますと。こうなってくるとまた捉え方が全然違うし、中体連あたりの出場についても今までは郡の大会でやっていけたのが、他の地区から来た子供がいるがために、地域クラブの予選会に出て、上の出場枠を狙うというようなそういう事態が生まれるので。中体連であれば郡の中で勝ち上がったチームが県の大会に行けたわけですね、部活動枠として。多分その枠も残されてるんではないかなと思うんですけど。

すいません。長くなりましたけど、地域クラブの捉え方を再確認させてください。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

議員お説のとおり様々な地域クラブの捉え方、考え方地域性等々もあるんだろうと思います。本町では地域クラブはやはり波佐見町の子供たちをベースにということで考えておりますが、実際に大前提であります子供たちのやりたいを保障するというときに、川棚町や東彼杵町あるいは近隣の市町の中で、そういう活動がなければ波佐見町のほうで受入れてということでの、ベースとすれば波佐見町の子供たちを中心にやっていきますが。波佐見町の地域としてそのクラブを保障し、子供たちのやりたいを保障していきたいということで考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

安心をしました。サッカー部については、他町のクラブが成立しないというような、そういう条件であれば合同というような形で認められるのかなと思いますが。全ての部がそういう形で、もう波佐見にはいるのだが川棚町や東彼杵町はですね、もし言えば佐世保から来るとかですね。

そんなふうになってしまうと、もう町として支える側も非常に対応が難しくなるので、やはり今までやってこられた中学校の部活動という言葉から、中学校の部活動が地域移行するんだと。あくまでも波佐見の子供たちが中心なんだというような基本的な捉え方は、まあこれからどのような時代になるか分かりませんが、当分の間はそういう形でやっていかないと。これから入ろうとする小学生以下の子供たちがやはり迷ってはいけないし。またはもう出ていこうって、波佐見は出ていって、ちょっと佐世保に行こうかというふうになってくると、ちょっとそれも町としては困るので。逆に波佐見がいいよって言われるような、そういうような取組をぜひしていただきたいなと思っています。

今私が出しているのは波佐見町の部活動地域移行の資料が新しいのがないのかなあということで見ましたら、パワーポイントのこの資料しか今出ていないのですね。先ほど契約とかなんかも言われましたけど、ぜひ今後の子供たち、今後の保護者のためにもですね、または指導をやろうと言われる指導者のためにもですね、もっとパワーポイントの資料だけじゃなくて、もう少し具体的に公表されるといいんじゃないかなと思いますけど。

今ここに示したのは今町長、教育長の答弁がありましたが、あくまでも部活動。これまでやってきた部活動を母体として、地域クラブに移行するんだということでしたので、ここはもうそのように確認をさせていただきます。

次にいろんなことを書かれておりました。指導者の関係とか活動場所の問題とかですね、活動日、活動時間とか。ああいう大会参加についてというようなことで非常によくまとめてあるなと思うのですが。この地域クラブ――例えば活動場所については地域クラブを優先しますということなんですが、先ほど、体育センターの利用あたりを聞いたときに、部活動以外で、かなりの町民の方が、または町外の方も利用されてるかもしれませんが、利用をされてますね。そのあたりの調整は今後どうされようと考えておられるでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

その点につきましては従来どおりですね、年に１回のそういった体育利用施設、指導課利用者会議を行いますので、その中でも、今まであっているその部活動が、クラブ活動となってもそちらのほうを優先していきたいというところは各団体に説明を行っております。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

もうその調整会は終わったんですかね。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

来年度に向けての調整会議は終わっております。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

そこで幾つか疑問点があるんですが、例えば報酬等についても、昨年の11月29日の総合教育会

議ですかね、総合教育会議の会議録を見せていただきましたけど、そこで１人当たりいくらというのを掲げておられました。

現在部活動振興会に150万円プラスして、令和７年度も400万円の振興会の補助金を計上されておりますが、これからどんどん移行期間ですから途中からクラブに変わるなどして、そのような報酬あたりはどのようにお考えなのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

報酬等につきましては昨年度、令和５年度から400万円に増額しまして、このクラブ化に対応するということで予算化をいただいております。

今年度、来年度以降につきましては、まだ全てのクラブが移行しておりませんので、もちろん部活動として残っているクラブがございますので、部活動としてのクラブで地域移行したこちらのクラブの協議会のほうにも400万円の中から、調整しながら配分をして各クラブの運営がスムーズにいくようにしてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

特に文化部をおろそかにしているわけじゃないのですけど、運動部に関してはですね、いろんなけがとかそういうものが付き物なんですが。その保険も体育センターの保険また、この地域クラブの保険。どこかで切らなければいけないと思うのですが、正式に途中でクラブ地域移行にされても、現在学校側で加入している体育センターの保険ですかね。学校振興センターの保険を適用しながら、地域移行をやっていくというような捉え方でよろしいですか。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

中学校はですねすいません、部活動につきましては従来どおりの保険体制になってまいりますけど、新しくですねクラブ化した部活動というかクラブにつきましては、それぞれのクラブでそういった保険に加入していただくということになってまいります。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

年度当初からですね新しい保険の適用等がなされるんだろうと思いますけど、一つまだ確定でないかもしれませんが、総合教育会議の会議録の中に保護者の負担のことについてもちょっと示され――案ということだったのかなと思いますが。

現在中学生は部活動に入るときに年間3,000円の会費を振興会のほうに納めているのではないかなと思いますが。この地域クラブになると１万1,000円の負担というような、そういう記録が残っていたのですが。その辺まだ確定ではないのかもしれませんが、増額をしてしまうと冒頭に言いました子供たちが安心してスポーツを、文化に親しめるという部分からちょっとずれてくるのかなと思いますが。

現在そういうことで検討中なのかですね、保護者の負担軽減策を何か考えてあるのか、お尋ね

をしたいと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

現在のところクラブ化したところにつきましては、保護者から月1,000円の御負担をいただきたいということで計画を委託いたしております。その保護者の負担軽減につきましては先ほど申しました400万円をそれぞれの部活動。クラブのほうに割り振りを行いまして、保護者の負担増にならないようなですね、配慮をしてまいりたいというふうには考えております。

今後もそういった全ての部活動がクラブ化したところで年間のその利用状況等またもう一度再度ですね、そこで検討をしなければいけないかなというかたちでは思っております。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

ぜひ完全に地域移行するまでは、増額された年間400万の中学校部活動振興会の補助金というのは確保していただきたいんですが。令和８年からはもう完全に移行するということですので、８年度には新たなこの地域クラブが――どういう名称になるか分かりませんが、新設をして、部活をやってたときよりも活動しやすくなった、子供たちも楽しい、親もこのほうが子供たちの笑顔または技術向上も見られるようになってよかったって言われるような、ぜひそういう体制をつくっていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

当初からですねこのクラブ化につきましては少子高齢化で、本町は教育長が申したとおり、まだ全てのクラブが自活できてる状況でございますが、川棚町、東彼杵町におかれましては、一部の部活がですねもう生徒がいないということで、自分ところではちょっと自活できないという状況になっております。

本町も将来的には、そういったところも想像もできますので、その前に子供たちが安心して部活、クラブを、スポーツを続けてしてもらえるように、早めにこのクラブの地域移行ということで立ち上げたというところでございます。

もちろん一番は子供たちのそういった夢、そういったスポーツ環境というのを整備するというのがですね一番の目的でございます。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

冒頭に聞きました波佐見町モデルというところがそこに僕はなるのかなあと。よそに行かなくても十分波佐見町でスポーツも、文化面でも活動できるよということをしないと、人口減にも大きく影響を及ぼす一つの大きな、この部活動の地域移行になってるのではないかなと思いますので、引き続きそういう子供たちを手放さない、波佐見で育てる、そのためには指導者の確保。そういうものも課題はあろうかと思いますが、引き続き努力をしていただきたいと思います。

次に体育センターの管理運営についてです。まずお尋ねをしますが、管理団体のルピナスからですね、こういう備品の状態だというような報告は上げられているのでしょうか、伺います。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○町長（前川芳徳君）**

ルピナスからと、あとその利用者からも状況ということで報告を頂いております。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

私も週１回利用させていただいてますが、なかなか利用者ももう自分でこうすることで、どこにそれを言えばいいのか。管理員さんは１名おられるのですけど、なかなかそういう機会もなくて。やはり委託されてるルピナスさん自身がもう少し責任を持って、そんなに時間はかからないわけですから、備品とかそういうものの点検をぜひお願いするというようなことを条件付けて管理委託をしてほしいのですけど。

そこのところの委託する条件というのは何もなかったんでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

館の管理ということですね、運営管理ということで委託をしておりますのでそこあたりでお願いしてるところだと認識をしております。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

私が見た範囲ではもう前から中央部にある防球ネット。これ固定できないのですね。だから防球ネットの役割を果たしてません。多分、留め金がどっかにあるんだと思います。ちょうど階段の横ぐらいに金具がありますので、その金具があれば防球ネットの役割を果たせるのですけど。競技によってはこれが固定してないものですから隣のコートに入ってしまう、支障をきたしているというような状況です。

それから昨年でしたかね。もう２年前になりますか、バドミントンのポールを買っていただきました。ボールの高さを調整するねじの部分がこれガタンと落としてしまうとすぐ割れるんです。一番右側はもう取っ手がありません。金具だけです。手前側半分欠けていますね。

なぜこれを出したかというと、そこに当たった場合には大きなけがにつながる。だからこれをそのまま放置してはいけないし、そういう意味でも、やはり週に１回ぐらいは管理委託をされてる方に、もうそんな何分かあればできるわけですから見てほしいなと。

あわせて、まだ２年前に買っていただいたそのバドミントンの支柱はもうメモリが消えて分かりません。メジャーを持ってこないとはかれないような状況です。だから、せっかく予算取りをされて買われるのであれば、もう少しそういうところを長く持てるようなそういうものをぜひ買っていただきたいと思います。

次のこの間バレーをされている方にちょっとお尋ねをしたのですけど、今ネットの下にも白帯紐がついていますので、昔のアンテナでは非常にかみづらいような状態になっています。そうい

うのも見られて、一方を閉めそこなったらポールに当たったときには、下が外れてゴって人に当あたる。そういう危険性も出てくるのかなと。

７年度の予算書の中で、得点板を買われるというようなことでちょっと安心しましたが、もう非常に何十年前の得点板か分かりません。体育センターにはバレーで使うような得点板は１個しかありません。

どっかに移動しているのかどうかも分かりませんが、ぜひそういう実態であるということで、管理を委託されているルピナスさんとも連携をとられて。間違ってもけがが起きないような、そういう備品の管理と新たな購入といいますかね、そういうものも計画的に行っていただきたいと思いますがいかがですか。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

そういった御意見等々を頂きながら来年度の予算も措置をしてまいっております。もう一度そういった現場の状況等々ルピナスともお互い意思の疎通を図りながら、よりよい、そういった利用につなげていけるようにしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　田添議員。

**○10番（田添有喜君）**

終わります。

**○議長（尾上和孝君）**

以上で、10番　田添有喜議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。13時30分から再開します。

**午後０時 14 分　休憩**

**午後１時 30 分　再開**

**○議長（尾上和孝君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、４番　横山聖代議員。

**○４番（横山聖代君）**

皆さんこんにちは。早速、通告に従い質問いたします。

図書館の展望について。

図書館には、町民の知的探求や多様なニーズにこたえるサービス、地域に根差した情報提供、居心地のいい空間づくりが求められています。

近隣の市町には、すばらしい図書館があります。自治体の背景や目的によって図書館の在り方もそれぞれあっていいと思いますが、本町の図書館は現状のままでいいとは考え難いです。

そこで、次のことを問う

（１）令和６年12月６日付けで、町議会から町長へ意見書を提出した。その内容の一つに、「旧教育委員会事務局のスペースを有効活用できるよう改築・改修を施すなど機能充実に努めること」

とあるが、それを受け今後の計画をどう考えているのか。

（２）図書館協議会委員の公募が令和５年12月に行われた。その後、協議会を開催されたと思うが、協議の内容及び委員からの意見はどうだったか。

（３）本町の図書館につき、これまで議員から幾度となく、蔵書数、貸出冊数、閲覧スペース、学習スペース、読み聞かせスペース、図書館職員の作業スペース、図書館の入り口などについて問題提起されているが、本町の図書館の展望をどう考えているのか。

以上、壇上より質問を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

４番　横山聖代議員の御質問に対してお答えをしていきます。

図書館の展望について。

（１）令和６年12月６日付けで、町議会から町長へ意見書を提出した。その内容の一つに、「旧教育委員会事務局のスペースを有効活用できるよう改築・改修を施すなど機能充実に努めること」とあるが、それを受けて今後の計画をどう考えているのかというお尋ねでございますが。旧教育委員会事務局スペースにつきましては、総合文化会館の管理を委託しているルピナス倶楽部の現地事務所と図書館のバックヤードとして活用しております。

今後はさらに書棚など必要な什器・備品等を購入し、バックヤードとしての機能充実を図り、図書館内での活動がより充実したものになればと考えております。

（２）図書館協議会委員の公募が令和５年12月に行われた。その後協議会を開催されたと思うが、協議の内容及び委員からの意見はどうだったのかというお尋ねでございますが。公募により１名の方を選任しました。図書館協議会を昨年度末に開催し、図書館の利用状況を説明し、波佐見町子ども読書活動推進計画について御意見を頂きました。

働いている現役世代の利用が少なく、子供と高齢者の利用が多い。家庭での読書習慣をいかにつけていくかなどの意見が出されました。

公募された委員からも広報誌やホームページの活用、イベント等の開催など図書館の魅力発信につながる積極的な意見を出していただきました。

（３）本町の図書館につき、これまで議員から幾度となく蔵書数、貸出冊数、閲覧スペース、学習スペース、読み聞かせスペース、図書館職員の作業スペース、図書館の入り口等について問題提起されているが、本町の図書館の展望をどう考えているのかというお尋ねでございますが、本町の図書館の現状を踏まえ、いかに町民の方に利用しやすく、親しまれる図書館をつくっていくかということだと考えています。

まずハード関係につきましては、蔵書保管と本の補修スペースとして、旧教育委員会事務所を活用するための書棚の購入と児童書コーナーの改修を予定しています。また文化会館内のロビーを利用した学習スペースを確保したいと考え、今年度予算で机・椅子を購入しております。来年度もこの学習スペースについては、机・椅子の数を増やすための予算も計上しております。

次に、図書館に行きたくなるようなソフト面の充実を図らなければと考えております。そのた

め、今年度図書館スタッフを１名増員し、まずは町広報紙での図書館紹介のページを増やしました。また、様々な企画や楽しくなる掲示物、他団体との連携なども計画的に行ってまいりたいと考えております。

今後とも図書館協議会委員の皆様からの御意見、さらにスタッフ会議を重ねながら、図書館が町民の皆様にもっと身近に感じてもらえ親しんでもらえるような取組を進めてまいりたいと考えております。以上壇上からの答弁を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

きっと皆さんですねまた図書館って思われている方も多いのかなと。毎度、議員からたくさん質問があっていると思うのですが、やるんですね、またですね。

やっぱなぜならって言ったら、やはり波佐見町の図書館が徐々に、今さっき教育長から展望を話されて徐々にではありますが、やってもらっているとは思うのですが。やはり座席数が少ない貸出し中心の図書館ではなく、教育長も言われました、行きたくなる図書館。１日ゆっくり過ごせるような図書館ですね。あと小さなお子さんと保護者の人が鴻ノ巣公園で遊んで「疲れたけん図書館行こうか」とか、学生が「テスト勉強でもしに行こうか」とか、「何て用事もなかばってん図書館に行こうか」。そういう出かけるときとかの一つの案にしてほしいなというのがあります。

で、やはり図書館の価値ってお金では計れないような、計れないほどのものがあると思っているんですよね。本町もこの図書館、波佐見町の図書館それを発揮できてないのかなと思って質問させてもらいます。

先ほど教育長から図書館の展望について答弁をいただきましたが、短刀直入に町長にもお尋ねします。本町の図書館このままでいいと思っていますか。それと図書館の展望についてお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

私、何回もこのお話ししたと思うんですが中学校のときに、体育の先生に体の栄養は食事と、心の栄養は読書というように教わって、もう50数年たっておりますがそれがいまだに頭にこびりついております。

おっしゃるとおり図書館の充実は非常に必要だと思っておりますし、今のままでいいのかと言われると、本当はもう少しやはりスペースが欲しいなというのが正直な気持ちです。

ただ整備するにはやはり財源が必要ですし、いつの時期に行うのかまだはっきり申し上げることはできませんが、例えばよその図書館を見て、こういう図書館がいいなとか。例えば大村市に行ったときに県立図書館等見ますと非常に蔵書も充実して広々としたスペースでいいなというような思いをいたしますが。

理想はそうであっても、現実的に直ちに整備できるかというと、いろいろな諸般のことを考えながら今後のことは検討すべきものかなというふうに思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

そうですね本町の図書館、蔵書数に対してやはり図書館のスペース、本当に狭いと思います。

で、町長も教育長も現実を考えたらなかなか、予算の面がかかるからって言われましたけど、もういっそのこと図書館ば造りませんか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

今、町長からも答弁ありましたけれど、新築移転につきましては現在のところは考えていないということで。今のスペース、今の総合文化会館の中で図書館をどうのように、今後ということについての研究・検討を始めていく必要があるだろうということで考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

それは分かった上で、ちょっと冒険的に聞いてはみたのですが。

そしたら旧十八銀行を補正予算でも取得を上げられていました。多分今議会で出てくるのかなとは思うのですが。この旧十八銀行を図書館にという意見もちらほら聞こえてきているんですね。私の周りなんですが。

なので、この旧十八銀行を図書館にリノベーションするのはどうかな、と思うんですね。あの場所でしたら、やきもの公園も近くですし、あと陶器まつりのときは人通りも多く、交流の場としてもいいのかなと思うのですが、そちらはどうお考えですか。どう思いますか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

今の御意見、初めて私自身はお聞きしたんですけれど、その案件も含めましてですね、今後の在り方については研究・検討したいと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

突然言ったので申し訳ないなとは思うんですけど、多分まだ活用方法とかも決まってはいないとは思うので、一つの案として置いとってもらいたいなと思いつつ。そしたらですよ、現在の図書館をよりよいものにしていかんばと、もう町長も教育長もその答弁を頂いていますので。

そこで令和５年６月に私が一般質問でしたときに、そこから１年半ぐらいたってようやくウエイブホールのエントランスにこの間ですね先日、机と椅子がポツンと置いてありました。「あ、あった」って感じですね。ごめんなさい「あー、あった」って感じだったんですよ、本当に。

で、徐々には進んでいるとは思うんです。７年度の当初予算にも、確かに図書館の学習用テーブルや施設用備品というのもありました。なので、徐々にかなとは思いつつも、やっぱもうちょっとスピード感と、あと思い切りのリニューアルも必要なんじゃないかとやはり思います。

以前も申し上げているんですが、旧教育委員会の事務局ですね。そこは今バックヤードとしてなっている、あとルピナスさんの事務所予約してもらうところ事務所にはなってますが、現在の

図書館本当に手狭です。

子供の児童書が置いてあるちょっと段が上がっているところで、子供とね読み聞かせをしようってお母さんがしてもね、やっぱり静かにせんばとこやっけんってことで、なかなかそういうのもできないというのも聞いてます。

なので、やはりもう場所を分けていいのかなって思うんですよ。もし旧教育委員会の事務局がもう駄目だったら、先日オープンした、開所した「こども家庭センター・よりそっと」の１階に「きしゃぽっぽ」さんが入られますけど、先日私も見せてもらって、窓側のほうには本棚がベラーってあってですね、絵本が少し置いてあったんですね。

私それを見たときにここに絵本をたくさん並べて、「きしゃぽっぽ」さんで子供たちも保護者さんも来る。それ以外の人たちも来て、あそこやったら子供と保護者さんが一緒に絵本を読んで、読み聞かせもしてってできるのかなと。

あと波佐見にはすばらしいボランティアの団体「おはなしの部屋「？」さんがいらっしゃいます。そういう方たちの読み聞かせもやはり図書館でしてほしかですもんね。その「？」さんですけど皆さんも御存じと思います。子供の読書活動優秀実践団体でしたかね、文部科学大臣賞も取られて。今年度は「？」さんの各団体４団体が町民表彰も受けられている、こうやってすばらしい団体がいる波佐見町だからこそ、そうやって子供と親が、保護者さんが、一緒になって絵本を楽しむ、本を楽しむ、そういう場所というのが必ずできると思うんですよ。波佐見だからできると思います。

なので、そうなったら今の図書館は中学生とか大人とかが行ける場所で、児童書もなくなる。学習スペースはエントランスになるってして、そしたら今の図書館少し手を加えたらもう少し余裕ができてくるから、展示スペースだったりおすすめスペースだったり、そういうのもできて今よりは行きたくなる図書館になるのではないかと思うのですが、いかがですか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

今、議員がお説になったことも、私たちのスタッフ会議の中で出てきている意見で、とてもありがたいなと思っております。心強いなと思っております。

現状を活用しながら、現状を踏まえながら、頂いてる御意見とか課題等に一つ一つ。なかなかスピード感、確かにないんだろうとは思っておりますが、確実に少しずつ、少しずつやっていきたいなという部分がありまして。まずはその補修スペースとして旧教育委員会事務局をバックヤードとしてあそこで本の改修、補修あるいは除籍等々の事務的な作業を行うことでのスペースの確保もできるでしょうし、学習コーナーをさらにロビー等に増やすことによって学習コーナー等々も増えていくんだろう。

先ほど申しましたように児童書の前のコーナーも、長年たっておりますので、来年度も改修をいたしますので、そのスペースをどうするかということも考えていかなくてはいけないということを思っております。

また読み聞かせの部分で楽屋の利用もできないかということなども、私たちの意見の中では出

てきたところもありますし、将来的に今の図書館の場所で工夫ができないか。あるいは図書館の館内での移設ということも踏まえて、来年度につきましてはもう少し突っ込んだ話の協議をしながら。でも、やれるところからやっていきたい。実際に今年度こちらのほうに移転をしてきて、図書館のバックヤードを設けた後に必要な什器だとか、ここにはこういうものを取り入れたいよねという図書館スタッフの意見等々もありますので、それらを総合的に勘案しながら、順番をつけてやっていきたいなということを考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

先ほど答弁で児童書のコーナーの改修。今あるところの改修、今あるところで改修をされるということですか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

まずあそこの場所が今ちょっとこう、たわんだところとかありますので、まずそこ改修をするというところで。そこの後にまたそういうスペースをつくるのか。でも、読み聞かせがなかなかやはりしづらいという意見がありますので、その部分で、先ほど申しました楽屋とかですね。ほかの場所の有効活用等も出てくるかもしれませんし。館内の中での改修、補修をする中で、そういうスペースが生み出すこともできるかもしれませんので、もう少し時間をかけて研究していきたいと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

ちょっといろいろ考えてもらっているなと思って、そこはありがたく思います。でも、子供用の図書館は、あそこはちょっと狭過ぎる。本当狭い。で、やはり子供に絵本を読み聞かせするというのって本当言葉の教育とか、知育とかではないと思うのですよね。

お母さんと子供が絵本を一緒に見るということで、同じ時間を過ごして、心を一つにして絆が深まるのが親子の絵本の時間。この読書の時間ってそうなると思うんですよ。

私も自分の娘がまだ小っちゃかった頃、保育園とか幼稚園に行きよった頃に園長先生から家でも読み聞かせしてくださいねって言われて、そこから私もするようになりました。まだ０歳のときから。それが本当面白かったから、今私図書ボランティアもさせてもらっているんですけど。

だからですね、子ども図書館ってまでは行かんでも子供児童書が別にある、ちゃんと分けてあるというのをしてほしい。そこでさっき、私が提案で「よりそっと」ができているじゃないですか。あそこ結構広くて「きしゃぽっぽ」さんが入られますけど、「きしゃぽっぽ」さんには、小さいお子さんと保護者さんが一緒に行っている場所だからこそ、いいのかなとも思います。

別に「きしゃぽっぽ」さんじゃなくても、あそこに絵本があるからということで、行ってもいいんじゃないかなって思うんですよね。私は子供用、児童書がちゃんと別にあるところを設けてほしいです。ちょっともう一回そこ教育長お願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

読み聞かせの重要性についてはもう御存じのとおりですね、ブックスタートということになっていくのだろうと思いますけれど、それが適切に行われる場所、あるいは時間帯、あるいは他団体の協力様々な課題があるんだろうと思いますが。

今の児童書が特に配置をされたといいますかね、そういうそれをやられている場所ということについては、今の施設の中でどういうふうなことができるかということを改めまして協議会、スタッフ会議の中でも、私たちも真剣に考えていきたいと思います。よろしくお願いします。考えていきます。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

ずっと教育長にばっかり聞いてるんで、町長どがん思いますか。子ども図書館ではないけれど児童とちゃんと図書館を分けるという考えは。お願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

考えとして私は賛成いたします。施設が先ほどおっしゃった「こども家庭センター・よりそっと」内にそういったスペースが設けられるのか、私は詳細まで承知しておりませんので、担当のほうがちょっと答弁お願いしたいと思いますが。そういったものの蔵書も図られてですね、子育てがうまくいくような施設となるようなことって有機的に機能すればいいのではないかなと私は思いますが。

いろんな計画もなされている様でございますので、私のほうからすぐにできますよと申し上げかねますが、そのあたりについてはちょっと担当課長のほうからちょっと答弁をお願いしたいというふうに思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

よりそっとの活用につきましては、そういったお子様の絵本の読み聞かせであるなどのコーナーは可能かとは思うのですが、例えば平日の時間ですね。職員がいる時間というのはできるかと思うのですが、御要望として多分土日とかですね、そういったふうになってくるとその対応でスタッフが必要とか、そういうふうになってくることもございますので、ちょっとその部分ではちょっと検討させていただければというふうに思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

確かにそうですね。土日って考えたらそうね、よりそっと。そうなのかなあって今思いました。そがんなったらやはり総合文化会館にちゃんと別に作ってほしいなって思います。

ちょっともうこの辺のハード面というのは、ここでできる、できないはちょっと難しいと思うので本当考えてもらって、いい方向に考えてもらいたいなと思います。

ちょっとソフト面のほうに行きたいんですが。ソフト面のところで、スタッフが１名増員して

もらうということでありがたいなと今思いました。これ後で言おうと思いよったとばってん、ちょっとまた後でね。

ソフト面のところでなんですけど、魅力ある図書館にするために人が――今利用者が少ないということは、魅力がないからって逆に言えばなるのかなと思うので。じゃあ魅力がある図書館づくりにするにはというところでですね、ちょっと紹介したいのがあるんですけど。

教育長にもちょっとお渡ししていますが、岡山県の真庭市の図書館で図書館長さんの記事がありました。ちょっと直接は真庭市には行ってないのですけど、この記事を見て面白いなあって思ったので、波佐見町でも何か真似できたりとか、ここからインスピレーションをとって何かできたらいいなと思うので、ちょっと一つ紹介します。

遊びの生まれる図書館ということで、「みんなが当事者になる場所へ」ということで記事がありまして、いろんな企画が考えてありました。その企画が「もちより図書館」というのがあって、図書館に小箱があって――そこ小さな木箱なんですけど。そこにその木箱に本を入れて、町民とか市民の人が入れて、1日館長みたいな感じで自分の好きな本を入れて紹介するようなイベントというんですかね。企画がされております。

これでやはりそこで何ですかね。本も好きな人がもうトマト図書館とか、トマトだけの本があったり、発酵図書館って「発酵」ですよね、みそとか何かそういった発酵の何かそういう本があったりとか。猫図書館とか何かで。

あと小さい人は小学4年生の子で、地球と昔とサバイバル図書館みたいな感じで、たくさんの人が1箱図書館の館長さんになったと。すごいなんか自分の好きを持ちよることで、その人との人間関係がつくれましたというようなことがありました。

あとですね、これが面白かったとですけど「積読大新年会」というのをされたみたいで。「積読」――読もうと思って本を買ったばってん、なかなか読みえんで積み重ねている本。それを何で読まんやったとかという、多分言い訳大会になって。それがあまりの滑稽さに結構面白かったよって書いてあるんですね。やはりこう後でこれもあります。お泊まり図書館。この真庭市は大人の人が絵本に囲まれて寝たいということで、お泊まり図書館なんですけど。

似たようなやつで全国的に多分皆さんも聞かれたことあると思うんですけど、「ぬいぐるみお泊まり会」というのを美術館とか図書館でやっているんですね。これどういうやつかって、多分インスタとか見ればすぐ分かるんですけど、子供がぬいぐるみを持って図書館に行きます。最初読み聞かせして、ぬいぐるみを置いてバイバイってするんですよ。そのぬいぐるみをちゃんと布団に寝かせてバイバイってするんですけど、そのあと子供たちが帰った後に、職員さんがそのぬいぐるみを動かして、ぬいぐるみで読み聞かせをしているとか、ぬいぐるみが本をとるように積み重ねて何かこうしている。そういう写真を撮って、それを保護者さんたちに送って――インスタでアップして見せられてるのか分からないけど。それを子供と見て楽しむみたいな。

これを見たときに、童謡の「おもちゃのチャチャチャ」ってあるじゃないですか。子供が寝静まった後におもちゃが動き出して、踊るおもちゃのちゃっちゃとか。あと「トイストーリー」とか。ああいうそういう夢があっていいなと思って。波佐見町もこれできるのではじゃないかなと

思ったのですよね。

そうなったときにぬいぐるみを動かしていくのって、図書館の職員さんだけじゃなくて、中学生とか高校生とか。そういう子たちが一緒にぬいぐるみを動かして、写真撮ってアップしてって何かそういう企画っていいのかなって思ったりして。

私それで何が言いたかというと、こういうのが全て町民、じゃないねそこは市民だろうから。住民さんたちのこれをやりたいというとこから始まっているみたいなんですよ。

ですので、本町に図書館協議会というのがありますけど、またそれとは別に図書館をもっとこうしていきたいとか、図書館でこういうことをしたいという人たちを都度集めて、みんなでわいわい輪になって、車座になってそういう話合いができる場というのをつくっていくのはいかがかなと思うんですけど、どうですか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

次から次にいろんなアイデアを出していただいてとてもありがたいなと思っておりますので、協議会やスタッフ会議の中でも一緒に考えていきたいなと思っております。

確かに住民の方の思いを受けてということは大事だと思っておりますが、また新たな組織ってなるともう今のところ大変なところがあって、協議会そしてスタッフ会議を行う中で現状を踏まえたスタッフの思いを最優先しながら、やれるところ、やりたいところを整理しながらまずはやれるところからやっていきたいというところを考えているところです。

スタッフにつきましては令和６年度今年度から１名増にしまして３人体制。１名をさっき言ったバックヤードでの業務専門にし、２人を図書館のほうで勤めるというローテーションを組んでいるところでございます。

少ない人数の中で、あるいは与えられた環境条件の中でいかに町民の方に親しまれるかということは今後も研究をしていきたいと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

私もちょっと図書館のスタッフさんのことをちょっと質問しようと思ってたから、そっちにいきますね。そのスタッフさんを１名増員されるということで、私も本町の図書館の職員さん見ていて、レスポンスとかもしてもらえるんですよね。こういう本を探しているって言ったらレスポンスはしてもらうんですが、やはり資料の整理だったり、今まで溜まりに溜まった本の修理だったりとか、目の前にあるこのタスクをこなすということで、もういっぱいいっぱいになられているから図書館のコーナーを作ったりとか手狭というのもあるんですが。そういう新しいことをするというのがなかなかできないのじゃないかと思って。

私思ったのですよその作業をする仕事じゃなくて作業中心になっているなって。仕事ってやはり目的とか目標に向かって能動的に動いていくのが仕事ですもんね。作業ってなったらもう何かのタスクをこなすことだけが目的になっているから、もしかしたら波佐見町の図書館の職員さん、図書館の作業自体がもうあまりにも今まで溜まり過ぎていたから、もう本当タスクをこなすこと

でいっぱいいっぱいになってるのかなと。

だからスタッフを増やしてほしいとも思ったし、また図書館の館長さん。今教育長が充て職として兼務されていますけど。もうこの図書館をこれまでそう何かいろいろ変えてきたというか、改革してきたというような、そういう何かそういった何か夢を持ってる野望があるような人を図書館長さんに充ててほしいなという思いもしているんですが。

してるんですが、１人増員されるということで今毎日２人とか３人体制でされていますよね。今図書館ですね。それが１人増員ということは１日に３人～４人で勤務されるということなのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

６年度から、もう今年度から１名増しておりますので、１名がバックヤードの部分の専門的な部分をやって、２人が窓口――図書館のほうで勤務をして３人体制のローテーションを現在でも行っております。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

確かに今考えたらそうだなって今思いました。でもですよ、多分まだ相当残っているのでしょう。今までのやつが。そがんて思います。

なので、もういち早くもうそういうのを早く終わらせて、ちょっとそこに増員をかけて、もうそういうのはささって終わらせて、もう仕事ができる状態にしてほしいです。図書館も。そこはどう思いますか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

議員お説のとおり、どちらかというと、もう目の前の部分をこなすというのがもう精いっぱいの状態でありますので、様々な意見・御要望を踏まえながら何度も繰り返すようですけれど、現スタッフで現状できるところから、少しずつ確実にやっていくということしか今のところは考えておりません。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

徐々にそうね、そこはしょうがないかなとは思います。でもちょっとやはりスピード感を持ってほしいなというのは率直な意見です。

あとブックスタートの件を教育長言われましたが、私もブックスタートについて、以前質問で、ブックスタートから図書館へのアシストがなってないからもったいないよって言ってたと思うんです。現在もやはりブックスタートで終わられているからですよ、やっぱこのブックスタートを機に、図書館に足を運んでもらうような仕掛けって絶対必要と思うんですよ。

ここで本町はブックスタートをしてるのは５～６か月健診と１歳半健診でされてると思うのですが、例えば５～６か月健診でブックスタートとしてお渡しするそのパックの中に、図書館に

行ったら何かいいことがあるような、何かプレゼントがもらえるよみたいな何かチケットを忍ばせておくとか。

それとかあと１歳半健診のときは、これちょっと仮称なんですけど宝探し大会みたいなのをしますみたいな。じゃあ宝探し大会ってなにってなると思うんですけど、ちょっとこれも我が子が小さいときの事を思い出してちょっと思いついたんですけど。小さい子供あるあると思うんですが、家で読み聞かせをしてたら子供ってその時その時で、お気に入りの絵本が絶対あるんですよ。親がこれ読むよってせんで、子供が絵本をトコトコって持ってくるときに大体同じ絵本なんですよ。多分きっと皆さん分かる、分かると思っている方いらっしゃると思います。

それと図書館に子供と一緒に行ったときに、ほら子供を図書館に放つじゃなかですか。そしたら――これが面白かったのが、家にある絵本を持ってくるんですよ。「いやいや家にあるけん別こいよかやん」て思ったけど、まだそんときよちよち歩きやっけん。で、持ってくるときすごいうれしいそうな顔で持ってきてたんですね。

それば思い出したときに思ったのが、もしかしたらそういうまだ１歳、２歳ぐらいの子供って、家にちょっとしかないのに、たくさん図書館に行ったらあるじゃないですか。その中から今一押しのお気に入りの絵本を見つけたよって、もしかしたら持ってきてるのかなって。そがんなったら子供からしたらこれって宝探しと一緒かなと思って。きっと１歳半ぐらいするんですよ。うちの娘も全然１歳半のまだよちよち歩きだったけど、本とか持ってきてたから。

もしかしたらそういう面白いことを何かできたら図書館に行くような仕掛けになるんじゃないかと思って。これは一例なんですが、でもブックスタートから図書館に足を運んでもらう仕掛けは絶対必要だと思います。これはどう思いますか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

おっしゃるとおりだと思っております。ブックスタート。家庭、家族内での本との触れ合いをいかに図書館とつなげていくか。もっと言えば学校教育の課題もあると思います。学校図書館、とにかく本を好きになる。本に触れる、本を読む、本に親しむという習慣を家庭あるいは学校で身につけることによって、町の図書館等との連携性って多分図っていけるのだろうと思っていますので、今おっしゃったことはとても大事なことだと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

おっしゃるとおりですね、５～６か月健診のときに初めての絵本ということでお渡しをしてるところですが、横山議員のように熱心な保護者の方はもらった本をうれしそうに、もうすぐお子さんに見せて楽しまれてる雰囲気もある一方で、もうすぐバッグの中になおして、あまりこう関心のなさそうな感じを受ける保護者さんも実はいらっしゃいます。そうしたことで来年度からはそういうブックスタートと合わせて、読み聞かせの場も一緒にできないかということを今検討しているところです。これまでは乳児だったり幼児の健診は文化会館で行っていて図書館も近くではあったんですが、来年度から４月からはそういった健診はよりそっとで行いますので。よりそ

っとにも図書の、言われた「きしゃぽっぽ」の本などですね、そういうものを活用しながらお子さんが触れる機会をですね、つくっていきたいなというふうに思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

確かにさっき石橋課長が言われた、すぐ絵本をもらってもすぐ入れるって。確かにそれほかのブックスタートをされているところでもやはり聞きました。で、それでブックスタート自体も、ただ本をもらっただけみたいな。その意味とかもよう分からんで本を貰えたぐらいの気持ちの保護者さんも確かにいるというのは、ちょっと聞いていてちょっと残念だなって思ったのですけど。やはり本町にもいるんだなと思って。

やっぱりそうですよね、どこっちゃそういらっしゃると思うから。そうなったらブックスタートで子供と保護者が絵本を介して、楽しい一時ができるんだよという、この事業の本質というものをちゃんとお伝えする。そこからもっと保護者と子供が本に触れるというのをつくっていけるようにしていかないといけないので。読み聞かせボランティアさんが多分入られるとは思うんですけど、そこもちょっと自分たちも仕事場しているからなかなか難しかっちゃんねという意見もちょっと聞いたりもしています。

なので、そこはちょっとうまく。本当はちょっともうちょっと話合いをしっかりしてもらって、でもそこには子ども・健康保険課と読み聞かせボランティアだけじゃなくて、しっかりやはりここって図書館を管轄するのって教育委員会だから。教育委員会もしっかりそこは一緒になって、ブックスタートから図書館にという、この流れをしっかりつくっていただきたい。

ブックスタートのときに今度から読み聞かせをするって言われましたけど、これこの間ですね、「？」（はてな）さんのブックスタートの勉強会をしたんですよね。そのときに見てたビデオが――ＹｏｕＴｕｂｅを見てたと思うんですけど、多分読み聞かせって１人の人がばーってして子供がばーって前におって、読むのかなと思うんですが。小学校ではそうしてるから。でも小さい子供たちって多分それじゃ黙っときえんけん、一対一で読み聞かせをされてました。そこはそうなったらやはり子供って見るんですよね。もちろんなんかキャッキャ笑ったりとか、ワーワーとかしたりもするが。

一対一でできる読み聞かせをしっかりして。そしたらほら読み聞かせをする人って、絵本の大切さを分かってる人たちだから、若いお母さんたちにこうやって子供と触れ合うんだよって。親身になって伝えられるのかなって思います。

ですので、そこをしっかりと図書館に足を運んでもらう仕掛けづくり。これをしっかりしてほしいです。もう一回答弁お願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

家庭そして学校における読書、本を好きになる本に親しむという習慣化が図ること。まずこれが一番だと思っております。それを図書館とつなぐという点でのブックスタートの役割、学校との連携というのがきっとあるんだろうと思いますので、今の御意見については考えていきたいと

思います。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

前向きに考えてもらえるということで、次に行きます。

先ほど教育長から学校との図書館との連携って言われました。私もちょっとそこを聞きたかったので、ちょっとお伺いしますが。図書館、今波佐見町の図書館、広域連携でいろんなとこと広域連携をしてます。今の波佐見町の図書館と、町内の学校の図書館の連携自体はどのようにされていますか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

学校図書館の中に読みたい本がないというときに、町のほうにその図書があるかどうかの確認をし、その部分があれば用務員さんを使って学校のほうに届けるというような活動は行っておりますが。なかなかまだオンラインでのやりとりとかそういうところまでの発展ができてないのが今後の課題かなということを考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

確かに団体貸出しというのがあるから、そういった貸出し方はされてるんだなというのが分かりました。で、オンラインでのやりとりというのはあれですよね。図書館自体のシステムと学校図書室のシステムがまた別ということなのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

そこをつなげるように、この前のシステム改修から一緒にしております。またそこがまだ連携ができてないというのが事実なところであります。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

このシステム改修で連携がとれたら学校の図書室で調べて、読みたい本が学校の図書室ないなってなったら、波佐見町の図書館から借りれるってなって、それが学校で借りれる状態になるんですか。お願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

そういったことを目指して、同じシステムを入れているという状況でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

そしたら、よかったです。もう頑張ってほしかですね。本当連携、早くしてほしいなと思います。あと団体貸出しのところなんですが、本町は団体貸出しされていますもんね。

で、それをもうちょっとどこら辺までが団体貸出しされているかちょっと私も把握できてない

ので、ちょっと教えてもらいたいなというのと、あとちょっと提案というのもあるんですが、こども園だったりとか保育園、学童さん、あと公民館だったりへの団体貸出し。この辺はどうなっていますか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

学童、こども園との連携については申し訳ございません、手元に資料がありません。ただ公民館あるいは自治会等々との連携につきましては、スタッフの会議の中でも研究できないかということで意見を考えております。

ただやっぱそのスタッフ体制のこともありますし、例えば移動図書であったりとかですね、あるいは持参をしたりするとか、郵送するとか。そういう様々な手だてをとる中で、特に来たくても来れないという方、高齢者の方々にということとか、あるいは公民館との連携の中でということも考えているんですが、こっちだけの課題ではなく、例えば公民館の場合は向こうのほうの受入れ体制がどうなのかということなどもありますので。意見としてはそういうふうに他団体へのとの共有性については、意見交換を行っているという段階であります。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

こういった波佐見町には車でね、車で移動図書館みたいなのがないからですね、こういった団体貸出しの充実というのはしっかり図ってもらいたいなって本当思います。

あとこれも一つ紹介なんですが、先日、前武雄市長の話を聞きに行って――図書館を頑張って造らしたね。それをちょっと聞きよって現在、…資料を持ってくるのを忘れました。あの妊婦さんとか高齢者の人に対して家に直接届ける配送サービスというのをされているみたいなんですね。本町の場合さっきもスタッフの人員不足というのもあると思うのですが、やはり身近な、身近に本があるという、こういうのを目指していきたいってなったらそれも一ついい案なのかなって思って。

なかなか人員のスタッフが難しいとは思うのですが、その団体貸出しとか、なかなか外に出れない人たちに対しての図書の配送とかそういうのも考えてもらって、ほしいなと思うのですが、もう一度教育長お願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

今の配送サービスについても会議の中でも話題になりました。ただやはり私たちだけではなく向こう側の状況も出てくるかなということの課題も幾つかあるんだろうと思っておりますが、今の御意見も参考にさせたいとさせていただきたいと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

話は尽きたんで、言いたいことは終わったんですけど。

いやちょっと本当すいません。本当に資料が持ってくるのを忘れて残念ね。ごめんなさいね。

でも私はやはりあれですね。できることならハード面。ハード面をしっかりしてほしい。本当は一つでボンってほしいのですけど、それがなかなかできないのだったら、ウエイブホール内で、ウエイブホール内をもう少し改修してね。もうあれも今年で27年ぐらいがたつのですかね、平成10年に建てられているから。

なので、あそこウエイブホール総合文化会館なんですが、あそこに図書館があるけど「図書館」って書いてないのですよ、どこにも。ちゃんとここ図書館だよというのもしっかりしてほしいなと。

なぜなら私ではないんですけど、ほかの小学校に読み聞かせに行っている方が、そこの小学生から「波佐見町に図書館を作ってください」と言われたみたいです。「だから『あれ？波佐見、図書館あるんだよ』って教えた」とは言ってたんですけど、まだそれだけ認識がされていないということですよね。だからしっかりとハード面的にも、もう波佐見の図書館というのをつくってほしいというのがまず第一なんですが、もっと魅力的なるようにさっき言ったいろんな企画をしてもらいたい。

そのためには人員が必要。目の前のタスクをこなすことでいっぱいいっぱいになっているから、そこをどうにか早く終わってもらうようにここに人員を投入し、ちゃんと図書館としての――図書館って情報の宝庫の場所だから、本当は司書さんのレファレンスで情報と人がつながる。レスポンス――「答え」ですよね、「応答」。レスポンスで人と人までがつながれるようなところなんですよ、図書館って。本来やったら。

そういった本当に価値がある図書館を、波佐見町も本当につくってほしいです。これから徐々に動きはあるって思うんですけど、まだまだ動きが足りないなと思ったら、私諦めることなく粘り強くこの図書館についてやっていくので。もうこれで終わるんですけど。

教育長と町長の２人とも図書館の充実を図っていかんば、っていうのがあらすけん、もう少し図書館に対しての優先度じゃないけど意識を向けてもらって。令和７年、８年度に向けて図書館に対して力を入れていってもらえませんでしょうか。

最後です。よろしくお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

最初あたりにおっしゃったその子供が、図書館がないというのがちょっと私も残念なのですが、実際は全ての小学校２年生で図書館見学は行っています。図書館に来てあそこの図書館でやりとりをするとか、そういうのをやっているんですけれど、なかなかそこの認識がなかったのはちょっと残念であります。

ハード面につきましては、７年度にどういうふうな方向性をとるかについて、方向性について検討を始めるように、町長からも指示を頂いておりますので、７年度についてはどういう在り方が望ましい図書館になるのかということは今後、研究・検討していきたいということを思っております。

私としてはもう現状のまま、現状の中でどういうふうに、よりよいものになっていくかという

ことを確実に少しずつとしか今のところ答弁することできませんが、頑張ります。よろしくお願いいたします。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

教育長がほとんど答弁なさいましたので繰り返しになるとは思いますが。実は私も文化会館を大幅なリニューアルができないかという相談を教育委員会のほうにもしております。いろいろ現在、多用途なものに使われておりますので、すぐにはできないかと思うのですが。今の図書館と、例えば教育委員会事務局のあった広さで比較した場合、何と今の図書館のほうが広いそうなんですよね。事務室のほう広いかと思ったのですけど。もっと入れ替えて、もっと本当にバーンと出て、町民の皆さんが分かるようにしたらどうなのかというふうなこと御提案もしましたが、実はもう今の図書館のほうがスペース的な広いということでございました。

それから今調理室がございますが空いた調理室等が果たしてどれくらい使われているのかもありますし、文化の面でいえば食文化というのも一つありますので、簡単にそこを図書室にということはなかなか難しいかと思いますが。全体的な図書館の機能というものも考慮しながら見直しもしていただきたいなという思いはございます。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

これからの波佐見町の展望を期待して終わりたいと思います。

**○議長（尾上和孝君）**

以上で４番　横山聖代議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。14時35分から再開します。

**午後２時 25 分　休憩**

**午後２時 35 分　再開**

**○議長（尾上和孝君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、９番　福田勝也議員。

**○９番（福田勝也君）**

皆さんこんにちは。それでは通告に従いまして一般質問をいたします。

１．子育て支援について。

全国的に少子化が進む中、国・県・各自治体において、それぞれ子育て支援策が行われている。

本町においても、小中学校の給食費無償化や第二子以降の保育料無償化などが実施され、子育て世帯の支援が行われています。

また、２月21日に開所された「こども家庭センター・よりそっと」は、妊産婦から乳児、幼児、学童児と、保護者や関係者への支援を目的に本町の子育ての拠点として整備されました。

そこで、次のことを問う。

（１）本町のこの30年間の５年ごとの出生数の推移は。また今後の予測は。

（２）本町における妊産期から出産、子育て等に係る支援や給付金等の内容は。

（３）「こども家庭センター・よりそっと」の具体的な業務内容は。

２．学校教育について。

本町では子供たちの学力を伸ばす施策として、学力向上支援員や特別支援教育支援員、スクール・サポート・スタッフなどの人的支援体制の充実、また学校施設の適切な管理として改修工事などを計画的に行い教育環境の充実と維持に努めている。

そこで、次のことを問う。

（１）学力向上支援員など人的支援の配置は、各学校どのように配置されているのか。また、その配置により、どのような成果が見受けられるか。

（２）学校施設の長寿命化計画はどのように計画されているのか。

（３）今後、小学校の統合など学校編成についてはどのように考えるか。

以上、壇上より質問を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

９番　福田勝也議員の御質問についてお答えをいたします。

１．子育て支援についてということで、（１）本町のこの30年間の５年ごとの出生数の推移はということ、また今後の予測はというお尋ねですが、５年ごとの出生数の推移について30年前の平成６年から申し上げます。

平成６年は163人、平成11年は127人、平成16年は134人、平成21年は132人、平成26年は123人、令和元年は116人。令和６年は94人となっており減少傾向ではあるものの出生数はその年によって多少ばらつきがあります。

そこで30年間の出生数のグラフを水色の線は単年で、オレンジの線は５年平均で作成しておりますので御覧ください。

コロナ禍の影響で令和２年以降の出生数が減少していましたが、令和６年は増加に転じています。今後の予測については、国立社会保障人口問題研究所から発表されている将来推計人口によれば、年々出生数が減少することが示されています。

2030年の波佐見町の年齢階層別の人口のデータでは、０歳から４歳までの人口は482人で、2025年の546人と比較すると、64人減少することが予測されています。

（２）本町における妊産期から出産、子育て等に係る支援や給付金等の内容は、とのお尋ねですが、波佐見町の子育て支援策をまとめたものは資料２ページのとおりです。

子育て支援の主なものとして妊娠中の母親に対しては、健康管理や栄養指導、出産準備に関する情報提供を行っており、出産後は育児に関する相談対応として訪問や産後ケア事業を実施しています。

次に子供が成長する過程においては、子供たちが社会性や基本的な生活習慣を身につけることができるよう支援するために、保育所や認定こども園での教育保育サービスが提供できるよう、運営費や施設整備の補助を行っています。

また子育て支援センターにおける、親同士の交流や情報交換の場を設け、孤立感を軽減する取組や、ファミリーサポート事業による育児の援助活動を行っています。

さらに、学齢期になると教育面での支援のほか放課後児童クラブの運営を補助し、共働きや独り親家庭の子供の居場所を確保しています。

このうち給付的な支援としましては、３ページをお願いします。その世帯の状況により異なりますが、出産子育て応援給付金10万円。第三子以降の誕生祝い金10万円。児童手当月額１万～３万円。独り親家庭の小中学校入学祝い金１万円の給付や、高校生までの福祉医療費の助成、学校給食費の無償化、奨学援助を行っています。

（３）「こども家庭センター・よりそっと」の具体的な業務内容はとのお尋ねですが、こども家庭センターは地域で子供や妊産婦などを支援する相談機関です。子育てに関する悩みや課題を持つ家庭に対し、専門職の職員が相談を受け付け、家庭が抱える様々な問題に対して適切なアドバイスや情報提供を行うことが主な業務です。

特に支援が必要な家庭に対する配慮が重要であり、独り親家庭や経済的に困難な状況のある家庭には生活支援や就労支援が必要になることが多く、こうした家庭を支援することで子供たちが安心して成長できる環境を整えることを目指しています。

具体的には支援を必要とする子供や妊産婦に対して、個別の支援計画、サポートプランを作成し、必要に応じて訪問支援を行うとともに支援に関わる関係機関との連絡調整も行ってまいります。

さらに、こども家庭センターのスペースを活用し、子育てに関連する事業を広く行うこととしており、母子健康手帳の交付や、パパ、ママ教室、乳児相談、幼児健診などの母子保健事業をはじめ、チャイルドシートの貸出しや、子育て講座、子育て支援センターきしゃぽっぽを併設するなど、安心して頼れる場を提供し、子育て世帯との顔の見える関係づくりに努めます。

なお令和７年度においては、放課後児童クラブの待機児童を対象に、放課後の居場所として活用する予定としています。

なお、２．学校教育については教育委員会から答弁がございます。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

２．学校教育について。

（１）学力向上支援員など人的支援の配置は、各学校どのように配置しているのか。また、その配置によりどのような成果が見受けられたのかの御質問でございますが、支援員等の配置については一覧表を御覧ください。

学力向上支援員は主に学力に関する支援、特別支援、教育支援員につきましては、授業中の取組や集中に支援を要する児童生徒に対して寄り添うような支援を行っております。ＩＣＴ支援員につきましては、子供たちや先生方がＩＣＴをより授業に生かせるような支援、スクール・サポート・スタッフはプリントの印刷などの業務支援を行ってもらっています。

スクールソーシャルワーカーは不登校など、気になる児童生徒に寄り添い、学校復帰や社会的

自立につながる連絡調整、つながりづくりを担ってもらい、スクールカウンセラーについては専門的知見によるアドバイスを頂いて、不安や悩みを和らげたり解消したりする業務を行ってもらっております。

各支援員ともそれぞれの専門性を持って先生方のサポートをフルに行ってもらい、子供一人一人の実態や状況に応じたきめ細やかな支援を行っていただいており、子供たちのよりよい学びの環境をつくり出してもらっています。

（２）学校施設の長寿命化計画はどのように計画されているのかとのお尋ねでございますが、学校施設の長寿命化計画につきましては、令和２年度に向こう10年間の計画を策定しております。しかし、町内のどの学校施設も完成から築50年近くを迎え、毎年のように改修工事を行っております。

ただ年々人件費、資材費の高騰等、一つの工事費自体が膨れ上がっている状況であり、校舎自体の建て替えを行うか一部改修工事を継続して行うかを比較検討し、より有効な予算の使い方となる改修計画、建て替え計画を策定したいと考えております。

来年度には長寿命化計画の見直し予算を計上させていただいており、今後も予算の有効利用を図りたいと考えております。

（３）今後小学校の統合など学校編成についてはどのように考えているのかとのお尋ねございますが、現在のところ小学校の統廃合については考えておりませんが、本町も人口減少が続いており、その中で児童生徒数の減少は避けては通れないものと思っております。

さらに、先ほど申しました学校施設の建て替えなど、公共施設の適切な維持管理についても考慮しなければならない課題だと認識しております。これらを総合的に判断して、学校編成につきましては、計画的かつ慎重に検討していかなければならない課題だと考えております。

以上、壇上からの答弁を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

それではですね再質問に入っていきたいと思っております。

子育て支援については少子化に伴い、国もいろんな施策を打ち出してきております。最近の報道でも高校の授業料や、小学校の給食費の無償化なども国も具体的に本格的に動き出してきております。

また県や各自治体においても独自の施策を打ち出して、本町におかれましても小中学校の給食費の無償化をほかの自治体よりもいち早く打ち出して、また第二子以降の保育料の無償化なども様々な子育て支援に対しまして力を注がれていることに対しましても深く敬意を表したいと思っております。

これは御紹介されましたこども家庭センターなんですが。今回２月21日に開所された「こども家庭センター・よりそっと」ですが、子育て支援の拠点として妊産婦から乳幼児、幼児、児童児と幅広い子供たちのですね、あと保護者の保護者並びに関係者の支援を目的に整備されております。

そこで開所式ではこども家庭庁の、こどもまんなか宣言の趣旨に賛同されて、その取組を応援するこどもまんなか応援サポーターとなることを宣言されました。「育む・支える・見守る」を合い言葉に、地域みんなでこの取組に賛同、協力し合って推進できればなと思っております。

（１）の出生数の推移についてですが、つい先日２月28日の長崎新聞の記事なのですが、2024年の出生者数が全国で最小の72万人と、９年連続して最少を更新しているということです。これは全都道府県で減少したということになっているようです。本県についても7,534人と過去最少との記事がございました。これは少子化の想定よりも15年も早く加速しているというような状況でございます。

本町におきましても御覧のとおり出生数の推移がございましたが、本町も例外ではないかなというふうに思っております。ここ数年を見ましても、令和５年でこれ一番最小87人ですかね、令和５年ですね。６年が94人と若干上がったような感じなんですが。

一番下のところも５年平均で１年当たり167人からあと130人前後で推移していたところが、令和６年についてはちょうど100人、104人と。前回の令和５年からですね124.8から約年間20人減少しているというふうな状況でございます。

そもそもやはり人口減による出産対象者の分母も減っていきますので、出生者数も自然と減ってくるのは当然かと思うんですが。出生の減少を抑えるために出生率、１家庭で複数出産するようなそのような対策も必要になってこようかと思うんですが。これまでどのような施策をされてきたのか。また今後どのような対策をしていこうとお考えなのか、ちょっとお伺いします。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

一人っ子じゃなくて、兄弟児になるようにということではないかと思うのですが。まず波佐見町ではまず、第三子以降に対してその10万円を給付するということで長らくやっておりまして、今年度から第二子以降の保育料も無償化するとかですね。そういったこと２人目以上ですね、お子さん持っていただきたいというところで始めたところでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

年間ですね、100名前後の出生数かと思うのですが、そのうちですね初産、第一子の出生というのは分かられますか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

ちょっと手元にございませんが、大体100人いらっしゃるうちの30人ぐらいが第三子以降ということで、第三子以降が30人程度ということで、恐らくちょっとうろ覚えですが50人前後が第一子だったかと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

今の出生数の推移ですね。これに対しましては100名前後ということで、ちょっというと教育

委員会の学校の編成とか統合とか配合についても、ちょっとどう推移していくか関連したものですからちょっとお伺いしてみました。

そしたら、これが令和６年度の波佐見町子育て支援施策の一覧でございますが、やはり妊娠、出産、子育て、教育、定住というふうなかたちで様々な支援策を講じられている、していただいておるところでございます。

それと最初にお伺いしたいのが１番、妊娠出産の一番上のところで、妊婦一般健康診査費の助成というものがございますが。これは本町では母子健康診断受診票ということで、妊婦の一般受診の14回分とか、あるいは乳児の一般受診証の２回分とか、そういったものを助成されてるかと思うのですが、その内容をちょっとお伺いしてよろしいですか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

妊娠をされてから出産に至るまでですね時期に応じた成長を確認するための健診が必要になっておりまして、14回までを補助することになっております。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

その補助の金額というのは分かりますか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども。健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

検査内容によって異なりますので、5,000円～１万5,000円ぐらいとかですね。回によっては金額が違っております。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

そこでですね、これは必須項目のところでございますが、これは国の補助事業でしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

国の補助事業ではありません。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

あとですね、妊産期にやはり定期健診をされていますけど、やはり5,000円からいくらかの補助があっているというようなお話もございましたが、この内容については各自治体で変わってきているのか。あるいはほかの近隣の３町あるいは佐世保、佐賀、嬉野、有田とかそういったものに比べて、どのような感じでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

こちらは大体産婦人科で受ける健診になりますので、その産科によって若干内容は異なるかと思うのですが、ある程度県では統一したような内容かと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

いろんな補助をしていただいているようなのですが、やはり定期健診についてもやはり結構自己負担されているようなんですよね。そういったかたちで、今子供たちの医療費というのは全部、現物支給になっているのですが、こういった定期健診――妊産婦のですね。そういった定期健診についても、そういった現物支給的なものができないものかどうかちょっとお伺いします。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

こちらの妊婦健康診査につきましては、基本的には現物給付になっておりまして、例えば里帰りをして県外で受けるとかですね、そういった場合は一旦自己負担をしていただいてという場合はあります。

自己負担が基本的には発生しないのですが、検査項目を追加したり、そういった場合によっては自己負担を求められることはございます。ただ来年度からですね、少しその内容を見直して、妊娠の初期に子宮頸がんを受けていただくとか、そういったものがもう公費負担になってきますので、若干ですね来年度は変わってくることでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

そういった妊産婦の治療費についてもですね、やはり特別な検診の内容によって、そういった自己負担が出てくるというふうな回答いただきましたが、そういったものも含めて、やはり大事な妊産婦の方ですので、そういった方もやはり自己負担がかからないような対応もしていただければかな、というふうに思っております。

あとやはり一応出産の育児一時金、50万円ですね。やはり市町村あるいは社会保険のほうから出産に係る分娩費用ということで支給されているのですが、そもそもそういったかたちはこの出産費用も50万円以上かかっておりますんで、これはもう出産費用に当たるのかなって思ってるんですが。

あと出産する前に、やはり第一子を産まれる家庭においてはですね、いろんな準備をしなければいけないかと思うんですね。やはり車に取り付けるチャイルドシートとか、あるいはベビーカーとかですね。あとは衣類もそうですけどあと抱っこ紐とか。

そういったいろいろそろえるものが結構多いかと思うのですよね。家庭によってはですねやはり空気清浄機であったり、あるいは加湿器であったりですね、そういったものもやはり準備するように相当な費用がかかっているかと思うのですが。

やはり妊婦子育て家庭は皆様が安心して出産、子育てができる環境整備の一環で経済的な支援として、出産応援寄附金ですかね。そういったものが５万円支給されていると思いますが。やはりこの出産応援交付金５万円だけじゃですね、なかなか足らないかと思うのですよね。やはりチャイルドシートの購入費の一部にしかならないんです。

このような初産を控えている妊婦さんに出産の準備支援金として、そういった支援の考えはな

いでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

初産に限ってというところでは、特に今のところ検討はしておりません。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

この出産応援交付金５万円なんですが、子育て応援交付金も同じ５万円。産後に５万円、合わせて10万円あるんですが、これはこの事業は国の補助事業で国の交付が３分の２、県が６分の１で、自治体で６分の１というふうな支援事業かと思うのですが、やはり町独自として、そういった第一子に限ってですけど、そういうふうな初産に限ってですけど、10万円あるいは20万円とか15万円とかですよ。そういうふうな準備のかかる費用の負担を抑えるために、そういった支援ができないかというふうに思っていますが。

やはり先ほど第一子の出生というのが約50名というふうなかたちですので、やはり10万円したところでしてですね、５年間500万円、15万円にして750万円というふうな補助内容に予算になろうかと思いますが、そのような考えできないでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

財源の確保ができるのであれば、そういったことも可能かと思うのですが、今回その誕生祝い金も何年も同じ金額10万円でさせていただいていて、その辺の増額だったりあるいは拡大とかですねそういったことを検討はしましたが、そのあたりでちょっと財源の確保ができないということで取下げをさせていただいている状況です。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

あとですね、最近では無痛分娩の出産をされている方も増えてきておるようです。本町では妊婦さんの出産、育児の見通しを立てるために伴走型相談支援を推進されているかと思います。

妊婦届時と妊娠８か月頃、またあと出産後の３回に分けてされてると思うのですが、妊娠８か月頃に、その相談時に普通分娩でされるのか、あるいは帝王切開なのか、あるいはもう無痛分娩を予定されているかとか、そういったアンケートなりそういった聞き取り調査されているのか。また実際、産後にどのような出産体系だったのかというのを調査されているのかどうかお伺いします。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

そのような出産の方法について聞き取りを行っているかどうかちょっと私のほうは把握はしておりませんが、１回、第一子を帝王切開した後はその後も帝王切開しなければならないとかですね、そういったものはあるかと思います。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

そうですね。ちょっとこう調べたら、分娩件数に対して帝王切開の率とかあるいは帝王切開を除く無痛分娩。平成23年は一般病棟ではですね、分娩件数に対して24.1％が帝王切開というふうな数字が出ております。帝王切開を除く無痛分娩については、令和２年からのデータしかありませんでしたが9.4％――約10％程度ですね。

令和５年については13.2％というふうな形で、やはり無痛分娩の意識もちょっと高まってきているようなんですが、今それとあと無痛分娩の追加費用としましてはですね、やはり10万円から15万円。高いところで大体20万円ほどかかるらしいのですが、東京都では25年から無痛分娩の費用も上限10万円として助成が始まるようです。

またいろんな群馬県の下仁田町とか、あるいはほかの自治体においてもそのような動きが出ているようですが、本町でも無痛分娩の費用の助成をするようなお考えはできないでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

先ほど申し上げましたとおり、そのどのような分娩をされるかというところの把握を、まずしっかり行うことからかと思いますので、そういった状況を見たところで検討といいますか、研究をさせていただければと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

先ほどの答弁で、やはり予算があれば、そういったいろんな対策も施策のほうも考えていきたいというふうなお話がございましたが、今国会で言われています2026年度から小学校の給食費の無償化が国会で審議されております。

中学校においても速やかに対応していきたいというふうな報道があっておりますが、本町においてはほかの自治体よりもいち早く小中学校の給食費の無償化を取り組まれておりますが。この給食費の予算についても今年度も6,280万円、6,400万円ですかね。その程度ですね予算組まれておるんですが、そういった予算が今回この無償化、国の施策によって無償化された場合は、こういった給食費の今6,000万円以上の負担をしているところでできると思うのですが、そこら辺はいかがお考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

もしその給食費を国がみていただける、というところで財源が確保できれば、まず第１としてはこちらの要望としましては保育料の無償化ですね、第一子からの無償化をさせていただきたいなということで思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

その予算化というのが、今の無償化とか給食費の無償化が6,000万円ほどあるのですが、この第一子の保育料の無償化をしたときに、どのぐらいの予算になるのか分かりますでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

第一子だけっていいますか、全ての子供さんの分ということで言いますと、5,000万円ぐらいはかかるようになります。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

第一子以降全員分ということで5,000万の予算ということですよね。ですので、半分近くが増えるというふうな考えになろうかと思うんですが。やはり今言いました出産の準備、提案しました準備支援金ですね。これを第一子が50名として、10万円したときに500万円ですね。さっきもお話ししましたけど。

それと、あと無痛分娩の費用についても100名の方の３割程度が希望したというところで10万円で考えると、300万円ですね。

あと妊産婦の医療費の完全現物支給というふうなところを考えても、やはり1,000万円程度でできるのではないかなと思うんですが。そういったところも、やはり第一子の保育料の無償化も優先的にしてもらってもいいのですが。もうそういった子供を産みやすい環境をつくるというところも大事になってこようかと思うのですが。こういった予算的なこともあるでしょうけど、そういったところをどうお考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

子供さんが産みやすいというところもありますが、育てやすいというところにも重きを置かなければいけないのかなというふうに思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

やはり出生数の減少を見ましてもやはり負担にならないような、やはり無痛分娩の費用についても第一子のときに難産だったからちょっと第二子、第三子をちょっと諦めようというふうな方々もいるかもしれませんよね。

ですんで、やはり無痛分娩であればやはり第二子を望んでみようとか。そういうふうなかたちで今の出生数の推移を見ましても、もう100人を切っていっているような状況なんですよね。そういったことからやはり産みやすい環境をつくることもしていかなければ、生まれてからの支援はもちろん分かるんですが、産まれる、産むような支援も必要になってこようかと思いますけど、もう一度そういったところをお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

産むときだけ時だけとは申しませんが、御不安とか負担を軽減するのは一つの考え方であるかと思いますが、産むかどうかという判断するときに、出産が軽く済むから産むというわけじゃないと思います。

その後、成人をされるまで子育てをするというところで、何人子供を産むかとかそういう、ここで産んでいいかとかですねそういう判断をされるかと思いますので、そういうトータルなところを含めて子育て支援のほうは考えてまいりたいというふうに思います。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

それでは３番目の「こども家庭センター・よりそっと」の質問に入りたいと思いますが。２月21日に開所された「こども家庭センター・よりそっと」ですが、旧庁舎の新館を利用して約２億6,000万円ほどの予算費をかけて、改装してすばらしい施設ができております。

これは子育て支援、親御さんたちの集いの場としても、またママ友の交流の場所としても意義のある施設になってくると思っております。

この施設の利用については何か制限とか規約的なもの。いつでも相談事やママ友の集いの場として、いつでも交流できるのか。そういったことをちょっとお伺いします。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

基本的には相談機関なので受入れをできる体制を整えたいと思っているところです。一部ですね「きしゃぽっぽ」という子育て支援センターを持ってまいりますので、そちらのほうに関しては未就園児のお子様とその保護者の方が基本的に利用できる施設となっておりますので、若干一部においては利用できる時間帯や場所が限られることもございます。

答弁にも申し上げましたが来年度、放課後児童クラブの待機児童対策で、お子様をお預かりするスペースが必要になってまいりますので、そちらにどのくらい手がかかるかといいますかですね。結構にぎやかなお子さんたちだと、ほかの御利用の方に御迷惑がかかるなど、そういうことがありまして、いつでも誰でもどうぞって今なかなかこう言えないところがあって。そこの辺でですね状況を見ながら、例えば小学生がいない時間帯午前中とか、小学生が来るまでの時間帯で集まれる場所になればいいなというふうに思っているところです。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

もう一度答弁の２枚目ですね。支援策の一覧のほうをお願いしたい。この画面で妊娠出産の一番下のところですね。チャイルドシートの貸与もされているというようなところで。今度このこども家庭センターでもですね、されるというふうなことありましたが。

大変すばらしく、現在でもチャイルドシートの貸与をされているようなんですけど。この貸与されているチャイルドシートはどのように保有されたというか、どっから持ってこられたのかどうかお伺いします。それで今いくつこう保有されて、保有とか管理されて貸出しをどのぐらいされている、そういうふうな状況をちょっとお伺いします。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

チャイルドシートも耐用年数がございまして二、三年前に確認したらですね、かなり期限切れ

のものがあって、順次更新をしたところなんですが。そういったものは町の予算で購入したものもございますし、あるいは小学校のアルミ缶回収とか、そういったものの寄附の一部をチャイルドシートの購入に充てさせていただいてということで活用しております。

今大体、10台ほど保有しております。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

13台のうち何台今貸し出されてる、その利用状況とか、そういったものはどういうふうになってますか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

この利用は主に里帰りでお子さんが帰ってきたとか、そういった場合や、あるいは双子ちゃん三つ子ちゃんなんかの御家庭なんかはですね、優先的に長期に渡って貸し出すとかそういうことをしておりまして、今ちょっとシーズンオフの時期で、今見たら８台ぐらいまだ残っている、今センターにありました。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

このこども家庭センターですね。結構すばらしいスペースもございまして、こういったチャイルドシートの貸出しをやってますよというふうなかたちで展示してですよ、目に見て分かるようにしてもらえれば、利用者の方も貸出しもやってるんだと、いうふうなところも分かりますし。

また、今のものについては予算で買うとか、いろいろされているというふうなところなんですが。子育てが終わった家庭、そういったもののところから、そういったもう不要になったので、どうぞ使ってどうでしょうかということで頂くというかですね。そういうふうなところもできると思うのですが。そういった再利用ですね、ＳＤＧｓとしても有効活用できるかと思うんですが。そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

先ほど御提案いただきました目に見えるかたちで貸出しをしてるというところはですね、取り組みたいと思います。リサイクルといいますか再利用というところも、もともとはそういったかたちで頂いたものをお貸しするということでしておりましたが、耐用年数の問題がございますので、もし今後もそういった御提示があったとしても、そのあたりを確認しながらになるかと思います。

あわせてこちらで発言させていただければ、絵本とか家庭に使っていない絵本のようなものがございましたら家庭センターでも集めさせていただいて、町民の皆さんに読んでいただくコーナーとかに置かせていただければなというように思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

１．子育て支援についてはですね、以上なんですが。

最後にちょっと町長にお伺いしたいと思いますけど、やはり現在子育て支援については乳幼児から高校生まで、医療費の現物支給あと保育料や給食の無償化、放課後クラブの充実、あと高校生の授業料無料化とか、あるいは毎月の児童手当の拡充など様々支援給付がなされております。

生まれてからの様々な費用の負担軽減や給付についての支援は充実してきており、子育てしやすい環境づくりは整ってきたと思うのですが、やはり今先ほど申しましたとおり、産まれるまでの妊産期、出産についてもまだまだ課題は多くありそうだと思っております。

やはり妊産婦の健診などの医療費の負担軽減を図るための現物支給とか、あるいは第一子が難産だったための、第二子の無痛分娩の費用の補助とかですね。あるいはその出産にわたる準備支援金。そういったものもあろうかと思います。これから産みやすい環境づくりの整備についても検討していただきたいなと思っております。

町長はいつも選ばれるまちづくりとして、ほかの自治体よりもいち早く小中学校の給食費の無償化にも動き出されました。産みやすい環境づくりの整備をすることによって、若い世代とか、子育て世代からも選ばれるまちとして、移住定住者も増えてくるかと思うのですがいかがお考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

確かに産まれた後の支援ばかりでなく、その前の出産期における出産期前の支援もしっかりしたと。おっしゃるとおりでございます。今回の予算書を皆様御覧なったかと思います。まず認定こども園や私立保育所の施設運営費委託費。この合計が昨年度から１億4,500万円増の８億2,900万円、約８億3,000万円ほどに増えているんですよ。

これは例えば保育士さんの処遇改善であるとか、いろんな単価の見直しでそういったものでかなり増えております。ですから先ほど課長のほうが保育料の第一子無償化を申しましたが、それで5,000万円かかると言いましたが、こういったもろもろの費用も増えてきとるわけですね。

これは今後減る見込みはございませんので、さらにいろいろ今後人件費等の上昇が見込まれれば、１年ごとにかなりの増額が見込まれるわけですね。ですから給食費が国で面倒見るよと言っても、その分の手だてとしてこちらに充当しなければならないという部分も出てこようかと思います。

時期、時期に応じて、どのような対策が一番波佐見町にとって住みやすいまちになるのかということを検討しながら進めてまいりたいと思いますし。実は二、三日前の長崎新聞に書いてありましたし、あるいは県からの情報もありましたが、長崎県の移動人口調査ですね。これが令和６年度はですね本町は――自然動態ですね。出生と死亡、これについてはもう確実に減っております。生まれる方は90何人、亡くなる方は200何人ですから、100人以上の減となっています。

ただし、転入転出で考えます社会動態につきましては、本町は74人の増加というふうになっておりまして、これは大村市、諫早市に次いで３番目に多い数値となっておりますので、いろいろな施策が功を奏したのではないかなというふうに自分では捉えております。

そういったものもよくもう一度振り返りながらですね、今後の施策については反映してまいりたいというように思います。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

それでは次の２番の学校教育についてお伺いしていきたいと思います。

（１）の学力向上支援員などの人的配置についてはですね、表を使って答弁ございましたが、各学校の今の配置環境で十分と思われるのか。また今後、その支援員の拡充をする考えはあるのか。お伺いします。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

各学校の実態状況を踏まえればこれで良いとは思っておりませんが、予算的なこともありますので、現状を維持することで、次年度以降も関わっていきたいなということを思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

そうですね。７年度の当初予算の概要でも学校支援員配置事業、ＡＬＴとか特別支援教育支援員等として4,865万円の予算を組まれております。予算書では事務局費の報酬として会計年度任用職員27名で、28名かな、で5,838万2,000円の中に含まれていると思うんですが、この支援員の報酬費国から幾らか補助があっているのか。あるいは自主財源のみで歳出してるのか、そこあたりをお伺いします。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

ごく一部上ですね助成がございます。学力向上支援員だったかなについて一部ございます。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

こういった人的支援については、先生方がきめ細かく子供たちに向き合い、授業学習しやすいようにで学習向上支援員とか、特別支援員、サポートスタッフを配置されていると思うのですが。またふるさと応援基金を活用して、学力向上対策事業として標準学力調査、英検、漢検でですね、また英語力の向上などの基礎学力の向上に向けて対策されておりますが。こういった多額の予算をかけて、なかなか成果も見受けられないように感じているのですが、学校にはどのような御指導をなされているのかちょっとお伺いします。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

来年度につきましては、スクール・サポート・スタッフを各学校１名ということで増員いただいた。これによって現段階での人的体制につきましては、もう十分ではないかなということを思っております。

今、議員御指摘のとおり、本当に様々な教育環境、教育条件的には波佐見町大変すばらしいも

のがあると思っておりますが、その成果という点で問われたときに責任を痛感するほど感じておりますが、各学校のほうにもそれぞれの特色を生かしながら、自分たちの学校の特色を生かしながら、様々な取組を行うことに対して積極的に支援をしていきたい。

学校の思いを優先しながらも、私たちがサポートをして子供たちの健全育成学力向上につなげていけたらなということを願っております。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

次にもう時間もございませんので、（２）と（３）はですね共通してですね、一緒にお話ししていきたいと思いますが。

まず学校の施設整備長寿命化計画なんですが、中学校の校舎を始め各小学校も築50年を迎えようとしておりますが、７年度の予算でも各小学校で照明のＬＥＤ化とか、バリアフリー化ということで、それぞれですね2,000万円ほどの改修費を予定され、中学校においてもですね体育館の空調も含めて7,500万円ほどの予算が計上、計画されております。また今後もさっきの長寿命化の計画において、大規模な改修工事が計画されてくると思います。

ただ学校施設もやはり一つの学校で校舎、体育館、プール、グラウンドとやはり各学校に４つの管理施設がございます。これが４つの、中学校１つと小学校３つとなれば16か所もの施設が、管理施設があるということになるのですが、今後のこの設計業務ですたいね。今からのですね。そういったものが教育委員会にいないということで、やはり事務の仕事も大変になるんじゃないかなというところで、私もこの一般質問通告したところでございます。

先日の臨時会において、波佐見課設置条例の改定で施設整備室というものが設けられるようになって、ちょっと一安心したところでございます。

また今後は長寿命化の改修工事ということで、この改修費用についても相当な予算が予想されることもあったもので、このような一般般質問をしたところなんですが。今年度の答弁でもありましたが、７年度の予算書で学校施設等長寿命化計画改定業務委託料というようなかたちで、計画的にこちらのほうで調査を進めて、今後の在り方について調査されるというふうなところは見受けられましたので、こういったところを本当今後見ていただきたいなと思っております。

この委託なんですけど、大体いつぐらいまでを計画されてるのかちょっとお伺いします。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

今度、現在あります長寿命化計画の見直しということで、現在ある計画は令和２年度に整備しまして３年から10年間ということでしております。

また今度途中から、そういったところでまた今後の後建て替えを見据えたところで、少なくとも10年先まではちょっと見越してしたいとは思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　福田議員。

**○９番（福田勝也君）**

先ほどの子供の出生率の問題もございまして、やはり100名切るような状況になっております

が、今後の学校の統合とか編制等も含めてこの学校施設の長寿命化計画改定業務委託というのは、そこら辺まで計画されていくのかどうかちょっとお伺いします。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

出生数の状況によりまして各学校の今後５年間、10年間の児童生徒数の推移が大体分かっておりますので、その中で一つの目安とすれば、例えば児童数が100名とか、あるいは複式学級が始まったなどのときには、その必要性、協議、検討の必要性が生まれてくるだろうということを予想しておりますので。それを見越しながらやっていきたいと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**

以上で、９番　福田勝也議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。15時45分から再開します。

**午後３時 35 分　休憩**

**午後３時 45 分　再開**

**○議長（尾上和孝君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、８番　城後光議員。

**○８番（城後光君）**

皆さんこんにちは。通告に従い一般質問を行います。

１．町職員の就業環境改善について。

全国的な賃金上昇に伴い、民間企業や他自治体との採用競争が激化し、本町でも応募者の減少、内定辞退、早期退職が増加しています。一方で委任事務等の増加により、職員全体の総業務量が増え、残業時間も高止まりしています。

そこで次のことについて問います。

（１）職員の確保と定着、現状の課題認識と、他自治体や民間企業との競争において、本町が選ばれるための施策は何でしょうか。

（２）業務効率化や給与・勤務時間・休暇制度の見直しなど、今後の具体的な対応策はどういうものでしょうか。

（３）管理職手当・通勤手当や会計年度任用職員さんの給与水準は、周辺自治体と比べてどうでしょうか。

２．波佐見焼産業の振興について。

本町の基幹産業である窯業は、物価高騰や業界の縮小による人材不足、特に陶石採石や機械製造・維持の事業者減少など深刻な課題に直面しています。

また、核家族化や生活スタイルの変化により、食器の消費動向や流通形態も変化し、波佐見焼に関わる業界は大きな転換期を迎えています。そこで次のことを問います。

（１）町として、窯業界の将来像をどう描き、産業維持のためにどう支援を行う考えですか。

（２）地場産業発展のために、民間事業者や町民に期待する役割はどういうものでしょうか。

（３）新たな担い手確保のための美術系大学や高校とのさらなる連携強化の考えはありますか。

（４）「長崎県窯業技術センター」に対して、どのような役割を期待していますか。

以上、壇上からの質問を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

８番　城後光議員の御質問についてお答えをいたします。

１．町職員の就業環境改善についてということで、まず（１）職員の確保と定着、現状の課題認識と、他自治体や民間企業との競争において、本町が選ばれるための施策は何かとのお尋ねですが。少子化の進展に伴う若年層の人口減少に起因して、より良い人材を確保するため魅力的な採用条件を提示するなど、官民問わず若手職員を確保する競争が激化しています。

また、最近の若年層の傾向としてワークライフバランスや自身のスキルアップを重視して仕事を選ぶ傾向があり、公務員は比較的安定した雇用環境が人気である一方、苦情が多い、昇給が遅い、自分の能力を発揮できないなど、民間企業に比べ魅力を感じない若年層が増えているものと言われています。

本町においても例外ではなく、１回の試験当たりの応募人数は令和元年度の平均21.0人から、令和６年度は平均9.4人に減少している上、求める人材の応募も少ない状況です。

また、職員の定着状況ですが、ここ５年間の採用人員は31人に対して、自己都合で退職した職員は19人であり、以前と比べると退職者数は増加傾向であり、全国的な傾向が本町でも顕著であると言えると思います。そこで、本町が選ばれるための施策は何かとのお尋ねですが、大きく３つの視点があると考えています。

１つ目は、役場職員は社会貢献・まちづくりとして魅力ある職種であることをさらにアピールする必要があると思います。

２つ目としては、働き方改革をはじめとする職場環境の改善をさらに進める必要があります。

３つ目として、窓口改革をはじめとする自治体ＤＸによる業務効率化を進め、職員の能力を発揮できる環境を整えることだと考えています。

近年は地方公務員、とりわけ小さい役場、役所は給与が上がらない割に苦情が多い、仕事が多い、残業が多い、いわゆるブラック職場と評されることも散見されるようになりました。若い世代はＳＮＳ等で情報収集にたけており、悪評が定着すると払拭するのが難しいと言われていますので、魅力ある職場づくりを進めるとともに、アピールを行い若い方々に認知していただけるよう努めてまいりたいと考えています。

（２）業務効率化や給与、勤務時間、休暇制度の見直しなど今後の具体的な対応策はとのお尋ねですが。まず業務効率化については、これまでＬｏＧｏチャット、庶務管理システム、文書管理システム、契約管理システムなどの導入を行い、一定の成果が上がっています。

また母子手帳アプリ「はちゃぼ」や電子申請システムの導入、ホームページのリニューアルや施設予約管理システムの公開など、外部接続系業務の改善も進めています。

さらに、窓口改革をはじめとする自治体ＤＸを進めており、ＤＸの基盤となる役場そのものの業務フローや内容に踏み込んで検討を重ねており、コンビニ交付、キャッシュレス決済や、死亡された際の手続案内統一など実現している項目も多くあります。これら業務効率化は行政運営上、最重要課題の一つでありますので、継続して取り組んでまいりたいと考えています。

次に給与、勤務時間、休暇制度の見直しですが、我々地方公務員は法令に従って給与や福利厚生が定められており、国においても制度改革は進められていますので、それらを遅滞なく実施するなど対応は行っています。

またこの介護休暇の対象年齢拡大や、夏季休暇の日数など町の裁量で決定できる項目については、職員組合との協議も踏まえ、改善できるところは実施しているところです。

（３）管理職手当、通勤手当や会計年度任用職員の給与水準は、周辺自治体と比較してどうかとのお尋ねですが。管理職手当については、地方自治法の規定に基づき、それぞれの地方自治体の条例で定めるようになっています。

本町の管理職手当の額は、県内の町の規模では、若干低い水準ですが、東彼３町では、ほぼ同額となっています。一方で通勤手当は国家公務員の制度と同じ内容で定めており、独自の項目はありません。

また会計年度任用職員についても国の通知やガイドラインに従って、給与水準、休暇等の制度に定めており、令和６年度から勤勉手当の支給や給与改定時の遡及支給など、一般職と同様の制度の改正を行ったところです。

そこで会計年度任用職員制度についても周辺自治体と詳しく比較は行っていませんが、用いる給料表や、休暇の種類、日数等は同じ制度内容と認識しています。ただし資格を有する職員の初任給の格付に差があるようですが、本町では既に再度雇用年限の上限撤廃や、各種手当の対象となる雇用職種の拡大など一定の改善を行っているところです。

一方で、複雑多様化する行政需要の中、会計年度任用職員数は増加傾向で、財政上の負担も増していると認識しています。既に会計年度任用職員は一般職種と同じ貴重な職員ですので、責任ある業務分担など一人一人の能力が発揮できる環境を整えたいと考えています。

２．波佐見焼産業の振興についてということで、（１）町として窯業界の将来像をどう描き、産業維持のためにどう支援を行う考えかとのお尋ねですが。現在、燃料費・資材価格・人件費の高騰に加え、金利の引上げなど本町の窯業界を取り巻く環境は大変厳しい状況下にあると思います。また流通の仕組みも様変わりするとともに、これまで波佐見焼の販売の主流であった大消費地での販売も減少しています。

窯業界の将来像と産地維持のための支援についてのお尋ねですが、将来を見ても内需がますます縮小することは明らかであり、なおかつ、先ほど述べた要員が収束することも見通せない状況であることから、これからの窯業界の生産体制の維持について非常に危機感を感じています。

今後、窯業界が安定的に生産体制を維持するためには、これまでの知名度向上、販路拡大や人材確保にとどまらず、価格転嫁を進めながら、生産体制の効率化などを図る必要があると考えています。

支援につきましては、各組合とそれぞれの課題や今後の対策について意見聴取を行い、国や県と協力してしかるべき支援策を検討していきたいと考えています。

（２）地場産業発展のために民間事業者や町民に期待する役割は、とのお尋ねですが。先ほど述べましたように、窯業界を取り巻く環境は様々な要因から大変厳しい状況下にあると考えていますが、幸いに窯業界の若手を中心に、次の波佐見焼の在り方や仕組みづくりに関する議論が行われています。また東彼商工会の若手も同様に、地域を盛り上げるための取組も検討されています。

本町には基幹産業である窯業と農業といって、これまで培われてきた連携や協力といった文化が根づいており、これまでも民間事業者、町民の皆様が連携し、それぞれの立場や視点から問題解決のための知恵や意見を出していただきながら産業の振興が図られてまいりました。

これまでと同様、窯業の振興やまちづくりについて、行政と情報共有をしながら方向性を同じくして、題解決のために主体となって取り組んでいただくことを期待しております。

（３）新たな担い手確保のための美術系大学・高校とのさらなる連携強化の考えはとのお尋ねですが、現在、新たな担い手確保対策として、美術系大学生を対象にしたサクセッサー養成講座を波佐見焼振興会が開催しています。この事業は大学・短期大学・専門学校の陶芸家、プロダクトデザイン科などの焼き物製造に関係のある学科の学生を対象として、波佐見焼の歴史・製造工程・製造現場及びデザイン・特徴などを座学や実演を通して捉えることで、波佐見焼の後継者の確保を目指す取組です。令和５年度は京都伝統工芸大学で開催され受講者55名で、そのうち１名が町内窯元へ就職内定を得ることができています。

高校の連携としては、波佐見高校の美術工芸科に依頼して毎年陶器まつりのポスター製作に御協力頂いております。美術系大学と高校とのさらなる連携強化の考えはとのお尋ねですが、窯業人材の確保や新商品の開発、産地のＰＲなど様々な分野で美術系大学や波佐見高校の美術工芸科との連携は今後ますます重要となってくるものと考えています。

業界団体との意見交換を行いながら、連携強化への支援などについても行っていきたいと思います。

（４）「長崎県窯業技術センター」に対してどのような役割を期待しているのか、とのお尋ねですが。長崎県窯業技術センターは、昭和５年に「長崎県窯業指導所」として設立され、その後幾多の変革を経ながらも、産地のニーズに応じて技術相談・支援や依頼分析、試験、調査、研究開発、人材育成、技術情報の提供などを行っていただいております。

町内の窯業関係事業者からの技術相談等については、研究機関として研究結果や新たな技術など惜しみなく御提供頂いております。特に本町における長年の課題であった廃石膏型の取組については、石膏型のリサイクル方法や石膏型リサイクル事業におけるお土産品開発など、試験及び調査について御協力頂いております。

これまでの御貢献もさることながら、新しい消費者ニーズに即した新たな波佐見焼の商品開発や生産工程における省力化、新技術の研究などまだまだお力添えいただきたいと考えている次第です。

以上で、壇上からの答弁を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

縷々答弁いただきましたけど、これから私特に何を聞きたいかというと、今まで同僚議員も質問されてましたが、町の担う地場産業である窯業界の担当されてる商工観光課、非常に業務が今煩雑化していると思いますので、ぜひ負荷分散していただいて、もっと窯業界に特化して寄り添っていただける環境をつくってほしい。その一心でいろいろ聞いていきたいと思います。

まず町長にお伺いするんですが、町長公約からですね自治体ＤＸの取組を進めたいというふうにおっしゃいまして、その中でまちづくりの方向性としてですね、これ長崎新聞の９月14日選挙終わって直後のインタビュー記事で、「住む人も来る人もわくわくするまちを目指す」というふうに答えていらっしゃいました。

自治体ＤＸってやはりその第一義的には、職員さんがもっと働きやすくなる環境をつくることが一番大事かと思うのですが、これまでいろいろ取り組まれてると思うんですが、実際目立ったというか、町長が感じられる中でこの取組の成果というものは上がっていらっしゃいますでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）というのは単なるデジタル化ではなくて――必ずしもデジタル化ではないと思うんですね。アナログであっても縦、横、斜め、双方の波及効果が結べるような取組が重要だと思うんですね。

その中でこの二、三年は、やはり職員の意識改革が一番重要だということで、各種研修に取り組んできました。いろいろお招きしながらお話を聞いて、その中では大分理解したつもりでも、やはりふだんの仕事に戻るとそちらに追われて、なかなかＤＸの取組が進まなかったという当初１年ぐらいはありましたが、ここやはり最近になりまして、基幹システムの標準化なり、あるいはもうお尻が限られてる部分ありますので、職員の意識も大分変わりました。それぞれの新たな窓口班だとかそういった班をつくりながら自分たちでどのようなことができるか、競って先進地の視察に行ったりして業務改善を図ろう、あるいは職場環境の改善を図ろう、という意識が見えてきておりますので。そういったものは随分進んできたのかなというふうな思いでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

意識改革が一番大事な部分だと思いますのでそこが進んでるということは非常に大事なすばらしいことだなと思います。それで具体的に担当課のほうでいろいろ自治体ＤＸの取組をされたと思うのですが、何かしら数値的な部分とか目に見えて業務的にこういうのは改善しただろうという部分があれば全体的な部分で教えていただければと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

先ほど町長も答弁されましたように、マインドセットとか、サービスデザイン。あと働き方の再デザインといったそういった研修を受けてきました。そして意識が大分改革をしてまいりました。

ただ、先ほど城後議員も言われましたように、職員が楽になるというのと同時に、住民サービスも、住民のほうからも便利にならないと、これはもう両方両立だと思っております。そういう中で一番数字的に――今は数字を持ち合わせていませんけど。数字的に楽になってるんじゃないかと思うのはですね、やはりコンビニ交付で窓口に来る人がやはりその分減ったというのは、如実にあらわれているのではないかなと思っております。

あと職員間のコミュニケーションツールとしてチャットあたりの導入というのも、かなり有効に利いてきているのではないかなというふうに考えているところであります。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

まずですね、ちょっと業務が改善するとか以前にちょっと振り返ってみたいと思うんですけど、決算書を見ていろいろ数値並べかえてみました。

平成30年度は一般会計の歳出のこれ決算の数字だったと思うんですけど、決算で69億4,520万円、約69億4,000万円だったのが令和６年度の一般会計の補正で、約104億円になってるわけですよ。単純に考えて平成30年度からしたら50.9％増えてるわけですね、69億の数字からでいうとパーセンテージこれぐらい増えてます。

職員さんの数。これは一般会計の正職員の数なんですけど平成30年が92人だったのが、98人。まあ６％。かなりやはり少ない人数で多岐にわたる業務をやられている。先ほど子ども・健康保険課の業務一覧ありましたけど、一つの課でもあれだけたくさんの業務をなされている。

その中で国の人事院勧告等があって、大卒の初任給は17万9,200円から19万6,200円に上がってます。ていうのは国のほうとしても、若年層を確保するために上げたほうがいいんじゃないですかといういろんな経過から上がってると思います。

ただこれ職員さん、組合からも長年提示要望されてると思うんですけど、先ほどもちょっと答弁あったんですけど、通勤手当ですね。これは変わってません。なので、当然ながら国が変えれない部分は分かります。ただガソリン代もこれだけ高騰している中で、駐車場見ていただければ分かるとおり、職員さん皆さん車でかなり移動されてるので、何らかの対応、要するにガソリン代に対して何らかの対応をしないと、そもそも手取りの手に入ってくる給与というか、お金は減ってくると思うんですけど、そのあたりはいかがお考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

まず各種手当についてでございますが、我々地方公務員は国の人事院勧告あるいは国家公務員に準じて定めております。そこで通勤手当も同じように国の制度に準じてやっているわけでございまして、町長答弁があったとおりそのほかの独自のことはございません。職員組合からも先ほどおっしゃったような、ガソリン価格の高騰について配慮してほしいということは十分分かるん

ですが、やはりそもそもほかの手当、勤勉手当とか、地域手当、住居手当についても国に準じておりますので、これだけ特別扱いはできないというのが実情です。

職員組合にも言っているのですが、こういった状況であれば、やはり国のほうで制度は十分見直してほしいということ。そして職員の方には大変申し訳ないとは思うのですが、やはり自らの住所は自ら決められたというような経過もありますので、そこのバランスを考えると今の制度では致し方ないのかなというふうに考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

そこは仕方ないという形で。ただですね、これだけ就業環境が車が必要で、見ていただいても駐車場もかなり整備されているので、何らか引き続き――これだけガソリン代が恒常的に上がってる状況は鑑みて、定期的な、待遇じゃなくても何らかの部分で改善できる方法は考えていただきたいなと思います。

ではですね、先ほど答弁があったんですけど、職員の採用状況についてちょっとお伺いしたいんですけど。この５年間ですね、職員の採用応募数、採用数、辞退数――内定辞退数ですね。退職数分かる範囲で構いませんが大体どれぐらいの推移か教えてください。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

まず採用については町長が申したとおり年々減っております。多いときで町長が申したとおり年に数十人という程度でございましたが、近年は9.4人という状況でございまして、１回当たり受けていただく方が減っているという状況はかわりません。

そこで内定者については、この５年間で６名の方が内定を出した後、合格を出した後に、辞退をされてるという状況でございます。一方で退職された方はこの５年間で24名。そしていわゆる依願退職、自主都合が19名で、定年退職が５名という状況でございまして、かなり入れ替わりが激しいという状況でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

広報はさみに７月、８月ぐらいに人事評価に関して広報されているやつをピックアップしましたので、先ほど町長答弁があった数字と全く一緒じゃないことはちょっと御理解いただきたいです。

それで見ると平成30年に実績的に６人辞められていて、平成５年は３人辞められてるという形。この７月、８月の数字でそれぐらいですね。これ７年間ですね。先ほどの数字と若干違いますが、要するに30人。私が持ってきた数字から30人退職されていて、採用数は36名になってました。この数字の中でです。

今後ですね、一時期多分波佐見町で職員さんを採用されてない時期があったので、定年退職をされる方がある程度出ていく、減っていくと思うのですよね。採用されてない分。なので、採用をある程度していかないと多分人員が供給、賄えないかたちになっていくと思うんですけど。

やはり先ほどから言われてるとおり、若年層がなかなか公務員自体を選ばない。なおかつ選ぶんだったらより給料がいいところに行くというかたちをやはりどうしてもとっていくには、本当におっしゃるとおり職員さんの働き方をいかによくして、波佐見町で働きやすい環境というのをつくっていかないと、多分定着していかないと思いますが。

分かる範囲で教えていただきたいのですけど、定年以外で辞められた方はどういった理由でやめていらっしゃるのかとか分かれば、どういう場所に再就職されたとかというのが、ある程度分かられている範囲で教えてください。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

私が総務課長になってからですね、いわゆる自主退職、依願退職される方については、面談を行っています。その範囲で申し上げると、やはりそもそもちょっとやはり自分が思い描いていた職種ではなかった、職場ではなかった、人間関係が煩わしい、そして新しい職が見つかったというのが大きな理由だと考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

要するにミスマッチですよね。これをやはり改善していかないといけない。民間企業さんでもそういう取組いろいろやられてると思うんですね。インターンシップをやるなど、いろんな取組やられてると思うんですけど。

波佐見町としてそういう部分を改善していくために、何らかの取組は考えられていますでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

今お話があったようなインターンシップがまず一番いいのかなと思いますが、なかなかこう希望される、通われている大学あるいは高校、そして現に働いてる場所というのがかなり違うということで、なかなかそういった制度までは思い描いてはおりません。

一方で、昨今は就職説明会ということを積極的にやっておりまして、福岡でやったり、あるいは佐世保でやったりということで、幅広くその辺を周知してきていただいてます。これは町村会の共同事業でやっておりまして、かなり30名程度が毎回来ていただきますので、その折に波佐見町の職場の在り方、在り様、または仕事の内容を懇切丁寧に説明しているとこでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

一つ一つやられる範ちゅうでお願いしたいと思います。

それでお伺いするんですけど、過去５年間――大体今分かる範疇で構いませんが。職員さんの平均的な残業時間分かれば教えていただきたいのと、全体でです。あとは特に担当課で、この課は多いなという部分で大体どれぐらいなのか分かる範囲で教えてください。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

５年間ということで申し上げると、職員１人当たり月13.86時間残業やっています年間では166.18時間ということですが、残業をやっている職員とやっていない職員の差がものすごくあります。

やはり業務によりまして、一昨年度で言えばシステムの公開とかあった電算情報班の職員は、本当に月100時間超えの残業やったということもありますし、コロナ禍においては子ども・健康保険課の職員さんが、同様に長時間残業したというふうになります。

一方で私たちが懸念するのは、残業がなかなか人についていくという状況です。しない人は人事異動で移動してもしませんが、やはりする人はどこ行ってもするという傾向もありますので、そこに何らかの要因があるのかなということはやはり気がけながら、こちらも構えているとこでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

そうですね。属人的な部分をいかになくしていくかというのがすごく大事な事業と思います。それでですね、職員組合の方ともお話ししていたのですけど、まず一つ。波佐見町を選ぶ際に、当然ながら多くの方は公務員の専門学校等に通われてると思います。その中で先生の方から、専門学校の先生から「波佐見町は出事が多いんで大変ですよ」という、何かその一言があるみたいなんですよ。

やはりそういう認識をどうしてもやはり持たれてる方が多いと思うんですけど、現実ですね、今職員さんとも話しても代休がなかなか取れないので、土日にいろんなイベントがあって出たときに、その後の業務が忙しいので代休がとれないというお話がありますが。

実際把握されていれば教えていただきたいんですけど、代休とか年休の取得率がこの五、六年程度でどういう推移してるか分かりますでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

まずイベントが多いということでございますが、実は職員公務員専門学校を経て入庁する職員がございますので、そういった職員にも聞いたところ、城後議員がおっしゃったように、ある公務員学校では波佐見町イベントをいいよということはおっしゃっていたということはこちらも確認しております。

でも、このイベントそのものについては、この波佐見町が元気な町と言われる一つの象徴的なものでございまして、皆様方がいろんなイベントを打つことで情報発信して、それが相乗効果になってるということで、職員もそういった趣旨に賛同して参加してるものと思っておりますし、職員一人一人がそういったことで参加できることで、私たちの担当課も含めたとこで業務が回ってるんだろうと思います。

そこでまず代休ですが、令和５年度で申し上げると、全体の合計の金額ですが29.5時間の代休の申請が上がってきています。

令和６年度は現時点で20.7時間ということでございますので、相当数のやはりイベント等になっております。これはやはりイベントがあれば、イベントがほとんどということになりますが、一方で年休についてはこの５年間で10.54日取得をしています、年間。で、年間持ち越しがある場合は40日付与されますので、それから申し上げると26.35％ということでございます。

一方で年休取得については、年々取得が増えておりまして令和元年度では9.4でしたが今は11.の後半ということで年休取得は進んでいるというふうに考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

年休の取得率上がってるのはすごいいいことだなと思います。やはり先ほど総務課長おっしゃいますが、やはり考え方がやはり働き方にとっても変わってきてると思うんですね。

当然イベントが波佐見町にとって重要な役割担っているのは分かっていますが、やはりその働き方として平日は働く、休日は休むという考え方にやはり世代によって変わってきてると思うんですね、公務員であるとかないとかじゃなくて。

なので、そもそもちょっと休めるときはきちんと休む、働くときは働く、という考え方にどんどん変わってきてるので。そのイベントをするのが当たり前だったとは思うんですけど、やはり時代の変化というのにやはりどうしても対応していかないと、職員さんは若い職員さん一般的には、なかなか対応していただけないと思うので、これまでもやられてきたと思うのですが、土日のイベントをなるべく外部の方に委ねるとか。そういう部分を今後積極的に進めていただく。あとはもうそもそもイベント自体も私も何回も一般質問で言っていますが、やはり見直しというのも考えていかないといけないのかなと思ってます。

先ほど言われた代休に関してなんですが、これまで増えてきていると思うんですけど要因的にはどういうものを考えていらっしゃいますか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

まずは、おっしゃっていただいたような、イベントそのものをどうやって捉えていくかということになると思います。波佐見町様々なイベントがありまして、民間の方もそれぞれやられている中で、我々職員もそれに協力するという形もありますので、そういった中の取捨選択が今後出てきてくれるのかなと思いますが、これは町全体のやはり課題ということで認識させていただければと思います。

一方で代休がやはり増えてるのはイベントそのものもありますし、業務の関係がやはり増えてきてることがあって、取得しづらいというところがあろうということは総じて分析をやっております。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

ちょっと視点変えて管理職の方の状況なんですけど。これ数値管理なかなかできないと思うんですけど、総務課長が判断されている――総務課長じゃなくても副町長でもいいんですけど。

管理職の方が休日出勤とか時間外されている感覚というのは、この５年で減っていますか、変わってませんか。いかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

私はちょっと教育委員会に行った時分が長いので庁舎に戻ってきてから思うと、以前に比べると管理職の方は土日出てきてるのは多いなと思います。

やはり議会前になると、この前の土日に２階を見渡しても私、商工観光課長、農林課長でということで出ていましたので、多いなということは肌では感じております。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

これまでも企画情報課長おっしゃっていましたけどＡＩを活用して、いろんな文書作成とかもいろいろ研究もされていたと思うんですけど。ぜひ管理職の方もなるべく休みの日に出てこないで済むような仕組みというのは――それこそ議会答弁で対応が必要であれば、議会にも言っていただいて、いついつまでに対応が必要なので質問の時間を考えてもらうなども含めてですね。国会でもやられていることなので、ぜひ考えていただきたいと思います。

というのが後ほども言うのですけど、やはり管理職になりたくないという職員さんかなり多いと思うんですね。その一因がやはり「休日に出ないといけない」という意識がすごくあると思いますし、私も土日に役場を通るときも常に課長の車が停められているのを見て、大変そうだなと思いますし。

やはりそういう中で少しでも、やはり土日は家族の時間とか、逆にほかの市町に出ていただいて、遊びながらでもほかの町のことを取り入れていただく時間に充てていただきたいなと思いますので、そのあたりは今後とも少しでも特に、職員さんもそうなんですけど、管理職も少しでも働きやすい環境をつくっていただきたいと思いますけど、副町長いかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　村山副町長。

**○副町長（村山弘司君）**

ありがとうございます。管理職の働きやすい環境をしっかりつくっていくということは、波佐見町の今後の組織体制の強化する上でも非常に大切なことだというふうに思っています。組合との交渉の中でも議員おっしゃるとおり管理職になりたいという職員がそんなに多くないというふうな話を聞いてます。

まずはしっかりマネジメントとして、管理職の皆さん並びに職員の皆さんたちが波佐見町民のためにしっかり、その業務を回していくというモチベーション持っていただく。そういった環境づくりが大切だというふうに思いますので、職員一人一人がそういった考え方を持ちながら一生懸命町民のために、仕事ができるようそういった組織体制をつくっていきたいというふうに考えてございます。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

ちょっとこれ１回ちょっと全体戻るんですけど。今ですね、ＤＸとかいろいろ業務改善とかも含めて検討されたと思うんですけど、職員さん１人当たりの何かしら業務量を分析される機会というのはこれまであったのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

まずは数値的なものについての分析は行っておりません。ただし今年度についてはですね、年度当初に事務事業ヒアリングというのを行いました。これは町長と副町長が直接担当係長とヒアリングを行って、事務の内容だったり総量だったりをするということでございます。

その中で、どういった重要項目があるかということもお伺いしたので、一つずつそういうことを積み重ねながら、全体の業務量の把握も行っていただいてるという状況でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

もしですね、そういうものをされてるんであれば、ぜひそれが現実に業務量が減るような仕組みを考えていただきたいなと思います、というのが恐らく、いろんな課を通して例えばその書類をつくられて発送される業務とか。

同じ仕事じゃないですが、似たような仕事をされてるケースもあると思いますので、その辺を全体的に最適化していただく努力も、それこそＤＸのＸの部分だと思いますので、今後進めていただきたいと思いますけど、どういう考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

私のほうからはＤＸのＸの部分についてちょっとお話しさせていただきます。

先般、窓口改革ということをしましたが、今回窓口改革推進協議会ということの設置を庁舎内で行いました。これは管理職で構成されておりまして、その中で迷わない窓口、書かない窓口、行かなくてもいい窓口部会、３部会の設置をしました。

で総務課で担っているのは行政改革の一環ということで、事務局のほう担わせていただいて、その中でいろんな改革をしています。例えば町長触れたとおり、亡くなられた際の手続を一元化したりとか。そういうことをしていますので、そういったことを一つずつ積み重ねながら業務の改善を行っていきたいというふうに考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

先ほどコンビニ交付で窓口に来られる方が一定数減ったってお話しされたのですけど、私が思うのが、そもそもまずコンビニに行かない方もいらっしゃると思うのですよね。窓口に行かないと証明書が取れないという意識を持たれてる方も。なので、その方々に簡易的に例えばタッチパネル押して、発行は職員さんがするにしても、簡易的にもう御自身でやれる環境というのはつくったほうがお互いに楽になるんじゃないかな。

要するにコンビニまでいかないのだけど、ちょっとは触っていただく。その結果お互いの仕事

が少しでも減るという仕組みは検討したほうがいいかと思うんですけどそのあたりはいかがですかね。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

実はコンビニ交付の導入時点で、役場の中にもそういった端末機を置く計画もありました。ただ窓口の作業の中で、なかなかそれに人手をとられるということで断念したという経過がございます。

ただ今、銀行とか金融機関ではですねそのような方法をとられていますので、何かこういい方法がないかというところは、今後研究していかないといけないというふうに思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

というのが、せっかく窓口に行かれて――コンビニで交付できるようになったのだけど。職員さんとお話しすると、結局また金銭の収受業務とか管理業務とかはあるので残りますので、コンビニでできるようになったので、例えばその証明書の発行に関しては時間を短くするとかですね。

何かしらそのコンビニがメリットになって、窓口に来ないでもいいような策をすれば、より職員さんが本来の業務に集中できる。要するにコンビニでできる業務の簡素化というのも図れると思いますけど、そのあたりは今後どういう考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

今議員御提案の例えば窓口の開放時間を短くする傾向は今全国の自治体で広がっております。

例えば今、波佐見町役場は８時半から夕方５時15分までが開庁業務なっており、その全てを窓口開けておりますが、もう９時から夕方４時までは窓口対応の業務しますよと。あとの空いた時間はそれぞれの行政事務をしますので、窓口は閉めますとか。そういった対応する行政が非常に増えております。本町においても直ちにそこまではいかないにしても、十分検討に値する施策かなというふうに思いますので、今後検討させていただきたいというふうに思います。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

これは職員さんとお話ししてても、やはりそのおっしゃるところで。窓口にどうしても町民の方がいらっしゃるとそこに時間が取られてほかの本来の業務ができなくなるので、その集中はやはり考えていただきたい。

当然ながらコンビニでできる業務とか、そういう部分は特にそっちでもできますので誘導して、当然いきなりは町長おっしゃるとおりできないと思うのですが、コンビニを有効活用していただくためにそういうのを検討していただきたいなと思います。

それで、私のほうからした提案を見ていただければと思うんですけど。これは大分県の日出町というところでですね。会計年度任用職員さん――各課で今まで今雇用されていると思うんですけど、それの業務量を十分内容を精査した上でその課でしかできない業務と、その課以外もでき

る業務をきちんと仕分した上で、会計年度任用職員さんを１か所に集めてですね、全ての課から例えば書類の発送業務とか、そういう部分を集約して１か所で事務をすることで、効率化をするような仕組みを実際やられています。

なので波佐見町としても、会計年度任用職員さんが増えているということが一つの課題になってると思いますので、今後こういう部分もほかの市町の事例を検討・研究していただきながら、会計年度任用職員さんのより有用な活用方法というのも検討いただきたいと思うんですけどいかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

まず会計年度任用職員ですが、平成30年度は92名でございました。今回、予算書から紐解くと136名ということで、予算の規模が膨れるに伴って会計年度任用職員も増えておりまして、これは町長答弁にあったとおり、やはり財政的な将来的な懸念事項にもなると思います。

一方で大変優秀な職員さんが多い状況でございますので、やはり働きがいがある、機械的な仕事より、もっと能力・アイデアが引き出せるような状況というのは大切だと思います。そこで議員提案のことも十分これからも検討していきたいと思います。

例えばではございますが、今窓口改革の中で総合窓口とかも検討しておりますので、その中で各課横断的な業務があれば、そこの部署をつくってやる、とかいうことも検討に値すると思います。今後、会計年度の在り方についても窓口改革の中で検討してまいりますので、貴重な御提案ということで検討してまいります。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

あとですね、これ先日の当初予算の総括的な質問でも行いましたが、町長に対して選択と集中をしていかないといけないという話を具体的に明示されているので、それについてどういう考えかということではお聞きしたのですが。以前の一般質問でもあったのですが、学校に関してもそうですけど、やはり施設の統合とかいうものも検討していかないといけないと思うんですね。公共施設等管理等総合管理計画においても、令和37年度に延べ床面積を20％削減するという目標が掲げられています。ただ現実的に鬼木の小民家ですとか、十八親和銀行の支店跡とか、新たに設置される場所もあるので、減らしていかないとその目標自体も達成できませんし、そもそもやはり各施設にそれぞれに職員さん管理とか、いろんな業務が増えていくと思いますので。

その意味でやはり今後、施設を廃止とか見直ししていくための基準を設定しないといけないのではないかと思うんですけど、そのあたりいかがお考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

議員おっしゃったとおりですね、計画の中では床面積を20％削減していくということですが、現状といたしましてはですね、ちょっと増えているような状況でございます。

今後ですね主になってくるところはどこかというのはちょっと明言を避けますが、こういう人

口減少の中でございますので、やはりそこはもうちょっとこう見直すべきところがありますし、統合すべきところは統合すべきところというところでですね、いつまでにするかというようなところも検討しながら、考えるべきではないかと思っております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

当然ながら、具体固有名詞を言うと町民の方、いろんな方に反発とかいろんな部分が出てくると思いますので。

ただやはりやめる基準ですね、例えば見直しの基準。要するに人口が減って、先ほど教育長がおっしゃったとおり、もう学校に入る子供たちの数が減るのだったら見直しを検討するとか、何かしらの基準をせめてつくっていかないと、やっぱなかなかシビアな問題だと思うのですよね。ある公共施設をなくしていくというのは。

ただやはり基準に一応合致すれば、見直しの基準をつくるということになれば、各所管課の課長レベルで検討していただけると思いますので、何かしら統一的な施設管理の在り方もそうですし、例えば補助金の見直しとかもそうでしょうし、見直しの基準というのはぜひつくっていただきたいと思いますけど、町長そのあたりいかがお考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

おっしゃるとおりだというふうに思います。確かに今までは地元の要望に応えたり、あるいは業界の要望に応えていろいろな施設をつくったり、あるいは改修をしたりとして維持を図ってまいりました。

ただし今後は、本町の人口が将来的には１万人も割るというような予測も出されている中で、当然人が減れば税収が減ってくるわけですね。そうした中で維持というのは非常に厳しいものがあろうかと思います。

ですから一部はもう民間の払下げ。大きくあげあれば用途廃止して払下げの行政財産だったものを普通財産に切替えて、払下げ等もしていくというようなことも考えていかなくてはならないと思いますので、そのためにはそういった基準づくりも必要かというように考えます。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

ちょっといろいろ飛びましたけど、要するに業務をいろいろ見直していただくきっかけもそろそろ令和７年度つくっていただきたいというのが私のこの質問にかける思いです。

その中で、先ほどもほかの議員が質問の中で述べられましたが、何回も言いますけど。今ですね商工観光課が抱えられてる事業をちょっと考えてみたときに、これ私細かくていつもすいません。ほかの産地の役場の環境を見たときに、大抵交通問題と産業問題で別の課で担当されているんですよ。

なので、そもそもやはり一つの課で面倒見るのはきついと思いますので、ぜひそのあたりは先ほど町長もおっしゃいましたけど、今すぐはできないと思うんですけど前向きに、要するに交通

問題は一過性の問題じゃないと思いますので、時間かかる問題だと思いますので考えていただきたいなと思います。

その中で、窯業界の課題に入っていくのですけど、スライドを進めましていろいろ課題はあります。その中で例えば長崎県内の陶磁器生産の額でいうと、2017年が約42億円だったのが、約38億円になって金額的にそんな大きくおっきいがどうこうというのはありますけど、生産額で言えば下がっています。

それよりも事業所数だと思うんですね。全体で212社あったのがもう163事業者になっているので、やはりその担い手がどんどん少なくなっているというのが現実だと思います。

いろいろ商工観光課の中で、支援を行われてると思うんですけど、大体どういうメニューを今までやられているのでしょうか。支援の中ですね。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

町長も答弁いたしましたとおり、窯業界を取り巻く様々な厳しい状況下にある中で、本町といたしましても、燃料高騰でありますとか、あとは人材確保のための支援、こういったものにつきましては国県の予算等も入れながら支援を行ってきたというようなところがございます。

今後もこういった状況というのは、まだしばらく続きそうだというふうなとこもございますので、業界団体とも協議をしながら、またいろんな支援を含めて検討していきたいというふうに考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

これまでも波佐見焼振興会、工業組合、商業組合、生地組合、伝統工芸士会あとは業界全体に関して様々なメニューで補助事業を行っていただいております。

すごく産地の方使われていると思うんですけど、やはり全体的に当然これも商工観光課の業務の中でかなりメニューが多いので、それをやはり一つ一つ精査されていくのも大変だと思いますし、おっしゃったとおり窯業会業界全体ですね、かなり危機的な状況になってると思いますので、いま一度ですね、じっくりその各団体の方とお話をされて見直せるべきものは見直して集約するとか。お互いに負荷が減る形にもうぜひ検討していただきたいなと思います。

それから一点は継続的にやられてる事業たくさんあると思うんですが、窯業界全体のリブランディングというかですね。やはりこれだけ物価が高騰してる中で、消費が減ってるのをそもそもやはりつくり変えていかないといけないと思いますので。ぜひ業界団体と検討していただいてですね、あとは外部のコンサルの方とかを入れながら、今まで廃石膏でやられたような仕組みを活用されて、全体の見直しというのも今後検討いただきたいと思うんですけどいかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

業界団体のほうもいろんな危機感お持ちになって、いろんな取組を今後進めていきたいというふうに考えられております。

販路拡大や後継者の確保、こういったところについても、いろんな取組を今後実施されていくというふうなことも聞いておりますので、その内容等につきましてはいろんな外部の専門家等のお知恵を頂く必要があるということであれば、そういったところもあわせて支援を検討していきたいというように考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　城後議員。

**○８番（城後光君）**

最後に答弁にもいただきましたが、今まで波佐見焼のサクセッサー講座というのも長い時間、やっていただいてます。先ほど答弁にあったとおり現実的にそこから就職された方もいらっしゃるということで、今後さらにそうやって美術系の方を波佐見に来ていただいて、新しい発想を持っていく取組というのはどんどん進めていただきたいので、ぜひそれも団体の方と協議していただいた上で評価をしていただきたいと思いますけど。最後いかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

町長も答弁しましたとおり美術系の学校をご卒業された方々につきましては、新しい波佐見焼の発想をしていただくためには非常に有用な人材かと思っております。

ですので、今後大学それから高校とあわせて連携しながら、波佐見焼の振興を図っていきたいというように考えております。

**○議長（尾上和孝君）**

以上で、８番　城後光議員の質問を終わります。

本日の会議はこれで終了します。明日も一般質問を続けます。

本日はこれで散会します。御起立ください。お疲れさまでした。

**午後４時45分　散会**

# 第５日目（３月４日）（火曜日）

## 議事日程

日程第１．町政に対する一般質問

**澤田 昭則 議員**

１．施政方針について

２．安全・安心を実感できるまちづくりについて

**脇坂 正孝 議員**

１．町制施行70周年記念行事について

２．施政方針について

**三石 孝 議員**

１．空き家対策について

２．窯業振興について

**北村 清美 議員**

１．高齢者対策について

２．創業者支援策について

３．本町職員の働き方・福利厚生・環境などについて

**岡村　真由美 議員**

１．上・下水道の現状について

２．高齢者施設の現状について

３．農林業の振興について

# 第５日目（３月４日）（火曜日）

１．出席議員

| | | | |
|---|---|---|---|
| １番 | 前田　博司 | ２番 | 脇坂　正孝 |
| ３番 | 澤田　昭則 | ４番 | 横山　聖代 |
| ５番 | 岡村　真由美 | ６番 | 岡村　達馬 |
| ７番 | 三石　孝 | ８番 | 城後　光 |
| ９番 | 福田　勝也 | 10番 | 田添　有喜 |
| 11番 | 北村　清美 | 12番 | 尾上　和孝 |

２．欠席議員

なし

３．議会事務局職員出席者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 議会事務局長 | 林田　孝行 | 書記 | 一瀬　若菜 |

４．説明のために出席した者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 町長 | 前川　芳徳 | 副町長 | 村山　弘司 |
| 総務課長 | 福田　博治 | 企画情報課長 | 澤田　健一 |
| 商工観光課長 | 太田　誠也 | 庁舎建設推進室長 | 大橋　秀一 |
| 税務財政課長 | 古賀　真悟 | 住民福祉課長 | 井関　昌男 |
| 農林課長兼農業委員会事務局長 | 伊藤　幸治 | 農林課長参事 | 太田　克宏 |
| 建設課長 | 本山　征一郎 | 水道課長 | 中村　和彦 |
| 長寿支援課長 | 松添　博 | 子ども・健康保険課長 | 石橋　万里子 |
| 会計管理者兼会計課長 | 串島　佳織 | 教育長 | 森田　法幸 |
| 教育次長兼給食センター所長 | 朝長　哲也 | 総務課課長補佐 | 坂本　昌俊 |

午前 10 時　開議

**○議長（尾上和孝君）**

御起立ください。おはようございます。

ただいまから令和７年第１回波佐見町議会定例会第５日の会議を開きます。本日の議事日程はあらかじめお手元に配付のとおりです。

日程第１　町政に対する一般質問

**○議長（尾上和孝君）**

昨日に引き続き、一般質問を続けます。順次発言を許します。

３番　澤田昭則議員。

**○３番（澤田昭則君）**

皆さんおはようございます。それでは、通告に従いまして一般質問を行います。

１．施政方針について。

令和７年度の主な施策として、持続可能な自治体運営と町民の福祉の向上、町の活性化を図りつつ、自治体間の競争を勝ち抜く施策が重要である。

そこで、次のことを問う。

（１）小児科誘致の補助制度の創設とあるが、どのような考えで創設されるのか。

（２）町制施行40周年記念事業プレイベントの記念行事として、平成８年３月３日に第21回町壮年駅伝大会が盛大に開催された。

令和８年３月３日も「はさみの日」と銘打って何か記念行事が開催できないか。

（３）窯業振興において終活に役立つインターンシッププログラム「オープンハサミ」は、県や業界全団体の協力で実施されているが、支援等の内容と今後の取組は

（４）陶器まつり期間中の「絆の日」の休日実施について、保護者・学校・地域へのアンケート調査や検証などの今後の実施予定は。

また見直す考えはないか。

２．安全安心を実感できるまちづくりについて。

防犯カメラの設置は、児童・生徒の見守りなど地域防犯意識の意識醸成が図られる中、交通安全の推進や交通事故の防止対策、また事件における犯罪の抑止と犯罪者の特定に大きな効果があり、早急な対策が必要である。

そこで、次のことを問う。

（１）街頭防犯カメラのネットワーク整備促進において、主要な道路や交差点及び公共施設に設置して、地域や町民の安全・安心の確保が必要と考えるがどうか。

（２）町民を犯罪から守る対策として、住居や事業所等に対して防犯カメラ等の設置に係る費用を補助できないか。

以上、壇上からの質問を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

皆様おはようございます。

それでは、３番　澤田昭則議員の御質問についてお答えをいたします。

１．施政方針についてということで、自治体間競争勝ち抜く施策として、（１）小児科誘致の補助制度の創設とあるがどのような考えで創設されるのか、とのお尋ねですが。小児科誘致について前回の12月議会においても誘致時期の目標を御質問いただきましたが、その際具体的な誘致時期を明言することは難しい状況であり、状況に応じて柔軟に対応し、最適なタイミングで進めていくことに御理解を求めました。

小児科の確保は子供たちが安心して医療を受けられる環境を整え、健康と福祉を守るために、非常に重要な課題です。出生数が減少している地方において、小児科医の成り手不足が深刻化しています。そのため波佐見町で開業したいと思っていただける環境を整備する必要があります。

具体的な施策の一つとして開業に伴う経済的負担を軽減し、小児科が安心して診療を行える環境を提供するための補助制度を創設するものです。補助制度の内容としては、小児科医療機関の開設や運営に係る初期投資への支援や、運営費用の一部を一定期間補助することなどが考えられます。

なお、補助金の交付条件については開業のモチベーションを損なわない範囲で、町民皆様の要望を反映させたいと考えています。

若いファミリー層にとって医療サービスの充実は、居住地選びの重要な要素であり、小児科診療が充実することで、子育て世代が安心して移住・定住できる環境が整い、結果的に人口減少に歯止めがかかり、持続可能な発展や地域の活性化につながると考えています。補助制度の創設は子育て世代のニーズに答えるために重要であり、公約の実現に必要な施策だと考えています。

次に、（２）町制施行40周年記念事業プレイベントの記念事業についてのお尋ねで、令和８年３月３日の波佐見の日に銘打って何か記念行事ができないかとのお尋ねですが、町政施行70周年記念事業については、式典や記念行事などを現在検討しているところであり、議員お尋ねの令和８年３月３日も波佐見と語呂合わせもいいので、70周年のプレイベント的に何らかの記念行事ができないかあわせて検討しているところです。

当日は平日ではありますが、町民の皆様からもいろいろなアイデアを頂きながら、記憶に残るような行事ができればと考えています。

（３）窯業振興において就活に役立つ、いわゆる「オープンハサミ」は県や業界団体の協力で実施されているが、支援等の内容あるいは今後の取組についてのお尋ねですが。「オープンハサミ」は、波佐見焼振興会が主体となり開催されている合宿型のインターンシップ事業であり、令和４年度から開催されています。

この事業は波佐見焼の生産現場の高齢化と、後継者や人材の不足が喫緊の課題となっていることから、この課題を解決するために全国から波佐見焼の産地での就業を希望する若者を募り、産地の後継者として採用するものです。

インターンシップの期間には波佐見焼の研修、町内見学、事業所での就業体験のほか先輩移住

者や関係者との交流会が行われます。今年度は２月16日から21日まで開催され、全国から10名の方に御参加頂いております。昨年の実施状況は10名の参加であり、そのうち町内の窯元や商社に就職したのが４名となっています。

本町からの支援としては県の人材確保育成事業を活用して支援を行っております。今後については、現在短期型プログラムとなっていますが、通年で希望者を受入れられる体制の構築が必要との意見があることから、町としても状況に応じて支援を検討していきたいと考えております。

２．安全安心を実感できるまちづくりについて。

（１）街頭防犯カメラのネットワーク整備促進において、主要な道路や交差点及び公共施設に設置して、地域や町民の安全安心の確保が必要であると考えるがどうかとのお尋ねですが、本町ではＰＴＡや地域のボランティアの方々が児童生徒の見守り活動を積極的に行っていただいているように、町民皆様の防犯意識の高さに加え、自治会、警察、関係機関団体が連携し、地域防犯組織として機能していることで大きな事件・事故が発生していないことに対し、深く感謝しているところです。

一方で高齢者宅に事前に電話をかけて在宅を確認した上で、強盗に及ぶいわゆるアポ電強盗が関東圏で頻発したことは記憶に新しいところであり、ふだんから防犯対策を講じることは言うまでもありません。

本町ではこれら巧妙化する犯罪に対し、録音機能つき電話装置の導入に補助や、県内町内で予兆が見られた際は、防災無線で周知をはじめ必要に応じて警察の巡回を依頼して対応を行っております。

そこで防犯カメラの設置についてですが、町内では個人宅や民間施設、店舗に複数の防犯カメラに加え一部商店街に街頭カメラが設置されており、本町施設でも小中学校、役場庁舎駐車場に防犯カメラを設置しています。しかし、主要な道路や交差点には設置はなく、以前の関係機関との協議では設置の計画はないとの回答を得ているところです。

一方で、一般的な防犯カメラは人による常時監視するタイプは少ないものの、画像を録画することで、犯人検挙の証拠として活用できることからその抑止効果が高いと言われています。町としてもその効果は認めるところですので、町が保有する公共施設の大規模改修など一定の条件が整う際には防犯カメラの設置を進めたいと考えています。

（２）町民を犯罪から守る対策として、住居や事業所に対して防犯カメラ等の設置費用を補助できないかとのお尋ねですが、防犯カメラの抑止効果は広く認知されており、個人宅や事業所では防犯から身を守る手段として設置が進んでいるものと思われます。そのような中で、防犯カメラの性能も向上している様々な用途や比較的安価な製品も多く見られるようです。

議員御提案のとおり住宅や事業所等に防犯カメラの設置に対し助成を行う意義そのものは共感するところですが、一定の設置が進んでいる中で、冒頭申し上げたとおり現在の犯罪が高齢者等いわゆる社会的弱者に対し、増加傾向であることを考慮すると、こういった方々に具体的な支援を届けることがより効果が上がるものと考えています。

このため例えばですが、高齢者世帯で設置を行った際は、申請手続を簡素化した上で、一定額

を支援金として交付するなどが検討できるものと思います。

このため、今後他自治体の助成制度の調査を行い、制度化に向け検討を行いたいと思います。

なお、１．施政方針についての（４）絆の日については、教育委員会から答弁がございます。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

１．施政方針について。

（４）陶器まつり期間中の「絆の日」の休日実施について、保護者・学校・地域へのアンケート調査や検証などの今後の実施予定は。また見直す考えはないのかというお尋ねでございますが、絆の日につきましては来年度も陶器まつり期間中に行う方向で教育委員会、校長会で協議、確認を行いました。受けて２月末には、保護者宛ての周知文書を作成配布し、園や学童クラブなど関係機関への周知を行います。

本町最大のイベントであります波佐見陶器まつりにどう積極的に参加・参画するか、させるか。そのためにも主催事務局であります波佐見焼振興会様に、小中学生の関わり方についても検討をお願いしているところです。

さらに連続する休日だからこそ、どういう過ごし方や体験をさせたいかを各御家庭で話し合われ、子供の自立につながる活動が展開されることを期待するものです。ただ、これまでに頂いている御不安や課題を解消する手だてとして、その期間学校を開放し、自学や絆の日体験講座を行うように計画をしております。

自立した子供の育成とふるさとキャリア教育の推進を目指す波佐見町ならではの取組として、より充実したものになるよう様々な御意見等を伺いながら進めてまいりたいと考えておりますので、現段階ではアンケート等を実施することは考えておりません。

以上、壇上からの答弁を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

それでは最初、施政方針についての（１）小児科誘致に関してなんですが、私も孫がおりまして、何回か小児科に連れていったことがあります。それも早岐の小児科でした。８時ぐらいに行って着いたら50人待ち、70人待ちと言われて１時間半ほど、どうしようかなということでスーパーの駐車場で待ってたりしたのですが、それだけ小児科大変、それも月曜日の朝でしたけど、やはり発熱外来で土日空けたら、かなり集中して患者さん来られるような状況でした。

ほかにもこういうことを経験されてる町民の方もいらっしゃると思いますけど、子ども・健康保険課のほうで現状というのは大体把握されておりますでしょうか。そういう発熱外来とかの治療に行かれるような様相です。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

そういった早岐とかですねそういった小児科に行ったことはございませんが、職員でそういう子育て中の職員がおりまして、そういう方からその状況というのはお聞きしたことがございます。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

私もなかなか経験することはないのですけどそういうときに。やはり孫のためについていって、実際そのときはコロナに自分もなってしまったのですが。やはり小児科というのがどうしても熱が出たらやっぱ連れて行きたくなる。といっても、そういう何か大きな嬉野医療センターとかですね。大村の医療センターなんかには簡単にはいけませんので、２次医療として待機をされてると思うのですが、紹介状とかあれば行ける医療はちゃんと体制はあって安心はしております。

今回も施政方針の中で、町長が書かれておられる「公約である」という、小児科誘致の前に言葉がありまして。公約として町長が選挙のときも言われたのですが、町長が公約にされたこの小児科誘致。それは何かめどというか、何か目当てがあったのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

めどがあったので公約にしたわけではなくて、今の波佐見町の現状を見たときに、どうしても小児科が必要であるというお声もたくさん頂きましたし、私もそういうよう感じたことから公約として掲げさせていただいたところでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

分かりました。もう月日がたって２年ちょっとなるんですが、今後もいろんなあらゆる可能性を持ってと言われ、いろんな手段を使ってでも誘致をしたいと言われてるんですが。やはり全国的なこれも社会的な問題で、実際小児科を開業してもなかなか経営というか、厳しいものあると、あるお医者さんからも僕も聞いたことがあります。小児科だけではやっていけない。高齢者も見ないといけないということで、でも何とか波佐見町にも小児科を誘致していただきたいという思いが町民の皆さんもちろんありまして。

例えば先ほども発熱外来とか言いましたが、現在も井石郷の病院のほうに火・水・木・金ですか、昼から小児科の先生が来られているようなんですが、そういうのをちょっと朝にしてもらうということはなかなかできないんでしょうか。発熱外来の対応です。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

今は火曜～金曜の午後の診療をしていただいておりまして、それも理由があってその時間帯でされております。ですので、ちょっとなかなか事情があられる中で今行われているところなので、そこを朝にというところはなかなかまず厳しいところでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

なかなかですねやはりいろんな状況があって、難しい問題あると思いますが。

例えばちょっと初歩的な質問になるかも分かりませんが、こども家庭センターができました、よりそっと。今日も３階のほうから見ていたら、たくさんの方が子供さん連れて中に入られてい

たのですが、ああいう施設をちょっと発熱外来の場所とかに使うことは不可能なんですか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

まずそういう発熱を見れる医師の確保がまず必要であることと、そうやって不特定多数の方がたくさんいらっしゃる中で、そういう感染の方を受け入れるというのは、感染を拡大させる可能性もあるというところがありますと、なかなかこういろんな制約といいますか、条件を整えないと難しいのではないかというふうに思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

子供の病状を見るために可能な限り、本当いろんな研究もしていかないといけないし、環境もつくっていかないと思いますが、ぜひ町民が安心して、住めるようなまちづくりのためには、小児科は必要であるし。

先日もちょっとお話を聞いたら、波佐見に定住・移住しようかなあと言って、町内のいろんな施設を見てから判断されてる方もいらっしゃいました。学童を見たり、医療関係を見たり、商店街を見たり、いろんな図書館を見たりですね。ここに本当に一生住もうかなと家を作る前に見られる方もいらっしゃって。

ぜひ特にそういう小児科――小児科だけでもう経営は成り立たないのかもしれませんけど。波佐見の場合は嬉野医療センターとかもありますので、何とか緊急なときには対応できると思いますけど。ぜひ今後とも先日の補正予算のときにも、東彼杵郡のほうでも医師会が地域小児科の医療に対して対策事業で集まられてるということを聞きましたので、３町の先生方が主導になって、ぜひ頑張っていただきたいと思います。

それでは、次の「絆の日」についてお尋ねします。

昨年の６月でしたかね。横山議員さんも一生懸命絆の日を言われまして、また確認のために聞きますが、この絆の日を最初に提案されたのは教育長なんですか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

はい、私です。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

教育長も御存じかも分かりません。私も東小学校と波佐見中学校のコミュニティースクールの学校運営協議会の委員をしておりまして、最初は聞いたときは、決まったことのように言われたので、あれ、そういうのを会議にかけるような案件じゃないのかなあと思いながら。実際もうスタートしまして、おいおい、ちょっと学校運営協議会というのは、いろんなことで意見を言える協議会の場じゃなかったのかなと思いまして。

これだけ大きな案件だと思うのですよね。平日の３日間を学校が休み指定されるということで。全然やはりコミュニティースクールには声をかけられなかったのはちょっと残念だと思いまし

たし、最近では先日も中学校にも行きました。小学校のほうにも行きましたけど今は１時間しかない会議なので、僕は以前に２時間ぐらいやってもらえませんかって言ったのですけど、なかなか意見を言える時間帯もないし、そういう雰囲気もなかったときもありました。

今回気づいたのは、波佐見中学校が体育大会を６月15日にしたいとおっしゃって。「そうですか。それは学校の運営上それが妥当であればそれはもう、認めないといけないですね」というかたちで進めました。

そしたら１年間の学校のスケジュール表をこういうふうに見せていただいたんですけど、ブルーのとこがもうちょっと休みの日なんですが、５月なんかは13日間学校が休みになるんですよね。それで６月に体育大会を持ってくるということで、しょうがないのかなと思いましたけど。

体育大会の前の練習はどうするんですかって言ったら、「いや絆の日に学校に出てきて、多分子供たちは応援合戦の練習とかするんでしょう」と校長が言われましたので、そうなのかと。絆の日で学校は休みだけど子供たちとか出てくるんだなあとかいう思いでした。

また小学校に関してはですね、今度運動会を去年はこれ東小学校ですかね、去年は５月の19日にされていたのを、今年はなんと11月９日にされるという相談を受けました。「えっ」って言って、「11月に運動会ですか」って。「湯無田郷は相撲大会とかもやるんですけど」って言って。結局相撲大会を１日ずらしての強行スケジュールになりました。

かなりやはり教育長３日間の休みという絆の日をもう一回見直して――ただでさえこれだけのスケジュール的にハードなのに、ゴールデンウイーク中にも10連休になると思うのですよね。それだけの休みをとったら。

一回、コミュニティースクールの会議の中でもこれだけ連休を取り過ぎたら子供たちの生活の習慣が壊れてしまうので、後が怖いという委員さんもいらっしゃいました。

まだまだ見直すとか検討する課題はないでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

今おっしゃった各学校の分。例えば東小学校の分については来年度が50年記念ということで運動会を11月に行われるということになりますし、学校の中学校のほうも中体連だとか様々な行事を年間に割り振った中での実施だと思いますので、絆の日がそこに直接ということは基本的には考えてはおりませんけれど、学校運営委員会協議会の中で協議をなされた部分で町としても思いがあるし、私たちとすれば先ほど申しましたように絆の日の意義、求めたい姿、理想だと思っておりますが、これを充実させていくことを頑張りたいなと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

実際また来月からスタートするんですが、先ほど言われたように今回は小学校の図書室を開放したり、結構学校を開放されたりという話を聞きましたが。それだけ開放されるのであれば極端な提案かも分かりませんけど、例えば陶器まつりで東小学校の立件的な駐車場が利用したいのであれば、東小学校だけを例えば弁当持参で給食は食べれないが学校に来て授業を受けるとかです

ね。

とにかくやはり中央小とか南小の人たちも陶器まつりには関係ないとは言えませんが、やはり南の小学校の方など僕は、何で学校これだけ休みに連続してなるのかなという思いがあられますので、何か町内で３つの小学校ありますけど、東小学校がやはり陶器まつりに関連した場所なので、そういう状況を考えても対策というのはできないのでしょうかね。お願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

昨年度頂きました様々な御不安、御意見御要望等を踏まえて、学校を開放することによって図書室を開放することによる自学の勧めと、もう一つは「絆の日」体験講座。夏休みにここ２年行っております、地域の方々を先生とし行ってる夏休み体験講座を、前倒しという形でそこで行えないかということで。例えば絵画教室や、お弁当づくりを食改の方とやっていくような様々なアイデアを、地域から学校から保護者から、いろんな方々からそういう今議員のお説も含めてですね。そういう様々な御意見を伺いながら、より充実した「絆の日」としての取組ができたら、すてきな取組になるかなということを思っているところです。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

教育長の思いも分かるんですが、昨年も横山議員が頑張って絆の日に対してですね思いを言われて、次の日の新聞にはお互いの主張といいますか、考えが平行線だったというような記者の考え方も載っておりました。

なかなかまだ合致していないような気がして、子供たちの環境をつくるための教育でもあるので、そこを逆に僕は違う方向というか、また別のやり方があるんじゃないかなと思う思いもあります。

ぜひこの「絆の日」に関しては相手方が保護者さん。ひょっとしたら僕ら地域も関係もして来ているのかも分かりませんので。アンケートをとってみて、これがもう４分の３、３分の２以上ちょっと考え直してほしいというのがあれば、早めにちょっと見直す。

ただ僕は３日も休まなくてもいいと思うんですよ。１日だけでもいいと思いますが。連休、連休というのが続いたらあまりにもちょっと、先ほど言ったように生活の習慣も乱れるし、昨日も改めてカレンダーを見ていたら年間に３連休をとれるような日にちが13回ありました。例えば、それは祭日と祭日の間に自分が有給休暇をとったら３連休になるパターンなんですけど。

そうやってもただでさえですね連休が多い。もう日本のカレンダー的なスケジュールになっておりますけど。それをさらに波佐見町だけが平日３日間休業にして、10連休にするというのが本当にいいことかどうか。もう一回ちょっと考えを見直してもらえないでしょうかね。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

休日増加につきましては二学期の資料の分で調整をし、年間的なものについては休日が増加をしているということではございませんが、陶器まつりにあえてという部分につきましては、先ほ

ど答弁申しましたように、波佐見町の一大イベントである陶器まつりに自分たちがどう関わっていくかという、ふるさとキャリアの部分がとても大きい色合いがあります。

だからこそ波佐見町で行いたいと思いを持っておりますし、長期の休みであるからこそ、家族でしっかり話合いをされて、どういう子供たち、どういう過ごし方を我が子にさせたいのかということの話合いを十分やらせる中で、どういう自立した子供を育てていくかということの狙い。これは確かに理想に近いのかもしれませんが、これを追い求めていきたいという思いがあります。

ラーケーション的に休日増加だけではなくて、あくまでもふるさとキャリア教育と子供の自立ということに対する保護者、地域の協力、理解を得ながら行っていきたいということを思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

それではですね昨年の絆の日を実施されての検証はされてないとお聞きしましたが。やはり休みになれば、ここが保護者の方は仕事に行かないといけないので、学童保育に預けられると思うんですけど、そういうときの対応された人数とかも分かられるのですか。なんかかなり多いような気もするんですけども。検証的に分かられますか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

大変申し訳ません。この詳しい学童等の参加人数については確認をしておりません。

この一番不安である、特に低学年の子供たちの保護者の方の不安である部分があったので、学校を開放するという新たな手だて、対応を考えていきながら、これをやることで、どういうふうな参加状況になるかまだ分かりませんが。

「絆の日」という――地域の方々を先生として迎えることによって行える、学校を会場とした「絆の日」という形で取り組めていけたらなということで今回提案をさせていただいております。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

まあ森田教育長の思いも分かります。それではぜひ、今後ともお互いに、学校側も保護者のほうも理解できるような対応でやっていただくしかないと思ってます。特に東小学校は陶器まつり会場に近い場所でもありますので、いろんな配慮が要ると思います。

学校開放してみて、学校もいま陶器まつりで使ってる駐車場はその日はどう使うのかとかもありますので、ぜひ安全対策はもちろんですが、本当に心から喜ぶ３連休にしていただきたい。よろしくお願いします。

今年度で何かこう変わった取組などされますか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

繰り返すようになりますが、学校を会場とした部分のもちろん図書室開放による自学の部分と、「絆の日」体験講座で今のところ絵画教室とか、あるいは食改さんとの弁当づくりですね。そう

いうようなことをやっていきたいと思いますし、振興会のほうから今、協力依頼をしておりますので、どういうふうな小中学生の参加の仕方ということがあるかもしれませんし、講堂をキーステーションとしたような取組も考えられないかということで私自身も、研究・検討を進めながら、よりよいものにしていきたいということで考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

よろしくお願いします。これは絆って書いてありますが、これは東小学校の広報紙です。どっから「絆の日」の「絆」を持ってこられたか分かりませんが、これ東小学校の広報誌がありまして。これがもう一つ校長先生が運営協議会のときに配られる資料ですが、東小学校だよりというのはこれ去年のやつですけども、ここに大型連休って書いてあります。項目があります。

４月27日～５月６日は大型連休10連休となります。その一言だけです。「絆の日」の「き」の字も書いてありません。どういう思いでこういうことを知らされるのか。「絆の日」をするのであれば目的を書いたり、内容を書いたりするのが学校の義務だと思いますが、どう思われますか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

基本的に保護者周知につきましては教育委員会、教育長名と校長名で保護者の方にまず文書を作成し配布をしております。そのあとの学校ごとの取扱いについては、今の部分で十分な意が保護者の方に伝わらない内容であれば、校長のほうに指導し、丁寧に説明するということで話をしていきたいと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

ぜひ、私も川口校長とも何でも言い合える仲でもありますし、コミュニティースクールを運営していく以上、とにかく地域の協力も要りますし、保護者と先生方の関係はもちろん昨年の本当新聞に載ってた亀裂の日とか、いろんな言葉が出てましたけど。ぜひもう本当に純粋な「絆の日」になるような。お互いが本当絆で結びつくような祭日、休養日にしていただきたいと思います。

それでは次に（３）のインターンシッププログラム、「オープンハサミ」についてお尋ねしますが、ちょっと現状の報告をお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

インターンシップ型の事業としまして、この「オープンハサミ」につきましては、令和４年度から波佐見焼振興会のほうで毎年主催をしていただいております。全国からこの参加の応募を受けまして、毎年10名の方々に波佐見にお越しいただきまして、参加する企業とのマッチング、それからその中でのインターンというふうなことで、実施をしていただいております。

ただこれが、やはり現在は窯業界において後継者それから窯業に関わる人材の不足というふうなところの課題解決のために、こういった町外のほうからいろんな若い方々にお越しいただいて将来の担い手になっていただくというふうなことを目指した事業でございます。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

それでは予算とかいろんな経費的な話もあると思うのですが、この事業に係る費用としては、昨年の決算の報告によれば、補助されたのが444万円で、県が222万円。町が同額の222万円を出されておる経費でございますが、それだけの経費で足りるような事業ですか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

現状としましては今議員がおっしゃられた事業の規模感で、実施をしてるというふうなところでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

とても内容の事業で、今後ますますこういう事業がたくさんあればいいなと私も思いますし、こういう求人サイトを使いますので経費もかかると思います。

受け入れる会社のほうの負担はないのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

すいません、ちょっと受け入れる会社の費用負担については、明確な費用負担等についての資料を持ち合わせてはいないんですが、実際会社側もリクルートしたいということで参加していただいておりますので、それなりの対応についての負担等は当然担っていただくというようなことになろうかと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

これは窯業界に関しての人材確保なんですが、隣の有田町もこういうような事業をされているのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

インターンシップ事業行われてるかどうかというふうなところにつきましてはちょっと、こちらのほうでは確認をしておりません。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

大変まあ都会のほうからといいますか、遠くのほうから来られて。結構美術関係の大学かも分かりませんが、若い人が何か業界に新しい風を引き込むような。とてもこういい企画だなと思いますので。

今後とも、県のほうもこれだけ補助されますので、町としてもそれ以上に、県以上にも出されてもいいかなと思いますけど。ますますこの人材確保の事業が盛んになって、いずれまたそれが移住定住につながっていければいいなと思いますので、ぜひこの事業に関しては、盛大な応援を

していただきたいと思います。

すいません。次にちょっと順番が興奮して飛んでおりまして、「はさみの日」のことについてちょっとお話をしたいと思います。

横山議員も先ほど「よくこういうのを見つけてこられましたね」と言われたのですけど、これがもう29年ほど前の波佐見の広報紙に載っていた分で、誰が走ってるとかいうのもありますが、「もうちょっとでゴールだ。はさみの日　平成８年３月３日」と書いてありまして、後ろに食改のおばさんたちが立っていらっしゃいますけど。もう以前のうちのお客さんばっかりです。大変懐かしく見ております。

次がスタートの瞬間を捉えてありますが、まさに平成８年の３月３日、はさみの日。令和８年３月３日もはさみの日で町長よろしいのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

はさみの日と法定されておりませんが、語呂合わせですね。我々はもう波佐見の日というふうな捉え方をしたいなと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

こちらに小さく文字で書いてあるのですが、私も実際この日走りました。走った後には黄色い大きなバスタオルを頂きまして、「833」とプリントされておりまして、すごいな、波佐見町と思いました。

下のほうの写真はピラミッド型に積んでありますが、ビールが833本積んであります。とにかく参加されたチームも120チームとか何かすごい数で、たくさんの方が今スタートしているコースは85名のチームで走られたそうです。真ん中の段で記念品を受け取っていらっしゃる方が、昭和８年３月３日に生まれた方に記念をプレゼントされております。もし１年後こういうイベントがあれば平成８年３月３日に生まれた方に、記念品でもあげられたら、また同じような事業にもなると思います。

とにかくこういうふうに、私がちょっと思ったのが、今町内でもイベントはあっておりますが、温泉ガストロノミーウォーキングとか、あちこち陶器まつりとか。町内で費用をかけて参加者も参加料とかも払われるイベントもありますが、観光型的なイベントは大変波佐見町にとってはいいかも分かりません。

でも町民が参加するようなイベントが、今町内であっているかって言ったら、以前のような「はさみ炎まつり」とか、「波佐見町農業感謝祭」だとか、今度町民運動会もありますけど。最近は、僕は町民が参加して接点になるようなイベントがないんではないかなと思いますので。１年後の令和８年３月３日を言っておりますが、何かしらまた町民参加型の――これ以上イベントを増やすなと言われるかも分かりませんけど、何かもうちょっとこう人と人が接するようなイベントをしていただけば。

まあ自治体の中ですればいいかも分かりませんけど、町全体になれば大がかりなるかも分かり

ませんけど、何かぜひそういう「はさみ炎まつり」みたいなイベントも復活できればなと思いますけど、その辺どうお考えでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

先ほどから示されました平成８年の３月３日はちょうど日曜日に重なってたと思うんですよね。恐らく町の壮年会が、当時の壮年駅伝――今もありますけど。壮年駅伝がせっかく日曜日に開催するから冠をつけてやろうかということで、町主催の事業ではなかったような記憶がいたします。壮年会が実施されたのではないかなというふうな、うろ覚えでございますがそういう感じでございます。

この令和８年の３月３日が何曜日かというとちょっと日曜日じゃないみたいなんですよね。ですから――火曜日ですか。ですから町民皆さんが一堂に会してとか、いろいろ参加者を募ってというイベントなかなか当日には厳しいかと思いますが、いろんな方がですね、楽しめるようなといいますか、そういったものができるのかどうかを今後は検討してみたいと思いますし、先ほど言われたように町民が集うようなイベントが少ないというような御意見もございましたが、これ今ですね、逆にもう本当にイベントを、先ほどおっしゃったようにイベントを減らしてくださいとか、町民運動会に対するもう自治会長さんからも何でやるんだとかですね、そういった苦情も逆に出ている状況なんですよ。

ですから、やるか、やらないかも非常にいろいろこう町としては非常に考えるところもございますが、一つの区切り目、節目でございますので、何らかの形は行いたいなという私個人的には思っておりますので、今後検討させていただきたいというように思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

分かりましたというか、今からちょっと提案的な話ばっかりするかも分かりませんが、来年の令和８年３月３日が火曜日になるんです。私一つ提案したいのが、この日をとにかく何かやっていただきたいし、やってみたい。

じゃあその企画、実行委員会とかどうするのかとかいう話になれば、今元気のある商工会、青年部も活用されてもいいと思いますし、私たち商店街の仲間でよれば商店街で833名の方にプレミアム商品券を販売してもいいと思っております。そのプレミアム分を町が頑張って出していただければ、もっと幸いかなと思いますし。

とにかく「８・３・３」。町長が言われた「花を咲かせて身を任す」。新庁舎の御挨拶のときもありましたように、もう庁舎にも「833」と刻まれておりますので、ぜひこの日を大切に使っていただきたいというのと、もしよければ「はちゃまる」のついた小さな旗を各世帯に全部配って、その日に掲げてもらうとか。いろんなアイデアたくさんできると思いますので。ぜひ来年の――ちょうど１年後ですよね、楽しみにしておりますので。いろんな企画を立ち上げていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

御提案として承っておきたいと思います。

波佐見の日、令和８年３月３日もそうなんですが、翌年の令和８年６月１日がですね合併――新町発足70周年になりますので、そちらのほうもちょっと入れながら頑張りたいと思いますので、御提案いただきましたことを参考にしながら検討してまいりたいというふうに思います。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

これは自衛隊の方も炊飯車というのを持ってこられて、食改が作られただご汁千何百杯を出されたという映像もありました。こちらですね。とにかくこうやって盛り上がった過去の30年近い前のことですが、元号が変わればまた八三三はやってきます。

次は令和のあれですが、次の元号があればまた八三三が並んでくるときが30年後ありますので。そのときはいないかも分かりませんけど、30年後か40年後か分かりませんけど。ぜひ、この日はもう庁舎にも刻まれておりますので「833」というのが。大事にしていってください。

それでは次に２番の安全・安心を実感できるまちづくりについてで、街頭防犯カメラの促進についてお尋ねしておりますが。

これをまず提案したのは昨年の年末12月14日北九州で中学生が殺傷された事件であれだけ、犯人特定するまでに３日間地域の方は外出もできなかった。警察の方は動いてたかも分かりませんけど、それだけ不安な地域になって大変困られた。そのあと北九州市は２億円の補正予算を上げて、カメラを増設されております。

カメラと言ったら防犯カメラ、監視カメラ、目的は違うかも分かりませんが、防災に関して波佐見町は完璧ですが、防犯に関してますますの体制をとっていただきたいという思いで、この質問をしております。

以前、元濵本議員さんも防犯カメラに関して質問されたのですが、そのときにはこういう言葉ではなかったのですが。やはり映像ということで個人情報保護法が関連してくるカメラにはそういう設置の案件が出てきて、条例を制定してるところもありますけど、波佐見町ではこの防犯カメラ映像等に対して、個人情報保護の条例はあるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

まず、防犯カメラに録画する目的が何なのかということになります。今、澤田議員がおっしゃったように、録画した画像で例えば観光動態を調査しますとか、年齢層みたいとかいうことであれば、そういった条例は必要でございます。

一方で今、防犯目的ということになれば、最終的には警察のほうに画像をしますが、それは捜査資料となりますので、そういった条例は不要ということで考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

これは東小学校をちょっと許可をもらって写したのですが。あまりカメラの場所を言ったらい

けないんですけど、奥のほうにあるのですがしっかりこう撮られております。こういうのも抑止力といいますか全然違いますし、各教育機関にはついておりますが、町内の交差点等には本町が管理してるカメラはないのですか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

交差点関係にはございません。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

以前の答弁によれば、西ノ原の商店街に４台。各認定こども園保育園に24台。各小・中学校に17台って書いてありますけど、この数は現在も同じような数ですか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

今おっしゃった部分についてはその台数でございます。その一方で、今回庁舎が新しくなりましたので、庁舎の周辺、中も含めるとプラス15台設置をしております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

これだけ付いていてもまだまだ足りない時代かも分かりませんが、コンビニさんの知り合いの方にお話をよく聞いたら、何か物事、トラブル事件があったときには、しょっちゅうコンビニの事務所の中に入って映像を見て帰られるということで。データを持っていかれるのか分かりませんが、とにかく利用頻度は多いらしいです。

ぜひ町としてもお金はかかりますが、今後の時代を考えたら防犯を予防するためにも、ぜひ付けていただきたい。

これはやきもの公園です。ちょこちょこ行くので撮ったのですが。ここに関してもかなりの他県の方が来られていて、何もトラブルはないと思うんですが、夜中はもう真っ暗ですね。夜、防犯カメラの感知度もあると思いますが。でも、ある程度公園とか公共空間ですか必要だと思います。

これはちょっとたまたま真横を写したのですが、こういうトイレとかもありますけど、果たしてこういうとこにも必要なのかどうか分かりませんけど、何か不幸等があったときには大変なので、こういうのもちょっと範囲に入るようなカメラも是非つくっていただきたいと思います。

県内でもし防犯カメラを設置するというようなときに、県からの補助とかもあるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

まず前段の町が管理する公園等に防犯カメラが必要かどうかということであると、防犯の意義は認めるところでございます。そこで町長の答弁もありましたとおり、施設の改修等が行った際には担当課と協議のうえ、防犯カメラを設置することも検討したいと思います。

後段の県内の状況を見ると、長崎市等では防犯カメラの設置について補助を行っているようで

ございます。一方で補助については自治会とか団体というふうになってますので、議員が今お話しされてるような個人に対応する補助というのは、全国的にも調べてみましたがまだまだ始まったばかりというような状況でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

ぜひカメラの話をしましたが、いろんな形でとにかく町民を守るという形をお願いしたいと思います。

先日、波佐見高校の卒業式に行きまして、中田校長先生が卒業生に最後の宿題を出しますということで、「幸せになりなさい」ということを宿題に出されておりまして。「提出期限がないからしっかりゆっくり幸せになりなさい」ということを言われまして、私もジーンときたのですが。

ぜひやはり幸せになってもらうためには、こういう行政――私たちも協力しますが、いろんな安全安心な体制をとっていかないといけないと思います。あとは町長もチャレンジ精神で祝辞を述べられておりまして、立派な話をされておられましたので卒業生にはとてもすばらしい卒業式だったと思います。

いろいろ今日お話ししましたが、ぜひ前に一歩でも行けるような話はどんどん、どんどん前に進めていただきたい。特に小児科に関してはぜひお願いしたいと思います。

以上で終わります。

**○議長（尾上和孝君）**

しばらく休憩します。11時10分から再開します。

**午前10時56分　休憩**

**午前11時10分　再開**

**○議長（尾上和孝君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、２番　脇坂正孝議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

皆様こんにちは。通告に従い質問をいたします。

１．町制施行70周年記念行事について。

本町は昭和31年（1956年）６月１日、上波佐見町と下波佐見村が合併し、新たに波佐見町として誕生しました。令和８年は70周年を迎えるにあたり、記念式典や記念事業などが実施されるかと思います。

そこで、計画の概要等について次のことを問います。

（１）開催時期や規模など、基本計画はあるのでしょうか。

（２）記念事業として、どのような計画があるのでしょうか。

（３）グローバル時代の今日、国際的な視野を持つ人材を育てる必要があります。記念事業の一環として、将来の本町そして日本を担う中学生を中心とした海外派遣を実施してはどうでしょうか。

２．施政方針について。

施政方針に学校施設の適切な管理と農業振興について示されております。

そこで、詳細について次のことを問います。

（１）計画されている工事の箇所や工事内容等について。

①長寿命化計画に基づいた改修工事の学校別、概要、計画年度、工事費の概算額は。

②バリアフリーに対応した改修工事の学校別、概要、計画年度、工事費の概算額は。

③工事の設計・監理は所管部署が主に担当しており、慣れない職員が対応するため課題は多く効率はよくないと聞いております。

今後は所管部署と工事専門部署による分担制にできないでしょうか。

（２）センチピードグラスの普及について。

小規模農林事業として、「センチピードグラス」吹付工法による事業が６年度から補助対象メニューとなっております。

①普及が進んでいないと聞いておりますが、申請状況はどうでしょうか。

②普及が進まない理由をどのように分析しているのか。

③普及のための対策はどうでしょうか。

（３）農林業経営支援事業の助成条件について。

①助成対象事業者は。

②助成対象とする農業機器等は。また助成額は。

③予算額は。

以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

２番　脇坂正孝議員の御質問についてお答えをいたします。

１．町政施行70周年記念行事についてということで、（１）開催時期や規模など、基本計画はあるのか。（２）記念事業としてどのような計画があるのかとのお尋ねですが、議員がおっしゃるとおり本町は昭和31年６月１日に旧上波佐見町と旧下波佐見村が合併し誕生しました。その後、10年単位で周年事業や式典を開催してきました。

令和８年度に70周年を迎えますが、令和８年６月をめどとした記念式典の開催や年間を通じてイベント等に対する冠事業、また新たに何かインパクトがある事業が行えないか現在鋭意検討中であります。

町民の皆様からいろいろなアイデアを頂きながら、波佐見町に合った記憶に残るような記念事業ができればと考えていますが、あまり華美にならずに粛々と計画していきたいと思います。

（３）記念事業の一環として、将来の本町そして日本を担う中学生を中心とした海外派遣を実施してはどうかとの御提案ですが、未来ある本町の若者に世界を見せることは非常に有効かつ意義があることで、国際的感覚を養い、広い視野を持つ人物へ育ち、将来的に本町さらには日本を担うリーダーに成長する要素は十分に期待できると考えています。周年事業において、海外派遣

研修に取り組むことも一つの有意義な手段だと考えられます。

しかしながら周年事業として、スポット的に実施した場合に、他の年度とのバランスや周年事業としての意味合い。派遣をして何を、何のために学んでくるのかという明確な目標や目当てが必要だと感じています。

また本町では既に天正遣欧少年使節として、中学生を２名、３年に一度海外へ派遣していることもあり、その事業との住み分けも必要かと思います。これらのことを考えながら、派遣の可否も含め慎重に検討する必要があると考えています。

２．施政方針についてということで。学校施設の適切な管理と農業振興についての中で、（１）学校施設の計画されている工事の箇所や工事内容についての③所管部署と工事専門部署による分担制にできないか、とのお尋ねですが。本町をはじめ全国の地方公共団体の共通課題として、高度成長期に整備した公共施設が維持補修時期を迎えており、それぞれの団体においては厳しい地方財政の中、長寿命化計画を策定し計画的に施設の改修や維持補修を進めているところです。

本町においても公共施設等総合管理計画を基本に個別計画を策定し、これまで計画的に大規模改修や維持補修を進めていますが、突発的な破損や故障に起因する補修工事が多いのが実情です。

本町では基本的な方針として、施設の管理を行う担当課は施設の現状等を熟知していることから、その管理担当課で改修補修をはじめとする各種工事を行っています。

また一定規模の工事については、設計及び監理業務を外注して、専門家の助言を受けながら工事を進めているところです。

一方でさきに述べたとおり施設の老朽化に対する改修工事に加え、バリアフリー等施設の付加価値を高める工事も求められるようになり、総じて工事件数は増加傾向であります。　加えて社会基盤整備としても、土木工事も多く技術職員も限られる中、一般職が工事そのものの技術的な事務や監督を行うことも少なくなく、職員の負担感をはじめ業務の分散化からも課題は増しているとの認識です。かねてから管理協議会で課題として出されることも多く、その中で技術的な専門部署を設けることで協議を行ったところです。

このことからさきの第２回臨時会で御承認頂いていただいたとおり、今般機構改革を行い令和７年４月から施設整備室を設けるところです。

施設整備室の所管する業務については、建築系の一定規模の工事に係る技術的な業務を管理担当課から受託するかたちで分担したいと考えています。このことで技術的な業務の集約化による効率化とともに、管理担当課の負担軽減につながるものと期待をしています。

今後、建築系の改修等の工事内容を精査のうえ、どの工事を分担させるか管理担当課を交え協議を進めたいと考えています。

（２）のセンチピードグラスの普及についてということで、６年度から補助メニューとなったが、普及が進んでいないと聞いている。その申請状況はどうか、ということですが。小規模農林業事業は、農林業の近代化及び生産力の増強と経営基盤の強化を図るため、国や県の補助対象とならない小規模な事業を実施する団体または個人に対し補助を行っています。

センチピードグラス吹付工法は、法面管理の雑草対策や労力負担軽減策として各地で実証され

ており、その吹付費用の一部を補助することで、農地農業用施設の維持管理にかかる労力の軽減、省力化を推進し、農村環境の保全を図ることを目的に、令和６年度から新たな補助メニューとして追加したところであり、初年度は１地区に対して補助を行っています。

②普及が進まない理由をどのように分析しているかとのお尋ねですが、現在検討をされている地区は３地区ほどありますが、地区内での取りまとめが進まないことや、事前の準備作業、作業時の人手不足に不安があるなどの御意見を伺っております。

③普及のための対策はどうかとのお尋ねですが、新たな補助メニューとして追加した際に、町の広報紙に掲載し周知したところです。その後６月には町内で実際に吹付作業を行われている地区での現地見学会を開催し、８月には自治会長をはじめ、各地区の農業関係の推進員、多面的事業、中山間事業に取り組まれている組織等に呼びかけを行い、特許技術を取得されているメーカーを講師に招き、説明会を開催いたしました。また町政報告会においても事業を紹介し、周知を図ってきたところです。

その後も興味を示された地区には個別に現地立会いや説明会も行っており、令和７年から取組予定が１地区ございます。今後も各地区において改めて説明を聞きたいなどの要望があれば対応していく予定です。

（３）農林業経営支援事業の助成条件についてということで①助成対象事業者は。②助成対象とする農業機械は。または助成額は。③予算額は、とのお尋ねですが。令和７年度より町単独事業として新設する農林業経営支援事業により、農家の労働力の負担軽減策を図るため機械導入補助時の幅広い支援やスマート農業推進など農林業経営の安定に向けた支援を行うこととしています。

その助成対象事業者については農林業の経営を行っている方で、農事組合法人や集落営農組織を含む、個人や団体等で農林業により収入を得られている方を対象としています。

助成対象とする農業機器は、農林業用機械を幅広く対象とするように計画しておりますが、国、県の補助事業等が活用できる大型、高額のコンバイン、トラクターなど、また自動車や刈り払い機械等小規模なものは基本的には対象外と考えております。

また補助内容については農林業用の機械や設備の全般を計画しており、工作用の機械、茶業、畜産業、果樹園、施設園芸、林業等で使用する者を対象とし、中古品も対象にすることで運用しやすい制度としております。さらにスマート農業の推進に係る設備等についても支援拡大を図るとともに、担い手対策として農業用機械等の資格・免許に要する経費についても対象としております。

助成額は上限事業費120万円。補助率50％から70％程度を予定しており、下限については20万円以上の事業費が対象となる予定です。予算額については、令和７年度予算で300万円を計上しておりますが、令和７年度から開始する補助制度でもあり、現段階では要望量等についても把握できていない状況であるため、申請状況により補正予算等での対応が必要かとも考えております。

次年度以降については要望量を取りまとめ、予算化する方向で進めるように計画をしており、申請状況や事業効果を検証して、見直しや継続の有無について判断していく必要があると考えて

おります。

なお、２．施政方針についての（１）の①及び②については教育委員会から答弁がございます。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

２．施政方針について学校施設の適切な管理につきまして、（１）計画されている工事の箇所や工事内容等について。①長寿命化計画に基づいた改修工事の学校別概要、計画年度、工事費の概算額は。②バリアフリーに対応した改修工事の学校別概要、計画年度、工事費の概算額は、とのお尋ねございますが。現在の長寿命化計画は令和２年度に作成していますが、各学校の各施設について屋根、屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備の５つの項目について現状をＡ～Ｄで判定し、その施設を健全度という数字で数値化しております。健全度の低い施設は工事優先度が高いということとなっておりますが、施設ごとの工事費の概算額については示されておりません。

工事概算額が分かっているもののうち、Ｃ判定を受けている施設について令和３年度から10年間で４校のトータル概算事業費が５億5,600万円という概算額は示されております。

またバリアフリーについては、今年度予算で中学校の階段簡易昇降機を設置いたします。来年度予算を計上しているものとして、中学校はバリアフリートイレ、東小学校は階段簡易昇降機とバリアフリートイレ、体育館からグラウンドに降りるためのスロープ、中央小学校が階段簡易昇降機、南小学校がバリアフリートイレを計上させていただいております。

概算額につきましては、今後入札等がありますので詳しい数字は差し控えさせていただきます。

以上、壇上から答弁を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

まず、これは役場入り口にありますが、上波佐見町と下波佐見村がいろんな苦難を乗り越えて、昭和31年に合併したということを時の福田寛吾町長が記された碑でございます。

まず期日それから規模。来年ということでございますが、６月１日に合併ということからして、そのあたりが記念式典等の開催になるかとはいうように思っておりますが。ちょっと60周年を参考にみましたところ６月５日に記念式典を行って、その後８月、９月ぐらいにかけて記念事業があっているようですね。

そして60周年のときの――平成28年ですが、そのときは一つの記念事業としてＮＨＫ教育テレビ「俳句王国がゆく」この公開講座、収録があっております。これが９月３日ですね。

そしてその前に草野仁さんの講演会。これも一応冠をつけてあったようでございますので、こういうことであろうかと思っておりますが、まだ具体的には示されてないということですけど、大体その辺の固まる時期というのはいつ頃考えておられるんですか。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

年度としては来年、再来年度ということになりますけど、内部での協議、また管理職も含めて

役場内での協議も続けながら、なるべく早い時期にいろんな時期についても、またあとどのような事業主体かというのも考えていきたいと思っております。

ただ事業については、こちらからこれをしたいといって必ずできるというものでもありませんので、そういうところは相手方もありますので、慎重にいろいろ考えながらですね、進めていきたいというふうに考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

記念行事にあたっては記念誌をずっと作成されておりますので紹介します。まず30周年でございますが――ちょっと私がそれ以前のものについては発行されたかもしれませんが、手持ちがありませんので30周年からスタートをしたいと思いますが――左のほうが30周年ということで50ページ。かなり分厚い記念誌ということになっております。

その右が40周年。これはもう十七、八ページのコンパクトということにされております。

それから50周年はさすがに半世紀ということで本編が40ページ。それから資料編として14ページ。これだけ記載されております。

あと平成28年の60周年記念でございますが、左のほうが町の広報紙、右がこのときは回覧版ということで、平易なタイトルでそしてまたコンパクトに作成をされております。こういうふうなのは恐らくされるかと思ってはいるのですが。

通常こういったときの記念行事というのが記念式典、記念誌の作成、そして記念事業こういうふうな３本柱と申しますか、そういうことになろうかと思いますが。まだまだその辺は決められてないということでございますので、一つ記念行事として先ほど中学生を対象とした海外派遣はどうでしょうかというふうなことで提案をしております。

これについては、来年度ですか。７年度には天正遣欧少年使節として、中学生を派遣される計画があるということは施政方針でも記載してあるとおりでございます。

一つですね。これはちょっと自治体の中学生の派遣を見ていく中で、これは茨城県の南部、千葉県との境にあります。そしてまた東京に近いところにあるんですが。守谷（もりたに）市と言います。ここが人口約７万人の都市なんですが、４つの中学校、それから高校が県立１校、私立が３校ございます。

平成２年度から交互にアメリカと、ドイツ。こちらをずっと交互に訪問して、令和５年度で30回。コロナ等で中止した時期もあるんですが、非常に積極的にされております。そして５年度に行かれた姉妹都市でありますドイツのバイエルン州のマインブルク市ですか。ここは人口約１万5,000人、本町と同規模ぐらいのドイツの町ですね。ここに10人を派遣して、希望者を募ってその希望者は約４倍だったと。ですから40人に及ぶ希望者があったというところでございますが。

そこで、ここにありますように、報告書が作成されてこれはもうインターネットにも入ってるわけですが、その中で参加した生徒たちの報告書の例として、ドイツで挑戦したことということで、自分の意思をしっかりと伝えること。これは全員がそういうような意思を持って参加されております。それからドイツでしかできないことを、何でもやろうと。そしてまた伝統料理を食べ

るとかですね、言葉とかももちろんでございますが、ドイツは第２外国語が英語ということで、かなりその辺の言葉も英語への挑戦というふうなこと。中にはドイツ語で挨拶もしたいというふうなことも一部あっておりました。

そしてまた帰ってきて、今後に生かしたいということについては、今よりももっと英語の勉強を頑張りたいと。それから英語で伝えられるようになり一生懸命努力すれば、どんな環境でも適用することができるというふうな自信。そして、日本について尋ねられたとき分からずに答えられなかった。日本文化をもっと学びたいというふうな、そういったことをこの中に記されております。

それからちょっとこれから外れますが、高校の同窓会が創立50周年とかで派遣した参加者の声として、日本では買物など順番に並ぶがそしてまた時間を守るなど、そういうふうな日本の常識が外国では通じないと。

そしてヨーロッパの荘厳な歴史的建造物や絵画を見て、美しいものを見る、美しいものを見て感動すること。これはどの人種でも同じことではないかというふうなこと。

それから早いうちに世界を見て、外への興味だけでなく内への興味も強くなったと。日本と世界はつながっていることを実感したというふうなこういったことも述べておられます。

そしてまた同僚議員が随分若いときにドイツに行っておられるのですが、この方も非常にそういうふうな若いうちに経験ができてよかったと。そして今でも交流が続いていると。こういうふうなことで非常に国際交流にも貢献されているわけですね。こういった大きなプラス要素が多いかと思いますが、施政方針の18ページですが、国内外交流についてということで「グローバルな時代において子供たちにも外国の文化や考え方に触れる機会をつくり、世界を意識するような教育は一層必要になります。」と。「事業ではもとより、各種講演会などを通して学びを深めてまいります。天正遣欧少年ゆかりの事業」、これはもう来年度ということでございますが、これは「６年ぶりに実施します。」と。さらに「国内外との交流も状況が落ちついていることから、徐々に再開し交流活動の活性化を図ってまいります。」とあります。

まさに海外派遣は、この施政方針の具現化の最たるものと思っておりますが、教育長はどう考えられますか。

**○議長（尾上和孝君）**　森田教育長。

**○教育長（森田法幸君）**

グローバルあるいは国際的なシェアを持つ子供の育成というのはとても大事なことだと思っておりますので、どういう方法がより多くの子供たちに体験ができるんだろうということは今後の研究課題であろうと思っております。

海外派遣も一つの方法でありましょうし、オンライン等々を使って外国の方と交流をしているというような自治体もあるようですので、様々なそういう感覚を養うための手だてとして、他自治体の様子を、動向を、研究しながら、本町で取り組めることはどういうことかということをやっていきたいと思います。

天正遣欧少年使節につきましては、ゆかりの地の事業でございますので本町がということでは

ないところもあります。また本町のＡＬＴあるいは、連携をしています県立大学の教授のほうから毎年５年生のほうには異文化理解の授業等々も行っておりますし、様々な機会、場を提供しながらそういう子供たちの育成につなげていけたらなということを考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

私は、海外派遣は非常に記念事業としてふさわしい事業と思ってるわけですが。特に中学生、高校生こういった子供たちに夢と希望を与えてもらいたいというふうに思います。きっと子供たちはそれに応えてくれると思いますし、将来の本町にとりましてもすばらしい結果をもたらしてくれるものと思っております。

ぜひ将来性あります子供たちに、海外派遣という投資ですね。人への投資をしてほしいと。子供たちは一生の貴重な財産となろうかと思っております。

まだ、計画はこれからと聞いておりますので、ぜひこの海外派遣をその候補に入れて実現させていただきたいと思いますが、町長、再度答弁お願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

教育長も申しましたとおり、視野を広める意味で異文化を体験するということは非常にいい事だというように思います。その派遣事業をやるかどうかはまた別の問題として、いろんな体験もできると思うのです。必ずしも派遣でなくて向こうから迎え入れて、そういった方と交流を図るというのも文化の交流につながると思いますので、いろいろな施策を考えながら対応してまいりたいというふうに思います。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

それでは次の質問に移ります。

これは現在、工期はもう終わってるようですが、中央小学校の体育館の改修工事でございます。こちらが東小学校ですね。これは来年度の工事請負で見ますと、東小学校が2,304万円ですね。工事内容は音楽室のカーペットとか、そういったＬＥＤとかが考えてあるようです。それからこれが中央小学校ですが、キュービクル等の補修と申しますか。これが１億1,620万円。そして南小学校がバリアフリートイレとか、エアコンですか。これが2,073万1,000円。そして中学校が体育館の空調ですかね、7,530万円ということで。学校で１億3,500万円あまりの工事ということが予定されております。

さらに教育委員会の所管分で、総合文化会館が2,600万円、講堂が800万円です。鴻ノ巣グランドが1,700万円。体育センターが4,163万3,000円。給食センターが7,412万1,000円ということでこういった工事が１億6,600万円。合わせますと教育委員会が３億円を超えるというふうな、そういった工事の予定が組まれております。

そういったことで、今回さきの臨時議会で施設整備室が新年度から開設ということになりまして、こちらのほうに随時課を移されていくかと思いますが。現在の工事の設計監理、これはどう

されているものか、ちょっと御説明をお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

現在の工事関係をどうしてるかという御質問でございますが、もちろん我々事務屋としてはですねそういった技術的な知識はございませんので、そういった設計につきまして、設計監理をまず行っていただく業者さんを入札等で決めまして、そちらの業者さんに設計書というのをつくっていただきます。

その設計書に基づいて今度の工事ということで入札を行いまして、実際の工事を行ってもらっておりますが。その中で設計の途中でもそういった工程管理とか、そういった管理がございますがそちらについても私たちはもう知識はございませんので、設計をしていただいた設計会社さんのほうにそういった工事監理も行っていただきながら事業を進めているという状況でございます。

その前につきましてですね、今あります方向というか、どういった形でこの工事を進めていけばいいかということにつきましては、庁舎内の技術を持ってらっしゃる方に御相談しながら進めているというような状況でございます。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

一応設計監理、設計については委託料の中で業者さんを選定して、そしてそちらに設計書を作ってもらうということ。ただチェックとかそういうのはやはり事務職員でなされる担当職員でされている、そういうことで間違いないですか。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

そちらにつきましても先ほど言いました技術を持っている町の職員さんと一緒になって見ていただいてるという状況でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

一応その辺は分担というか、その辺はされているわけですね。やはり例えば教育委員会で言えば、学校特有の施設設備というものもありますし、それから普通のビルと同じような内容で設計すればいいもの。それに加えて、今申しましたような特有なもの。そういうのがあろうかと思いますので、そちらのほうはやはり教育委員会を通して、希望なりちゃんとしたチェックをしていかなきゃいけないかというふうに思っておりますけど、そのあたりはなされているわけですね。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

そういった学校施設についての建築、設備関係の法律的なところはもう設計会社さんのほうは、ちゃんとそういった法律に合致するような作りというか、そういうふうにはしていただいております。そこについてこちらとしても上がってきた資料を見ながら、こういった施設を施工してあ

るとか。そういったところの確認をさせていただいております。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

委託料の設計監理の対象となる経費は、例えば工事の予定額がいくら以上なのかということと、それに該当しない修繕工事等このあたりはどのようにされてるのですか。

例えば100万円未満の工事とかそういうのがありますよね。委託料に入らないような工事。そのあたりはどうされているのですか。

**○議長（尾上和孝君）**　朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

そういった工事につきましては一応現場をそれは業者さんに見ていただきまして、最初の概算の見積り書を頂きます。その概算の見積り書を持って、うちのそういった技術の部署と話をしながら適正なって言ったらおかしいですが、設計書というかたちで作って、また見積りを合わせということで、業者の決定をしてるというような状況でございます。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

その辺のすり合わせは、それぞれ教育委員会所管課とそれから技術の部署と。密にとってされてるというそういうことでよろしいですね。

今回施設整備室を新たに発足ということで、いろんな問題が今後解決すると思っているんですが、施設整備室の――まだスタートはしておりませんが、これを今後どのように、具体的にはどのように進められていく予定でしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　村山副町長。

**○副町長（村山弘司君）**

施設整備室の今後の進め方についてのお尋ねでございますが、従来御説明申し上げてるとおり、この施設整備室の所管ってのはあくまでも建築の施設を所管するということで、担当課のほうから施設整備室がその業務を受託するような形で進めていきたいというように思っています。

施設整備室の人員体制については、土木の管理者が１名と事務の職員を１名予定してございます。そういった中で、どういった規模の事業を受託するかについてはそれぞれ今後の町長の答弁にありましたとおり、検討しながら住み分けをしてまいりたいというふうに考えてございます。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

実はこの質問をした直後にこの話を聞きまして、ちょっと前後したわけですが。新たにこういうふうな部署ができるということは、非常に画期的なことじゃないかというふうに思っておるわけですが。ひとつ今後、特に教育委員会等施設が多ございますので、その辺とのやりとりがスムーズにいくような方法を考えていただきたいと思いますけど、再度お願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　村山副町長。

**○副町長（村山弘司君）**

そもそもこの施設整備室の設置検討につきましては、従来から懸念がありました事務担当職員が、いわゆる建築の施設の設計、監理まで含めて所管をしているという中で、職員自体の専門性がない中で事務を所掌することへの職員の不安ですね。そういった課題があったということに対する対応として、検討を進めてきたものであります。

議員御承知のとおりですね、こういった専門の所管をする所属をつくることによって、今後のそうした事務系の職員の不安、あるいはこれまでの課題を解消するべく、しっかり運用してまいりたいというように思ってございます。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

続きましてセンチピードグラスの普及についてでございます。これは鬼木郷の法面。ちょっと小字はよく分かりませんが、資料館がすぐ近くにあるところの水田の法面です。去年の８月頃撮った写真ですが、よく生育しております。

こういうふうな法面がずっと方々に整備されてるということで、鬼木郷の方にお尋ねしましたら非常によかったと。皆さんが協力されてできたというふうなことで、冬の芝刈りのみでよいと。そしてまた景観が非常に、よくなったというふうなことで喜んでおられました。もちろん夏の草刈りが不要ということは言うまでもございません。

次にこれはつい最近の冬場の様子です。大体同じところですが。こういうふうにきれいに刈り取りをしてあります。やはり整然として、雑草がほとんど見えずに景観が良いというふうに思っております。

私も去年このセンチピードグラスが施政方針の中で取上げられまして、非常にいい政策だと思って去年のこの議会で質問をしたわけでございますが、その割には関係者の方の申請が少ないというようなことで。理由は先ほどちょっと町長からも答弁がございましたが、皆さんの話を聞いていますと、前の準備がなかなか大変だというふうなことがネックとなっているようです。

この前の準備を何とか解決する――解決って言ったらあれですが。これをしやすいような方法というのは何かないでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田農林課参事。

**○農林課参事（太田克宏君）**

先ほど町長の答弁にもありましたが、なかなか普及が進んでいないということで、事前の準備作業が大変だということも伺ってはいるのですが、こちらの除草作業については多面的の事業ですとか、中山間の事業のほうを活用していただいて、その作業に出られた方の日当とかに充てていただければなというふうに私たちも考えております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

特にやはりこれを必要とするところは広いこう圃場じゃなくて、ちょっとした山間部辺りの法面が非常に高いところがありますので、こういうところがやはり一番必要としているわけですか

ら。こういったところの対応というか、それができるようになればまた違うのではなかろうかと思っておりますけど。

先ほどおっしゃった中山間地の、その中から人件費等を出せるというふうなことですが、その辺は例えば増額とかそういったことも可能なんですか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田農林課参事。

**○農林課参事（太田克宏君）**

多面的事業ですが中山間の事業につきましてはですね、地域の割合等の単価が決まっておりますので、その増額というのは難しいんですが。除草作業に当たる部分にはなりますので、先ほどの繰り返しになりますが、活用のほうを検討していただければと思います。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

日当等ということで作業に当たった方の、そういうふうな賃金を出すということは可能ですかね。あと、いかにしてその辺を皆さんの合意を得て、下準備を進めるかということになろうかと思いますけど。

いろんな場面で、さっきも普及のための対策ということで、デモとかそれから広報紙等をしてありますが。やはり農林課、肝煎りとしてこの事業を進められておりますので将来の圃場整備のために、圃場維持のために、ぜひ広めていただきたいと思いますけど。

さらなる説明会の開催とかそういったことは考えておられますか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田農林課参事。

**○農林課参事（太田克宏君）**

現在のところ全体的な説明会というのはまだ考えてはいないんですが。先ほど町長の答弁の中にもありましたように、興味を持たれている地区ですね、そういったところには再度改めて、メーカーさんも呼びながら説明のほう行っている地区もございますので、やはり農林課のほうにまたもう一度話を聞きたいとか、そういった御相談があれば対応していきたいと思っております。

また今検討されている地区もやはりその小人数でまず始めてみようと思われてるところもございますので、大きな面積じゃなくても割と小規模な面積でも御相談頂けたら、またそれに対応していければと思っております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

鬼木の関係者の方のお話として非常に大きな効果がありますということを言われておりますので、ぜひそういうふうな草刈りが困難な地域とか、そういったところに広めていただければと、そのように思っております。

場合によっては、例えば現地の診断と申しますかこれはこのくらいでこういったことができますよというふうな、そういうふうな実際に見てもらっての調査と申しますか。助言、そういうことはいかがですか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田農林課参事。

**○農林課参事（太田克宏君）**

現地の確認のほうにつきましては、答弁の中にもありましたが、こちらのほうもメーカーさんのほうを呼んで一緒に地元の方と現地のほうを確認したところもございますので、やはりそういった希望がございましたら、一度農林課のほうに御相談頂ければと思います。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

続きまして農業経営支援事業の機械導入でございますが、一応今のお話で、非常にやりやすい事業かなというふうに思っております。

これはいつだったですか、去年の11月頃だったと思いますが、デモをされた草刈り機のメーカーの機械ですが。遠隔操作ができるというふうなことで、これは300万円を超えるわけですが。こういった機械に限らず非常に農機具というのは高いですね。私もパラパラと農機具のチラシを見ておりましたら、高いものは1,000万円、2,000万円。田植機とかそれからトラクターですね。そういうふうな値段で、なかなかもう個人農家としては手が出ないような、そういうふうな金額ということになっておりますが。

特に前の説明でもあったかと思うのですが、機械代に追われるから次のことを考えると、もう離農せざるを得ないと。やめざるを得ないという、そういう方が結構おられるわけですね。

いま大体、農家の平均年齢というのは分かりましたら教えてください。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

68歳ぐらいだと思います。ちょっと全体では出してないんですが、いろいろ部会とかそういう組織の中の名簿で見たら、大体68歳ぐらいが今の平均年齢となっております。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

この事業のことを私が知っています何人かの農業されてる方にお尋ねしたわけですが、もう80歳に近い人は、もうこれ以上買っても後が続かないと。もう農機具を活用できないというふうなことで、あるものを修理しながら維持していかなきゃいかんというふうなこと。これはもう高齢の方ですけど。それはもうそうだろうと思います。

そしてまた若い人は、ある程度その条件がよければ、この事業で整備していきたいと。そういうふうな２つに分かれるわけですが、平均年齢が68歳程度とした場合に、そのくらいの方はまだまだ10年以上できるかと思いますので、そういうふうな農機具を購入して、整備して続けていかれるだろうと思います。

今度の助成事業については非常に制約が少ないようですから、ぜひこれを活用してＰＲに努めていただきまして、スマート農業の普及を大いに図っていただければ幸いかと思うわけですが。

今後の補正についても、もうこれを超えるような金額になれば補正をされるということも聞きましたが、その辺は十分対応大丈夫でしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

一応ですね、予算査定の際にはそこまでのちょっと話はしています。ただ今現実がいくらになるかって見えていない部分もあるので、その申請状況によりまして次年度に持っていくので良いのであればそういうふうな判断も出てくるかと思うのですが、なるべくは取上げていきたいとは考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

下限が約120万円ということですからかなりの農機具も対象になろうかと思いますが、やはり68歳が平均年齢ということからすれば、もう一年一年が勝負だというところもありますので、できるだけ今年度内で消化できるものは消化して、補正を組んででもですよ。そういうふうな方策をとっていただきたいと思いますけど、その辺は財政課長とのお話もあろうかと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

おっしゃられたように平均年齢が高いということですね。あとは農業機械の買いかえ時期のタイミングですね。

やはり現実的に見れば、やはりある程度高年齢が行かれている方は「もう買いきらんけんがやめよう」とか「もうやはり先が長くないけん」って、言い方悪いですけどそんな形で言われる方もおられるんですよね。

その部分はやはりなるべく拾ってあげたりして、本当皆さんのために役立てばと思っているので、予算のほうについては随時協議しながらなるべく柔軟に進めていきたいとは考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

今の農家の皆さんの就農期限が、こういった機器を備えることによって、使うことによって、１年でも２年でも延ばせるような方策をぜひ実現していただきたいと思います。最後にもう一回お願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

これまでの議会の中でも答弁をしているかと思うんですが、やはり農業といいますか、食料と防衛はやはり国が本来は安全保障としてしっかり制度を確立すべきものだと思います。ただ、そういった農地の保全については町としてもしっかりと支援をしてまいりたいというふうに思います。

予算の上限を設けなくても、ばんばん付けろというわけにはいきませんが、ある程度制約があるかと思いますが、可能な限りは対処してまいりたいというふうに思います。

**○議長（尾上和孝君）**

以上で、２番　脇坂正孝議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。13時30分から再開します。

**午後０時９分　休憩**

**午後１時30分　再開**

**○議長（尾上和孝君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、７番　三石孝議員。

**○７番（三石孝君）**

皆さんこんにちは。通告に従いまして壇上から質問いたします。

１．空き家対策について。

人口減少に伴い、本町でも空き家の増加が懸念される。町長の施政方針にも挙げられた「波佐見町空き家等対策」を含め、次のことを問う。

（１）空き家の現状はどうか。

（２）課題と対策はどうか。

（３）「波佐見町空き家等対策」の基本方針は。

２．窯業振興について。

燃料費をはじめ資材費等の高騰、また賃金の上昇は窯業の各業種において経営を圧迫していると聞く。

そこで、持続可能な地場産業の発展のために、次のことを問う。

（１）現状の課題と支援策はどうか。

（２）今後の対策はどうか。

以上、壇上からの質問といたします。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

７番　三石孝議員の御質問についてお答えをいたします。

１．空き家対策について、（１）で空き家の現状はどうか、とのお尋ねですが。全国の空き家状況は、住宅土地統計調査によれば空き家数が900万2,000戸に達し、空き家率も13.8％と過去最高を記録したと報道がございました。

波佐見町においても、平成28年度の調査では188戸、令和３年度の調査では205戸の空き家が確認されており、年々増加の傾向にあります。

205戸の中にはそのまま利活用できそうな物件から、放置され適切に管理されていない物件まで、状態は様々で、それぞれに対応した対策が求められています。

（２）の課題と対策はどうか、とのお尋ねですが。空き家になる原因は一般的には、住宅を所有する方が亡くなったり、施設等に入居したり、子供宅に転居したりと、それぞれ様々な理由があると言われています。

その空き家を利活用するために、他人に貸したり転売したりすることで、空き家が流動化し有効に活用できますが、現実としては「家の片づけができていない」とか「仏壇があり、守らない

といけない」「帰ってくるところが必要なので、売りたくても売れない」など、やむにやまれない理由により空き家をそのままの状態にしている所有者も少なからずいらっしゃると思います。

そこで本町の空き家対策の今後の課題と対策についてですが、平成27年度に空き家バンク制度を開始し、空き家の所有者と空き家を活用したい方のマッチングを行っており、あわせて空き家等改修事業費補助金制度も運用し、令和７年度からはこの補助メニューに空き家にある家財等の片づけに対しても助成できるように、要綱の改正を予定しています。

また平成28年度に波佐見町空家等対策計画を策定し、令和３年度には第２期計画へ改正し、令和７年度に第３期計画の策定に向けて空き家の実態調査を行う予定であります。

このように少しでも空き家が有効活用されるように、引き続き側面からの支援を行ってまいりたいと思います。

（３）の波佐見町空家等対策の基本方針はとのお尋ねですが、先ほど答弁しましたように、本町には波佐見町空家等対策計画を平成27年度から策定しており、その計画に沿って対策を行っておりますが、令和７年度には第３期計画への改正作業を行う必要があります。空き家の現状を十分に把握し、危険な空き家については町民の安全安心を確保するために、所有者へ適正な管理を促すとともにそれでも解消できない物件については特定空家に指定をして、助言、指導、勧告、命令など、段階的に空き家解消を目指すことになります。

また利活用できる空き家については可能な限り地域の資源として捉え、空き工房バンクや空き家バンク各種補助金を有効に活用し、地域の活性化やまちの魅力向上へとつなげていきます。

空き家所有者と行政の枠組みだけではなく、自治会や不動産業者、まちづくり団体、民間事業者とも相互に連携を図り、総合的な空き家対策の取組を推進していきます。

２．窯業振興について。

燃料費をはじめ資材費等の高騰また賃金の上昇、窯業の各種において経営を圧迫していると聞く、と。そこで持続可能な窯業産業の産業発展のために次のことを問うということで、（１）現状の課題と支援策はどうかとのお尋ねですが。

日本経済は物価高の影響による個人消費の低迷、円安による輸入製品の大幅値上げにより、さらなる内需低迷が懸念される中において、波佐見町の窯業界を取り巻く環境は、折からの燃料費、資材価格、人件費などの高騰など極めて厳しい状況にあると言えます。

先月行われた天草陶石に関する意見交換会では、陶石の販売価格改定で、現在の取引価格から25％以上の値上げが検討されているなど、さらに状況悪化に追い打ちをかけるような状況となっています。

現状の課題については、現在もなお続く燃料費や資材高騰に起因する商品への価格転嫁が容易でないこと。後継者や人材の不足、テーブルウェアフェスティバルの規模縮小による知名度向上や販路拡大の機会の減少などが挙げられると考えております。

本町における窯業界への支援策については、これまで各組合からの要望をもとにヒアリングを行い、各種支援を行ってまいりました。支援策の主なものとつきの主なものにつきましては、令和４年度から県と共同で支援を行っている認知度向上販路拡大事業への支援を実施しており、テ

ーブルウェアフェスティバルへの出展に関する支援や、消費地の百貨店などで開催するＰＲイベントへの支援、合宿型インターンシップ「オープンハサミ」への支援を行っております。

令和５年度、６年度には燃料費高騰対策支援事業を実施するとともに、令和６年度からは従業員に住居費の補助を行う事業所への支援として、窯業人材確保対策事業を実施しています。

（２）今後の対策はどうか、とのお尋ねですが、さきの課題について述べましたように、現在本町の窯業界は大変厳しい状況にあると考えています。これらの様々な要因の影響により、波佐見焼特有の生産における分業体制をも崩壊しかねない事態ではないかと懸念しております。

天草陶石の価格改定が示された今、各組合と今後の対応等について意見聴取を行い、国や県と協力してしかるべき支援策を検討していきたいと考えています。

以上で、壇上からの答弁を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

空き家対策についてですが、まず現状については大変増加の傾向にあるというのは、令和３年の調査においても200戸を超える状況が発生しているということでございます。

波佐見町にはこういう空き家に対する、いろんな形の対策の制度がございます。空き家の状況によって制度が組まれてるというのが現状でございますが、危険な空き家に対しては解体補助金という制度をつくっておられます。これはもう解体費用の３分の１もしくは30万円までの費用の小さいほうを支給しましょうということでございますが。

現状ですね、もう一般住宅の広さはそれぞれありますが、大方昔からお造りになってるおうちはかなり広うございますが、その中でも大体、解体して新しい家を造る場合のときには約150万円ほどかかるというのが建設業者、解体業者の皆さん方のお話でございますが。そうしますと３分の１が50万円、でもマックスが30万円ということで、こういうかたちになっておりますが、この空き家の解体補助金に対して、ここ一、二年の利用はどのような状況でございますか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

この空き家解体の補助金でございますが、令和５年度から始まりまして、令和５年度は６件。６年度は残念ながらまだ活用はないという状況でございます。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

なかなか現状は、どんどん先ほど町長の答弁にもございますが、外部的要因ちゅうか物価も高くなりまして。解体を含めて、解体のそれぞれのですね燃えるものもの、燃えないもの、いろんな分け方をして産業廃棄物として出されております。

そういうこともありますので、５年にはできたと言いながらも今の経済状況を見ながら改正の時期を見て、その解体が――危険的な物件に対する解体でございますから、そういうのが進むようであれば、見直しを含めて検討してもらうことはできますか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

運用してよく聞くお声とすれば、今おっしゃって頂いたように工事費、解体費用が増えてるということでございますので、30万円では少し少ないということ。

また住宅をのみを今、対象としておりますが、附属する小屋も対象にしてほしいということでございます。これらを含めると今年度利用が低調ということであれば、やはり見直しの時期に来てるのかなというようには考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

それと解体が必要な老朽化した物件に関して、もう一つ制度が――いろんな制度をつくっておられますが再生事業という制度がございます。老朽化した物件を所有者が町のほうに寄附を行い、その物件の除去を行って更地にして、分譲という形で供給する制度ですが。これというのはなかなか制度としては優れた制度だと思いますが、この制度については利用の状況はどうなんですか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

直接の所管ではございませんが、過去に三股郷で空き家を町に寄附をしていただいて、公有地や道路にしたり、あるいは古民家の前の駐車場にしたりという事業がございます。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

制度としてはよろしいのですが、なかなかここにこれを利用するに当たってはちょっとハードル高いという部分がございますね。そういう意味からすると、このこと自体は活用の価値はありますが、なかなか一般の家庭でこれを使って寄附をしながら、なおかつその要件を満たしながら、これを利用するというのはちょっと厳しいのかなって感じております。

また利用可能な空き家。これについては、いろんな町長の答弁でもございましたが、まだ改修事業というのがございますよね。改修事業というのは状況に応じて空き家のほうを改修しながら、入居の前の段階で例えば傷んだ風呂とかトイレとか含めて、改修しながらやるという。これは結構な利用者がいると思うのですが、その利用状況はどうですか。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

この空き家等改修事業補助金については、まず空き家だからできるというものではなくて、空き家を賃貸借で貸したり、借りたりするときに使用できる補助金でありまして、件数についてはすいません、今手持ちがないので後ほど報告をさせていただきます。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

多分この手の利用に関しては多いんじゃないかと予測されますが、基本的にはそれぞれ空き家の状況に応じて今も既に整備をされてるというのは、もうすごく所有者としては安心してその後の対応ができるんじゃないかというふうに思います。

それと先ほどの答弁にもございましたが、今度は空き家を貸す、所有者が貸す場合と空き家を欲しがっている――家を欲しがっている人のマッチングをやりますよというふうなことをおっしゃっておりました。これに関しては波佐見町の条例といいますか要綱で規定をされています。波佐見町空き家情報提供事業要綱というのが平成26年で、波佐見町空き家情報登録制度（空き家バンク）ですね、よく聞きますが。この設置要綱というのが平成27年。内容等を比べてみるとほとんど重複している状況なんですよ。この点については、どういうふうに御処理をされるんでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

御指摘の平成27年に制定しました波佐見町空き家情報登録制度（空き家バンク）を制定する際に、平成26年に制定した空き家情報提供事業要綱を本来なら廃止しないといけなかったものであります。これは廃止が漏れておりました。大変申し訳ございません、失礼いたしました。

速やかに廃止の手続をとりたいと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

そのようにお願いします。ほとんど内容は一緒で、なおかつ後でできた空き家バンク設置要綱のほうが、今適用されている空き家バンクとの空き工房を含めた空き家に対するマッチングに対して制定されています。中身についてはですね。

またこれはまた事細かく制定されておりまして、なおかつこれを利用されてる方がいらっしゃるということでございます。

この空き家バンクの件で、ちょっとお尋ねがございます。これは当然のことながら平成27年――約９年５か月前になりますが、その段階から９月から施行されているわけですが。この制度を利用された人の実績はどれぐらいしますか。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

これまでに登録をした件数、登録をされた件数が61件ございます。うち賃貸での登録が21件、売買での登録が40件というようになっております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

かなりの利用を、またこれ先ほど町長の答弁にもございますが、いろんなかたちで魅力ある町の財産ということで取上げてる、活用方法としては最高のかたちで対応されてるというように思います。

実際のところをこれだけの物件を扱いながら業務に関しては、どういう形でなさっていますか。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

この空き家バンクとですね並行して、空き工房バンクというのも、業務を行っております。

空き家バンク自体についての直接的な業務については、企画情報課の企画係のほうで行っております。そして空き工房バンクについては元協力隊の方に委託をして、運用をしている状況でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

空き家バンクに関しては企画情報課がやって、空き工房バンクに関しては委託をしているという内容でございます。委託内容について簡単に御説明ください。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

委託内容としましては、空き工房バンクの情報管理ですね。物件情報の登録とか受付、相談者情報と、また空き工房バンクに対する相談会をあと物件所有者との契約希望者の引き合わせですね。あと移住サイトの運営をされております。その運営、ＳＮＳの管理ですね。

あと波佐見町の移住や観光ＰＲに関すること。あとまた移住者に対してのインタビュー動画を作成されたりとかですね、そういった移住相談会でも同行願ったりとか、そういったかたちも行っております。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

その内容は基本的にはマッチングに結びつくような、業務内容というような理解をしてよろしいのですか。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

はい、そのとおりです。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

そうなりますと、基本的には現在不動産関係の業務もやっておられる不動産屋さんというのですかね。不動産業もこの平成27年以降、いろんなかたちでそれぞれが独立して、活発に情報提供を世の中に行い、また物件の御案内等もされているような状況でございます。

業務内容に移住サイトということで「ＩＫＴＳＵＡＲＰＯＫ（いくつあるぽーく）」というのを立ち上げてなさっている様子でございますが、似たようなことを各不動産屋さんもやっているという状況の中において、27年当時においてはそこまでの活発な不動産屋さんはいらっしゃらなかった状況の中で、町が率先して空き家対策、空き工房対策をとられたという理解をしているのですが。こういう状況が世の中の状況が変わっていく中で、私としたらもうこの空き家工房バンクの管理運営については、民でできる分は民でやるべき方向に持っていかれたらどうかというように思うのですが、その点どうですか。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

おっしゃるように民でできる部分は民に任せるべきだというのも思っております。

ただですね、なかなか行政がないとできない部分、相談業務もきめ細かな収益に結びつかないような相談内容等も多々あるのが現状でございます。

そこは先ほど町長答弁にもありましたように、もちろん行政だけでやるのではなく、不動産屋業者さん、そういったもちろん自治会も含めて、そういった民間事業者さんとの連携を密にとりながら。決して民業圧迫になるようなことはあってはならないと思ってますので、そこはしっかりと会話しながら、連携しながらですね、ベクトルは同じだと思っていますので、そこをしっかりと調整してまいりたいと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

ベクトルは一緒だからこそということなんです。私が言ってるのは――というのは要はこれが不動産というのはかなり物件の扱いには神経質にならんばいかん。つまり権利関係があったりとか、隣接等の問題であったりとか、相続とかの問題であったりとかということが絡んでくるんです。

だからこういうのを結局宅建主任の資格もお持ちでなかった場合には、トラブルの原因になりかねないのですね。実際そういう事例があったということで、関係の事業者のほうから、要望書が波佐見町長宛てに上がってるのが御覧になったと思います。

だからやはり今から先は、その業務に関してもいろんな一般質問の中で町長も御答弁されてますとおり民でやる分は民がやりながら業務を縮小し、早く言えばＤＸ化しながらやることがマンパワーを削減できる要因なんだということであれば、委託業務がベクトルが一緒で重なってるのであれば、積極的に町内の不動産業に業務のほうをやっていただくようなかたちで進めたらどうかというのが私の提案です。どうですか。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

誤解がないように、お知らせをしておきますが、決して――マッチングはしますが、それ以上の契約行為とか、不動産の宅建事業者さんじゃないとできないようなことを踏み込んでやっているわけじゃありませんので、そこはしっかり。そのあとの業務については、町内、町外の波佐見町にいらっしゃる宅建事業者さんのほうに引継ぎを行っているというのが現状でございます。

ただですね、そういうところに非常に誤解を生じるのであれば、そういうところもしっかりと見直さないといけないし、今後今委託している業務の範囲のいろんな幅がありますが、その部分でどこの部分をお願いして、どこの部分は民間さんのほうにしっかりとお願いしないといけないかというところは精査をしないといけないと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

そのラインが分からないのですよ、宅建業者じゃないと。だからそこら辺がね。

結局今なぜこういう、ちょっと要望書が何件かあがっているのですけど、町長部局のほうに要

は最終的にその部分に宅建業法に触れることはできない。でも相手があるから、そのやりとりの中で、そこに入らざるを得ない交渉事とかあるわけです。そういう部分に関して、もつれにもつれた内容を最終的に不動産業者の宅建主任の方が、調整してもめごとを納めるというケースが何件かあっていると。

だから、そういうことであるならば、この27年から始まったこの事業についてはやはりある程度もう方向性が出たし、ベクトルが一緒に、民間の不動産業者も歩んでいるのであればね。もう同じようなことを行政も不動産業者も一緒になっていくよりは、そういう業務の見直しも含めてやったらどうかという思いなんですよ。

その点町長、いろんな形で行政改革も進められていますが、どう思われますか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

先ほど課長答弁しましたように――議員もおっしゃったように、民間でできる部分は民に任せる。これはもう前先代の町長もそういうふうに強くおっしゃっていらっしゃったので、そういう方向性に変わりはございません。ただ御相談に空き家とかお持ちの方で御相談にこられる方には、どうしても町でも紹介してほしいとかおっしゃる方も中にはいらっしゃるわけですよ。

それと先ほどおっしゃったように、もめにもめて最後は不動産業者に泣きついて処理をされたという件数は何件なのかを私は把握しておりませんが、必ずしもそういった件数が多いというふうには理解はしておりません。

意外と波佐見町の町内を案内して回り、例えば空き工房の場合は特に仕事に直結する部分が多ございます。空き工房ですから、焼き物の空き工房であるなどそういったものを利用される方が多いんです。

そういった職業とされている、例えば生地屋さんであるとか石膏型さんとか、そういった方のところにも御案内をされて、実はこういった仕事があるんですよ、場合にはこういった工場が、空き工房がありますよとか。そういったお世話までしていただいております。

ですから必ずしも全てを見に行かせると、その方もはっきりもう民間であるわけですよね、公的ではないのですから。それをちょっとお願いしてるだけですから。

それから、おっしゃってるように業界から――団体からですが。要望書を頂いて、実はそのときに有田方式に変えてほしいほしいというふうな要望であったかのようにちょっと少し記憶をしております。ですから、かなりそういった要望に沿った改正も行ってきたつもりでございますので、それでもなおかつ不具合があるというのであれば、もう今一度協議をして、どういった点を改正すれば、業務としてやりやすいのかもさらに検討を進めていくべき事案かなというふうに思います。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

今御回答いただきましたので、いろんな形で検討をしていただきたい。お互いに波佐見町の空き家を有効活用するための取組ですから。それを進んで、いろんなかたちで線引きをするなら、

したところでしっかりやっていただきたい、というふうに思います。

町長の施政方針演説の中にありました、波佐見町空き家等対策計画。令和８年を起点としてということで計画されています。これはもともと波佐見町の空き家対策の推進に関する条例ですか。こちらのほうにも上がっておりますが、この協議会を中心に向こう５か年のですね、空き家対策、空き家等対策の計画を練られる予定になっているのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

すみません、答弁の前に改修補助金の数字が分かりましたのでお知らせをいたします。令和２年に６件、以降令和３年が２件、令和４年が２件、令和５年が３件、令和６年が３件という実績になっております。合計16件でございます。

この空き家等対策計画については企画を中心として、そういった庁舎内で検討――関係課がいろいろございます。もちろん利活用はうちの企画でやりますが、解体のほうは総務課が担当するとかですね。いろんなちょっと役割分担もございますので、そういったところも今回はちょっと予算にも上げておりますが、実態調査もしっかり踏み込んだところで行いながら、現状把握に努めながら少し踏み込んで、この計画をつくっていければというふうに考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

今の答弁ですと、関係課の担当者が集まってやるということで。私の質問は波佐見町空き家等対策推進に関する条例、これは令和５年にできているのですが、それに基づいて協議会を立ち上げるという第10条に上がっていますし１目．１項．各項に空き家等対策計画に関することというのがあがっておるんですよ。

だからこれまさしくこのことだと思って言ったので、この条例に基づいて計画を立てられるんですかという質問です。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

おっしゃるとおり今、令和５年６月に制定しました波佐見町空き家等対策の推進に関する条例の第10条に所掌事務ということをしておりまして、第１項に空き家等対策計画ということに掲げておりますので議員お説のとおり、この協議会で計画を練ります。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

ということは第11条に協議会の人員数であったり委員の構成メンバーであったりとかというのがあがっております。ここに関してありますとおりですって、今後不動産に関することでございますので、不動産業者も専門性から一緒に入れて、よりよい空き家等対策計画ができますように、なされる予定だという理解をしてよろしいですか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

まず、この対策協議会については、議員がおっしゃったようにこの空き家等対策計画をまず協議する場でございます。あわせて総務課のほうが除却のほうを担当しておりますので、除却案件が出てきたらそういった意味でも専門の方を入れるということになっております。

御提案があったとおり条例の中の第２項のほうに不動産等の学識経験者を入れるとなっておりますので、その人選についてはそれを基本に、今後選定をしていきたいと考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

それでは窯業支援のほうに移ってまいります。

窯業支援の中身について議論する前に、令和７年度の当初予算まだ議決されていませんので、予算案には約総額104億円が予定をされています、計上されています。そのうちふるさと応援基金はこちらのほうで17億円の計上があっておりますし、基金からの繰入金としては８億円。約25億円、104億の総額に対して約24％程度がふるさと応援基金。すなわち今までの皆さん方の答弁からすると、返礼品がやはり焼き物が90％近く占めている中で、今回このような大きな予算組みができたということでございます。

こういうことに関しましては、やはり各部署からの要求に対して、大まかに取りまとめを行いました税務財政課長のほうはどういうふうに、今後焼き物の貢献度合いについてはお考えになっていますか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

議員が先ほどおっしゃったとおり、近年波佐見町には全国の方から多くの寄附金を頂いております。そのおかげで、今年度は18億5,000万円。次年度はちょっと経済状況もどうかなというところもありまして、17億円ということで予算を立てております。

そこで窯業波佐見焼ですね、ということがあったことで、これを集める機会、このようにふるさと応援寄附金を多く集めてくれたということは事実だということで理解をしております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

今御回答あったとおりです。焼き物の地場産業が波佐見町にあったということはですね、今回このように大きな寄附を頂戴して予算化のほうにも相当な金額が予定されているという状態でございます。

近隣の市町においては、同じ規模の町からもうらやましがられるほどの寄附が集まっているということでございます。それによって町民の皆さんは多種多様な町の施策を予算化して、いろんな人たちのところに重要な成果、費用をかけているという状況でございます。

その中で焼き物が、先ほど町長の答弁にもございましたが、分業で焼き物をつくっているのがこの波佐見町の焼き物づくりの特徴ではございますが、確かに令和６年度にあたっては、基本的に焼き物振興会にこれは県の補助金も含めて2,994万3,000円、工業組合員は801万3,000円、商業

組合には39万5,000円と生地組合には169万6,000円、伝統工芸士会には25万円と。業界全体においては579万円というトータルで。県の補助も入れまして4,608万7,000円が事業補助、支援等々がされているわけです。

お尋ねします。今申し上げた各項目がございますが、この支援にあたってはまさしく町側がいろんなかたちで提案をされたものなのか。各組合とか組織の要望があって、この支援体制が組まれたのかというのをちょっとお尋ねしたいです。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

基本的に業界、各団体からの意見聴取を踏まえまして、それに対するスキーム等を町もしくは県と併せて、いろいろ協議をした上で制度を構築したというふうなことでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

基本的に今おっしゃったように、事業所意見聴取含めてということでございますが、実際のところ要望が上がったそれに対して対応したというのが現実かもしれません。

しかしながら、それぞれの団体がしっかりした団体で、それぞれの業務内容を把握しながら手当てが必要ですよという書類の提出かれこれも、やれる業種とやれない業種そういうのがあります。今回も生地組合のほうから行政側と議会側に要望が上がっている。そういう状況がございます。

実際に回答がございましたが、内部的要因としては後継者がいない人材不足だと、高齢化も進んでるという状況がございますが。外部的要因としてはですね、電気代、ガス代、燃料代が高騰する。その他の物価が高騰する。また今回８月から陶土が25％値上げをされる。陶石が本来上がるのですけど、それに伴って陶土も上がる。また２年後は、同じような値上げも考えられるという情報まで入ってます。

こういう状況で、先ほど御説明しました事業に対する支援。いろんなかたちで皆さん方から、要望が上がることはあるかもしれませんが、行政側はどうやって今の各業種の危機的状況を把握されていますか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

業界との意見交換の場というのは、毎月１回振興会を開催している事務局会議というのがありますが、そこで業界側の団体ごとの課題等もお話があったりとかというのも、毎月定例的にやってるというところもございますし。

各団体との意見交換というようなことでありましたら、工業組合それから生地組合さんについてもそういう意見交換の場を去年と一昨年等については回数もちょっと増やしてきているようなところもございますので、都度そういったところで、今における課題等もお伺いした上で、いろんな政策に対しての予算化を今してきているというふうな状況でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

各団体とのですね意見交換ということだと思いますが、実際に担当課のほうで生地屋さんをランダムに抽出して訪問して状況を聞いて、「どうですか」と。石膏型をされている上絵をされている、「どうですか」って。そういう聞き取りを自分たちの足で現場に行って、話を聞くという機会はないのですか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

実際に廃石膏の取組などいろんな事業に関するところでは、そういう個別の個社のほうに訪問していろいろお話を聞くというふうなことは機会としてあったのですが、議員がおっしゃられるように個別の個社に対してこちらのほうから、積極的に働きかけて聞き取りを行うというふうなことは実際問題としてやってはいないところでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

ということは、生地組合でも組合に加盟している方と加盟してらっしゃらない方がいらっしゃいます。石膏型もそうだよ。いろんなかたちで組織自体が弱体化しているというのが現状でございます。

今回焼き物をつくる大本の石、採石のほうがやはり今の状況では上げざるを得ないというのが、今回25％の陶土等の値上げの発端ではございますが。土がなかったら、焼き物作れませんよね。焼き物が25％原材料上がって、原材料の25％を、例えば陶土屋さんは採石が上がったから陶土上げますよね。陶土がないと作れませんから持ってきました。生地屋さん、鋳込み屋さん、やります。鋳込み屋さんが上がった分を例えば窯元さん買う場合もあります。買わない場合もある。

それがちゃんとした形で転嫁できていると、できるだろうという組織だと。今ある組織がそういう組織なのだという認識はどうですか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

いろんな団体との話をいろいろ聞きますと、今業界の課題としてはそういった価格転嫁の部分について、それぞれがこの波佐見焼の分業制の流れの中で、なかなかそういったところの意思疎通というのがうまく図れていないというようなところに、やはり課題をお持ちであるというところは認識しております。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

そうだと思いますし、私も中身をしっかり、運転ができている、できていないという調査まではできていませんが、なかなかそういう状態であるというのは聞くところによると、転嫁がうまくいくところと、いかないところ。組織がきちんとした形で、関連する納め先に話ができるというところは少のうございますというふうなことでございます。

誰だって利益をキープしたいと、確保したいということで、何とかまけてくれないかという話

が。早く言えばどんどんどんどん――それが早く言えば最初の段階のほうに行きますので、どうしてもかぶってしないといけない、ということなんですよね。いろんなかたちでこの支援をやられてます。

ところが、それぞれ石膏型屋さんに行くとリサイクルを始められていらっしゃいますよね。このリサイクルにおいても石膏型さんというのは、石膏型を、回収してリサイクルに持っていかれる業者というのは、雨に打たないようにして乾燥している屋内に保管してくださいという条件があるんです。たまっていくわけですね。倉庫がそんなに広いわけじゃないですから、それはできない。型屋さんのほうで使う石膏が丸々リサイクルに持っていけるかというとそうでもない。そうしますと自分たちでもう出しているわけですよ。

波佐見焼ができるまでは分業、分業と言いますけど、分業も相当細かい分業なんです。陶土にも何種類もありまして、段階が。石膏にもあるそうです。その材料だけじゃなくて、生地屋さんのテコというのですか、その道具です。ローラーマシンとか。いろんな形で分散されているんですよ。

それが今までうまくいっているから、従事する方がまだ若いからうまく回っているから今まで来たのですね。今高齢化だ、後継者がいない。いろんな内部的要素がもうガタガタ崩れているのに、外部的要素でダメージが大きい。そこを何とかするためにはどうしたらいいのかというのをお考えになったことはありますか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

いろんな外的要因と、あとはやはり個社ごとの状況等というふうなところにつきましては先ほども言いましたように、個別の部案件についてはちょっと把握はなかなかできていないようなところがあるのですが、やはり業界全体としてとか組合ごとの課題というようなところにつきましては、非常に今議員がおっしゃられたような多岐にわたるような課題をおっしゃっていただいております。

ですので、先ほどもありましたように生地とかですね、窯元さんで使われるカンナの製造をされている職人さんがもうここ数年で廃業したいという意向を持ちであるとか、ローラーマシンとかの職人さんも町内にお１人いらっしゃるというふうな話ですが、御高齢であるというふうなことも聞いております。

ですので、それに対しての対策につきまして、何らかのかたちがとれないかというふうなことで、いろんな検討自体は業界の方にも話を聞きながら、今行って来年度の予算にも一部ちょっと予算計上しているようなところもあるのですが。

今後ですね、こういうふうな陶石の価格改定というふうなところを踏まえて、どのような支援が適切なのかといいますか。タイムリーにできるのかというのは、引き続き検討していかなければならないというように思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

検討してもらいたい。そういうように思いますが、検討にあたってもいろんなかたちで各業種に皆さん方が足を運んで、現状、問題点、課題、どういうのを聞き取って対策を練らないと。「補助金出せばよかっちゃろ、支援すればよかっちゃろ」ということではないので。「何がどう足りないんですか、何をどうすればいいんのですか、じゃあどうしましょうか」というところを中に入り込んでいってやらないと駄目。

そのために基本的には専門的な部署、焼き物。波佐見町は焼き物でこれだけのいろんな恩恵を受けています。だからこそ町の公共事業もできているというのは、冒頭ありました回答からも言えるわけですね。ではその焼き物が波佐見町からなくなったらどうしますか。そういう危機さえあるというのが現状なんです。

生地屋さんが――意見交換会やりました産業建設委員会で。「もう、もうからんけん息子にやれということを、後を継いでくれって言いわえん」って。泥まみれで８時間、９時間働いている皆さん方が、事務的な内容も含めてもうせっぱ詰まって要望書をつくられているんです、生地屋さん。何とかしてくださいと悲鳴上げられて要望書をつくられています。

完璧な要望書ではなかったです。しかし、何とかこの危機を乗り越えようとすなわち生地屋さんがつぶれたら波佐見町の焼き物の大量生産はできません。

御存じのとおり石膏型もそうです。石膏型ができなくなったら多分できません。生地屋さんに聞きましたけど石膏型一つで200個。陶土を入れて作って乾燥して。200個作ったら変えないといけないんです。ずっと永久的に型が使えるわけじゃないのです。

そういう状況の中で、いろんな人たちの手を使って、出来上がった焼き物がいろんな工業組合の窯元さんや、商社の皆さん方が販売して、なおかつ長年続いた波佐見町の歴史の中で農業者も従事して、40年前ぐらいは多くのマイクロバスが各窯元に行きよったわけです。現金収入を受けて農業者も一緒になって焼き物をつくってきた。

この焼き物が分業体制が、ちょっとしたことで手当や手後れになっただけで、ガタガタガタってつぶれる危機が今あるって。そういうことなんです。

ぜひともそういうことにならないように何とか早い段階で手を打たないと、大変なことになりますよ。

「ここの１個欠けてもどがんでんなろう」って。全然。ある窯元さんのところに広島県から筆を売りに来られます。「最近来らっさんね、筆を換えたかとばってん。」亡くなっていました。そういうことなんです。筆一本でさえ職人さんですから。その魂で絵をかいていらっしゃるんです。

そういう焼き物の現状を実際現場に行ってみて、そういうこの波佐見町に焼き物が持続可能な産業として残るためには、専門的な専属というのですか、専任の焼き物の担当者、部署をつくりながら――係でもいいですよ。そうして皆さん方の現場の声に合ったような施策。決まりきった今まで御苦労してつくられた政策以外でも、できる政策あると思うんです。

しっかりやってもらって、今後ますます波佐見町が豊かなまち、また波佐見町が選ばれるまちになるように。そうすると焼き物をつくりたいという全国の誰かがおりました。その誰かが「波

佐見町に行ってしようよ」と、「焼き物するなら波佐見町ばい」と。そう言われるように、選ばれるまちになるように、何とかつくり上げていただきたい。今手を打たないと遅くなります。

どうですか町長、最後に御答弁をお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

熱い答弁ありがとうございます。

まさにそういった状況は、我々危機感を持ちながら対応してきているんですよ。三石議員がおっしゃるまでもなく、先ほど課長が申しましたとおり毎月１回、波佐見焼振興会に寄りまして、それぞれの業界の方の声を聞きながら、今の現状、問題点、課題をお聞きしながら、どういう施策が望ましいのかもお聞きしながらですね、対応してきております。

それから各個別を除いて意見を聞き取るように御忠告いただきましたが、行政としましては、波佐見町の窯業界に係る共通課題を解決していくことが一番の行政課題解決方法だというように思っております。

そういった事業者のお声を拾うのもよろしいでしょう。ただそういった業界の集まり、団体があるんですね。そういった方を介して意見を聴取するということも重要かというふうに思っております。

ある団体の方の代表者の方も今度お見えになりました。燃料高騰をどうしようかとか、陶石の件に関してもお見えになりました。以前お見えになったときに直接町を介してもいいですが、県に要望をいたしましょうよということをしましたら、今まで自分たちが直接県に要望することはいいのかというふうに躊躇していたが、そういったアドバイスをした結果、自分たちも行かれたそうです。そのあと燃料費対策としての施策を打っていただけた。

そういった側面的な支援も我々はしっかりとやっていきますし、議員御要望の専門性を持って職員を配置せよということでございますが、確かにそういった専門性を持った職員を置くこともいいでしょう。しかし、もっと専門的な知識を持った波佐見焼振興会という組織がございます。そこの中で意見を拾い上げながら、それを行政に反映させていくのが最も効率的ではないのかなというふうな思いもございます。

また、行政の役場職員の中にも、もう少し窯業会について精通するような勉強会なり学習会等をしまして、より町民の皆さんのお声を拾えるような体制もつくっていかなければならないというようなことも思っております。今後、十分検討してまいりたいというふうに思います。

**○議長（尾上和孝君）**

以上で、７番　三石孝議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。14時40分から再開します。

**午後２時30分　休憩**

**午後２時40分　再開**

**○議長（尾上和孝君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、11番　北村清美議員。

**○11番（北村清美君）**

こんにちは。皆さん。今から通告に従い質問をいたします。

１．高齢者対策について。

2017年の国連推計データによると「2007年に生まれた日本の子供の半数は107歳以上まで生きることを予想される」とあります。我々はとんでもない長寿社会を迎えることになったと思い知らせる記述でございます。

しかしながら、老年医学の中で高齢者研究とは65歳から74歳の準高齢者を対象にしたものがほとんどであります。健康の方が少ない75歳以上の「本当の高齢者」と言われる年齢制を対象にした研究はあまり見当たらないのが現状でございます。

既に75歳以上の高齢者人口は2,008万人、率にしまして16.1％。それから前期高齢者65歳から74歳人口は1,615万人、13％を上回っています。指針のエビデンス（根拠）がないため、かつて人類が経験したことがない75歳以上の「健康と生きがい」を考えざるを得ません。そのためには「エンディング・パラドックス（高齢者の幸福感）」・「エージズム（老人差別）がない世界」、そしてold-old（後期高齢者）が徒然草のごとく「存命の喜び、日々に楽しまざらんや」を目指さなければならないと考えます。

そこで、次のことを問います。

（１）介護に関する状況はどうでしょうか。

（２）ビジネスケアラーの実態と対策は。

（３）独り暮らし世帯への現状と対策は。

次に、２．創業者支援策について。

波佐見町は歴史的に農業と窯業が醸成された土地柄であります。基本となる農業がしっかりしているからこそ、産業（窯業）が発達して、先人たちが全国に販売網を確立し、また、海外まで販路を広げ、地場産業の礎となりました。今後もこういう風土・気質・住民の活気にあふれたまちであり続ければならないと考えます。だからこそ、まち・民間共々新しい企業の創生と育成をとことん構築・支援すべきと考えます。

その一段としまして、スタートアップ及びベンチャー企業支援の状況と支援政策は。

３．本町議員の働き方・福利厚生・環境などについて。

昨今の人材争奪、賃金、福利厚生などが想像を絶するスピードで変化しております。本町では人材獲得もままならない事態と聞いております。また民間では「初任給41万円」を超える企業は数社あり、それに伴って、若手既存社員に「月額10万円」近い、増額を提示する企業もあると聞きます。

それに加え海外との所得格差、また円安のため海外に新天地を求める若者が後を絶ちません。そして、今や日本は他国に比べ遅れをとっており、この格差が縮小する気配がありません。本当に憂慮される深刻な事態でございます。こんな状況の中でも、本町の「役場」は魅力的で尊敬される職場であり続ければならないと考えます。

そこで、次のことを問います。

（１）本町の職員採用の現状と対策は。

（２）職員の福利厚生と職場環境及びモチベーション維持などにおける対策はどんなでしょうか。

以上、壇上からの質問を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

11番　北村清美議員の御質問についてお答えをいたします。まず１．高齢者対策についてということで、高齢社会の現状と、北村議員のお考えについて述べていただきました。

（１）介護に関する状況は、とのお尋ねですが。本町の高齢化率は令和６年12月末時点で33.7％となっており、その内訳は65歳～74歳が15.3％、75歳以上が18.4％であり、75歳以上の割合が年々増加しています。一方、要介護認定率は16.9％となっており、その内訳は65歳～74歳が3.2％、75歳以上が27.9％であり、加齢とともに要介護の認定を受ける割合が大きく上昇する傾向にあります。

（２）ビジネスケアラーの実態と対策はとのお尋ねですが、ビジネスケアラーとは仕事をしながら家族を介護する方のことです。これは高齢者がいる家庭のみの問題ではなく、障害者やそのほかケアが必要な家族がいるが介護を任せられる人が周囲にいないことから、仕事と介護を両立しなければならない厳しい立場に置かれている方のことになります。

その実態としては、経済産業省のデータでは262万人とされており、家族介護者の約４割が仕事と介護を両立しているとのことで、2030年にはビジネスケアラーの増加による労働生産性低下等に伴う経済損失額が約9.2兆円に上ると試算されています。

仕事と介護の両立をめぐる問題は、高齢化の進展に伴いまさにこれからが本番となり、その解決にはお勤めの企業と地域の協力が必要不可欠となります。

そのためには、まず各事業所で育児介護休業法に規定されている各種制度の活用を御検討頂くことになることとなりますので、お勤めの各事業所に御相談を頂ければと思います。

町といたしましても、介護保険法や障害者総合支援法に基づくサービスの利用を含め、情報提供や個別相談に応じることで、ビジネスケアラーが抱える悩みや不安をサポートしてまいります。

（３）独り暮らし世帯への現状と対策はとのお尋ねですが、令和２年に実施された国勢調査によると町内の高齢独居世帯は493世帯であり、平成27年調査時点の428世帯から65世帯増加している状況です。

その対策については自治会をはじめとして民生委員、児童委員、見守り協定事業所、シルバーボランティアにより独居高齢者が安心して生活できるよう見守りを行っています。また急な病気等に対応するため、緊急通報システムの無償貸与や救急車を要請した場合に、本人の持病や既往歴、服薬状況などを記した緊急医療情報カードを常備することにより、救急隊や医療機関への情報提供が行われるよう、その活用を周知しているところです。

２．創業者支援策についてということで、スタートアップ及びベンチャー企業支援の状況と支援政策はとのお尋ねですが。波佐見町は古くから農業の閑散期に窯業の仕事を行ったり、または

窯業を営みながら農業を行ったりと、半農、半陶のなりわいが広く行われ地場産業を下支えしてきました。

また、ものづくりの機運が醸成されており、本町で起業やチャレンジなどスタートアップを図りたいと思われる人が多い地域だと感じています。そのような状況の中で、本町では平成27年に中小企業者及び創業をお考えの方の健全な経営の発展をお手伝いするために、従来の中小企業振興資金の大幅リニューアルと創業支援資金の新設を行い、利子補給や保証料補助など２つの融資支援制度を強化し、これまで多くの事業者が活用されてきました。

また令和５年度には、波佐見町でのスタートアップを応援する波佐見町チャレンジ支援事業を創設し、これまで２年間で９件を採択し、波佐見町でのチャレンジを後押ししてきたところです。今後もそれぞれの事業を精査し、見直しが必要なところは修正等を行いながら、波佐見町での新たなチャレンジを引き続き支援してまいりたいと考えています。

３．本町職員の働き方・福利厚生・環境などについて、ということで、（１）本町の職員採用の現状と対策はとのお尋ねですが。城後議員の御質問でも触れましたが、既に人材確保は官民問わず自治体間でも激化しており、本町においても応募人数が１件当たり令和元年度は21.0人であったものが、令和６年度では9.4人まで激減している上、求める人材そのものも減少傾向です。

この要因については少子化による若年層の人口減少の影響が大きく、加えて若年層はワークライフバランスやスキルアップなどを重視して仕事を選ぶ傾向があり、民間企業の給与が上昇に転じる中、公務員の中でもとりわけ小規模自治体の地方公務員は、魅力ある職種と思われていないようです。また自身のスキルアップと能力を生かせる職場であれば、転職することに抵抗感も低くなっていると言われています。

このことは本町における５年間の採用人数31人に対し、自己都合の退職者19人であることからも言え、定着率は低下傾向です。そこで対策についてですが、城後議員で回答したとおり大きく３つあります。一つ目は、役場職員は社会貢献、まちづくりを通じて働きがいのある魅力的な職場であることを発信すること。二つ目は、働き方改革をはじめとする職場環境の改善を進めること。三つ目は、業務効率化を進め、職員の能力が発揮できる環境を整えることと考えており、これまでも種々の取組を行っているところです。

これらを若い世代に情報発信し、選ばれる職場とする必要があります。既に情報発信については公務員就職専用サイトに、県内団体に先んじて登録を行い、積極的に行っているところです。また資格職については、いわゆる筆記試験を廃止して、その他の職種については応募可能な年齢の引上げなど、試験自体の見直しも進めているところです。

（２）職員の福利厚生と職場環境及びモチベーション維持などにおける対策は、とのお尋ねですが。地方公務員の福利厚生制度は地方公務員法等に定められており、本町においては、国等に準ずることで規定を設けており、他の自治体と大きな違いはありません。一方で、それぞれの自治体の裁量で決定できるものは、職員組合と協議の上、改善している項目もあり、例えば子供の介護休暇の対象年齢の拡大や、夏季休暇の日数等は他団体より充実しています。

国においても働き方の一環で制度の見直しも進んでいますので、本町も遅滞なく改善してまい

りたいと思います。また職場環境については、新庁舎移転改築そのものが大きな改善であり、職員専用のミーティングブース、休養ブースも設けたところですので、働きやすさの観点では大きな前進だと考えています。

次にモチベーション維持ということですが、究極は職員一人一人がその能力を発揮し、生きがいを感じ、その成果を適正に評価し、最終的には勤勉手当や昇進に反映することだと思います。

しかし我々役場の仕事は範囲が広く、多種多様な業務があるうえ、限られた職員数で職務を遂行する関係上、人事異動で不慣れな部署で仕事を行うことも少なくありません。このため定期的に職員意向調査を実施し、異動の希望や組織等に対する意見、提言、要望を求めているところです。

モチベーション自体は職員一人一人の内面に宿るものであり、性格や経験、職務内容や人間関係で変容するものと思いますが、職場の目標共有、責任ある業務の分担、指導と育成、成果に基づき適正評価を行い、波佐見町のまちづくりを担う役場職員としての自覚をさらに高めることが第一歩だと考えています。以上で壇上からの答弁を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

今から質問に入りたいと思います。

質問に入る前に介護に関しまして、日本の介護はどうなってるかという、ちょっと簡単に説明をしたいと思います。日本で介護始まった記録というのは、1400年前ぐらいから始まったというように言われております。古くは万葉集それから枕草子、方丈記、それから徒然草などに記載をされております。だから古くから介護というのは日本に根差したものであるということだけは事実ですね。

特に江戸時代には本当に介護休暇まであったんですね。私は知りませんでした。「看病断（かんびょうことわり）」ということが介護休暇だそうです。主に介護というのは、江戸時代は何だったと思いますか。今のあれとはちょっと言葉は違うのですけど、脳卒中は一緒ですよね。それと目ですよね、目。目が見えなくなる。要は白内障が悪くなって目が見えなくなる人が多くなったということですね。この２点が一番多いです。

それともう一つ認知症というのが、皆さん若いからちょっと覚えがないかも分からん。我々子供の頃「ほうけんもん」というふうに、言葉を聞いていました。頭がぼーっとしとらした。あ、頭のおかしかとよ、というのを「ほうけもん」という。これは記憶にあります。そういうものは、こういう介護の対象の部類に入ってないのですね。そういうことです。

そういうようなことで、非常に今の「ほうけもん」が今認知症になったということが言えるのではないかと思います。

それともう一つ。大きく今違うのは、介護はほとんど男性だったんですね。女性じゃなかったことは事実です。それと江戸時代の人は早く息子に譲って、自分は楽隠居しようというふうに、それがステータスだというふうに書物には書いてあります。ここが大きなことで違うんですけど。

だから、身寄りがないとか言う人はどうしたかですよね。だから子供が親を見るというような

ことは江戸時代は当たり前ですけど、今でも当たり前なんです。身よりの無い人はどうしたと思いますか。皆さん御存じのとおり、江戸時代には今の隣保班でね、我々の隣保班、組あるでしょ。江戸時代は５人組ですから、５人組で面倒見るというようなシステムが存在しておったわけですね。そういうようなことで、これは余談ですが、そういうようなことを皆さん認識していただきたいと思います。

先ほどからずっと町長答弁にありまして数字のほうはもう皆さん、聞かなくてもいいんですが。まずですね、高齢者という位置づけというのは逆にどうしてあれしたのかといえば明治時代ですね。65歳以上は高齢者と、もうこれドイツのビスマルクというのが、その当時に何とか保険をつくらないといかんということで認定したのが高齢者と。その高齢者、65歳以上はみんな亡くなるから、もう払わんでいいだろうというようなことで簡単に高齢者と決めような感じなんですね。それが今ずっときてるということが言われております。

そういうようなことで、実際本町も高齢化率が上がりまして、今22部落ありますけど、そのうち長寿支援課長、40％超えてる地区は何地区ありますか。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

私が持ってる資料が、令和６年４月１日現在での資料になりますが、65歳以上超えてる自治会の数は10地区になります。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

現在配られている資料には、12部落と書いてありますがこれは12月現在ですからね。これだけ増えたということですね。現状はそうです。

だからそれ一番大きな問題は、今は老老介護。もう皆さんこれ御存じですよね。それと認認介護というのが増えてきていますね。認知症が認知症を見るというようなことも出てきております。

だから介護というのは、逆に申請をしてどのぐらいで認定されるのですか。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

申請を出されて基本的には30日以内で認定をしなさいというふうに国からの指導があっております。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

じゃあ波佐見本町の場合、現実はどうなんですか。30日以内になっていますか認定は。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

基本的には30日以内でできております。審査会のほうは東彼地区保健福祉組合のほうに委託をしておりますが、その場合に主治医の意見書、担当のお医者さんの意見書ですね。そこが特に総合病院と大きな病院になると、なかなか出てくるのが遅くて、その分で30日をたまに超える部分

があるといったような状況でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

そういうことで、ちょっと60日に変わっていると。60日――２か月位はかかるというケースもあるというふうに聞いておりますね。だからやはりそういうのがもう少し簡略化できればいいのではないかと思いますけど。

それと波佐見町の場合はもう介護ということに関し、医療介護とか介護の面に関しては、よその町村に比べたら群を抜いていいですよね。これはもう何度も私は言ってますけど。実際今のお医者さんあたりが在宅介護、みんな皆さんやっておられます。

前にも言いましたけど、川棚町は２名しかやられていません。東彼杵町はゼロです。だから波佐見のお医者さんが川棚町、東彼杵町へ行ってますから。だからそういう意味では非常に恵まれた時期じゃないかと思います。今後は分からんですよ。お医者さんも高齢者なってきますから。でも今のところはピカイチですよ。自信持ってください。

それと今先ほどからビジネスケアラーというふうなことが答弁書にも言われています。　実際、数字的な9.2兆円の損失が出るんじゃないかと。これはもう右肩上がりじゃないですけど、ずっと増えていくということになってますね。だからこれは結局数字的に言うと、8050という数字がちまたに行き渡ってますけど、これは松添課長どういう意味ですか。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

「8050問題」のお話だと思いますけど、最近はですね「9060」とかも言われておりますが、基本的にはですね、80代の親が50代の子供の生活を経済的、生活支援をしているというようなお話でしたが、前はですね。

今は親の経済の困窮とか、親の要介護状態等がありますので、子供の社会的孤立の問題というふうになってきております。引きこもりだったり、子供の離職だったり、子供さんが障害を持っていたりとかですね。そういう場合がありまして、親の衰えとか病気によってですね、親子共倒れというところが懸念されて、地域課題となってきている状況でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

要は、今は子供さんがおるからいいですよね。現在50歳以下は独身がものすごい多いですよね。私を含めてですけど。そしたら今後どうなるのですかね。ここが大きな問題になってくると思うんですよ。独り住まい。

要するにお独り様世帯ですよね。この問題を一番懸念してるのは、やはり病院に入院できないのですよね、保証人がいないから。これが大きな問題ですよ。これは皆さん家庭を持っていらっしゃいますから、持っていらっしゃる方は問題ないのですよ。持ってない方、身内がいない、入院もできないような状態で判子、保証人いないと。その問題と、あと死んだあとをどうするかという問題出てきます。これはもう大変な問題になりますよね。

正常だったらいいですよ。やはり認知症が入って、判断ができないというふうになると、もう考えても分かりますよね。だからこういう大きな問題で、今は自治体の一部の自治体は、そういう問題として対処してるところもありますと聞いております。本町の場合はそれが今体制はないですから、別に国の方針もないし、国もまだ決めかねているでしょうね。

その中で独り世帯の対策として、今イギリスのほうではリンクワーカーという人たちが出て介護の状態を抑えてると。認知の状態を抑えてるというような結果が出ております。そのリンクワーカーというのをちょっと説明と、日本の場合は今実際にされている自治体がどのぐらいあるのか、ちょっと分かったら教えてください。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

まずですね先ほど、おっしゃった病院に入院とかですね、亡くなった後にどうするかというところで事業されてる自治体もございます。

国のほうも、今年度だったと思いますけど、実証実験である市でそういうのの実験をされてますので、その辺の情報がおりてきたら町としても検討していきたいと思っております。

ほかに成年後見制度とかそういうのがございますので、認知症の独り暮らしの方とかはですね、町の包括支援センターのほうで、そういう対応をさせてもらうこともございますので、ちょっと申し述べさせていただきます。

先ほど言われましたリンクワーカーですね。リンクワーカー昨年、孤独・孤立対策推進法の関係も施行もございましたが、社会的な孤立、生きがいの創出や生活への不安をもたらすことから近年、問題視をされております。

この孤立による不安を薬ではなく、地域とのつながりで元気にしていくという仕組みがリンクワーカー――そういう役割を持った人をリンクワーカーというふうに言います。まさに本町のほうでやっています生活支援体制整備事業で、ＳＣ[注]とかが対応している。正に活動をしているところになると思います。

具体的なリンクワーカーの人数とかですね、そういうところはちょっとこちらのほうで情報を持っておりません。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

今後その先ほど私も問題提起しているのですけど前期高齢者、後期高齢者とあります、日本の場合は。これはアメリカに言わせると途中前期高齢者のことをyoung-oldという後期高齢者を――84歳までold-old。英語ですよ、これ日本語じゃないですからね。85歳以上をoldest-oldというふうに分類されていると。これは的確な分類の仕方じゃないかと思うのですよね。

今後の高齢者対策としまして、この３つの段階、74歳までと、84歳までと、85歳以上と分けてきめ細かな調査なり、提供なり、されたほうがいいのではないかと思うんですけど、その点はど

---

注　生活支援コーディネーター

うでしょうかね。長寿支援課長。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

３年に１度、介護保険計画というのを定めております。その際に年齢階層に分けた調査は行っておりますが、年齢階層に分けた対策というところに関しては、まだ長寿支援課としては考えておりません。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

今後検討する課題ですね。やはり私も後期高齢者になりましたから、前期高齢者時代と今の体が全然違うのですよ。こんなに変わるかと思うんですよ。

だから85歳以上になったらどうなるのかというような感じですね。だからこういうもの厳粛に、皆さん方はお分かりにならないでしょうけど。現実にはそれがあります。

それと次に行きたいと思います。先ほどいわゆる答弁の中にありましたとおり、波佐見町は企業風土というのが備わっております。よそに負けないですね。よそよりも１歩も２歩も進んでいるのです、この段階で。だから基本的には波佐見農業はしっかりしているから産業が成り立つんですから。この風土をね、ますます治めていかないといけないと思うんですよ。奨励していかないといけないわけです。現状の財政状況としましてね、ちょっと一部お聞きしたいのですが波佐見町の今の経常比率、経済収支比率と自主財源比率、令和５年度ですか。そして人口とちょっと教えてくれますか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

本町の令和５年度実績にみます経常収支比率でございますが、85.5％。それから令和５年度決算の自主財源比率は47.7％。令和６年３月末の人口でございますが、１万4,125人となっております。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

それで参考のためにですね、もし分かれば東彼杵町と川棚町と佐々町ちょっと教えてくれますか。分かればいいですから。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

こちらも令和５年度となりますが、まず東彼杵町さんの経常収支比率が90.5％。それから川棚町さんが86.5％。それから佐々町さんが91.0％となっております。

それから自主財源比率でございますが東彼杵町さんが32.0％。それから川棚町さんが28.0％。それから佐々町さんが33.9％いうことでなっております。あと人口につきましてはですね、東彼杵町さんが――波佐見町の先ほどお答えした日と同じ日になりますが。7,384人。それから川棚町さんが１万3,295人。それから佐々町さんが１万3,866人というようになっております。以上で

す。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

皆さんお聞きのとおり、今の４町の中では波佐見は群を抜いていいですよね。数字が出てますから。それでも私が危惧してるのは、一つだけあるわけですよ。今年度（７年度）予算でやはり９億円近く増額していますよね、当初予算では。

その内訳聞きますと非常に何と言いますか。人件費と扶助費が上がっていると。いうことの数字が出ています。この予算書見を見ていても。だからこの人件費と扶助費というのは今後減ることはないですね。増えることはあっても減ることはないと思うんですよ。

幸いにして波佐見町は約104億円という予算を組めました。ところが収入の部分、歳入の部分で非常にやはり不安があるわけです。53％は交付金と借金起債で賄わなくちゃいけないということになります。

例えば今、昨日もまだ決定はしませんけど、106万の壁――103万円から160万円に決定を政策を出すというようなことも出てましたけど。やはり7.2兆円の減収になるというふうに新聞の報道なされています。当然これは補填をされるのでしょうが、実際いくら補填されるのか分からないですよね。交付金は減らないでしょ。と思っておかないといけない。じゃあそしたらどうすべきかですよね、やはり稼ぐことも考えないかんし。これは民間ではすぐ考える、当たり前のことなんですけど、自治体が稼ぐことを考えるということは、あまりないですよね。

だから今農業と窯業で産業があります。第３の矢、第４の矢、第５の矢を打っていかないといけないじゃないですか。それぞれの方策としまして支援策が先ほど答弁中にありましたけど、実際会社を設立するというに関しましてはお金がいりますよね、当然。資本金じゃないけど。運転資金とかも含めて。そのための今、この間も新聞に載りましたが、佐世保市がその対策を打って出ましたよね。

企画情報課長。ちょっと説明してくれますか、佐世保の件は。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

佐世保市のほうがですね、佐世保市スタートアップ創出促進保証　（略称：佐世保SSS）という制度を令和７年の１月１日から運用されております。貸付限度額が2,000万以内。それで最大の特徴が県内市町村で初という経営者保証が要らないという特徴がございます。貸付利率0.7％。これも非常に低い利率でございます。

例えば保証料については佐世保市が0.8％まで保証するということで、そういった新しい制度が開設をされております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

これは皆さんちょっとお分かりにならんかも分かりませんけどね、大きな転換点なんですよ、これ。事業するにあたって。会社を設立します。第三者を保証人にいれないと金を借りれないわ

けですから。これの保証人、第三者いらないということ。これがものすごくありがたいのですよ。事業を始めるときには。

それを佐世保市が実行したということであるから非常に――隣町ですからね。これは波佐見町負けておられんじゃないですか。どうですか企画情報課長。

**○議長（尾上和孝君）**　澤田企画情報課長。

**○企画情報課長（澤田健一君）**

このあたりの金融の仕組みが私も不勉強のとこありますが、本町が創業や経営拡大に対しての融資制度も設けております。ただ保証料については町のほうが全額負担するというような制度ありますが、この制度について保証人が今まで必要だったかどうかというのがちょっと私たちもちょっと分かっていなくて。そういったところはやはり金融機関ともう少し勉強会でもしながら、どのような制度が一番求められているのかというのを今後県研究していく必要があるというように思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

これはねぜひ研究してね、すばらしい制度ですよ。これ佐世保市がするのだから、だからやはり門戸やはり開かないといけないですよね、波佐見町として。本当負けれません。税収を増やさんといかん。法人にしたら幾ら赤字でも税収は入ってきますからね。そして移住するでしょ。そして大きくなって従業員を抱える。相乗効果、一部貢献していくと思うんですよ。

これはね焼き物産業ももちろんしないといけない。これは地場産業だから。波佐見町の一番特性である外からお金を持ってくるというようなシステムを、本当に先ほど言ったように第３、第４、第５の矢をつくるということ、非常にこれが一番大きなポイントじゃないですか。

だから稼ぐ力。これも一つの方法だと思うんですよ。それで交付金を減らさない。人口は減らない。増えれば交付金が増えるのでしょ。税務財政課長そうじゃないですか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

交付金が増える要因には人口の増加もありますので、一概にすぐ大きく増えますとは言いませんが、増えればそれだけ加算はされてございます。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

やはり人口が減るということはそれだけ収入が減ってきますから、そしたら減ったら事業はできないですよね。やはり予算がないと、財政が、お金がないと事業はできんじゃないですか。だからよく川棚町とか東彼杵町とか、よくやるなと思って。ちょっと言われんとですけど、本当に四苦八苦してんじゃないかと思うんですね事業するとに。だから以上事業を減らすわけいかんでしょう波佐見町。と思います。だからそのため稼ぐ方法を考えざるを得ないということを私はそう思うわけです。

次に職員の問題――問題じゃないですけど――に入りたいと思います。

再度確認ですけど構成はどうなっていますか。まず管理職とそれから35歳以上34歳以下。それから女子。それから会計年度任用職員さん。ちょっと数字が分かったら教えてください。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

現在のまず一般職の112名の内訳を申し上げます。まず管理職が16名、男性が14名、女性が２名、35歳以上が66名、うち男性が42名、女性が24名、34歳以下が30名、男性が23名、女性が７名でございます。合計で申し上げると男性が79名、女性が33名でございます。

一方で、会計年度任用職員123名おりますが男性が16名、女性が107名でございます。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

それと５年間の新卒、それから中途入所って分かったら教えてください。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

まず５年間で申し上げますが、中途というのは一度どこかに就職してから役場のほうに入所したという位置づけで申し上げます。５年間で31名採用していますが、新卒が８名。中途――いわゆるどっかの企業を経験して入っていただいた方が23名でございます。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

私はですね。皆さんから２年前も職員の皆さんとちょっと懇談会じゃないけどやりました。それで今度もしまして。非常にちょっとうれしいんですよ、気持ちがね。もっと暗いかなと思ったんですけど。

今の若手職員さんはいいですよ。自分の意見をしっかり言うし、これには感心しました。頼もしいなと思いました。そういういい面と、いろいろ細かいこと――細かいじゃないですが、数字的なことは昨日の城後議員が全部言ってますので、別に私から言う必要ないのですけど。とにかく新発見しました。ただそのほかにちょっと問題点が少しあるものですから。これが今後の皆さん方の課題、改善できるところは改善してほしいと思う。

昨日の答弁の中でも土日出勤がかなり波佐見町は多いと、公務員学校でもそういう教師方が言ってると、吹聴しているというようなことちょっと実際耳にしました。

これは答弁の中に、それだけ総務課長の答弁言いよった活気があるからイベント多いと。これは確かにしかりなんですよ。本当なんです。これはいいことなので、これだけ活気ある。そして皆さんが協力をする。ただ、ここにひとつ今の若手の職員に関しては、やはりわだかまり。何かおかしいと思うんですよね。土日出勤したら代休をとれるのかと。代休取得率がかなり低いと。おまけに普通民間の場合は、休日出勤した場合は３割分増ですかね。全時間されています。

ちょっと今こんな人材不足の折にね、そういうことがあっていいのか。おかしいのではないかと思うのです。長年の慣習であろうか何か知りませんけど、そこら辺はもう一つ再検討の余地があるんじゃないかと思いますよ。か、もしくは代休を完璧にとらせるか、というようなことです

ね。その点どうですか、総務課長。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

イベントそのもののやはり位置づけがどうなのかなというふうに思います。ただ役場職員は、地域の方とともに地域を盛り上げるという働きがい、やりがいのある職場でございます――職種でございます。そういった中で、民間の方が一生懸命イベントを行っている中でできることをお手伝いするというのは、役場職員の本分でもあるのかなというふうに思っております。

その中で、イベントを主催する担当課の手伝いをするというのも、職員のやはり仲間意識の中で参加をしていただいているということには感謝申し上げたいと思います。

一方で、若手職員がそういった代休の取得や、土日の執務について抵抗感が出てきてるというのはやはり時代の流れかなと思います。そこはしっかり受け止めて、やはり管理職がちゃんとマネジメントをとって代休をしっかり取る。それで、あるいはイベント全体を見渡して、役割分担を担うというところをしっかりやっていって、若手の職員がそういった抵抗感を少しでも、なくしていくという努力は続けていくべきだというように考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

ちょっと話戻ってね。この間の総務課長のほうで、マイナビの学生の大学生の調査をされた。見たと聞いておりますけど。２点ほど、どういう今の大学生意向があるかちょっと結果を教えてくれますか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

大変就職氷河期という時代がございましたね。それからくると今の就職活動というのは様変わりしたなというふうに思います。特に若い学生さんについては、そういった中で世の中の流れを敏感にやはり感じていらっしゃるのかなというふうに思います。

記事を読むと、やはり楽しさ第一でワークライフバランスということ。そこに自分がやはりやり遂げるということを明確に持っていらっしゃるんだろうなと思います。そういった意味で我々、特に波佐見町役場が選ばれる職場となるために、アンテナを張って、職場改善をやっていくということはこの記事を見ても、私個人的にも感じたところでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

一つの方法としまして、豊田の会社がしょっちゅうやってるんですよ。何十万人取る会社がね。何かいいことあると成果が上がると、すぐ表彰。金額は幾らかというともう３万円なんですよ。でもこれ現金じゃないですよ、商品券。それと感謝状。

それとこれアメリカの話で申し訳ないけど私のいとこが、御存じかどうか知りませんけど、Ｍｅｒｒｉｌｌ　Ｌｙｎｃｈ（メリルリンチ）という証券会社があります。ここで働いていました。彼優秀だったんでしょうね。彼の奥さんに毎年誕生日には何かしら送ってくるんですって。アメ

リカはジョブ型世界といって、皆さんもご存じでものすごく厳しいんじゃないかと思う。そういう心遣いをするアメリカ会社もあるわけですよ。それは半端じゃないですよね。イヤリングとか二、三十万円するやつが送ってくる。そういう優秀な社員は囲ってるわけですよ。この現実を知ってくださいね。こういうことも大事じゃないかと思うんです。金額は別としてね。そういう心遣いっていいますか、は必要かと思います。

それとね、課題はちょっとあまり時間がないから言いませんけど、若手社員の中では、課長連中と皆さんとコミュニケーションをとりたいと言っているんですよ。どんくらいあるのって、年１回しかないと。だからあなた方課長から聞いたら、もう今の若者は酒も付き合わないし、ていうズレがあるというように感じました。

だから皆さんも私も、昭和の世代ですから、やはり平成の時代に合わせにゃいかんでしょう。こっちから歩み寄らんばいかんじゃないですか。その点はひとつ留意して。

もう一つね、管理職の魅力がないという話、昨日もちょっと挙がっていました。これはもうひとつ検討してください。魅力がない、管理職にならなくていいという考え方。してもせんでも一緒という考えがベースにありますね。

そしてもう一つ気になっているのはね、トラウマですよ。談合事件の。これを払拭するためどうするべきかと。これもう一回考えてください。思い切り仕事するようなシステムを作らないかんとです。そこです。

あと簡単ですが、とにかくあまり時間がないけど総合的に見て副町長、町長の２人の意見を聞きたいです。よろしくお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　村山副町長。

**○副町長（村山弘司君）**

職場の働きやすい環境の改善に向けて、しっかり取り組むという姿勢が必要だというふうな御提言だというふうに思っております。私が以前長崎県で若者定着の仕事をしておりおった折に、令和４年度の高校生に対して就職アンケートした折に、当時の高校生が就職先を決める一番の要因は、就職先のいわゆる休みであるだとか、仲間とか上司の人柄とかですね。そういった働く場のいわゆる環境というのが一番の要因だというふうに聞いていました。

そういった中で、民間事業者に対してそういった環境改善に向けて、しっかり取り組んでほしいという要請をやってまいりました。

そういった意味で、しっかり行政の側も若い職員の方々が選べる環境、職場づくりというのが求められるというふうに考えておりますし、私たちも若い職員とのコミュニケーション、声かけも含めて風通しのいい職場づくりを通して、波佐見町が選べる職場としてしっかり構築できるよう頑張ってまいりたいというふうに思ってございます。以上でございます。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

確かに最近の若い人の感覚というのは、最近は全然変わっておりますので、それに合わせる必要もあろうかと思います。ただしやはり役場の職員は地域の皆さんと距離を短くして、いろいろ

接して、その地域がどういったことを求めておられるのかを肌で感じて、それを行政に生かすことも大事な役割かなという思いもいたしております。

それと先ほどおっしゃられました数年前の談合事件によって、大分職員が萎縮しておりますかね。そういったことがあると。これは例えば、少しのですね――あれは少しのミスではございませんでしたが。それ以降、少しのミスも許さないような雰囲気といいますか、風潮があるようにも感じております。そういったことで、職員自体が萎縮しているのは確かでございます。

私いろいろ先ほどのお話を聞きながら――ちょうど48年前に役場の試験を受けて合格したわけですが、そのときに「おまえはどういう気持ちで役場を受けたのか」という質問を受けました。そのとき私は――今ちょうど思い出したんですが、よく部落の方、地区の方から言われたのは「前川の役場におらっけんちょっと寄ってみようかなって言われるぐらいの役場にしたいと思います」という答弁を、そのときしたのをちょうど思い出しました。

それぐらいやはり親しみのある職員になりたいなという意識が強かったからだというように思います。今回いろいろこの議会においても、議員の皆様からあれをやってほしい、これをやってほしいという御要望を頂いております。それに応えて職員は一生懸命やろうかと頑張ろうかと思います。

ただそこの中で幾らかのミスも起こすかと思うんですよ。そういったミスは法を犯すようなミスは駄目ですが、ちょっとのミスは許していただいて、しかし意外と公務員って、役場の職員って、物事をなしたときにできたことが当たり前であって、なかなか褒めていただけないんですよ。そのときによくやったとか、ありがとうとか、そういう言葉が職員の今後の仕事の励みになりますので、ぜひあれやれ、これやれの後にはよくやったという言葉を頂ければ、今後の職員のドリンク材といいますかね、スタートダッシュのガソリンといいますか、ひょっとしたらジェットエンジンぐらい。燃料ぐらいになるかもしれません。ぜひそういったお言葉を頂きたいなという思いでございます。

努めて職員にはですね頑張るように、叱咤激励合わせて私も頑張りたいというふうに思います。よろしくお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**　北村議員。

**○11番（北村清美君）**

もう本当に簡単に言いますけどね、私も後期高齢者になったでしょ。昔はね若いときは私ども70、80代になったと。60代が80代はもう少し言うことを聞きよったですよ。

ところが今はね30代、40代から教えてもらう。特にスマホ、パソコン、ＩＴ化が進み過ぎて。だから我々、私は若手に合わせた考え方をしないといけないというふうに発想を持っていかないかないといけないですよ。

だから課長連中も50から55、56歳でしょ。まだ近いじゃないですか。部下が求めてのだから、コミュニケーションをとりたいと。皆さんこれは１回考え直してね、きちっと行きましょう。

だから、ありがとう言いますよ、今から。ただ言ってください。こういう時しましょうよ、どうでしょうかと。そういうことで終わります。

**○議長（尾上和孝君）**

以上で、11番　北村清美議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。15時50分から再開します。

**午後３時40分　休憩**

**午後３時50分　再開**

**○議長（尾上和孝君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、５番　岡村真由美議員。

**○５番（岡村真由美君）**

皆さんこんにちは。お疲れのところ恐縮ですがもうしばらくお付き合いください。それでは、通告に従いまして質問をいたします。

１．上・下水道の現状について。

水道水のＰＦＡＳ（ピーファス）汚染問題や道路の陥没事故に関する報道が続いています。そこで、次のことを問います。

（１）上水道に関して、本町ではどのような安全対策が講じられているか。

（２）本町の上・下水道事業に関して、管路の補修計画はどうなっているか。

２．高齢者施設の現状について。

今年は介護保険制度が発足して、25年目の節目の年で年です。また団塊の世代全てが75歳以上となり、超高齢社会が到来します。

そこで、次のことを問います。

（１）本町では65歳以上の月額介護保険料が減額となっていますが､その要因は何でしょうか。

（２）全国的に訪問介護に携わる人が不足し、廃業に至る事業所が増えていると聞きますが、本町においてはどうでしょうか。

３．農林業の振興について。

イノシシ対策のワイヤーメッシュが平地でも目立つようになりました。根本的な駆除のためには、荒れた山間部の手入れが必要ではないかと考えます。

そこで、次のことを問います。

（１）有害鳥獣駆除の現状及び今後の課題は。

（２）林道の現状は。また整備の計画はあるでしょうか。

以上、壇上からの質問を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

５番　岡村真由美議員の御質問についてお答えをいたします。

１．上下水道の現状についてということで、水道水のＰＦＡＳ汚染問題、道路の陥没事故に関する報道が続いているということで、（１）上水道に関して、本町ではどのような安全対策が講じられているのかとのお尋ねですが。ＰＦＡＳとは炭素とフッ素の結合を持つ有機化合物である

有機フッ素化合物で総称として呼ばれております。有機フッ素化合物の代表的なものとして、ＰＦＯＳ（ピーフォス）とＰＦＯＳ（ピーフォア）があり、いずれも発生材、消火剤、コーティング剤などに用いられており、自然界でほとんど分解されず、蓄積性が高い物質で永遠の化学物質と呼ばれております。

国の調査では動物実験や海外の事例により、有機フッ素化合物を継続的に大量に摂取した場合、発がん性や甲状腺異常など健康への影響の可能性が報告されています。近年、国内において河川や地下水などのほか、一部の水道水から高濃度で検出されているという報道がなされています。水道水は水道法により水質基準に適合したものを提供しなければならず、各水道事業者には検査が義務づけられています。

９月議会定例会の岡村真由美議員の一般質問でも答弁しましたが、毎年波佐見町水道水質検査計画を策定し、水道水質基準項目及び水質管理上留意すべき事項として示されている水質管理目標設定項目のうち、必要な項目を国が指定した検査機関に委託して実施しています。

有機フッ素化合物については、令和６年度から検査項目に追加し、４か所の浄水場及び各水源の検査を行いました。検査結果は国の暫定目標値であるＰＦＯＳ及びＰＦＯＡの合算で１リットル当たり57ナノグラム――ナノは10億分の１グラムですが。以下であり、また正確に測定できる最小の濃度である定量下限値未満でした。なお検査結果はホームページでお知らせしております。今後も定期的に検査を行い、安心しておいしく飲める水の供給に努めてまいります。

また報道によりますと有機フッ素化合物は国内では米軍基地や空港、工場周辺の地下水などからの検出が報告されています。排出元としては、有機フッ素化合物含有の泡消火器を保有・使用する施設、有機フッ素化合物の製造使用の実績がある施設や産業廃棄物施設などがあります。

本町の浄水場や水源の周辺には類似するような施設はありませんが、職員が毎日施設管理とあわせて、水源や水質に異常がないかなどの点検を行いながら安全対策を講じております。

（２）本町の上下水道事業に関して、管路の補修計画はどうなっているのかとのお尋ねですが、まず埼玉県八潮市の県道における道路陥没事故は、トラック１台が巻き込まれるとともに上流域の12市町120万人に約２週間にわたり下水道の使用――特に洗濯や入浴の使用自粛要請が行われるなど、市民生活に甚大な影響を与え、復旧にも相当の月数を要すると言われております。この道路陥没は複数の要因によって下水道管が破損し、その亀裂から土砂が入り込み地中に空洞ができたことが原因と見られています。

国は陥没箇所と同様の処理水量が日量30万立方メートル以上の下水道処理に接続する口径２メートル以上の流域下水道管を管理する７都府県――東京、大阪、埼玉、千葉、神奈川、兵庫、奈良の流域下水道管理者に対し、緊急点検と調査、路面下の空洞調査を実施するように要請しました。

本町においては同規模の下水道管はありませんが、独自に緊急点検を実施しました。点検は幹線管路が敷設してあります道路面に段差などがないか確認を行い、一部段差がある箇所については、枠を設け内部の状況を確認しました。枠内分については硫化水素が発生している危険もあり、枠の中においての点検は実施しておりませんが、汚水の流量や内部の劣化は目視で点検していま

す。

その結果、雨水防止のためマスが高く設置されている箇所での段差や、管路部分で一部段差が確認されましたが、特に異常は認められませんでした。なお上下水道管の耐用年数は地方公営企業法施行規則により、法定耐用年数として40年と定められており、上水道管については耐用年数を経過した管路もあり、老朽管や漏水が多発している管路について、計画的に更新することとしています。

また下水道管については管路の耐用年数を迎えていませんが、財源の制約の下、適切に管理していく必要があり、今後とも持続的な下水道機能確保のために、計画的な維持管理、改築事業の実施に努めることとしています。

２．高齢者施設の現状についてということで、（１）本町では65歳以上の月額介護保険料が減額となっているが、その要因は、とのお尋ねですが。介護保険料の決定は３年に一度策定をしています介護保険事業計画において、医師、施設、被保険者などの代表から成る波佐見町介護保険事業計画策定委員会にて、計画期間内における第１号被保険者数及び介護認定者数、介護保険サービスに係る費用などを試算し、決定されます。

今回の令和６年度～令和８年度における第９期計画については基準額を月額5,200円と、前期計画から300円減額しています。理由としましては、基本的に右肩上がりと言われますサービス利用に係る保険給付費において、令和元年度をピークとして、ここ数年横ばいに推移しており、そのため介護サービスの給付の見込みより実際の給付が下回り、予定していた基金の取崩しがなかったことなどにより、その残高が令和５年度末時点で４億6,000万円余りとなっております。

基金は保険財政の安定を図るために大切な役割を果たしていますが、必要以上の基金残高を保有することは、保険給付費のためにお預かりした保険料の使途として適切でないことから、第９期介護保険料の減額について、策定委員会において協議し決定されたものでございます。

（２）全国的に訪問介護にかかわる人が携わる人が不足し、廃業に至る事業所が増えていると聞くが本町の状況はどうかとのお尋ねですが。本町の訪問介護事業者は１事業者であり、現状についてお話をお聞きしたところ、今のところ廃業の予定はないが、ヘルパーの高齢化の進行や、新規の応募者がいないことにより新たな人材の確保が難しい状況にあり、新規の依頼があったときも対応できない場合もあると伺っております。

介護職における人材不足は全国的な課題として深刻化しており、これは訪問介護に限らず介護職全ての業種に言えるものですので、介護職のイメージ改善などのため学生に対し介護の魅力を伝える広報活動を行うなど、介護人材の確保に努めてまいります。

３．農林業の振興について。

（１）有害鳥獣駆除の現状及び今後の課題はとのお尋ねですが、12月の定例会において同様の質問がなされており、答弁について重複する部分もありますが、イノシシのワイヤーメッシュ柵が平地でも目立つようになってきたのは、設置要件の転換があったためであります。

以前は、地域へのイノシシの侵入を防ぐ目的で、山際等に広域に設置されておりましたが、近年の設置要件は農地周りを囲むことで、農地を守る対策となっています。

ワイヤーメッシュ柵については耐用年数が14年となっており、更新時期を迎えた地区については、農地を囲む方法での設置を行い、農作物の被害防止に努めているところです。有害鳥獣の駆除については猟友会が中心となって行っており、現在会員数が34名、平均年齢が66歳となっており、高齢化による捕獲者の減少等が懸念されますが、今年度は20代、30代の若手の会員加入があり、この流れが今後も継続していくようにしたいと考えております。

有害鳥獣の年間の捕獲頭数については、令和５年度の実績ではイノシシ714頭、アライグマ45頭、アナグマ38頭となっており、これが令和６年度では、現在までにイノシシ801頭、アライグマ72頭、アナグマ75頭が捕獲されており、前年度捕獲頭数を上回っている現状です。

また報道等で御承知のとおり、令和６年６月に佐賀県唐津市で野生イノシシにおいて豚熱の陽性反応が初めて確認され、これまで54頭が感染しています。さらに今年に入り、県内でも松浦市福島町において２頭の感染が確認されており、身近な問題として切迫してきていると感じております。このようなことから侵入防止策として、ワイヤーメッシュ柵の新設・更新や適切な維持管理を目指すとともに、農地周りの伐採や除草、高性能草刈り機等による荒廃地の防止に努めていきたいと考えております。

また捕獲についても、地域おこし協力隊を任用し、有害鳥獣対策の拡充や重点的な捕獲体制の確立に努めるとともに、捕獲通知システムの有効的な活用により省力化に努めてまいります。

今後の課題については、高齢化による担い手不足により耕作放棄地の拡大や、農地周りの維持管理の低下による生息区域の拡大のほか、捕獲者そのものの減少が考えられます。

また新たな有害鳥獣として近隣でも鹿の目撃情報があっており、被害が発生し拡大した場合には、これまでのワイヤーメッシュ柵での効果はなく、有害鳥獣対策の根本的な見直しが必要となります。

加えて豚熱についても、今後の状況に注視するとともに、万が一の際には県と連携しできる限り施策を講じる必要があると考えています。

さらに町内の解体施設が閉鎖されたことを受けて、今後の処理対策等について、猟友会等と協議を進めており、町内でのジビエ等の活用や解体処理を含めた方策を検討しております。このように有害鳥獣対策については、様々な課題がありますが、行政はもとより、地域や猟友会、地域おこし協力隊が連携しながら防護、捕獲、活用、解体処分等を総合的に行った必要があると考えております。

（２）林道の現状は。また整備の計画はあるのかとのお尋ねですが、林道は森林を健全に維持管理し、木材の運搬をすることが主な役割ですが、近年は林業生産活動のほか、地元住民の生活道としての利用もされております。

現在、町管理の林道が16路線約33キロメートルありますが、日常から側溝の土砂上げや草刈り、道路補修等の管理を行っており、特に大雨や台風後は巡回を行い、安全に通行できるように努めているところです。この日々の管理が評価されて、昨年11月には日本林道協会主催の第47回林道維持管理コンクールにおいて、林野鳥観賞を受賞いたしました。

また国産木材価格は安価な外国産木材の大量輸入の影響を受けて、昭和55年をピークに下落傾

向が続き、近年はほぼ横ばいの状況でしたが、令和２年以降の新型コロナウイルスの影響により住宅建設やリフォームの需要が高まる、いわゆるウッドショックにより、一時的に上昇傾向にあったものの、その後の需要の落ちつきにより町内の林業経営を取り巻く環境は依然厳しい状況に変わりはございません。

町としてはこのような状況であることから、現在のところ、新たな林道整備を行うことは考えておりません。以上で、壇上からの答弁を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

思った以上も予想してた以上の答弁を詳しく、ゆっくり話していただいたので、私の再質問は３つの項目全てに余りないかなと思うぐらいよく分かりました。簡潔にでも少しだけ確認をしつつですね、質問をしたいと思います。

私が今回この三つの項目を選んだのは、この新聞のチラシにも書きましたが、安全安心な暮らしの実現のために、この時点でもう一回、以前にも質問をしたもしくはほかの議員がされた問題に対して再度質問を行い、現状を正しく認識することで、町民の皆さんに安心をお届けしたいという思いでもう一度選びました。

２度、３度聞いてもなかなか分からないのですが。水道の問題等はですね。前回のときも、安心だなというふうに思ったんですけど、もう一度確認をさせていただきました。

陥没事故に関しては先ほど町長から詳しいあれがあったんですけど、今朝の新聞に国土交通省が、自治体による下水道管一斉調査の実施案を明らかにしたというニュースが小さく載っておりました。陥没が発生しやすいのはこういう項目のとこですよというふうに三つ挙がっていたのですけど、何か本町はほとんどないようですね。ですから、多分国からも指導はないのかなと。安心して生活ができるのかなというふうに思っております。

それでは質問をはしょっていきたいと思うんですが。ちょっとだけ聞いていいでしょうか。下水道の管というのは、私が住んでるところには来ていないのですが、来ているところは大体、主にどんなところを通っているのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　中村水道課長。

**○水道課長（中村和彦君）**

下水道管はもちろん下水道区域内しかございませんので、主に幹線道路になりますが。また個別、個人宅に引き込むためのというかたちでもあります。ちょっと、どこにどういうふうになってるかというのはちょっともう図面等で確認をしないと、ちょっと口頭での説明は難しくなっているということでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

質問が悪かったと思うんですが、主に幹線というのは町道にやはり走っている。それが端っこなのかな、真ん中なのかなと私思ったんですね、端っこかな。上水道なんか端っこ通ってるような気がするんですけど。

何を思って聞いたかというと、車が陥没して、がばっと落ちるようなことは、本町においてはないと思いますが。ただよくあるのは、道路に異常を感じたときには即連絡をしてくださいというのが高速道路とかにも看板がありますよね。町道においてもそうなのかな。どういうふうな異常というのが見られるんでしょうか。今まで通報とかありましたでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　中村水道課長。

**○水道課長（中村和彦君）**

下水道を敷設したところというのがやはりもともと既存の道路を掘削してという形で埋設します。また埋め戻しという形になりますが、やはり養生期間とかというところを踏まえて、また舗装をし直していますが。やはり先ほど言われた下水管の埋設箇所なんですけど、時期によって端にしたり、中心部にしたりというところがございます。

やはり車が通ったりするということで、主にマンホール蓋のところとかがやはり段差があったりするというところがあって、ちょっとこうその周辺が陥没するとかというのはあります。

そのためにマンホール蓋については定期的に取り替えをしております。それ以外で、管が埋まっているところでの陥没というのは、自然的に陥没するのではなくて、やはり亀裂などが入って雨水等の水がちょっとたまって、そこで、亀裂が入り陥没するとか。大きな陥没じゃないですが。ホールポットみたいな形で小さな穴ができるというのはあるかと思います。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

時々車がこう波打つように行くときがあったんですけど、あれはタイヤの真水かなと思ったのですけど、それが多いと思うのですが。亀裂等何かこう異常があったら役場水道課に連絡をするということでいきたいと思います。町民の皆さんもそれを考えて生活していただければなと思います。

では、次の高齢者施設の現状についてということで、質問をいたします。私がこの65歳以上の介護保険料が減額となった理由を１回だけ聞いたことがあったんですね。そして同じような回答が得られたのですが。

私はその中に確かに利用ができなく、利用数が減っている。給付の額が減ったから、貯めておく必要もないから減額したんだと思う、すごくいいことだと思うんですね。必要がないんだと、健康なんだって思うのですが。もしかしたら――利用するにもただではできないんですね。介護保険料があるからといって、ただで利用はできないわけですよ。プラスアルファの利用料があるんですが、利用控えというのはなかったのかなあというのを心配してちょっと聞いてみたんですけど、利用控えがあっているのか、ないのかっていうのは分かるんですかね。どうでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

おっしゃるとおりなんですけど、利用控えというのはちょっとこちらのほうでは分かりませんけど、ここ数年ですね、コロナの影響がございました。結局平成30年ぐらいをピークに横ばいというところで申し上げておりますが、ちょっと数年後ですね。コロナが発生して、そのあたりで

介護のサービスの利用控えというのがあったかもしれません。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

データとしては絶対分からないですね。民生委員さんとか、地域に行っていらっしゃる方の情報を聞くしかないかなと思うのですが。

もう一つは訪問介護の人は足りてますかという質問をさせてもらったのですが。今のところ大丈夫。でも確かに大変なっていくという回答だったと思うんですが、これも、もしかしたら今は足りているが、やはりこれも何かお金がないから来てもらいたいけど、来てもらってないという家庭もあるのかなと思います。そこら辺を心配してもキリはないのですが、よく注視していかなくちゃいけないかなと思っております。

また、私は先ほどの北村議員の質問に対する回答の中に、介護認定率の話を回答されました。75以上の人はこんなに介護認定率低いんだ。私としては低いんだ、元気な人が多いのだなというふうに逆に感じたのですが。これはやはり長寿支援課の中の包括の方々の御努力、社協の皆さんの御努力かなと思うんですけど。健康寿命というのが、波佐見町の中で高くなっているというデータはありますか。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

研究健康寿命のデータというのは承知しておりません。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

なかなかエビデンスというんですか、しっかりした数字がないので言いにくいんです。確実にやはり御努力実って上がっているのではないかなと私は感じております。元気な高齢者が多いです。

しかし、どんなに頑張って体操しても、歩いても、食べても、子供が成長するわけじゃなくて、高齢者が年をとっていくわけなので。いつまでもみんながみんなぴんぴんコロリでさようならということはないと思うんですね。

やはりお世話になる人は年々こう増えていくと思うのですが。特にそういうお独り暮らしは行政の方がいろいろしっかり面倒見てくださるのでしょうが。家族がしっかりおられて、ちょっと遠くにそういう身内がいらっしゃるという人にとっては、元気だった人が突然けがをしたり病気をしたりするときはする。事態が発生したら大問題ですよね。そういうもの先ほど介護認定、審査を受けて介護認定がおりるまで何日かかるとおっしゃいましたかね。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

法廷では30日以内となっておりますが、30日を少し超える場合もございます。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

それでは、長寿支援課の窓口で介護認定が降りた人に対して配布される資料一式の中の町内の介護保険指定事業者のリストとか居宅サービスとかなんかいろんなこういうのが書いてある。こういう紙を渡されますよね。裏には、町外の施設がもう有田とか東彼杵とか近隣の市町の分がばーっとリストアップされていただいて助かるんですが。これは在宅で介護認定１ですね、２ですね。ヘルパーさんがこういうところに週に何回来てもらいましょうかねという、何というのですかねプラン。介護プランか何かをかけて決めるときに使われるデータでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

こちらは町民の皆様にお知らせする資料になります。まず介護認定を受けられますと、先ほどの資料でいうと一番上に居宅介護支援事業所というところがあります。そちらが先ほど言われたケアプランというのを作成されます。これにケアマネジャーというのがお１人ずつ付きます。その方たちがもう知識を持っていらっしゃいますので、家族とか本人の意向をお聞きしながら、どういうサービスを使ったほうがいいかというプランを立てるという流れになります。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

いわゆるデイサービスを受けるとか訪問介護してもらうとかですね。そういったものの場所が書いてあるのかなと思うんですけど。もう独り暮らしで家に帰ったって本当に自立した生活ができない。かといって家族は遠くにいる、家族がいない、身内が辛うじて甥、姪が遠くにいるとか。そういうふうな家庭も結構あるのかと思うのですが、そういう人が、おばさんが倒れたとか、独り暮らしのお母さんが倒れたとか言って仕事をしながら駆けつけたときに、じゃあこの病院にいる間に介護認定を受けて、どこの施設に。もう入所になるんだが、どこに入所させたらいいのか、入所させたいんだけどもというとき、入所のデータというのはありますか。一覧表というか、入所先の。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

一覧、先ほど指定事業所ありましたが、その下のほうにある施設サービスのところですね。これは介護老人福祉施設が一つ。本町ではさみ荘になります、特別養護老人ホーム波佐見。もう一つ右のほうにあります地域密着型サービス。グループホームになりますけど、３か所ございます。これが介護保険での定められている入所施設になります。こちらで案内をさせさせていただいております。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

これは高齢者が入居できる施設の種類というもので、ちょっとネットで調べて、こういうふうな分類の仕方があると。ちょっと不備があるかも分かりませんけど、こういうのがあるみたいだと。入居の条件はこうだというのがあったので、こういうようなところが町内のどこの施設がこれに当たりますよとかいう、こういった一覧表があれば私は分かりやすいのかなって思ったので

す。

実際に自分が経験したときに、どこに母を入所させることができるか。もう実際ここととここぐらいありますよって窓口では聞いたのですけど、行ってパンフをもらって調べるとかいうことで見つけました。

先日ですねウェイブホールの大ホールでＡＣＰ[注]家族会議というのに関する講演会がございました。別府先生がその中で、施設での看取りということをテーマに施設の職員さんたちの事例発表をもとに聞きました。

それで紹介された施設が、この右側の「侑和」さんであり「さちさち荘」さんであり「なごみ」であり、「いきいき」であり、「まごころ」「ひだまり」「はさみ里」であり、「はさみ荘」であると。皆さん経験してないと、聞いたことはあるけど、どこにどんなんでどういう違いがあるのかって分かられないと思うんですね。実際私も全く入れるまでは分かりませんでした。

こういうふうなのがこれでもう間違いないと思うんのすけど、こういうものがぽんと渡されたらこう、こことここに行けばいいんだというのが分かると思うんですね。

ここでちょっと質問なんですが、「はさみ荘」って入ったことはないのですけど、見ます。何か「ひさご荘」というのが川棚にあるって聞くのですけど、「ひさご荘」と「はさみ荘」の違いを説明していただいてよろしいでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

ちょっと一応先に、先ほどの資料の中で一番上に介護つき有料老人ホームで「侑和」というのがありますが、侑和さんは小規模多機能居宅介護事業所になりますので、ちょっとこちらのほうは誤りじゃないかなと思います。

先ほど言われました特別養護老人ホームと、養護老人ホームの違いということでございますが、特別養護老人ホームは「はさみ荘」ですね。「はさみ荘」のほうは介護老人福祉施設といいまして介護の施設になります。

この辺が本当に複雑で申し訳ないのですけど、川棚町にあります「ひさご荘」は養護老人ホームといいまして、あれは福祉の施設になります。老人福祉の施設ですね。なので、特別養護老人ホームの「はさみ荘」のほうは要介護３以上という入所の要件がございますが、川棚町にあります「ひさご荘」のほうは経済的、身体的理由により自宅で生活ができない方というのが対象になってまいります。

なので、福祉のセーフティーネット的な施設になってくるということで、介護施設に入れるような、何と言いますか年金が高い方とかですね。そういう方じゃなくて福祉のほうの施設というかたちで見ていただければと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

---

注 アドバンス・ケア・プランニング

一遍に頭に入ってこなくて、よく区別がつかないなって思ったんですが。何と言うのですかね、そういう「はさみ荘」にあなたは入れますよとか、「ひさご荘」も入れますよとかそういったものはケアマネジャーさんからしか教えてもらえないということですよね。

こういう例えば一覧表があって、こういう人しか入れませんというような何か文書とかがあるのかなって。一覧表とか思ったのですね。さっきの「侑和」は小規模多機能だということはもう百も承知で、分類の中のどこに入れるのかなと思ったときに、ここかなって思って入れたのですね。この８つが入所可能だというように別府先生からも聞いたので入れてみました。

どこに入所ができる、在宅は無理みたいだから何と言うのですか。入所できる施設を教えてくださいって言ったときには、そういうふうな一覧表とか説明をしていただけるということですかね、窓口で。それともケアマネジャーさんしか駄目ということですかね。

**○議長（尾上和孝君）**　松添長寿支援課長。

**○長寿支援課長（松添博君）**

まず入所の基準となりますのは、この介護保険サービス利用ガイドというのをお聞きになられたときにはお配りしておりますので、これが要介護度を持っていないと入れない施設というのは、これで御案内をさせさせていただいております。

包括支援センターでは総合相談事業というのをやっておりますので、施設に入りたいとか介護認定を取りたいとかということで、窓口にこられたにはそういう施設とかも丁寧に御説明をしているところでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

窓口に行けば教えてもらえる。これと、これと、これの中から選べますよと。そしたら実際行ってみないと分からないし、空き状況がどうなのかも分からないので、やはり訪ねていって、そこのパンフレットをまたもらって、お金がどのくらい、介護２ではどのくらいとかいうのを聞いて決定するわけですが、

先ほど言ったように遠くに身内だとか、家族がいる場合は、休みをとって来るわけですね。そしたらこの短期間でそういった施設を決定するということはかなりやはりきついんじゃないかなと思うので、あとは分かりやすい表とかがあればいいなと私は思ったので質問をしました。

先ほどビジネスケアラーとかいう話もいっぱい出ておりましたが、介護離職とかがなくていいように。あるいはお母さんが大変だからといって、奥さんを東京に置いて、旦那さんだけが介護に帰ってくるというような別居する家庭がなくていいように、大変でしょうが施設の御案内できるような、分かりやすい資料を提示していただければなって思います。

なかなかやはりそういうのも何か気が急いているときにはよく読めなかったりもします。分かりやすいのができればいいなって思っておりますが、難しい複雑だというのはもう百も承知なんですが、よろしくお願いしたいと思います。

それでは続いて３つ目の項目の質問に行きたいと思います。これが、私が住んでる地域の平地に設置がされております。この１月、２月、３月かけて完璧に田んぼを囲むという、ワイヤーメ

ッシュの設置。これというのは、先ほど山際から平地に設置要件を変えたんだとおっしゃったのですが、いつぐらいからこの要件が変わるようになったのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

すいません。私も変わった時はちょっと分からないのですが。平成19年ぐらいまではまず電気柵とかあってですね、そのあとワイヤーメッシュを山のほうに張ってきて、14年の耐用年数が過ぎて、更新の際は農地周りを囲ってるという形ですね。

まず耐用年数があるので要はそこの耐用年数が過ぎないと、新しいものができないという形もあるので、現在その耐用年数が過ぎたものについては農地周りを囲む方法でやってきている状況だと判断しております。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

分かりました。14年の耐用年数過ぎて、新しく更新が始まってるというのも聞きました。それとは別に今度は平地のそういう農地を囲むワイヤーメッシュの設置というのがなされるように――最近ですね。そしたらですね。その要件が変わったのはこの四、五年。まあ、いいです。

その要件が変わった、何で変わったのかなというのが、ちょっと興味あるところなんですが。結局山際だけでは対策はとれないということだったののでしょうか。要件が変わった理由は分かったらお知らせください。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

現状がやはり山際にしても道路等ございますので、どうしても抜け道等もあります。水路を伝って来るとかですね。だからもう完全に被害があわないようにするためには農地を囲むことが一番手っ取り早いということですね。

本当は干渉帯とか山と農地の間にあればイノシシは近寄りにくくなるんですが、現状はやはりそこまで管理が行き届かない部分の現状もありまして、今のような農地を直接囲んで農作物の被害をなくすという状況になってます。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

ということはですね、私は一つ思ったのですが、川に雑木がばーっと生えていますよね。何かうわさではあそこが、あそこもイノシシのすみかになっているというふうに聞いたことがあるんですけど。こう上がってきてるということもあるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

実際、川のほうにも生息はしてると思います。ただ川のほうはもちろん大雨が降った後水位が上がるので、そういうときにはイノシシも逃げてると思うのですが。

実際皆さんもそうだと思うんですけど、川で見かけたことがある方もおられますよね。現状で

見たら川沿いにメッシュ柵がしてあるとこもございますので、生息地域の一つにはなっいてると思います。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

用心したいと思いますが。ワイヤーメッシュなんですが、今年も令和７年度の一般会計予算の中にワイヤーメッシュの購入費として449万円が計上されていますね。4.5キロメートルの分だというふうにおっしゃいました。

計算したのですけど１メートル当たり1,000円。これはものすごい安いということですかね。まとめて買われるから金具もついてますよね。ワイヤーと支柱までついてその値段ですか。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

一応メートル当たり1,000円で予算化をしています。実際ですね入札をするとそれから多少安くなる状況で、あくまでもメートル当たりなので、メッシュ柵１つは大体メートルじゃなくて、大体1.8メートルぐらいですかね１枚ですね。そこでメートル当たりのかたちでの入札を実施して、納入して、地元に配付しているようなかたちになります。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

なぜお金値段を聞いたかというと、ワイヤーメッシュをくださいという手をあげるというのですかね。要するに補助できるのは、田んぼの持ち主だけですよね。当たり前だと思うんですが。

個人が例えば家庭菜園とか、自分の家の周りがすごく山の近くにあって、もうガサガサしたことがあって怖いんだが、メッシュ柵は張れないのかって言われてもそれは無理ということですね。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

今のところは農業に特化した部分だけしかしておりません。今後、被害状況等を考慮しながら対応していく必要があるかと考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

今、被害状況というふうに言われましたが、お米に対する被害とか、農作物――野菜等に被害があって、それを塞いでいると思うのですが。人的な被害というのが本町の中で今までイノシシにやられたというようなケースは、あったのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

ちょっと私が課長になってからよく聞いてないんですが、車との接触事故とかはよく聞いていますね。車の修理代が大分かかったとかですね。

一応、イノシシとかが出よったら、そういうかたちで小中学校とか周知は入れたりしているんですけど直接自分が被害という話はすいません、私の耳には聞いたことはございません。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

私が波佐見町に結婚して住むようになってから、何回見ましたかね、４回。うん十年の間に昼間とか明るいうちに遭遇したのはありました。被害は受けませんでしたが、最近は本当に家の近くでも、夕方でもちょろちょろしてるのを見かけます。これ以上被害とか、けがをするような人がなければいいなと。熊よりはましだけど、大きくなると恐ろしいですからね、気をつけていきたいなと思います。

あとほかには野菜を作ってるが、鳥の被害でもう何か作る気がしないというような声も最近聞きました。そういったものに対する相談もあるかと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは次に、これは農林課の方から頂いた――お名前忘れましたけど。頂いたものを一部ですね、林道を示している林道の地図ですかねこれ。建設課の地図とはまたちょっと違ってるなというふうに思いました。

これは赤とか、黒とか、青とかしているんですけど、これ青と黒の部分は、何とか林道とか何とか線とか書いてあるやつをなぞってみました。赤いのは町道ですね。川内は途中から町道ではないかも分かりませんが、長いのが川内、片渕からがっと上まで登るところですね。金屋の近くまで。このぐるっと輪になっているのが大平岳の大平林道というんですかね。丸いところですね。あと、左にちらっと赤いのが見えますね。あそこは八天山に登る山道というのですかね、ところです。

あそこの鳥居があるところから、宇津保川内とかいう林道ががーっと何キロメートルも四差路のところまで続いておりました。

初めて１回だけ軽トラで走ってみたんですが、きれいでした。本当にきれいにされていたのですが、途中舗装がしてある箇所と舗装がしてない箇所があって不思議だなと思ったんですけど。あれの違いは何なんですかね。

**○議長（尾上和孝君）**　伊藤農林課長。

**○農林課長（伊藤幸治君）**

林道も使用頻度によってですね、舗装をしている場所、してない場所がございます。大体特にするところは勾配が急なところですね。どうしても水等に大雨の後、洗堀されるので、そういう部分は舗装していてですね。あとは使い方で砂利舗装というかたちです。本当は舗装をしたい部分もあるんですが、やはり費用対効果、利用度を考えて行っているところでございます。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

事前の質問の中に林道は町道というか町長が管理をするが町の財産ではなくて、個人の財産だという。山の持ち主とかその近隣の人たちの財産なんだよというふうにお聞きしましたよね。

何かその方たちが共同でコンクリを延ばしたとか、そういうこと経緯があるんですか。過去において。

**○議長（尾上和孝君）**　太田農林課参事。

**○農林課参事（太田克宏君）**

多分言われているのは町が管理してる林道ではなくて、作業道のことを言われてるのかなとは思うのですが。作業道については関係者さんのほうでコンクリート舗装をされているとか、そういったところはございます。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

分かりました。林道と名のつくところは町が管理をして、舗装も必要なところに舗装の工事をしたということですね。分かりました。ありがとうございます。

管理も本当によくされていて、この前通ったときも全然枝もかぶってこないし、草わおっとしてないし、すごいきれいだなと思って通りました。先ほど言われましたけど感謝を申し上げます。皆さんの御苦労で、こんなふうにきれいに管理されてるんだなというふうに思います。

もう一つ、先ほど町長の話の中に、答弁の中に、虚空蔵線というのがコンクールで、林野庁長官賞を受賞した。この12月の広報はさみにきちんと載っておりました。めでたいことだと思うのですが、これが林道マラソンにも使ってたところなんですけど、これは森林基盤道とかいうタイトルがついてるんですけど、森林基盤道と何か自動車道一級との違いって何かあるのですか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田農林課参事。

**○農林課参事（太田克宏君）**

林道につきましては林道規定というのがございまして、その中で一級、二級、三級というのがあるのですが、基幹林道になりますとかなり大きな林道になってきまして、市を、町をまたぐような道路ですとか、例えば大きな幹線道路をつなぐようなところですとか、そういったところの林道になります。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

本当にど素人なもんであちこち資料を探って、林道規定とか運用細則とかを読ませてもらって、自動車道というのとか傾斜道とか単線軌道とかに林道が分かれてるということを勉強しました。その中にちょっとその言葉がなかったもんで、町をまたがってそれを５メートルぐらい幅があるそうですね。私まだ通っていないのですけど。一度必ず取って通ってみたいと思っております。楽しみにしたいと思いますが。

次のこれはですね、メッシュの写真ではございません。ここ奥のほうにちょっとスカスカに見えますけど空き家なんですね。これ田ノ頭郷の一番上（かみ）です。ここあそこに家があるということはワイヤーメッシュの先は町道なんですね。町道が家まで行ってるがここで切れていると。

この先にはずーっと登っていくと、右に見えてるのは大平岳なんですね。大平岳の麓を通って、金屋郷の横のところまで行く道が昔は人が通っていたのですね。もしかしたらテーラーも通ってたのかも分かりませんが。

何か今ではもう先ほどの地図にも探せない。道としてはもうないところなんですが、こういっ

た道を今私は整備の予定はないとおっしゃいましたが、整備をしてくれと言ってるわけじゃないんですが。こういうところの先にも山がいっぱいあるんですよ。さっきあそこに山が見えてますが。

森林環境譲与税というものが今年も1,000万円ちょっと来て、間伐等に使われるわけですが、その森林環境譲与税で、こういったいわゆる林道が通ってないところの間伐等も、調査対象になって間伐が行われるということは将来的にあるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　太田農林課参事。

**○農林課参事（太田克宏君）**

森林環境譲与税につきましては、国が徴収している森林環境譲与税と、もう一つ長崎森林環境税という、２つがございまして。今、長崎森林環境税のほうにつきましてはですね、森林組合さんあたりが間伐とかを行うときに、作業道を作成するときに補助の申請をされているわけなんですが。

将来的にもしそのエリアのほうの整備を行うということであれば、そういった先ほど作業道の作成には、長崎森林環境税のほうの利用は可能だと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　岡村議員。

**○５番（岡村真由美君）**

私も勉強したてで整理がよくついていないのですが、森林環境譲与税というのは国が自治体に下ろすお金で、森林環境税というのは国税で納税義務者が年間1,000円国に納める。これ去年からですね、令和６年から始まったというふうに勉強しました。

そのお金を今年はそれを使って、森林環境譲与税頂いたやつでは永尾地区の間伐をするというふうに大体充てられてるということが分かりました。じゃあ先ほどの整備されていない林道の整備は、長崎県の長崎森林環境税ですとか何か知らんけど、そっちのほうで森林組合のほうがされるのかなということなんですね。

**○議長（尾上和孝君）**　太田農林課参事。

**○農林課参事（太田克宏君）**

先ほど議員おっしゃられたように国の森林環境譲与税につきましては、森林の面積とかそういったもので各市町村のほうに振り分けられるものになるのですが、長崎森林環境税につきましては県のほうが税を徴収して、そちらのほうに申請を行ったうえで整備のほうを行うようになるんですが、基本的には森林の整備というのが基本なんですが。

メニューの中にも公共施設の小規模な改築というのもございまして、そちらのほうで県産材とか町産材を使った分で、令和４年度にはこの新庁舎の建設にあたって、玄関の入り口のところの上の木材ですとか、こちらの議場で使われている木材の製材について国の環境税を使っています。

また先日オープンしました、こども家庭センターの木製の什器ですね。職員用のげた箱になるんですが、こちらは長崎環境税のほうを活用しております。

**○議長（尾上和孝君）**

以上で、５番　岡村真由美議員の質問を終わります。以上で、通告がありました一般質問が全

部終了しました。

以上で、本日の日程は全部終了します。

本日はこれで散会します。御起立ください。お疲れさまでした。

**午後４時50分　散会**

# 第 22 日目（３月 21 日）（金曜日）

## 諸 報 告

１　　諸般の報告

委員会報告

## 議事日程

第 １　提案要旨の説明
第 ２　発委第 １号　波佐見町議会基本条例の一部を改正する条例
第 ３　発委第 ２号　波佐見町議会委員会条例の一部を改正する条例
第 ４　発委第 ３号　波佐見町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例
第 ５　議案第 14 号　令和７年度波佐見町一般会計予算
第 ６　議案第 15 号　令和７年度波佐見町国民健康保険事業特別会計予算
第 ７　議案第 16 号　令和７年度波佐見町後期高齢者医療特別会計予算
第 ８　議案第 17 号　令和７年度波佐見町介護保険事業特別会計予算
第 ９　議案第 18 号　令和７年度波佐見町上水道事業会計予算
第 10　議案第 19 号　令和７年度波佐見町下水道事業会計予算
第 11　議案第 20 号　令和７年度波佐見町工業用水道事業会計予算
（以上７件　予算特別委員会委員長報告）
第 12　議案第 36 号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第８号）
第 13　議案第 28 号　一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例
第 14　議案第 29 号　職員の育児休業等に関する条例及び職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例
第 15　議案第 30 号　情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るためのデジタル社会形成基本法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例
第 16　議案第 31 号　波佐町国民健康保険条例の一部を改正する条例
第 17　議案第 32 号　波佐見町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
第 18　議案第 33 号　波佐見町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
第 19　議案第 34 号　波佐見町企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例
第 20　議案第 35 号　波佐見町ものづくり奨学金条例の一部を改正する条例
第 21　議案第 37 号　財産の取得について
第 22　報告第 １号　専決処分の報告について
第 23　閉会中の継続調査申出について
（文教厚生委員会、産業建設委員会、議会運営委員会）

# 第22日目（3月21日）（金曜日）

１．出席議員

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1番 | 前田　博司 | 2番 | 脇坂　正孝 |
| 3番 | 澤田　昭則 | 4番 | 横山　聖代 |
| 5番 | 岡村　真由美 | 6番 | 岡村　達馬 |
| 7番 | 三石　孝 | 8番 | 城後　光 |
| 9番 | 福田　勝也 | 10番 | 田添　有喜 |
| 11番 | 北村　清美 | 12番 | 尾上　和孝 |

２．欠席議員

なし

３．議会事務局職員出席者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 議会事務局長 | 林田　孝行 | 書記 | 一瀬　若菜 |

４．説明のために出席した者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 町長 | 前川　芳徳 | 副町長 | 村山　弘司 |
| 総務課長 | 福田　博治 | 企画情報課長 | 澤田　健一 |
| 商工観光課長 | 太田　誠也 | 庁舎建設推進室長 | 大橋　秀一 |
| 税務財政課長 | 古賀　真悟 | 住民福祉課長 | 井関　昌男 |
| 農林課長兼農業委員会事務局長 | 伊藤　幸治 | 農林課長参事 | 太田　克宏 |
| 建設課長 | 本山　征一郎 | 水道課長 | 中村　和彦 |
| 長寿支援課長 | 松添　博 | 子ども・健康保険課長 | 石橋　万里子 |
| 会計管理者兼会計課長 | 串島　佳織 | 教育長 | 森田　法幸 |
| 教育次長兼給食センター所長 | 朝長　哲也 | 総務課課長補佐 | 坂本　昌俊 |
| 税務財政課課長補佐 | 鶴田　秀幸 | | |

午前 10 時　開議

**○議長（尾上和孝君）**

御起立ください。おはようございます。

ただいまから令和７年第１回波佐見町議会定例会第22日の会議を開きます。

本日の議事日程はあらかじめお手元に配付のとおりです。

**諸報告　諸般の報告**

**○議長（尾上和孝君）**

これから諸般の報告を行います。

委員会報告につきましては、その写しを配付しておりますので、御了承願います。

**日程第１　提案要旨の説明**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第１．提案要旨の説明を求めます。

前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

皆様おはようございます。本定例会に議案２件及び報告１件を追加提案させていただきましたので、その要旨について御説明を申し上げます。

議案第36号　令和６年度一般会計補正予算（第８号）は、歳入歳出の総額に5,900万円を追加し、補正後の予算総額を105億8,900万円とするものです。今回の補正については、長崎県が国の重点支援地方交付金事業にて実施をします長崎消費拡大地元企業応援事業費補助金を活用し、本町が実施しますプレミアム商品券事業に加算するため、歳入歳出の所要の補正となっております。また繰越明許費の追加もあわせて行っております。

議案第37号　財産の取得については、十八親和銀行旧波佐見支店の建物及び土地を取得したく、所有者の株式会社十八親和銀行と売買契約を締結するため、地方自治法の規定に基づき議会の議決を求めるものです。

報告第１号　専決第１号は専決処分の報告については、令和５年９月28日付けで本契約の議決を受けた西ノ原土地区画整理事業区画道路６－７号線道路築造工事請負契約の変更について、地方自治法及び条例の規定に基づき２月20日付けで専決処分したので、条例に基づき議会に報告するものです。

以上でありますが、詳細については議案審議の折に御説明いたしますので、何とぞ慎重に御審議のうえ適正なる御決定を賜りますようお願いをいたします。

**日程第２　発委第１号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第２．発委第１号　波佐見町議会基本条例の一部を改正する条例についてを議題とします。議会運営委員会から委員会提出議案として提出されましたので、委員長に内容説明を求めます。

田添委員長。

**○議会運営委員長（田添有喜君）**

発委第１号　令和７年３月21日。

波佐見町議会議長　尾上和孝様。

波佐見町議会　議会運営委員会委員長　田添有喜。

波佐見町議会基本条例の一部を改正する条例。

上記の議案を別紙のとおり、地方自治法（昭和22年法律第67号）第109条第６項及び波佐見町議会会議規則（昭和63年波佐見町議会規則第１号）第13条第３項の規定により提出するものであります。

提案の理由といたしましては、波佐見町議会の運営等に関し、町民からの要望、提言その他の意見を広く徴収し、町議会の運営等に反映させ、もって町議会の円滑かつ民主的な運営を推進することを目的として、波佐見町議会モニター制を導入するため本条例を改正するものであります。

それでは波佐見町議会基本条例の一部を改正する条例の概要を説明いたします。

本町議会では令和７年度より波佐見町議会モニター制度を導入することから、本条例第17条として第１項に「議会は町民参加と町民意見等の反映を図り、開かれた議会及び民主的な議会運営等を推進するため、議会モニターを設置する。」

また第２項に「前項の議会モニターに関し必要な事項は、議長が別に定める。」と、本条文を加えるものであります。

別紙として新旧対照表を添付しておりますので、後ほど御確認いただければと思います。

最後に附則として、この条例は令和７年４月１日から施行することになります。

以上で、説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから発委第１号　波佐見町議会基本条例の一部を改正する条例についてを採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって発委第１号は原案のとおり可決しました。

日程第３　発委第２号

**○議長（尾上和孝君）**

日程第３．発委第２号　波佐見町議会委員会条例の一部を改正する条例についてを議題とします。議会運営委員会から委員会提出議案として提出されましたので、委員長に内容説明を求めます。

田添委員長。

**○議会運営委員長（田添有喜君）**

発委第２号　令和７年３月21日。

波佐見町議会議長　尾上和孝様。

波佐見町議会　議会運営委員会委員長　田添有喜。

波佐見町議会委員会条例の一部を改正する条例。

上記の議案を別紙のとおり、地方自治法（昭和22年法律第67号）第109条第６項及び波佐見町議会会議規則（昭和63年波佐見町議会規則第１号）第13条３項の規定により提出するものであります。

提案の理由といたしましては、波佐見町課設置条例の一部改正に伴い、本条例を改正するものであります。それでは、波佐見町議会委員会条例の一部を改正する条例の概要を説明いたします。

さきの２月議会臨時会において、波佐見町課設置条例の一部改正が議決されたことに伴い、波佐見町議会委員会条例においても第２条第２号中「庁舎建設推進室」を「施設整備室」に改めるものであります。

別紙として新旧対照表を添付しておりますので、後ほど御確認頂ければと思います。

最後に附則として、この条例は令和７年４月１日から施行することになります。

以上で、説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから発委第２号　波佐見町議会委員会条例の一部を改正する条例についてを採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって、発委第２号は原案のとおり可決しました。

**日程第４　発委第３号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第４．発委第３号　波佐見町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

議会運営委員会から委員会提出議案として提出されましたので、委員長に内容説明を求めます。

田添委員長。

**○議会運営委員長（田添有喜君）**

発委第３号　令和７年３月21日。

波佐見町議会議長　尾上和孝様。

波佐見町議会　議会運営委員会委員長　田添有喜。

波佐見町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例。

上記の議案を別紙のとおり、地方自治法（昭和22年法律第67号）第109条第６項及び波佐見町議会会議規則（昭和63年波佐見町議会規則第１号）第13条第３項の規定により提出するものであります。

提案理由といたしましては、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の一部改正に伴い、条文の整理等を図るため本条例を改正するものであります。

波佐見町議会の個人情報保護に関する条例の一部を改正する条例の概要を御説明いたします。

令和６年６月７日に情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上、並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るためのデジタル化社会形成基本法等の一部を改正する法律が公布されたことに伴い、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律が改正され、本町議会においても関係条文の整備が必要であることから一部改正を行うものであります。新旧対照表のとおり第２条第４項から第48条までのとおり、関係条文の整備を行っておりますので、詳細な説明は省略したいと思います。

なお附則として、この規則は令和７年４月１日から施行することになります。

以上で説明終わります。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから発委第３号　波佐見町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例について採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。起立全員であります。したがって発委第３号は原案のとおり可決しました。

**日程第５～11　議案第 14～20 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第５．議案第14号　令和７年度波佐見町一般会計予算から日程第11．議案第20号　令和７年度波佐見町工業用水道事業会計予算までの７件を一括議題とします。

本案は予算特別委員会に付託しておりましたので、委員長からの審査結果の報告を求めます。

北村委員長。

**○予算特別委員会委員長（北村清美君）**

皆さんおはようございます。ただいまから予算特別委員会報告をいたします。

波佐見町議会議長　尾上和孝様。

予算特別委員会委員長　北村清美。

予算特別委員会報告書。

本委員会に付託された事件は審査の結果、次のとおり決定したので波佐見町議会会議規則（昭和63年議会規則第１号）第86条の規定により報告します。

事件の番号

議案第14号　令和７年度波佐見町一般会計予算。審査結果、原案可決。

議案第15号　令和７年度波佐見町国民健康保険事業特別会計予算　原案可決。

議案第16号　令和７年度波佐見町後期高齢者医療特別会計予算　原案可決。

議案第17号　令和７年度波佐見町介護保険事業特別会計予算　原案可決。

議案第18号　令和７年度波佐見町上水道事業会計予算　原案可決。

議案第19号　令和７年度波佐見町下水道事業会計予算　原案可決。

議案第20号　令和７年度波佐見町工業用水道事業会計予算　原案可決。

次に、予算特別委員会報告をいたします。

議案第14号「令和７年度波佐見町一般会計予算」から議案第20号「令和７年度波佐見町工業用水道事業会計予算」まで、審査の経過と結果を報告します。

１．審査の経過。

（１）審査方法。

二分科会方式で審査を行い、予算特別委員会に各分科会から審査内容等の報告と説明を求め、各分科会間で質疑及び総体的な審査を実施しました。

（２）審査期日は、第一分科会の令和７年３月６日から第二分科会の３月11日まで、計４回行いました。

委員会は令和７年３月11日分科会終了後、委員のみで行い、最終の委員会では令和７年３月19日水曜日にいたしました。

（３）審査場所は議場、委員会室。

（４）出席者は全委員（議長を除く11名）です。

あとは各担当課長及び参事、課長補佐、次長、室長、局長、各担当係長。

２．審査内容。

（１）各分科会における報告については、４日間の分科会を経て報告書の作成を行いました。

（２）３月11日（火）第二分科会終了後、予算特別委員（会委員のみ）を開催し、それぞれ分科会ごとに質疑を行い、通告書による質疑の取りまとめを行いました。

（３）予算特別委員会（３月19日）において、通告書による質疑を行いました。

主な質疑内容は記載のとおりでございます。後でゆっくり見ていただければと思います。

次に３．審査の結果。

予算特別委員会では、真の住民福祉の向上につながる効果的な予算であるのかに主眼を置き、予算の議決権は議会の権限の中でも最重要であるとの認識のもと、多岐にわたって終始積極的かつ慎重に審査を行いました。

審査の結果は、次のとおりでございます。

（１）議案第14号「令和７年度波佐見町一般会計予算」については、討論はなく、全会一致で原案可決すべきものと決定いたしました。並びに議案20号まで討論はなく、全会一致で原案可決するものと決定いたしました。

４．総括的な所見に入ります。

本町の令和７年度一般会計当初予算額104億円です。去年より８億8,000万円の増額でございます。歳入の内訳は自主財源が43.7%。依存財源が56.3%、歳出の内訳は人件費（10.2%）、扶助費（20.1%）、公債費（5.5%）、任意的経費（64.2%）でございます。

国民健康保険事業特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険事業特別会計事業、上水道事業会計、下水道事業会計、工業用水道事業会計も順調に推移して問題ありませんでした。

一般会計の指標である財政状況の経済収支比率は、令和５年度で85%、自主財源は47%。非常に安定した状況でございます。

しかしながら、予算を精査するとまず歳入は不安定な要素を抱えております。多数の委員からも指摘がありました。ふるさと応援寄附金を除くとほかの自治体（自主財源比率30%前半）と、あまり変わりがありません。現実は交付金頼みの運営となっているのが現状です。

歳出を見てみると、近代の物価高騰の影響で人件費の大幅な高騰となっており、また国の政策で扶助費の高騰が７年度から顕著にあらわれています。それに合わせて少子化・高齢化が進行し、その対策に扶助費が増えていく循環となっており、今後も高騰していくことが予想されます。

このままだと事業費を縮小せざるを得ない状況となり、行政サービスの大幅低下を招くこととなります。そうならないためには依存財源（地方交付税、国県支出金）を主とする本町財政は、これらを増やす対策は重要じゃないかと考えます。そのためには人口の創出・拡大が最大の課題であり、基幹産業の活性化、400年前から醸成されている企業風土を生かした企業の誘致など、大きく門戸を広げることが肝心かと思います。また、民間を活用した自治体自ら稼ぐことも、視

野に入れることが重要と考えます。

もう一つ重要なポイントとしまして、50年、100年を見据えた次世代への投資であります。波佐見町が100年後も名前を残せるかどうかはここにかかっております。

今後は、事業の取捨選択と投資をいかにしていくことが大きなターニングポイントだと考えております。

分科会におきましては、非常に丁寧な説明であり理解しやすかったのが実感でありますが、一部の課長及び係長では、自分たちが立案した数字を即座に説明できない場面が一部ありました。今後こういうことがないように切に願うものであります。

予算特別委員会では、７人の委員が質疑を行いましたが、執行部はよく理解し、分かりやすく真摯に答弁されたため、再質問が少なかった印象であります。

結果として提出された全議案に対して、全会一致で可決できたことをうれしく思っております。

なお、総合運動公園の早期建設及び総合分科会の整備に係る意見書における通告による質疑に対しての、町長からの答弁で「今後、教育委員会での研究を進めるため、技術職員も加えたかたちで、役場内部に研究連絡会等を設け、令和７年度末を目標に想定される整備事業費及び維持管理費等の規模を取りまとめ、その方向性についてしかるべき時期に議会に示します」との答弁がありました。

早期に十分な調査研究を行っていただき、早い段階で方向性を示されていただきたい。また、今後の町営住宅の在り方についても同様に示していただきたいと思います。

以上で、所見を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**

これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

予算特別委員会委委員長報告に対する質問でございます。委員からの主な質疑内容として、総合運動公園の建設に係る研究に対して意見書を提出しているが、今回の予算書になぜ計上されていないのか。

この質問に対しまして、教育委員会からは高額の建設費用、維持管理費用がかかり、現在の状況では建設できないと判断し、計上していないとの答弁があっております。

また、最後の総括のところのページでございますが、そこで町長答弁として７年度末を目標に、方向性を示しますというふうなこういうような記載があるわけですが、答弁の若干見解が違うように思えるわけですが、委員長はどうか判断されますか。

**○議長（尾上和孝君）**　北村委員長。

**○予算特別委員会委員長（北村清美君）**

この意見書というのは、12月に議会を通じまして執行部に対して意見書を出しました。そのときこの問題は、平成10年ぐらいから、この問題は総合公園に関しましてはずっとあっております。

ここ五、六年改めてずっとしていましたが、総務文教委員会でもんで、教育委員会でもんで、

もみつくしているわけですが、改めてここで意見書を出したということは非常に重みを持って受け止めていただきたかったですね。そもそも意見書とは何かということです。議会が意見書を出すということは議会で相当研究をしてるわけです。議論してるわけです。それを簡単に考えて、そして思い込みでやっていただいたというのが現状じゃないかと思います。

なぜもう一度意見書が出た時点で真意を確かめなかったかと。確かめてもらえなかったというのが非常に残念です。

あえてこういう問題を起こすじゃないですけど、意見書・要望書というのはそれだけ重みがあるわけですから。それなりのもう一つ、考え直して、そして分からない不備な点、理解不足というのがあったら、議会に来て説明を求めたらいいじゃないですか。

この議場見てみないですか。平場ですよ。段差があるわけじゃないです。敷居が高いわけじゃないです。そこら辺の意見書の取扱い方というのが非常にお粗末じゃないかと考えております。

結果的には今度の予算委員会とか、町長答弁、副町長の答弁ありました。こういう答弁の思いを感じて真剣に、本当の審議を議会の真意を求めてもらいたいと思います。今後こういうことのないように一つ望みたいと思います。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

それから、同じく総括的な所見の４ページの下から８行目からですが、分科会においては非常に丁寧な説明をされて、理解しやすかったのが実感ですが、残念なことに自分たちが立案した数字を不足説明できない事例が一部課長及び係長に見られたと。

これらは真剣に仕事をしてないと判断せざるを得ない。今後こういうことがないよう切に願うとこういうことを述べてありますが、委員長として具体的にはどういうふうな感想でしょうか。そしてまた、何を期待されるのか。

**○議長（尾上和孝君）**　北村委員長。

**○予算特別委員会委員長（北村清美君）**

まず書いてあるとおりです。非常に残念でした。自分たちで立案した数字を、なぜ即説明できないかと。これが私には考えられるんですね。自分たちがつくった数字でしょ。なぜ即答できないのですか。課長、係長。これは猛省を促します。やはり取り組み方を少し甘く見てるんじゃないですか、皆さん。

議員もしっかりと調べています、予算書なってから。そこを答えるのはあなたたちの役目じゃないですか。職員さん、課長、係長の。限られた時間しかないわけですよ分科会の精査というのは、調査というのは。それを３分、５分延ばすということは何事かというか。それを本当に真剣に考えて、今後こういうことのないようにひとつお願いをしたいと思います。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

同じく総括的な所見でございますが、400年前から醸成されている企業風土を生かした企業の誘致など、大きく門戸を広げること、また、民間を活用した自治体自ら稼ぐことも視野に入れる

ことが重要と考えます、とあるわけですが、ここは委員長の具体的な案があれば、ここで表明してはいかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　北村委員長。

**○予算特別委員会委員長（北村清美君）**

別に具体案はないのですが、発想を民間会社と必要ならこれは考えなきゃいかんと思いますよ。支出が多くなれば、収入増やさざるを得んわけですよ。収入が増えなきゃ、事業費を削らなきゃいかんわけですよ。これは誰でも小学生でも分かります。

事業費を減らすということは、今までの行政サービスはできないのですから。私は二十数年前から行政に携わってきましたが、そのときの状態というのは、要望書を出しても「予算がありません」。次の年も「予算がありません」。次の年も言った「予算ありません」、というような状態がずっと五、六年前まで続き続いておりました。その状態にまで戻さないわけにいかないでしょう。

健全なときに手を打っていかないと。今後どうしますか。それが懸念されるわけです。その方法として、民間会社と同じように収入を増やす方法。できるかどうかは別。努力をすべきじゃないかと考えます。

一つの例としまして埼玉の横瀬町7,500人の町ですが、これが人口は約25％減っております。でも2016年度からある企画をやりまして、今は人口増加をしているというようなことも、これも民間官民協働でやっている企画は機能してきたという事実もあります。

もう一方、新潟県のほうでは町長自ら他町村に講演しに行って、講演料をもらって収入するとやっている自治体もあります。

波佐見町には幸いにも企業風土の醸成された土地があります。そのためにはやはり、ここに書いてありますとおり人口を増やすしかないわけですよ、交付金。支出金をもらうためには。減ったらその分減っていきますから、ますます悪循環になりますから。何とかこれを打開するため、サービスを増やさないためには、そういうことも考え方の一つとしておくべきじゃないかと。

なかなか自治体の方はそういう発想をされないでしょうが、ここは支出が増えていくんだから間違いなく。それ半端ないでしょ、春闘なんか結果って２万円以上ばっかりですよ。これ人件費だけ見てもそうだけど。少子高齢化でしょ。このための政策を打ち合わせなきゃいけない。そしてますます扶助費が出る。扶助費というのも１億円あれば2,000円、４分の１の地元負担をしないとかんわけでしょう。現実には。待ったなしですよね。

それじゃこれは今、基金から、ふるさと応援寄附金からそれを充当するというわけにいかんわけでしょ。それでますます事業費を削らなきゃいかん。それは何とか避けんばいかんじゃないですか。皆さんが官民協働でね、やっとこういう状態に波佐見町の財政もなりました。これを続けるためには、やはりそういうものが必要じゃないかと。今後真剣になってそういうものをつくり上げてやっていただければと思っております。そういう意味で書きました。

これは波佐見町ならではの、今後どういうふうにしていければ、どういうふうに稼げるのかという発想は今から議論して、難しい問題ですが、やっていただきたいと思います。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、議案第14号　令和７年度波佐見町一般会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第14号　令和７年度波佐見町一般会計予算を採決します。本案に対する委員長の報告は、原案可決であります。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって議案第14号は、委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第15号　令和７年度波佐見町国民健康保険事業特別会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第15号　令和７年度波佐見町国民健康保険事業特別会計予算を採決します。本案に対する委員長の報告は原案可決であります。本案は委員長の報告どおり、決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって議案第15号は、委員長の報告のとおり可決されました。

次に議案第16号　令和７年度波佐見町後期高齢者医療特別会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第16号　令和７年度波佐見町後期高齢者医療特別会計予算を採決します。本案に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案は委員長の報告のとおり決定することに、賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって、議案第16号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第17号　令和７年度波佐見町介護保険事業特別会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第17号　令和７年度波佐見町介護保険事業特別会計予算を採決します。

本案に対する委員長の報告は原案可決であります。本案の委員長報告のとおり、決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。したがって、議案第17号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に議案第18号　令和７年度波佐見町上水道事業会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第18号　令和７年度波佐見町上水道事業会計予算を採決します。本案に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案は委員長の報告どおり、決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。したがって議案第18号は、委員長の報告のとおり可決されました。

次に議案第19号　令和７年度波佐見町下水道事業会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第19号　令和７年度波佐見町下水道事業会計予算を採決します。本案に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案は委員長の報告のとおり決定することに、賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。したがって、議案第19号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に議案第20号　令和７年度波佐見町工業用水道事業会計予算の討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第20号　令和７年度波佐見町工業用水道事業会計予算を採決します。本案に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって、議案第20号は委員長の報告のとおり可決されました。

**日程第 12　議案第 36 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第12．議案第36号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第８号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

議案第36号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第８号）について説明します。歳入歳出の補正ですが、歳入歳出それぞれ5,900万円を追加し、総額を105億8,900万円とします。繰越明許費の追加及び変更は第２表によります。

今回の補正は、今年実施予定のプレミアム商品券事業に県が重点支援地方交付金により行われる長崎消費拡大地元企業応援事業の補助を追加し、商品券のプレミアム率を変更するための補正が主なものとなっております。

続いて４ページをお願いします。第２表繰越明許費の補正ですが、非課税世帯支援給付金事業、プレミアム商品券事業、防災行政無線再整備事業、東小学校高架タンク修繕事業は、年度をまたぐ内容が見込まれることから追加するものです。道路維持及び改良事業については、当初予定に変更が必要となったことから措置するものです。

なお地方自治法第213条第１項の規定に基づく、翌年度に繰越して使用することができる金額は、表記載のとおりとなっております。

続いて歳入に移ります。７ページをお願いします。15款，２項，５目．商工費県補助金は、町が実施するプレミアム商品券事業に対する県の補助金5,600万円を増額しております。

８ページをお願いします。18款，２項，１目．財政調整基金繰入金はプレミアム商品券事業の変更に伴い、一般財源が不足する分を基金繰入れとして300万円を増額しています。

次に歳出について説明します。９ページをお願いします。７款，１項，２目．商工振興費は、町のプレミアム商品券事業に県の事業費を追加することから、11節．役務費と12節．委託料に合計5,900万円を増額しています。

今回の変更により商品券つづり１冊の販売額は１万円のままで、プレミアム分を2,000円から4,000円にし、１冊につづる1,000円の商品券を12枚から14枚といたしております。なお今回の１人当たりの購入は２冊までとし、販売時期については７月上旬を予定しています。また、世帯へは購入引換券を事前に郵送することとしております。

10ページをお願いします。13款，１項，１目．土地建物取得費は、十八親和銀行旧波佐見支店の取得にあたり、不動産売買に係る手数料が必要となったことから、予算の組替えを行うものです。

以上で議案第36号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第８号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

３番　澤田議員。

**○３番（澤田昭則君）**

それでは９ページの３款，１項，２目．商工振興費の12節．委託料でプレミアム商品券事業委託料。5,896万円あがっておりますが、先ほど説明があったように１冊14枚つづり、1,000円単位となっておりますが、以前コロナ禍で受ける商品券は500円単位だったんですが、今回1,000円に上げられた理由を教えていただきたいのと、もう一つが以前は10枚つづりで町の事業所の専用が６枚で、大型店併用が６枚という10枚つづりの中でもそういう比率があったんですが、今回14枚のつづりでどういう比率でされるのかの御提案を聞きたいと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　商工観光課長。

**○商工観光課長（太田誠也君）**

商品券の内容についての御質問ですが、前回令和４年に実施しましたときには１枚当たり500円というようなことで実施をしておりまして、今回1,000円に金額を変えたというふうなところの理由についての御質問ですが。当初ですね、今回国の補正予算がついた段階で当初2,000円のプレミアム費というふうなことで計算をしておったのですが、やはりどうしても500円にすると事業費のほうで事務手続、事務費の経費が非常にやはりかかってくると。印刷費も含めてですね。そういったところでなかなかプレミアム分を確保するのが難しいというふうなこともございましたので、そこを500円から１枚1,000円というようにすることで、事務経費を抑えてプレミアム費を多くとれるようにというようなことから、今回500円から1,000円というところで修正を加えているところでございます。

それから大型店報での利用につきましては、今委託事業者のほうとも調整をしておりますが、おおむねこの14枚つづりの中で５枚～６枚程度を想定しているようなところでございます。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第36号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第８号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。したがって、議案第36号は原案のとおり可決されました。

会議の途中ですがしばらく休憩します。11時10分より再開します。

**午前10時56分　休憩**

**午前11時10分　再開**

**日程第 13　議案第 28 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第13. 議案第28号　一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

議案第28号について御説明いたします。

一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例。一般職の職員の給与に関する条例等の一部を別紙のとおり改正するものでございます。

提案理由でございますが、人事院による国家公務員の給与の改正に関する勧告に準じ、一般職の給与等及び関係条例の規定について所要の改正を行うものでございます。

次ページをお願いいたします。２ページから13ページまでが本文改正。14ページから36ページまでが新旧対照表となっており、37ページ以降の説明資料にて改正内容を御説明します。

大きく飛びまして37ページをお願いいたします。まず改正の趣旨でございますが、令和６年の人事院勧告については、月例給及び期末勤勉手当の支給月の引上げ（いわゆる差額改正）に加え、給与制度の見直しが主な柱となっています。前段の差額改正は、さきの第１回臨時会で御承認頂いていますが、今回の改正は、後段の給与制度改正に係り、一般職の給与等及び関係条例の規定について、所要の改正を行うものでございます。

今回の改正の主な内容でございますが、２項目になります。大きく、まず扶養手当の対象及び

額の見直し。２番目として、地域手当の対象地域及び支給率の見直し。３番目に通勤手当の対象となる手段の追加及び支給内容の見直し。４番目として、管理職特別勤務手当の対象時間の見直し。そして最後に５番目として、新給料表への切替えとなっております。

それでは関係条例についての改正内容について御説明いたします。

まず一般職の職員の給与に関する条例の一部改正としまして、本則改正としてまず９条第２項これは改正でございます。扶養手当の対象者の改正として、配偶者の廃止、重度身障者への変更。

次に第９条第３項ですが、扶養手当の額の変更となります。この額を１万3,000円に改正するものでございます。なお改正前は１万円となります。

次に第９条第４項。改正でございますが、これは文言の修正でございます。

次に第９条第５項。これは新設でございますが、扶養手当支給方法の規則への委任条項でございます。

第10条。これは（新）になりますが、改正として地域手当の対象地域及び率の改正として、説明資料記載のとおりが主な内容でございます。

次に第11条第１項の改正でございますが、通勤手当の対象となる手段の追加でございまして、有料道路の追加。次ページをお願いいたします。ただし、この有料道路については使用しなければ通勤することが著しく困難な場合に限られます。

次に第11条第２項の改正として、通勤手当の額の算出方法の改正。

次に第11条第３項～第５項については新設でございますが、通勤手当の対象となる手段の追加ということで、主に新幹線等の通勤の追加となります。

ただ、この新幹線等の追加については公所、勤務先を委任する移動等ほかに限られるということになっております。本町の場合、県庁派遣等で新幹線通勤することが想定されますということでありますが、上限はあります。

次に第18条第１項から第３項については改正でございまして、先ほど申した管理職特別勤務手当の対象時間の改正ということで、今までは午前０時からの支給となっておりましたが、これが平日の午後10時以降に勤務した場合、支給されるというふうになります。

第22条の２については、定年前再任用短時間勤務の適用除外の改正。

別表第１は改正でございますが、新給料表への切替えとなっております。この新旧新給料表の切替えについては、昨今の若年層の給与改定に伴い、昇給構造が一部適合しなくなってると国のほうでも判断したようでございまして、全般的な見直しが行われております。

次に波佐見町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正として、本則の第25条第３項の改正として、費用弁償の対象の改正として、先ほど申した新幹線等通勤については、会計年度任用職員は対象外とするものでございます。

次に、職員の定年延長に伴う関係条例の整備に関する条例の一部改正として附則第３条、第４条の改正となります。これは項ずれの改正でございます。

同じく附則第５条も改正でございまして、暫定再任用の適用法律の条項の改正となります。

次ページをお願いします。最後に附則としてこの一部改正については、令和７年４月１日から

施行するものでございます。

附則第２項、第３項で号給の切替えについて所要の規定を設けております。

附則第４項ですが、扶養手当改正に伴う経過措置を定めるものでございまして、配偶者について令和７年度は月額3,000円、令和８年は廃止、子については令和７年が１万1,500円でございますが、令和８年は１万3,000円とするものでございます。

附則第５条は、通勤手当の経過措置を定めるもの。

附則第６項は、規則への委任事項となっております。

以上で議案第28号の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

城後議員。

**○８番（城後光君）**

資料の38ページの説明資料のほうなんですが、第18号の改正で、管理職勤務特別勤務手当の改正が「午前０時から午前５時まで」を改正という文言があるんですけど、具体的にこういう事象があったのでしょうか。ちょっと確認です。

**○議長（尾上和孝君）**　総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

本町の場合、支給対象となっている場合極めて限られております。具体的に支給の実績を申し上げると、私総務課長が災害の警戒本部をしたときに、庁舎に泊まったときに支給しているというのがございますが、これも保険等の財源があったときに限られておりますので、先ほど申したとおり支給実績が極めて限られるという状況でございます。

**○議長（尾上和孝君）**

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第28号　一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって議案第28号は原案のとおり可決されました。

**日程第 14　議案第 29 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第14．議案第29号　職員の育児休業等に関する条例及び職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について内容説明を求めます。

福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

議案第29号について御説明いたします。

職員の育児休業等に関する条例及び職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例。

職員の育児休業等に関する条例及び職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を別紙のとおり改正するものでございます。

提案理由として育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴い、準拠する関係条例の規定について所要の改正を行うものでございます。

次ページをお願いいたします。２ページから５ページまでが本文改正。６ページから12ページまでが新旧対照表ですが、13ページ以降の説明資料にて、内容説明を行います。

13ページのほうをお願いいたします。まず、改正の趣旨でございますが、先ほど申したとおり、育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の一部を改正する法律に伴い、準拠する町の関係条例に係る所要の改正を行うものでございます。

主な改正内容でございますが、部分休業の承認を受けて勤務しない職員の要件の見直し。

２番目として、育児又は介護を行う職員の早出遅出勤務の新設。

育児または介護を行う職員の深夜勤務及び時間外勤務の制限の新設。

介護両立支援制度――各種制度でございますが。の説明、相談体制の明文化となっております。

それでは改正条例の内容について御説明をいたします。

まず職員の育児休業等に関する条例の一部改正として、本則の改正でございますが、第９条第２項、第３項。改正として、部分休業の承認を受けて勤務しない職員の内容を改正します。介護時間の承認を受けて勤務しない職員を追加いたします。

従前は、育児休業の承認を受けた職員のみでございましたが、今回は介護時間も追加をいたします。併せて改正法に関する条例の改正をいたします。なお部分休業については、１日の中で２時間を超えない範囲で、30分単位にて取得できるものでございます。

次に職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正として、本則の条例でございますが。第７条の３第１項を新設いたします。育児または介護を行う職員の早出遅出勤務の新設を行います。

対象となるものについては、そこに恐れ入ります説明資料に書いてるとおりでございます。詳細については規則のほうで併せて定めるものでございます。

次ページをお願いいたします。第７条の３第２項は新設でございます。前項の規定を、要介護を介護する職員についても準用するものでございます。

第７条の３第３項については新設で、早出遅出に係る規則内に。

そして第７条の４第１項については、新設でございまして、育児又は介護を行う職員の深夜勤務及び時間外勤務の制限となっております。深夜勤務の内容については掲載のとおりでございます。対象については、小学校就学の始期に達するまでの子がいる職員が請求した場合ということですが、所得には一定の制限がございます。

第７条の４第２項、第３項も新設でございます。これについては先ほどの第１項と同じく、時間外の制限を設けるものでございます。内容については記載のとおりでございます。

次に第７条の４第４項でございます。あわせて新設でございます。内容については、日常生活を営むのに支障がある者を介護する職員について、先ほど申し上げました第１項から第３項を準用するものでございます。

第７条４第５項は規則への委任。

第17条については文言の修正となります。

第18条第１項、第２項については新設でございますが、意向調査の内容について説明をするとともに、制度の説明を行うこと。そして面談その他必要な措置を行うこととしております。

第18条の第３項も先ほど言った相談体制の構築となっております。

次ページをお願いします。なお早出遅出のイメージについてですが、掲載のとおりでございます。１日の勤務時間７時間45分は変わりません。その点については記載のとおりでございますが、30分単位にして設定をするということで規則を定めたいと思います。

最後に、附則としてこの条例については令和７年４月１日から施行するものでございます。

以上で、議案第29号の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

６番　岡村達馬議員。

**○６番（岡村達馬君）**

13ページをお願いします。

趣旨の育児休業、介護休業等の育児または家族の介護ですね。これの現在の取得率なり状況が分かれば、もう少し詳細にいただきたいと思いますが。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

まず育児休業と介護休業に分かれると思いますが、育児休業については女性については当然ほぼ取得ということでございます。男性職員についても育児休業については取得するように促しておりまして、今年度令和６年度でございますが、国が定めておりますガイドライン。指針についてはおおむね達成ということで考えております。

一方で介護については申出があった職員については、その申請を認めるという状況でございま

す。いずれにしましても、ちょっと手元に介護のほうはありませんが、申したとおり職員から申出があればその内容を審査し、意向に沿うように処理するということで考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　６番　岡村達馬議員

**○６番（岡村達馬君）**

次ページの15ページですね。早出遅出のイメージについては理解できますが、こういった８時半前もしくは、17時15分以降の退出等についてですね、何かこう管理上の規則等の変更は生じませんか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

条例の中で御説明しましたが、今回の運用については規則の中で委任する事項もございます。これから４月１日の公報に向けて内容を詰めていきますが、他の先行自治体が既にいますので、その事例を参考に円滑な運営をするように規則を定めていきたいと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　８番　城後議員。

**○８番（城後光君）**

５ページの改正条文の第18条の３項に任命権者は、介護両立支援制度等の請求等が円滑に行われるようにするため、次に掲げる措置を講じなければならない。

（１）相談体制の整備で、（２）が整備に関する措置というか、勤務環境の整備に関する措置というふうに上げられていますが。

具体的に制度が設けられても結局取れない状況だと意味がないと思いますが。来年度からどういうかたちで、正規職員さんがこういう休暇制度を使えるような形を考えておられるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

おっしゃるとおり制度は設けたけど活用がないということは、私どももやはり残念な結果になると思いますので、まずは制度の内容を職員に周知をしたいと思います。それで大変こう言いにくいことだろうと思うんですが、そういった介護する方が家族にいらっしゃった場合は総務課のほうでまずは相談に乗っていきたいと思っております。

やはりこれが継続的になると人的な配置、あるいは会計年度任用職員の活用ということも視野に入れながら、その職員をサポートする必要があるというふうに考えておりますので、そのあたりも上司とあわせながら運用を目指していきたいと考えております。

**○議長（尾上和孝君）**　８番　城後議員。

**○８番（城後光君）**

ぜひ、せっかく整備されて、少しでも職員さんが働きやすくなって、定着が上がっていくようなことにつなげていただければと思います。

それで14ページですね、今回新設された小学校の就学の始業までの子がある職員の時間外勤務の制限というかたちでありますが、現実的に多分お子さんを育てられてるお父さんもお母さんも、

時間的な休み取りたいと思われている方結構いらっしゃると思うんですけど、課によって、やはり取れないとか時間給が取りたいんだけど取れないという状況が多々あると思うんですけど、ぜひ全庁的にこういう休みを活用していただけるような体制というのを整えていただきたいと思いますが。

何かとりやすい環境整備に向けて、今後取り組んでいく方向性とか考えられていますか。例えばお隣の武雄市では何かイクボス宣言とか、いろんなかたちで首長さんが音頭振ってやられるとかいろいろありますが、何かしら取りやすい環境整備を整えていく仕組みというのは大事だと思うんですけどいかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

議員おっしゃるとおりですね、いかに育児に関わる職員以外が、この制度を理解することだろうというふうに思います。そういった職員がいれば、係全体、課全体で支え合うということが議員御説明の内容かなというふうに思います。

あわせて管理職からイクボス宣言ももう既にやっておりますので、そういった中でですね、職員全体として組織体制も含めてですね、今後やはり見直していくべきだというふうに思います。ありがとうございます。

**○議長（尾上和孝君）**

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第29号　職員の育児休業等に関する条例及び職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって、議案第29号は原案のとおり可決されました。

**日程第15　議案第30号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第15．議案第30号　情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るためのデジタル社会形成基本法等の一部を改正する法

律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例を議題とします。

本案について内容説明を求めます。

福田総務課長。

**○総務課長（福田博治君）**

それでは、議案第30号について御説明いたします。

情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るためのデジタル社会形成基本法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例を別紙のとおり改正するものでございます。

提案理由でございますが、情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るためのデジタル社会形成基本法等の一部を改正する法律により、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の一部が改正されたことに伴い、関係条例の規定の整理するものでございます。

次ページをお願いいたします。この条例については、先ほど議会の発委でもありましたとおり、表中にありますデジタル社会形成基本法の一部を改正する法律の施行に伴い、本町の関係条例の整備を行うものでございます。

まず、波佐見町税条例の一部を改正するということで、第36条の２第10項中の「番号」を記載のとおりに加えるものでございます。

あわせて第63条２第１項第１号中の、「同じ。）又は法人番号」の次に「（同条第16条に規定する法人番号をいう。以下固定資産税について同じ。）」を加えるものでございます。以下、同じように第89条第２項第２号中、次に139条第３項第２項第１号中についてそれぞれ条例を修正するものでございます。

次に、波佐見町特定個人情報保護法の一部改正について、一部改正を行うものでございます。

本則第２条第３項中の条ずれの改正。

次に、波佐見町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部の改正を行います。これも、法律の改正に伴いまして条ずれを改正するものでございます。

最後に附則としてこの条例は、令和７年４月１日から施行をいたします。

４ページ以降が新旧対照表でございますので、あわせて御確認を頂ければと思います。

以上で議案第30号の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第30号　情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るためのデジタル社会形成基本法の基本法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって、議案第30号は原案のとおり可決されました。

**日程第 16　議案第 31 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第16．議案第31号　波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

議案第31号　波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例。波佐見町国民健康保険条例の一部を別紙のとおり改正するものです。

提案理由として、国民健康保険施行令の一部を改正する政令が公布され、令和７年４月１日から施行されることに伴い、所要の改正を行うものです。

別紙をお願いします。波佐見町国民健康保険条例の一部を次のとおり改正します。

２ページに改正条文、４ページから８ページまでが新旧対照表となっておりますが、９ページ参考資料を用いてその内容を説明いたします。

改正の内容は２項目ございます。１つ目は国民健康保険料課税限度額の引上げです。

国民健康保険料のうち基礎賦課限度額である医療分を１万円引上げ66万円に。後期高齢者支援金等限度額を２万円引上げ26万円とするものです。これにより、国民健康保険料の最高額が106万円から109万円となります。

２つ目は低所得者に対する保険料軽減判定の見直しです。第16条の４の２は低所得者の保険料の減額について規定しており、29万5,000円を30万5,000円に、54万5,000円を56万円に改めるものですが、低所得者の保険料軽減をする際の所得判定基準を上げることで、低所得者の負担軽減を図るためです。

附則において施行日を令和７年４月１日とし、令和６年度までの保険料算定は従来の方法で算定を行います。以上で説明を終わります。

御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

４番　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

この国民健康保険料の限度額こういう毎年のように２万円ずつとか、今回は３万円上がっていますが、分かる範囲でいいのですが、これって今後も上がり続ける傾向があるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

コロナ禍のときはですねちょっと変更がなかった事あるんですが、令和４年度の改正では３万円。５年度、６年度は２万円ずつ上がっておりまして、このような状況になっています。

今後も全世代で負担をしていくという国の方針もございまして、上がる可能性はあるかと思っております。

**○議長（尾上和孝君）**　４番　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

そして質問を変えて、この本町でこの限度額マックスを払われている世帯というのは何世帯ぐらいになるのかと。あとこの低所得者に対しては軽減措置が見直されて、この軽減措置分の所得が上がることによって、この軽減措置の対象になる人が増えるのかなというのはあるんですが、この軽減措置の世帯がどのくらい何世帯ぐらい増えてくるかという見込みはありますでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

まず最高限度額。令和６年度は12世帯の方がいらっしゃいます。この見直しで、その軽減措置の対象がどうかというところなんですが、基本的に前年度所得に応じて、算定数関係でちょっと令和７年度分がどのくらい対象が広がるかというところはちょっと不明ですが、そうは大きくは変わらないのではないかというように思っております。

**○議長（尾上和孝君）**

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第31号　波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって、議案第31号は原案のとおり可決されました。

**日程第 17　議案第 32 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第17. 議案第32号　波佐見町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について内容説明を求めます。

石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

議案第32号　波佐見町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例。

波佐見町特定教育保育施設及び、特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を別紙のとおり改正するものです。

提案理由としては、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準の一部改正に伴い、所要の改正を行うものです。

別紙をお願いします。２ページから４ページまでが改正条文になりますが、５ページ以降、新旧対照表です。この主な内容としましては、特定地域型保育事業者は連携施設を確保して運営する必要がありますが、全国的にその確保が進んでいないことから、国の基準が改正され、その要件緩和が図られました。

第42条に２項を追加し、新たな第２項と第３項で、保育内容の支援に関わる連携施設の確保が著しく困難である場合にあって、一定の要件を満たす場合には連携施設を確保しないことができることとしています。また、代替保育に係る連携施設の確保については、町長が必要な措置を講じてもなお連携協力を行う者の確保が難しく、困難な場合においても連携施設を確保しないことができることを詳細に規定するため第４項から第６項を改正しています。

なお、附則第５条でその経過措置を５年延長し、15年とするものです。

この条例は令和７年４月１日から施行すると附則で定めます。

以上で、説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第32号　波佐見町特定教育保育施設及び、特定地域型保育事業の運営に関する基

準を定める条例の一部を改正する条例を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって、議案第32号は原案のとおり可決されました。

**日程第 18　議案第 33 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第18. 議案第33号　波佐見町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

石橋子ども・健康保険課長。

**○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）**

議案第33号　波佐見町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例。波佐見町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を別紙のとおり改正するものです。

提案理由として、家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴い、所要の改正を行うものです。

２ページ。別紙をお願いします。２ページから４ページまでが改正条文で、５ページ以降新旧対照表です。この改正は先ほどの議案第32号と同様に国の基準が改正され、連携施設の確保に係る要件緩和を図るものです。

第６条保育所等の連携に新たに６項を追加し、先ほどと同様に一定の要件を満たす場合には、保育内容の支援に係る連携施設を確保しないことができることを詳細に規定し、代替保育に係る連携施設の確保についても、町長が必要な措置を講じてもなお困難な場合においても連携施設を確保しないことができると規定しています。

また16条９ページになりますが、第16条食事の提供の特例において、栄養士法の改正を踏まえ第２号に管理栄養士を追加するものです。

なお、附則第３条でその経過措置を５年延長し、15年とするものです。この条例は令和７年４月１日から施行するものと附則で定めます。

以上で、説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第33号　波佐見町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって議案第33号は、原案のとおり可決されました。

**日程第 19　議案第 34 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第19. 議案第34号　波佐見町企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

**○議長（尾上和孝君）**　中村水道課長。

**○水道課長（中村和彦君）**

それでは議案第34号　波佐見町企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例について説明いたします。

波佐見町企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を別紙のとおり改正する。

提案理由ですが、人事院勧告に準じた扶養手当の見直しと、会計年度任用職員及び定年前再任用短時間勤務職員の給与の種類等を定めるため所要の改正をするものです。

次ページ、別紙をお願いします。改正内容ですが第２条第１項中「もの」の次に「、地方公務員法第22条の２第１項に規定する会計年度任用職員及び同法第22条の４第３項に規定する定年前再任用短時間勤務職員」を加えるものです。これは水道事業で任用する会計年度任用職員等も企業職員に含まれるため、給与の種類及び基準を条例で定める必要があるため、明記するものです。

次に第５条第２項第１号を削り、第２号を第１号とし、第３号を第２号とし、第４号を第３号とし、第５号を第４号とし、第４号を重度心身障害者に改めるものです。

これは一般職の職員の給与に関する条例の一部改正と同様に、扶養手当の対象者の改正で、配偶者の廃止と心身に著しい障害がある者を重度心身障害者へ明記を変更するものです。

新たに第18条で、会計年度任用職員の給与は波佐見町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の規定を準用することとします。

また第19条で、定年前再任用短時間勤務職員について、第５条の扶養手当は適用除外とすることとしています。

附則。この条例は令和７年４月１日から施行する。

また令和８年３月31日までの間における扶養手当に関する経過措置として、切替日から令和８年３月31日までの間における第５条の規定の適用については、同条第２項中「（４）重度心身障

害者」とあるのは、「（４）重度心身障害者（５）配偶者（届出をしないが事実上婚姻関係と同様の事項にある者を含む）」とする。

以上で、説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第34号　波佐見町企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって議案第34号は原案のとおり可決されました。

**日程第 20　議案第 35 号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第20．議案第35号　波佐見町ものづくり奨学金条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

朝長教育次長。

**○教育次長（朝長哲也君）**

それでは説明いたします。議案第35号　波佐見町ものづくり奨学金条例の一部を改正する条例。

波佐見町ものづくり奨学金条例の一部を別紙のとおり改正する。

提案理由としましては、貸与した奨学金の債務の一部減額について、その対象者の範囲を拡大するために改正するものでございます。

２ページをお願いいたします。別紙、波佐見町ものづくり奨学金条例の一部を改正する条例。

波佐見町ものづくり奨学金条例の一部を改正する。

第14条の見出し中「町内定住による」を削り、同条中「波佐見町に住民登録を有し、」を削る。

附則。この条例は公布の日から施行するということで、ございますが。現在この波佐見町ものづくり奨学金につきましては、月５万円を12か月で４年間貸与するということで総額240万円を貸与できる制度になっておりますが、それにつきまして卒業後10年で返済するというものでございます。

現在、大学生で借りてる方はいらっしゃいませんが、予定では７年度から１名新たに借りられる予定でございます。現在この奨学金は６名の方が御使用になっておられまして、今６名の方は返していただいてるという状況でございます。

こちらにつきまして、第14条に債務の一部減額という項目を設けております。先ほど申したとおり波佐見町に住所を有し、町内の企業で学んだ知識を生かした職業についている期間については債務の一部を――金額でいえば５割なんですが、免除するという規定がございますが現在この規定を使ってる方はいらっしゃいません。

御存じのとおり波佐見町、美術工芸科ですね。波佐見町の方が２人とか３人とか、年によってはいらっしゃらないというところで、ほぼほぼ町外の方が占めておられまして、町外の方もこういったせっかくあるこの規定を、活用できないかということで高校のほうから御相談がありました。

その相談がございまして我々としても波佐見町の美術工芸科の魅力につながると。それと波佐見町のそういって来てもらって波佐見町の企業で就職して頑張ってもらうということで波佐見町の発展にもつながるということで、その申入れを受けまして、波佐見町に住民登録を有しというところを削除して、佐世保市在住であっても波佐見町の企業にお勤めの方を、この減額の一部対象にしたいということで、今回の条例改正ということで御提案をさせていただきたいと思っております。

なお、この条例が可決されることであれば、高校からの情報であれば、お１人の方が佐世保市在住で今、波佐見町のそういった企業に勤められてるという情報がございますので、その方が対象になってこようかなというふうに思っております。

以上で、議案第35号　波佐見町ものづくり奨学金条例の一部を改正する条例の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第35号　波佐見町ものづくり奨学金条例の一部を改正する条例を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって議案第35号は原案のとおり可決されました。

日程第21　議案第37号

**○議長（尾上和孝君）**

日程第21．議案第37号　財産の取得についてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

議案第37号　財産の取得について説明いたします。別紙のとおり財産を取得するため、地方自治法第96条第１項第８号の規定により議会の議決を求めるものです。

次のページをお願いします。財産の種類については、十八親和銀行旧波佐見支店土地及び建物。数量等は土地が井石郷字林添2219番６ほか３筆で、土地面積の合計が1,082.82平米。建物が鉄筋コンクリート・木造、亜鉛メッキ鋼板葺、２階建て店舗、総床面積321.33平米。それとコンクリートブロック造り２階建ての倉庫。総床面積43.2平米となっております。取得予定金額は2,022万8,625円。取得予定年月日は令和７年３月26日限りとなります。

契約の相手方は、長崎市銅座町１番11号。株式会社十八親和銀行代表取締役　山川信彦です。

なお、３ページ以降には資料といたしまして、土地建物の登記事項証明書等を添付しております。

以上で、議案第37号　財産の取得についての説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

**○議長（尾上和孝君）**

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

７番　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

財産の取得、西ノ原にある十八銀行の跡地ですけど、取得の目的は何ですか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

一番の目的は、あそこの銀行にありますＡＴＭを継続させると、継続してもらえないかという地元の要望もありましたので、まずはそれを最優先と考えて公有財産として購入するものでございます。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

第一はＡＴＭ。第二は何ですか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

確定はしておりませんがですね、何かしら以前から陶器まつりとかですね駐車場でお借りしておりましたので、そういったものもございます。

それと今、町が保有している施設で、ひどく老朽化をしているものがございますので、そういったものを取り壊す際にそこにあるものを移すところも必要ということで購入をするものでございます。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　三石議員。

**○７番（三石孝君）**

土地建物を一括してということでございますが、建物自体は昭和35年10月10日に新築として建てられておりますけど、建物自体の評価はもうないに等しい状態という理解をして、土地価格というふうな判断をするんですけど、その後の利用等に関しては全くお考えになっていないというようなことなのでしょうか。それともその物を置くという程度の倉庫代わりの利用を考えていらっしゃるんですか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

購入の内訳につきましては、建物は議員おっしゃったとおりかなり老朽化しておりますが、幾らかは建物の評価を出さないといけないということで、５％程度の評価をさせていただいております。

今のところですね、すぐに使えるような状況ではないというのは見に行ったときにありました。以前使われていた状態からカウンターをどけてみたりとか、物をどけてみたりとかですね、持ち出されておりますので、そういった部分をきちんと整理しないと使えないような状態でございます。

一方倉庫につきましてはですね、きちんと整理されておりまして、もうすぐにでも使えるような状況もございます。

使い方をいろいろ考えればあるかなと思うのですが、基本的に耐震であるなど、いう部分はもうちょっとないかなと見ておりますので、そういったものも使えるようなものがあれば、耐震を必要としないようなものであれば、何かしら要望はあると思いますので、使っていくようにしたいと思っているところです。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**

ほかに質疑はありませんか。

２番　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

今の財産取得に関連したことでございますが、大体目的等は分かりましたのですが、ただこれ購入して建物部分というのが、50年以上たってると。とても耐震性はまず駄目です。そして耐久性もなかなか難しい。場合によっては解体費用も本町で持たざるを得ないと、そういったことに至るのではなかろうかと思っているのですが、そこまでして、どうしてこれが必要か。

ＡＴＭだけの――ＡＴＭの必要性というのは重々分かっているのですが、全体的に建物全部を一括して購入する理由というのは、いかがなものかと思うんですけど、そのあたりはいかがですか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

もともとはですね銀行自体を残せないかというような地元の要望もあったようでございまして、まず一番先ほど言いましたとおり、ＡＴＭを残さないと、あの辺りで金融機関とかお金を急遽引き出すとかいうところができない。

これは陶器まつりのときも来られたお客さんがちょっと現金が足りないので、どこかＡＴＭありませんかというようなところも、相談といいますかお聞きになる場合があるんですよね。そういったときに近くにないと困るというところもございます。

それと建物は本来であれば、確かにもう耐用年数もかなりありませんので、解体された部分を購入するというのがありましたが。ほぼほぼ土地の値段で購入もできるということもございましたし、今すぐ解体しなくても特に問題はないのかなというところもございまして、ほとんど土地の値段で購入させていただいてですね、今後建物については解体の必要があれば解体もしていきます。

解体した場合はＡＴＭがなくなる場合も想定されますので、すぐにそこに、またものをつくらなければならないというような状況にもなりますので、当面はそのままの状況で活用できれば活用していきたい。できない場合はＡＴＭの部分だけを使ってもらうというようなところで予定をしているような状況でございます。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　２番　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

先ほど老朽施設にある一つの団体と申しますか。それを移すような考えもちらっと聞きましたが、その考えというのはいかがですか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

それも一つにあるのかなと思います。もう行くところがない。もうそこでも結構ですということであれば、それになるかもしれません。その場合は今申し上げましたとおりちょっと新しいのですが、そういった内容で老朽化といいますか、建物の内容でよろしければそちらに移っていただくことも可能かなと思っております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　５番　岡村真由美議員。

**○５番（岡村真由美君）**

しつこいようですが、参考までに伺いますが、解体費用は、今解体するとなると規模の建物及び倉庫の解体費用は幾らぐらいになるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

申し訳ございません。解体ありきで考えておりませんので、解体費用がどれくらいかかるというのは、ここではお答えできません。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　５番　岡村真由美議員。

**○５番（岡村真由美君）**

土地的にはすごく有すべき土地かなと思うんのですけれど、建物のお金はほとんどないに等しいとおっしゃいましたが、小さな家でも鉄筋コンクリートの家を建てとなる何百万も、解体にはかかると聞いております。あの程度になるとかなりかかるのではないかな。

それだったら、どうなのかなというふうに思ったので、お聞きしました。かなりかかるということは、多分覚悟の上かなと思いますが。500万円だったら1,000万円ぐらいかかるということで間違いないでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

申し訳ございません。解体の設計積算やっておりませんので、ここで幾らということはお答えできません。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　２番　脇坂議員。

**○２番（脇坂正孝君）**

建物は古くなるばっかりですので、あと活用の方法をやはり早急に、ある団体の移転も含めたところで協議をしてもらいたいと思うんですけど、そのあたり町長いかがでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　前川町長。

**○町長（前川芳徳君）**

その時点で検討させていただきたいと思います。

**○議長（尾上和孝君）**　８番　城後議員。

**○８番（城後光君）**

こちらの施設の使用に関しては過去に行われた町政報告会でも井石郷等からですね、何かしら活用したいという形で要望というか、意見というか出てると思うんですけど、地元の方との協議は何かなされているのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

活用について地元との協議はまだ我々の持ち物ではございませんので、やっておりません。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　８番　城後議員。

**○８番（城後光君）**

今後、どういう形で活用されるか、取得された後、ぜひ地元の方もこちら有効に活用していただきたいという思いがあられるみたいですので、ぜひ協議をしていただきたいなと思います。

あと先ほどから話出ているＡＴＭの件なんですけど、そもそも支店が十八親和銀行さんの支店が移られるにあたってですね、ＡＴＭの支店も含めてまず庁舎に移せないかという議論もあったと思いますね。役場の旧庁舎のほうですね。

あとはＡＴＭをほかの場所に移すという協議もなされたと思うんですけど、そのあたりは何かしらできなかった関係で、ここで維持するという結論になったのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

ＡＴＭを移すといいますか、ＡＴＭの維持管理にかなりお金がかかるそうなんですが、それをまた移すとなると銀行側としては、やはり廃止などということも考えられるということで、ここを公有財産として置いていただければ、そのまま管理ができますのでということもありますので、一旦こちらが購入して、そこに置いていただくということで今話を進めてまいったところでございます。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　８番　城後議員。

**○８番（城後光君）**

今、建屋が建っているエリア以外も今回取得される面積結構あるかと思うんですけど、そのあたりも含めて活用方法は、今後具体的に検討されると思うんですが、結構大きいですよね。物理的にですね。

ぜひ有効に活用していただきたいと思うんですけど、このエリアというのは多分西ノ原土地区画整理エリアに関わるエリアになるかと思うんですけど、そのあたりだけちょっと確認させてください。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

今回購入する十八親和銀行さん波佐見支店ですが、かなり駐車場が広うございますので、活用していくにあたっては現在も車社会の時代ですので、車で来れる方々かなりいらっしゃると思いますので、活用できる施設ではないかなと。それでもう駐車場も全てですね購入したということでございます。それと西ノ原の土地区画整理事業の部分につきましてはですね、計画の範囲内ということで伺っております。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**　４番　横山議員。

**○４番（横山聖代君）**

今ＡＴＭの話があってるのでちょっとそれに付随して。

建物自体は、これが議決されれば波佐見町のものにはなりますけど、ＡＴＭ自体は十八親和銀行のものだと思うんですよね。そしたらＡＴＭをその場所に置いているということで、十八親和銀行さんからＡＴＭを置かせておくことになるから、賃料とかは十八親和銀行さんから入ってくるかたちにはなるのでしょうか。

**○議長（尾上和孝君）**　古賀税務財政課長。

**○税務財政課長（古賀真悟君）**

今回議決を頂いた後に契約が本契約に移りまして、登記を進めているわけですがそれが完了後、本町の持ち物になった暁にはですね、十八親和銀行さんとＡＴＭを置く契約をいたしまして、その中で使用料といいますか、賃料ですね。頂くということになってまいります。以上です。

**○議長（尾上和孝君）**

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第37号　財産の取得についてを採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

**○議長（尾上和孝君）**

起立全員であります。

したがって議案第37号は原案のとおり可決されました。

**日程第 22　報告第１号**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第22．報告第１号　専決処分の報告についてを議題とします。本件について報告を求めます。

本山建設課長。

**○建設課長（本山征一郎君）**

報告第１号　専決処分の報告について。地方自治法第180条第１項の規定により、別紙のとおり専決処分したので、同条第２項の規定により報告いたします。

次ページをお願いいたします。専決第１号　専決処分書。

地方自治法第108条第１項及び町長の専決処分事項の指定に関する条例第２条第３号の規定により、次のとおり専決処分をするものでございます。

専決理由でございますが、令和５年９月28日付けで請負契約を締結した「西ノ原土地区画整理事業区画道路６－７号線道路築造工事」において、工事内容に変更が生じたため、変更契約を行うものでございます。

次ページをお願いいたします。別紙でございます。２の契約金額を御覧いただきたいと思います。変更前の契約金額6,218万9,600円。今回の増額60万9,400円。変更後の契約金額6,279万9,000円。１の契約の目的及び３の契約の相手方については変更ございません。

次ページをお願いいたします。参考資料でございます。工事の主な変更内容でございますが、そこの概要を御覧いただきたいと思います。

まず要点は３点になります。主なものとして３点です。区画道路施設において周辺宅地及び工場の雨水排水整備が必要となったこと。これに伴いまして雨水排水整備工を38メートル追加いたしております。

次にＬ型擁壁施行に伴い掘削した岩盤法面の残地において、崩壊対策として法面方向として植

生土のうを追加しております。植生土のう工については190袋を追加いたしております。

３つ目ですが、支障木の撤去に伴う処分量が増加したことでございます。処分量が30立方メートルから66立方メートルに変更いたしました。

次のページは追加が生じた位置を朱書きで示しておりますので、御覧いただきたいと思います。

以上で報告第１号　専決第１号の説明を終わります。

**○議長（尾上和孝君）**

以上１件は報告でございますので、これで御了承願います。

**日程第23　閉会中の継続調査申出について**

**○議長（尾上和孝君）**

日程第23．閉会中の継続調査申出についてを議題とします。文教厚生委員長、産業建設委員長及び議会運営委員長から会議規則第83条の規定によって、お手元に配付のとおり閉会中の継続調査の申出がありました。

お諮りします。各委員長から申出のとおり閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

異議なしと認めます。

したがって、各委員長から申出のとおり閉会中の継続調査とすることに決定しました。

お諮りします。

会議規則第44条の規定により、今定例会において決議されました案件について、字句、数字、その他の整理に要するものがあった場合、その整理に議長に一任されたいと思います。これに御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

**○議長（尾上和孝君）**

異議なしと認めます。

よって、これらの整理に要するものにつきましては、議長に委任することに決定しました。

これで本日の日程は全部終了しました。

本定例会に付されました事件は全て終了しました。

以上で、本日の会議を閉じます。

令和７年第１回　波佐見町議会定例会を閉会します。

**閉会のあいさつ**

**○議長（尾上和孝君）**

令和７年第１回波佐見町議会定例会の閉会にあたり、一言挨拶を申し上げます。

本定例会は２月28日から本日まで、22日間という会期の中で、町長の施政方針をはじめ、令和７年度一般会計予算、各特別会計予算、企業会計予算、令和６年度各会計の補正予算、条例の一部改正など24件の重要議案のほか、委員会提出の議案を審議いただきました。

執行部におかれましては本会議あるいは予算特別委員会において、議員各位から述べられた意見なり要望提言につきましては、特に御配慮いただき、今後の施策に反映いただきますよう強く望む次第でございます。

また、一般質問においては11人の方が登壇され、各議員の様々な観点から多岐にわたる項目で町政をただされました。皆様の御協力により、閉会できましたことは、誠に喜びにたえないところであり、衷心より厚く御礼申し上げます。

今回が最後の議会となられます中村和彦水道課長におかれましては、これまで町議会にお寄せいただきました御指導、御協力に対し、心から深く御礼申し上げます。

中村課長におかれましては、役職定年ということで３月末をもって管理職の役職は外れられますが、これからも引き続き本町行政業務に御尽力いただき、管理職として培われた経験を地域のため、ひいては本町発展のため、遺憾なく発揮していただければと願うものであります。

どうか、これからもなお一層、御多幸、御健勝でありますよう心からお祈り申し上げます。

このたび、児童福祉法の一部改正に伴い、妊産婦、子育て世帯、子供たちへの一体的な相談支援を行う機関として、いち早く「こども家庭センター・よりそっと」が建設されましたことを、関係者の皆様に深く敬意を表するものであります。

「よりそっと」が、地域の皆様の『心のよりどころ』となり、波佐見焼のように、子供たちがそれぞれの個性豊かな色と形で成長していけるように、「よりそっと」が子供たちの成長を支える場所となることを心より願うものであります。

本定例会で可決した令和７年度当初予算により、社会経済環境の変化を踏まえつつ、「居心地よい安心を生むまちづくり」や「産業・交流を軸とした人が輝くまちづくり」などの重要課題に立ち向かい、ＳＤＧｓとＤＸの理念を念頭に置き、本町が持続的な発展となり得ますことを祈念申し上げ、簡単ではございますが閉会の挨拶といたします。

ありがとうございました。お疲れさまでした。

**○町長（前川芳徳君）**

それでは閉会にあたりまして一言御挨拶を申し上げます。本定例会は去る２月28日に招集をいたしまして、本日までの22日間の会期で開催されまして、当初提出いたしました議案22件及び追加議案２件につきまして、慎重に御審議をいただき、いずれも原案のとおり可決承認を賜りありがとうございました。また１件の報告事項も行わせていただきました。

今回の定例会では、町政に対する一般質問に11人が登壇をなされ、それぞれの政治信条に基づき幅広い分野にわたっての御質問を頂きました。

また予算特別委員会におきましては令和７年度予算に対し、活発な御審議を行っていただき誠にありがとうございました。継続事業、新規事業、町の方向性について共有できたものできたものと考えており、一般質問並びに予算審議で頂きました御提言等については、新年度の行政運営に生かしていく所存でありますので、今後とも御協力御支援をよろしくお願いをいたします。

さて、国会においての令和７年度予算の審議が進んでおりますが、少数与党の中で、いわゆる政治と金の問題が再び露呈し、成立は予断を許さない状況となっております。また国際情勢の不

安定さを発端とする燃料費、物価高騰が依然として続く中、アメリカトランプ大統領によります報復関税が国内経済に影響を及ぼす可能性もあり、今後の経済動向に注意を払う必要がございます。

一方で町内の経済は、国内経済の不安定と人手不足の影響で、依然として厳しい状況であると認識しております。御承認いただきました令和７年度予算に加え、令和６年度の経済対策事業とあわせ、経済回復を下支えしたいと考えています。

今後とも国の経済対策にも注視しながら、議会の皆様とともに歩調を合わせ柔軟な対応も必要と考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

さて令和６年度も残り僅かとなりました。３月14日に波佐見中学校、３月18日には各小学校の卒業式が行われ、卒業生の皆さんは４月からの新たな生活に希望を胸に抱いて、学びやを巣立っていきました。歌われた「旅立ちの日」の歌詞にもあるように、「勇気をつばさに込めて、希望の風に乗り」大きく羽ばたいてほしいと心からお祈りし、波佐見町もその前途を全力で応援したいと思います。

来週３月25日にはガストロノミーウオーキング。４月５日、６日は中尾山桜陶祭。ゴールデンウイークには本町最大のイベントであります波佐見陶器まつりが開催予定であり、いよいよ春本番となってまいります。

４月からの新年度においても直面する課題と将来のまちづくりを見据え、職員一丸となって、町民皆様の御期待に応えてまいりたいと考えておりますので、引き続きの御支援と御協力をお願いいたします。

結びに皆様にはくれぐれも健康に御留意をいただき、健康にお過ごしいただきますように御祈念を申し上げ、新年度の町政運営に議員皆様の御協力をさらにお願いし、閉会の御挨拶といたします。御苦労さまでした。

**○議長（尾上和孝君）**

御起立ください。お疲れさまでした。

**午後０時35分　閉会**

地方自治法第123条第２項の規定により、ここに署名する。

議　　長

署名議員

署名議員